

S O A I U n i v e r s i t y

Syllabus

講義要綱

令和元年度(2019)

相愛大学

講義要綱の見方

巻頭の2019年度授業科目一覧で自分の回生の配当科目を確認し、
インデックス番号で履修する授業科目をさがして講義要綱をよく読むこと。

インデックス番号



例)

1-001

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	中平 了悟		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つけ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を充分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて 第2回 人間と宗教 (1) 基礎 第3回 人間と宗教 (2) 発展 第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯 第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤 第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開 第7回 大乘仏教を学ぶ (1) 基礎 第8回 大乘仏教を学ぶ (2) 発展 第9回 親鸞聖人の教え 第10回 浄土真宗を学ぶ (1) 基礎 第11回 浄土真宗を学ぶ (2) 発展 第12回 日本文化について考える 第13回 相愛大学の歴史と精神 第14回 相愛大学「建学の精神」について考える 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度 (参加状況) ・宗教行事への参加 55%</p> <p>試験・レポート・課題・提出物 45%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復習の準備 学習などのアド バイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。 ・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する………復習 2時間 (90分) 		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

目 次

◎授業科目一覽

2019年度 授業科目一覽	p.3
---------------	-----

◎講義要綱

1. 基礎科目・共通科目	p.47
2. 音楽学部 共通専門科目	p.141
3. 音楽学部 専門科目	p.285
4. 人文学部	p.621
5. 人間発達学部	p.841
6. 教職課程科目	p.1067
7. 図書館司書課程科目	p.1111
8. 留学生科目	p.1137
9. 専攻科目	p.1157
10. 大学院	p.1179

2019年度 授業科目一覧

2019(H31)年度 授業科目一覧

1. 基礎科目・共通科目

index	配当 年次	2016	2016(H28)年度入学生 IV回生用	配当 年次	2017	2017(H29)年度入学生 III回生用	配当 年次	2018	2018(H30)年度入学生 II回生用	配当 年次	2019	2019(H31)年度入学生 I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
1-001	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	前期	中平 了悟	E
1-002	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	前期	日高 明	E
1-003	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	前期	佐々木 隆晃	E
1-004	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	後期	塚田 博教	E
1-005	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	後期	本多 彩	E
1-006	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	前期	釋 大智	E
1-007	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	建学の精神	I	共	當相敬愛と浄土真宗 I	前期	赤井 智顕	E
1-008	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II			後期	日高 明	E
1-009	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II			前期	本多 彩	E
1-010	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II			後期	多村 至恩	E
1-011	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II			後期	乗山 悟	E
1-012	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II	共	仏教思想と現代	II			後期	井上 陽	E
1-013	I	共	大学と地域社会	I	共	大学と地域社会	I	共	大学と地域社会	I			前期/後期	中村 圭爾 ほか	E
1-014											全	大学と社会	前期/後期	中村 圭爾 ほか	E
1-015	II	共	大阪学入門	II	共	大阪学入門	II	共	大阪学入門	II			前期	千葉 真也・前垣 和義	
1-016	II	共	まちづくり入門	II	共	まちづくり入門	II	共	まちづくり入門	II			後期	岡田 裕	
1-017	I	共	キャリアデザイン論	I	共	キャリアデザイン論	I	共	キャリアデザイン論	I	共	キャリアデザイン	前期/後期	向井 光太郎	E
1-018	I	共	キャリアデザイン論(子)	I	共	キャリアデザイン論(子)	I	共	キャリアデザイン論(子)	I	共	キャリアデザイン(子)	前期	直島正樹・木村久男・中井清津子・ 私島京	E
1-019	II	共	キャリアデザイン演習	II	共	キャリアデザイン演習	II	共	キャリアデザイン演習	II			後期	碓 ともみ	
1-020	III	共	インターンシップ実践	III	共	インターンシップ実践	III						前期	碓 ともみ	
1-021	I	共	大学生のための日本語入門	I	共	大学生のための日本語入門	I	共	大学生のための日本語入門	I			前期	千葉 真也	
1-022	I	共	大学生のための日本語入門	I	共	大学生のための日本語入門	I	共	大学生のための日本語入門	I			前期	沼田 潤	
1-023	I	共	大学生のための日本語入門(留)	I	共	大学生のための日本語入門(留)	I	共	大学生のための日本語入門(留)	I			前期	千葉 真也	
1-024	II	共	文章表現	II	共	文章表現	II	共	文章表現	II			前期/後期	千葉 真也	
1-025	I	共	世界の文学	I	共	世界の文学	I	共	世界の文学	I	全	文学概論	前期	山下 昇	E

A+Bはリレー
A+Bは共担

Index	2016 配当年次	2016(H28)年度入学生 IV回生用	2017 配当年次	2017(H29)年度入学生 III回生用	2018 配当年次	2018(H30)年度入学生 II回生用	2019 配当年次	2019(H31)年度入学生 I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科自生
1-026	I 共	世界の歴史	I 共	世界の歴史	I 共	世界の歴史	全 共	歴史学概論	前期	岡本 託	E
1-027	I 共	世界の地理	I 共	世界の地理	I 共	世界の地理			後期	関口 康之	E
1-028	II 共	世界の思想	II 共	世界の思想	II 共	世界の思想	全 共	倫理学概論	前期	田中 美子	E
1-029	I 共	心理学入門	I 共	心理学入門	I 共	心理学入門	全 共	心理学概論	前期/後期	渡部 美穂子	E
1-030	II 共	経済学入門	II 共	経済学入門	II 共	経済学入門	全 共	経済学概論	集中	薛 秀娟	E
1-031	I 共	日本国憲法	I 共	日本国憲法	I 共	日本国憲法	全 共	日本国憲法	前期/後期	秋元 洋祐	E
1-032	I 共	日本国憲法	I 共	日本国憲法	I 共	日本国憲法	全 共	日本国憲法	後期	奥野 浩之	E
1-033	I 共	教育原論	I 共	教育原論	I 共	教育原論	全 共	教育原論	前期/後期	長谷川 精一	E
1-034	I 共	生活の中の数学	I 共	生活の中の数学	I 共	生活の中の数学	全 共	生活の中の数学	前期/後期	魚住 義介	E
1-035	I 共	科学史入門	I 共	科学史入門	I 共	科学史入門	全 共	科学史概論	前期	池山 鋭郎	E
1-036	II 共	生物学入門	II 共	生物学入門	II 共	生物学入門			後期	太田 和孝	E
1-037	II 共	現代と医学	II 共	現代と医学	II 共	現代と医学	全 共	生活の中の医学	後期	中川 学	E
1-038	II 共	健康科学	II 共	健康科学	II 共	健康科学			前期/後期	西迫 成一郎	E
1-039	II 共	健康科学	II 共	健康科学	II 共	健康科学			後期	奥野 暢通	E
1-040	I 共	健康とスポーツ実技	I 共	健康とスポーツ実技	I 共	健康とスポーツ実技	I 共	健康とスポーツ実技	前期/後期	奥野 暢通	E
1-041	I 共	健康とスポーツ実技	I 共	健康とスポーツ実技	I 共	健康とスポーツ実技	I 共	健康とスポーツ実技	前期/後期	越智 祐光	E
1-042	I 共	健康とスポーツ実技 (健康コー ス)	I 共	健康とスポーツ実技(健康コー ス)	I 共	健康とスポーツ実技(健康コー ス)	I 共	健康とスポーツ実技(健康コー ス)	後期	越智 祐光	E
1-043	II 共	生涯健康とスポーツ実技	II 共	生涯健康とスポーツ実技	II 共	生涯健康とスポーツ実技			前期	奥野 暢通	E
1-044	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	前期/後期	岡本 久仁子	E
1-045	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	前期/後期	岡田 裕	E
1-046	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	I 共	情報処理演習A	前期/後期	中島 欣哉	E
1-047	I 共	情報処理演習B	I 共	情報処理演習B	I 共	情報処理演習B	I 共	情報処理演習B	後期	岡本 久仁子	E
1-048	I 共	情報処理演習B	I 共	情報処理演習B	I 共	情報処理演習B	I 共	情報処理演習B	後期	中島 欣哉	E
1-049	I 共	生涯学習概論	I 共	生涯学習概論	I 共	生涯学習概論	全 共	生涯学習概論	後期集中	鏑 純香	E
1-050	II 共	ポランティア論	II 共	ポランティア論	II 共	ポランティア論			前期	名和 月之介	
1-051	II 共	ポランティア体験	II 共	ポランティア体験	II 共	ポランティア体験			後期	名和 月之介	
1-052	II 共	人権教育	II 共	人権教育	II 共	人権教育	全 共	人権教育	後期	益田 圭	E
1-053	II 共	人権教育	II 共	人権教育	II 共	人権教育	全 共	人権教育	前期	鷗目 巳恵子	E

Index	2016 配当 年次	2016(H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2017 配当 年次	2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2018 配当 年次	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2019 配当 年次	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当名	H31 科自生
1-054	I 共	TOEIC対策ⅠA	I 共	TOEIC対策ⅠA	I 共	TOEIC対策ⅠA	全 共	ステップアップ英語A	前期	野口 昌子	E
1-055	I 共	TOEIC対策ⅠB	I 共	TOEIC対策ⅠB	I 共	TOEIC対策ⅠB	全 共	ステップアップ英語B	後期	野口 昌子	E
1-056	Ⅱ 共	TOEIC対策ⅡA	Ⅱ 共	TOEIC対策ⅡA	Ⅱ 共	TOEIC対策ⅡA			前期	森川 康子	
1-057	Ⅱ 共	TOEIC対策ⅡB	Ⅱ 共	TOEIC対策ⅡB	Ⅱ 共	TOEIC対策ⅡB			後期	相馬 沙織	
1-058	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	前期	森川 康子	E
1-059	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	前期	Alexander Morgus	E
1-060	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	前期	Jonathan MacNab	E
1-061	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	前期	Marcel Hurtado	E
1-062	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	前期	名和 月之介	E
1-063	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	I 共	英会話Ⅰ	前期	相馬 沙織	E
1-064	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	後期	森川 康子	E
1-065	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	後期	Alexander Morgus	E
1-066	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	後期	Jonathan MacNab	E
1-067	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	後期	Marcel Hurtado	E
1-068	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	後期	名和 月之介	E
1-069	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	I 共	英会話Ⅱ	後期	相馬 沙織	E
1-070	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	前期	飯盛 康史	E
1-071	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	前期	野口 昌子	E
1-072	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	I 共	英語Ⅰ	前期	西垣 有夏	E
1-073	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	後期	飯盛 康史	E
1-074	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	後期	野口 昌子	E
1-075	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	I 共	英語Ⅱ	後期	西垣 有夏	E
1-076	I 共	ドイツ語Ⅰ	I 共	ドイツ語Ⅰ	I 共	ドイツ語Ⅰ	I 共	ドイツ語Ⅰ	前期	田島 昭洋	E
1-077	I 共	ドイツ語Ⅱ	I 共	ドイツ語Ⅱ	I 共	ドイツ語Ⅱ	I 共	ドイツ語Ⅱ	後期	田島 昭洋	E
1-078	I 共	イタリア語Ⅰ	I 共	イタリア語Ⅰ	I 共	イタリア語Ⅰ	I 共	イタリア語Ⅰ	前期	小松 寛明	E
1-079	I 共	イタリア語Ⅱ	I 共	イタリア語Ⅱ	I 共	イタリア語Ⅱ	I 共	イタリア語Ⅱ	後期	小松 寛明	E
1-080	I 共	フランス語Ⅰ	I 共	フランス語Ⅰ	I 共	フランス語Ⅰ	I 共	フランス語Ⅰ	前期	宮脇 玲奈	E
1-081	I 共	フランス語Ⅱ	I 共	フランス語Ⅱ	I 共	フランス語Ⅱ	I 共	フランス語Ⅱ	後期	宮脇 玲奈	E

index	配当 年次	2016 中国語 I	2016(H28)年度入学生 IV回生用	配当 年次	2017 中国語 I	2017(H29)年度入学生 III回生用	配当 年次	2018 中国語 I	2018(H30)年度入学生 II回生用	配当 年次	2019 中国語 I	2019(H31)年度入学生 I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
1-082	I	共	中国語 I	I	共	中国語 I	I	共	中国語 I	I	共	中国語 I	前期	張 煜	E
1-083	I	共	中国語 II	I	共	中国語 II	I	共	中国語 II	I	共	中国語 II	後期	張 煜	E
1-084													前期	長谷川誠一・大橋忠司・生駒佳也・ 奥野浩之	E
1-085													前期	沼田潤・大橋忠司・田中敏正・奥忠憲	E
1-086													前期	千葉真也・黄樹茜・猿山隆子	E
1-087													後期	角谷・藤本・品川・竹山・田條・杉山・ 古川・今井・小野・水野・金石・上田	E
1-088													後期	川中 美津子	E
1-089													前期	岡田 大輔	E
1-090													後期	音楽学部専任教員	E
1-091													集中	J.E.Alsdorf	

2. 音楽学部 共通専門科目

index	配当 年次	2016 真宗礼拝音楽	2016(H28)年度入学生 IV回生用	配当 年次	2017 真宗礼拝音楽	2017(H29)年度入学生 III回生用	配当 年次	2018 真宗礼拝音楽	2018(H30)年度入学生 II回生用	配当 年次	2019 真宗礼拝音楽	2019(H31)年度入学生 I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
2-001	I	音	真宗礼拝音楽	I	音	真宗礼拝音楽	I	音	真宗礼拝音楽	I	音	真宗礼拝音楽	前期	萬田 一樹	
2-002	I	音	真宗礼拝音楽実習 I	I	音	真宗礼拝音楽実習 I	I	音	真宗礼拝音楽実習	I	音	真宗礼拝音楽実習	通年集中	泉 貴子	
2-003	II	音	真宗礼拝音楽実習 II	II	音	真宗礼拝音楽実習 II	II	音	真宗礼拝音楽実習	II	音	真宗礼拝音楽実習	通年集中	泉 貴子	
2-004	III	音	真宗礼拝音楽実習 III	III	音	真宗礼拝音楽実習 III	III	音	真宗礼拝音楽実習	III	音	真宗礼拝音楽実習	通年集中	泉 貴子	
2-005	II	音	西洋音楽史 A	II	音	西洋音楽史 A	II	音	西洋音楽史 (中世・ルネッサン ス・バロック)	II	音	西洋音楽史 (中世・ルネッサン ス・バロック)	前期	黒坂 俊昭	
2-006													前期	黒坂 俊昭	
2-007	II	音	西洋音楽史 B	II	音	西洋音楽史 B	II	音	西洋音楽史 (古典派・ロマン派)	II	音	西洋音楽史 (古典派・ロマン派)	後期	黒坂 俊昭	
2-008													後期	黒坂 俊昭	
2-009	II	音	音楽心理学	II	音	音楽心理学	II	音	音楽心理学	II	音	音楽心理学	集中	河瀬 諭	
2-010	II	音	楽器論	II	音	楽器論	II	音	楽器論	II	音	楽器論	前期	井上 ハルカ	E
2-011	II	音	諸民族の音楽	II	音	諸民族の音楽	II	音	諸民族の音楽	II	音	諸民族の音楽	前期/後期	由比 邦子	E
2-012	II	音	アレクサンダー・テクニク	II	音	アレクサンダー・テクニク	II	音	アレクサンダー・テクニク	II	音	アレクサンダー・テクニク	集中	畑田 日出美	
2-013	III	音	西洋音楽史各論 A	III	音	西洋音楽史各論 A	III	音	西洋音楽史各論 A	III	音	西洋音楽史各論 A	前期	村井 晶子	
2-014	III	音	西洋音楽史各論 B	III	音	西洋音楽史各論 B	III	音	西洋音楽史各論 B	III	音	西洋音楽史各論 B	後期	村井 晶子	
2-015	III	音	管弦楽概説	III	音	管弦楽概説	III	音	管弦楽概説	III	音	管弦楽概説	前期/後期	上田 真紀郎	E

Index	配当 年次	2016(H28) IV回生用	2016(H28)年度 IV回生用	2017 配当 年次	2017(H29) III回生用	2017(H29)年度 III回生用	2018 配当 年次	2018(H30) II回生用	2018(H30)年度 II回生用	2019 配当 年次	2019(H31) I回生用	2019(H31)年度 I回生用	2019(H31)年度 担当者	区分	H31 科目生
3-319	III	㊦	コンテンツデザイン研究B	III	㊦	コンテンツデザイン研究B							橋田 光代	後期	
3-320	II	㊦	音楽情報処理入門	II	㊦	音楽情報処理入門	II	AP	音楽情報処理A				橋田 光代	前期	
3-321	II	㊦	音楽情報処理	II	㊦	音楽情報処理	II	AP	音楽情報処理B				橋田 光代	後期	
3-322	II	㊦	IT音楽産業概論	II	㊦	IT音楽産業概論							森本 雅和	前期	E
3-323	III	㊦	メディア情報学	III	㊦	メディア情報学							片寄 晴弘	前期	
3-324	II	㊦	ビジネス会計学	II	㊦	ビジネス会計学							松谷 葉子	後期	E
3-325	III	㊦	経営戦略論	III	㊦	経営戦略論							松谷 葉子	集中	E
3-326	III	㊦	マーケティング論	III	㊦	マーケティング論							白置 弘一郎	集中	
3-327	III	㊦	事業創成論	III	㊦	事業創成論							松谷 葉子	集中	
3-328	IV	㊦	統計学										甲斐 隆浩	前期	
3-329							II	AP	アートプロデュース演習I				志村 聖子・橋田 光代	後期	
3-330							I	AP	アートプロデュース概説	I	AP		志村 聖子	前期	
3-331							I	AP	音響学A	I	AP		永松 ゆか	前期	
3-332							I	AP	音響学B	I	AP		永松 ゆか	後期	
3-333							II	AP	レコーディング・エディットB				能美 亮士	後期	

4. 人文学部

Index	配当 年次	2016 配当 年次	2016(H28) IV回生用	2016(H28)年度 IV回生用	2017 配当 年次	2017(H29) III回生用	2017(H29)年度 III回生用	2018 配当 年次	2018(H30) II回生用	2018(H30)年度 II回生用	2019 配当 年次	2019(H31) I回生用	2019(H31)年度 I回生用	2019(H31)年度 担当者	区分	H31 科目生
4-001	I	人	基礎演習A	基礎演習A	I	人	基礎演習A	I	人	基礎演習A	I	人	基礎演習A	佐々木 隆晃	前期	
4-002					I	人	基礎演習A	I	人	基礎演習A	I	人	基礎演習A	鈴木 徳男	前期	
4-003					I	人	基礎演習A	I	人	基礎演習A	I	人	基礎演習A	高木 学	前期	
4-004					I	人	基礎演習A	I	人	基礎演習A	I	人	基礎演習A	西迫 成一郎	前期	
4-005					I	人	基礎演習A	I	人	基礎演習A	I	人	基礎演習A	井上 陽	前期	
4-006					I	人	基礎演習A	I	人	基礎演習A	I	人	基礎演習A	沼田 潤	前期	
4-007	I	人	基礎演習B	基礎演習B	I	人	基礎演習B	I	人	基礎演習B	I	人	基礎演習B	佐々木 隆晃	後期	
4-008					I	人	基礎演習B	I	人	基礎演習B	I	人	基礎演習B	石川 玲子	後期	
4-009					I	人	基礎演習B	I	人	基礎演習B	I	人	基礎演習B	井上 陽	後期	
4-010					I	人	基礎演習B	I	人	基礎演習B	I	人	基礎演習B	向井 光太郎	後期	

Index	配当 年次	2016 (H28) IV 回生用	2016 (H29) III 回生用	配当 年次	2017 (H29) II 回生用	2017 (H29) I 回生用	配当 年次	2018 (H30) II 回生用	2018 (H30) I 回生用	配当 年次	2019 (H31) I 回生用	2019 (H31) 年度 担当者	H31 科目生
4-011				I	人	基礎演習B	I	人	基礎演習B	I	人	釈 徹宗	
4-012				I	人	基礎演習B	I	人	基礎演習B	I	人	千葉 貴也	
4-013	II	人	専門基礎演習A	II	人	専門基礎演習A	II	人	専門基礎演習A	II	人	佐々木 隆晃	
4-014				II	人	専門基礎演習A	II	人	専門基礎演習A	II	人	井上 陽	
4-015				II	人	専門基礎演習A	II	人	専門基礎演習A	II	人	藤谷 忠昭	
4-016				II	人	専門基礎演習A	II	人	専門基礎演習A	II	人	益田 圭	
4-017	II	人	専門基礎演習B	II	人	専門基礎演習B	II	人	専門基礎演習B	II	人	井上 陽	
4-018				II	人	専門基礎演習B	II	人	専門基礎演習B	II	人	阿田 大輔	
4-019				II	人	専門基礎演習B	II	人	専門基礎演習B	II	人	坂田 真穂	
4-020				II	人	専門基礎演習B	II	人	専門基礎演習B	II	人	山本 幸男	
4-021	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	山本 幸男	
4-022	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	鈴木 徳男	
4-023	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	荒井 真理亜	
4-024	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	高木 学	
4-025	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	釈 徹宗	
4-026	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	坂田 真穂	
4-027	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	石川 玲子	
4-028	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	J.E.Alsdorf	
4-029	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	専門応用演習A	III	人	向井 光太郎	
4-030	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	山本 幸男	
4-031	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	鈴木 徳男	
4-032	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	荒井 真理亜	
4-033	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	高木 学	
4-034	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	佐々木 隆晃	
4-035	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	西迫 成一郎	
4-036	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	J.E.Alsdorf	
4-037	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	石川 玲子	
4-038	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	専門応用演習B	III	人	藤谷 忠昭	

index	配当 年次	2016	2016(H28) IV回生用	2017	2017(H29) II回生用	配当 年次	2018	2018(H30) II回生用	配当 年次	2019	2019(H31) I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科自生
4-039	IV	人	専門研究演習									前期	荒井 真理亜	
4-040	IV	人	専門研究演習									前期	鈴木 徳男	
4-041	IV	人	専門研究演習									前期	山本 幸男	
4-042	IV	人	専門研究演習									前期	高木 学	
4-043	IV	人	専門研究演習									前期	益田 圭	
4-044	IV	人	専門研究演習									前期	釈 徹宗	
4-045	IV	人	専門研究演習									前期	向井 光太郎	
4-046	IV	人	専門研究演習									前期	藤谷 忠昭	
4-047	IV	人	専門研究演習									前期	J.E.Alsdorf	
4-048	IV	人	専門研究演習									前期	石川 玲子	
4-049	IV	人	卒業研究									後期	荒井 真理亜	
4-050	IV	人	卒業研究									後期	鈴木 徳男	
4-051	IV	人	卒業研究									後期	山本 幸男	
4-052	IV	人	卒業研究									後期	高木 学	
4-053	IV	人	卒業研究									後期	益田 圭	
4-054	IV	人	卒業研究									後期	釈 徹宗	
4-055	IV	人	卒業研究									後期	向井 光太郎	
4-056	IV	人	卒業研究									後期	藤谷 忠昭	
4-057	IV	人	卒業研究									後期	J.E.Alsdorf	
4-058	IV	人	卒業研究									後期	石川 玲子	
4-059	I	人	人文学概論	I	人	人文学概論	I	人	人文学概論	I	人	前期	中村 圭爾 他	
4-060	I	人	日本文化概論	I	人	日本文化概論	I	人	日本文化概論	I	人	前期	千葉 真也	E
4-061	I	人	日本史入門	I	人	日本史入門	I	人	日本史入門	I	人	前期	山本 幸男	E
4-062	I	人	人間の心と行動	I	人	人間の心と行動	I	人	人間の心と行動	I	人	後期	西迫 成一郎	E
4-063	I	人	宗教学概論A	I	人	宗教学概論A	I	人	宗教学概論A	I	人	前期	井上 陽	E
4-064	I	人	仏教学概論A	I	人	仏教学概論A	I	人	仏教学概論A	I	人	前期	渡邊 了生	E
4-065	I	人	現代社会論	I	人	社会学概論	I	人	社会学概論	I	人	後期	藤谷 忠昭	E
4-066	I	人	主体的学習法	I	人	主体的学習法	I	人	主体的学習法	I	人	前期	益田 圭	

Index	配当 年次	2016(H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2017 配当 年次	2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2018 配当 年次	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2019 配当 年次	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科自生
4-067	I	人	I	人	I	人	I	人	後期	佐々木 隆晃	
4-068	II	人	II	人	II	人			前期	高木 学	
4-069	II	人	II	人	II	人			後期	中村 圭爾	
4-070	II	人	II	人	II	人			後期	向井 光太郎	
4-071	III	人	III	人					前期	井上 陽+向井 光太郎	
4-072	III	人	III	人					後期	益田 圭	
4-073	I	人	I	人	I	人			集中	JE.Alsdorf	
4-074	I	人	I	人	I	人	I	人	後期	鈴木 徳男	E
4-075	I	人	I	人	I	人	I	人	後期	野田 直恵	E
4-076	II	人	II	人	II	人			前期	鈴木 徳男	E
4-077	II	人	II	人	II	人			後期	荒井 真理亜	E
4-078	I	人	I	人	I	人	I	人	後期	河野 光呼	E
4-079	II	人	II	人	II	人			前期	安井 寿枝	E
4-080	I	人	I	人	I	人	I	人	集中	藤岡 克則	E
4-081	I	人	I	人	I	人	I	人	後期	鈴木 徳男	E
4-082	II	人	II	人	II	人			後期	瀧端 悠朗	E
4-083	II	人	II	人	II	人			後期	諸岡 知徳	E
4-084	III	人	III	人					前期	瀧端 悠朗	
4-085	III	人	III	人					後期	吉川 望	
4-086	I	人	I	人	I	人	I	人	前期	北山 円正	E
4-087	I	人	I	人	I	人	I	人	前期	中村 圭爾	E
4-088	III	人	III	人					後期	高志 緑	
4-089	II	人	II	人	II	人			前期	野田 直恵	E
4-090	I	人	I	人	I	人	I	人	後期	千葉 真也	E
4-091	II	人	II	人	II	人			後期	安井 寿枝	E
4-092	III	人	III	人					前期	嶋本 圭子	
4-093	I	人	I	人	I	人	I	人	後期	北山 円正	
4-094	II	人	II	人	II	人			前期	福田 知可志	E

index	配当 年次	2016 (H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2017 配当 年次	2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2018 配当 年次	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2019 配当 年次	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
4-095	Ⅱ	人 漢文学史B	Ⅱ	人 漢文学史B	Ⅱ	人 漢文学史B			後期	福田 知可志	E
4-096	Ⅲ	人 書道A	Ⅲ	人 書道A					前期	増田 達治	
4-097	Ⅲ	人 書道B	Ⅲ	人 書道B					後期	増田 達治	
4-098	Ⅲ	人 国語学演習B	Ⅲ	人 国語学演習B					前期	河野 光将	
4-099	Ⅰ	人 文学と芸能	Ⅰ	人 文学と芸能	Ⅰ	人 文学と芸能	Ⅰ	人 文学と芸能	後期	浜畑 圭吾	E
4-100	Ⅱ	人 日本文学と仏教	Ⅱ	人 日本文学と仏教	Ⅱ	人 日本文学と仏教			前期	浜畑 圭吾	E
4-101	Ⅲ	人 映像と文学	Ⅲ	人 映像と文学					前期	諸岡 知徳	
4-102	Ⅲ	人 浪速の文学	Ⅲ	人 浪速の文学					後期	千葉 真也	
4-103	Ⅲ	人 文化資料論A (日本文学)	Ⅲ	人 文化資料論A (日本文学)					後期	鈴木 徳男	
4-104	Ⅲ	人 文化資料論B (日本文学)	Ⅲ	人 文化資料論B (日本文学)					前期	荒井 真理亜	
4-105	Ⅲ	人 日本文学研究法	Ⅲ	人 日本文学研究法					前期	千葉 真也	
4-106	Ⅲ	人 日本文学特殊講義 (日本文学)	Ⅲ	人 日本文学特殊講義 (日本文学)					前期	荒井 真理亜	
4-107	Ⅱ	人 日本文学史A	Ⅱ	人 日本文学史A	Ⅱ	人 日本文学史A			前期	山本 幸男	E
4-108	Ⅱ	人 日本文学史B	Ⅱ	人 日本文学史B	Ⅱ	人 日本文学史B			後期	山本 幸男	E
4-109	Ⅱ	人 日中比較文化論							集中	青木 五郎	
4-110	Ⅲ	人 日本思想史	Ⅲ	人 日本思想史					後期	小野 真龍	
4-111	Ⅲ	人 文化資料論A (歴史文化)							前期	山本 幸男	
4-112			Ⅲ	人 歴史と資料					前期	山本 幸男	
4-113	Ⅲ	人 日本文学特殊講義 (歴史文化)							後期	山本 幸男	
4-114			Ⅲ	人 歴史文化特殊講義					後期	山本 幸男	
4-115	Ⅱ	人 大阪文化入門A							後期	前垣 和義	
4-116	Ⅰ	人 サブカルチャー入門A	Ⅰ	人 サブカルチャー入門	Ⅰ	人 サブカルチャー入門	Ⅰ	人 サブカルチャー入門	前期	高木 学	
4-117	Ⅰ	人 サブカルチャー入門B	Ⅰ	人 サブカルチャー入門	Ⅰ	人 サブカルチャー入門	Ⅰ	人 サブカルチャー入門	後期	神田 貴成	
4-118	Ⅱ	人 現代大阪文化論	Ⅱ	人 大阪学	Ⅱ	人 大阪学			前期	前垣 和義	E
4-119	Ⅱ	人 大阪ビジネス論							後期	前垣 和義	
4-120	Ⅲ	人 上方落語論	Ⅲ	人 上方落語論					前期	桂 文我	
4-121	Ⅲ	人 日本文学特殊講義 (大阪文化)	Ⅱ	人 大阪文化特殊講義	Ⅱ	人 大阪文化特殊講義			後期	積 徹宗+桂 春團治	E
4-122	Ⅲ	人 日本社会とメディア	Ⅱ	人 生活文化論	Ⅱ	人 生活文化論			後期	高木 学	

index	配当 年次	2016(H28) IV回生用	2017(H29) II回生用	配当 年次	2018 年次	2018(H30) II回生用	配当 年次	2019 年次	2019(H31) I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科自生
4-123	II	人	日本のアニメ文化	II	人	日本のアニメ文化				後期	高木 学	E
4-124	III	人	文化資料論B (ア*加付)	III	人	サブカルチャー資料論				後期	高木 学	
4-125	III	人	日本文化特殊講義 (ア*加付)	III	人	日本文化特殊講義 (ア*加付)				後期	高木 学	
4-126	I	人	宗教学概論B	I	人	宗教学概論B	I	人	宗教学概論B	後期	釋 徹宗	E
4-127	I	人	仏教学概論B	I	人	仏教学概論B	I	人	仏教学概論B	後期	佐々木 隆晃	E
4-128	I	人	哲学概論	I	人	哲学概論	I	人	哲学概論	後期	日高 明	E
4-129	II	人	パブリ語入門	II	人	パブリ語入門	II	人		前期	井上 陽	E
4-130	I	人	宗教概論	I	人	宗教概論	I	人	宗教概論	集中	福本 康之	E
4-131	II	人	宗教社会学	II	人	宗教社会学	II	人		前期	三木 英	E
4-132	II	人	宗教史	II	人	宗教史	II	人		前期	釋 徹宗	E
4-133	I	人	仏教史	I	人	仏教史	I	人	仏教史	後期	直海 玄哲	E
4-134	II	人	真宗史	II	人	真宗史	II	人		前期	佐々木 隆晃	E
4-135	II	人	日本仏教史A	II	人	日本仏教史A	II	人		前期	直林 不退	E
4-136	II	人	日本仏教史B	II	人	日本仏教史B	II	人		後期	直林 不退	E
4-137	III	人	仏教思想論	III	人	仏教思想論				前期	井上 陽	
4-138	III	人	宗教哲学	III	人	宗教哲学				前期	小野 真龍	
4-139	II	人	比較宗教学	II	人	比較宗教学	II	人		前期	三木 英	E
4-140	I	人	宗教学心理学	I	人	宗教学心理学	I	人	宗教学心理学	集中	積 徹宗・名越 康文	E
4-141	III	人	仏教と社会福祉	III	人	仏教と社会福祉				前期	日高 明	
4-142	I	人	真宗学概論	III	人	真宗学概論				前期	佐々木 隆晃	
4-143	II	人	真宗聖典学	II	人	真宗聖典学	II	人		後期	佐々木 隆晃	E
4-144	II	人	宗門法規	II	人	宗門法規	II	人		集中	宗本 昌延	E
4-145	II	人	布教法	II	人	布教法	II	人		後期	赤井 智顕	E
4-146	II	人	勤式作法	II	人	勤式作法	II	人		後期	近松 照俊+近松 真定	E
4-147	III	人	宗教社会活動論	III	人	宗教社会活動論				後期	霍野 廣由・釋 大智	
4-148	III	人	ビハーラ演習	III	人	ビハーラ演習				集中	岩井 未来	
4-149	III	人	真宗教学史・教団史	III	人	真宗教学史・教団史				前期	天岸 淨園	
4-150	III	人	真宗概論演習	III	人	真宗概論演習				前期	近松 照俊+近松 真定	

Index	配当 年次	2016 (H28)年度入学生 Ⅳ回生用	配当 年次	2017 (H29)年度入学生 Ⅲ回生用	配当 年次	2018	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	配当 年次	2019	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科自生
4-151	Ⅲ	人 真宗学特殊講義									前期	佐々木 隆晃	
4-152	Ⅲ	人 真宗伝道演習	Ⅲ	人 真宗伝道演習							前期	金澤 豊	
4-153	Ⅲ	人 寺院運営論	Ⅲ	人 寺院運営論							前期	釈 徹宗・日高 明	
4-154	Ⅱ	人 仏教文化講読 1	Ⅱ	人 仏教文化講読 1	Ⅱ	人	人 仏教文化講読 1				後期	寺本 知正	E
4-155	Ⅲ	人 仏教文化講読 2	Ⅲ	人 仏教文化講読 2							集中	宮崎 哲弥+井上 陽	
4-156	Ⅲ	人 仏教文化演習	Ⅲ	人 仏教文化演習							集中	佐伯 はる・吉村 昇洋・宇佐美 直八	E
4-157	Ⅲ	人 アジアの仏教と社会	Ⅲ	人 アジアの仏教と社会							後期	井上 陽	
4-158	Ⅱ	人 知覚心理学	Ⅱ	人 知覚心理学	Ⅱ	人	人 知覚心理学				前期	中村 敏	E
4-159	Ⅱ	人 学習心理学	Ⅱ	人 学習心理学	Ⅱ	人	人 学習心理学				前期	中村 敏	E
4-160	Ⅱ	人 カウンセリング演習Ⅰ	Ⅱ	人 カウンセリング演習Ⅰ	Ⅱ	人	人 カウンセリング演習Ⅰ				後期	坂田 真穂	E
4-161	Ⅲ	人 カウンセリング演習Ⅱ	Ⅲ	人 カウンセリング演習Ⅱ							後期	坂田 真穂	E
4-162	Ⅱ	人 心理学実験演習	Ⅱ	人 心理学実験演習	Ⅱ	人	人 心理学実験演習				後期	中村 敏	E
4-163	Ⅲ	人 心理学実習	Ⅲ	人 心理学実習							後期	初塚 真書子+西迫 成一郎	
4-164	Ⅲ	人 カウンセリング実習	Ⅲ	人 カウンセリング実習							前期	坂田 真穂	
4-165	Ⅱ	人 生涯発達臨床心理学(乳幼児期)	Ⅱ	人 生涯発達臨床心理学(乳幼児期)	Ⅱ	人	人 生涯発達臨床心理学(乳幼児期)				前期	初塚 真書子	E
4-166	Ⅱ	人 生涯発達臨床心理学(児童期)	Ⅱ	人 生涯発達臨床心理学(児童期)	Ⅱ	人	人 生涯発達臨床心理学(児童期)				後期	坂田 真穂	E
4-167	Ⅲ	人 生涯発達臨床心理学(青年期)	Ⅲ	人 生涯発達臨床心理学(青年期)							前期	初塚 真書子	
4-168	Ⅲ	人 生涯発達臨床心理学(成人・高胎期)	Ⅲ	人 生涯発達臨床心理学(成人・高胎期)							後期	坂田 真穂	
4-169	Ⅲ	人 異常心理学	Ⅲ	人 異常心理学							前期	坂田 真穂	
4-170	Ⅰ	人 社会心理学	Ⅰ	人 社会心理学	Ⅰ	人	人 社会心理学	Ⅰ	人	社会心理学	前期	西迫 成一郎	E
4-171	Ⅱ	人 人間関係論	Ⅱ	人 人間関係論	Ⅱ	人	人 人間関係論				前期	益田 圭	E
4-172	Ⅱ	人 心理学研究方法	Ⅱ	人 心理学研究方法	Ⅱ	人	人 心理学研究方法				前期	中村 慎佑	E
4-173	Ⅱ	人 健康心理学	Ⅱ	人 健康心理学	Ⅱ	人	人 健康心理学				後期	西迫 成一郎	E
4-174	Ⅱ	人 心理統計学	Ⅱ	人 心理統計学	Ⅱ	人	人 心理統計学				前期	益田 圭	E
4-175	Ⅰ	人 パーソナリティの心理学	Ⅰ	人 パーソナリティの心理学	Ⅰ	人	人 パーソナリティの心理学	Ⅰ	人	パーソナリティの心理学	後期	中村 慎佑	E
4-176	Ⅰ	人 発達心理学概説	Ⅰ	人 発達心理学概説	Ⅰ	人	人 発達心理学概説	Ⅰ	人	発達心理学概説	後期	坂田 真穂	E
4-177	Ⅱ	人 カウンセリング論Ⅰ	Ⅱ	人 カウンセリング論Ⅰ	Ⅱ	人	人 カウンセリング論Ⅰ				前期	坂田 真穂	E
4-178	Ⅲ	人 カウンセリング論Ⅱ	Ⅲ	人 カウンセリング論Ⅱ							後期	西田 吉男	

Index	2016 相当 年次	2016(H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2017 相当 年次	2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2018 相当 年次	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2019 相当 年次	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科自生
4-179	Ⅲ	人 精神分析学	Ⅲ	人 精神分析学					前期	坂田 真穂	
4-180	Ⅲ	人 精神医学	Ⅲ	人 精神医学					後期集中	岩切 昌宏	
4-181	Ⅲ	人 神経心理学	Ⅲ	人 神経心理学					後期集中	上田 有紀人	
4-182	Ⅲ	人 家族心理学	Ⅲ	人 家族心理学					前期	中村 慎佑	
4-183	Ⅱ	人 グループダイナミクス	Ⅱ	人 グループダイナミクス	Ⅱ	人 グループダイナミクス			前期	西迫 成一郎	E
4-184	Ⅱ	人 産業・組織心理学	Ⅱ	人 産業・組織心理学	Ⅱ	人 産業・組織心理学			後期	益田 圭	E
4-185	Ⅲ	人 消費者行動論	Ⅲ	人 消費者行動論					前期	中村 慎佑	
4-186	Ⅰ	人 多文化社会論入門	Ⅰ	人 多文化社会論入門	Ⅰ	人 多文化社会論入門	Ⅰ	人 多文化社会論入門	前期	井上 麗	E
4-187	Ⅰ	人 英米文化入門	Ⅰ	人 英語圏文化入門	Ⅰ	人 英語圏文化入門	Ⅰ	人 英語圏文化入門	前期	石川 玲子	
4-188	Ⅰ	人 国際関係入門	Ⅰ	人 国際関係入門	Ⅰ	人 国際関係入門	Ⅰ	人 国際関係入門	前期	佐々木 太郎	E
4-189	Ⅱ	人 異文化間コミュニケーション	Ⅱ	人 異文化間コミュニケーション	Ⅱ	人 異文化間コミュニケーション			後期	J.E.Alsdorf	E
4-190	Ⅱ	人 英米文学概論	Ⅰ	人 英語文学概論	Ⅰ	人 英語文学概論	Ⅰ	人 英語文学概論	前期	石川 玲子	E
4-191	Ⅱ	人 イギリスの社会と文化	Ⅱ	人 英語圏の社会と文化A	Ⅱ	人 英語圏の社会と文化A			後期	石川 玲子	
4-192	Ⅱ	人 フィールドワーク論	Ⅱ	人 フィールドワーク論	Ⅱ	人 フィールドワーク論			前期	藤谷 忠昭	E
4-193	Ⅱ	人 スピーチとプレゼンテーション	Ⅰ	人 スピーチとプレゼンテーション	Ⅰ	人 スピーチとプレゼンテーション	Ⅰ	人 スピーチとプレゼンテーション	前期	J.E.Alsdorf	E
4-194	Ⅲ	人 ビジネス英語	Ⅲ	人 ビジネス英語					後期	J.E.Alsdorf	
4-195	Ⅲ	人 コミュニケーション実践	Ⅲ	人 コミュニケーション実践					後期	J.E.Alsdorf	
4-196	Ⅱ	人 翻訳入門	Ⅱ	人 翻訳入門	Ⅱ	人 翻訳入門			前期	石川 玲子	E
4-197	Ⅲ	人 翻訳演習	Ⅱ	人 翻訳演習	Ⅱ	人 翻訳演習			後期	森川 康子	E
4-198	Ⅱ	人 通訳入門	Ⅲ	人 通訳入門					前期	相馬 沙織	
4-199	Ⅲ	人 通訳演習	Ⅲ	人 通訳演習					後期	相馬 沙織	
4-200	Ⅲ	人 比較文化論	Ⅱ	人 比較文化論	Ⅱ	人 比較文化論			前期	中村 圭勝	
4-201	Ⅲ	人 情報社会論	Ⅲ	人 情報社会論					前期	古田 誠	
4-202	Ⅲ	人 英米文学講読	Ⅱ	人 英語文学講読	Ⅱ	人 英語文学講読			後期	石川 玲子	
4-203	Ⅲ	人 アメリカの社会と文化	Ⅱ	人 英語圏の社会と文化B	Ⅱ	人 英語圏の社会と文化B			前期	J.E.Alsdorf	
4-204	Ⅰ	人 社会調査入門	Ⅰ	人 社会調査入門	Ⅰ	人 社会調査入門	Ⅰ	人 社会調査入門	後期	Sandrovych Tymur	E
4-205	Ⅱ	人 現代社会論演習	Ⅱ	人 現代社会論					前期	藤谷 忠昭	
4-206	Ⅰ	人 マス・メディア論	Ⅰ	人 マス・メディア論	Ⅰ	人 マス・メディア論	Ⅰ	人 マス・メディア論	前期	古田 誠	E

index	配当 年次	2016	2016(H28) IV回生用	2017	2017(H29) III回生用	配当 年次	2018	2018(H30) II回生用	配当 年次	2019	2019(H31) I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
4-207	II	人	国際金融論	II	人	国際金融論	II	人	国際金融論			後期	向井 光太郎 他	E
4-208	II	人	国際政治論	II	人	国際政治論	II	人	国際政治論			後期	佐々木 太郎	E
4-209	II	人	社会統計学	II	人	社会統計学	II	人	社会統計学			後期	益田 圭	E
4-210	II	人	社会調査方法論	II	人	社会調査法	II	人	社会調査法			後期	藤谷 忠昭	
4-211	III	人	企業管理	III	人	企業管理論						後期	向井 光太郎	
4-212	III	人	国際経済・貿易論	III	人	貿易論						後期	登坂 一博	
4-213	III	人	企業経営論	II	人	企業経営論	II	人	企業経営論			前期	向井 光太郎	E
4-214	III	人	社会調査演習	III	人	社会調査演習						通年	藤谷 忠昭	
4-215	III	人	比較文化論演習									後期	中村 圭爾	
4-216				I	人	真宗入門	I	人	真宗入門	I	人	後期	佐々木 隆晃	
4-217				III	人	マーケティング論						前期	向井 光太郎	
4-218				II	人	観光学	II	人	観光学			前期	西村 典芳	

5. 人間発達学部

index	配当 年次	2016	2016(H28) IV回生用	2017	2017(H29) III回生用	配当 年次	2018	2018(H30) II回生用	配当 年次	2019	2019(H31) I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
5-001	I	子	人間発達論	I	子	人間発達論	I	子	人間発達論			前期	渡部 美穂子	E
5-002	I	子	ベーシックセミナー	I	子	ベーシックセミナー	I	子	ベーシックセミナー	I	子	前期	進藤 容子+粟光 由里子+前田 雅章 十鳥場 藏伸	
5-003	I	子	健康管理論									後期	進藤 容子	
5-004	II	子	コミュニケーション論	II	子	コミュニケーション論	II	子	コミュニケーション論			後期	粟光 由里子	E
5-005	III	子	文化と社会	III	子	文化と社会						後期	川中 美津子	E
5-006	III	子	保育カウンセリング	III	子	保育カウンセリング						前期	粟光 由里子	B
5-007	IV	子	学校カウンセリング									後期	粟光 由里子	
5-008	III	子	教育心理学(子ども)	III	子	教育心理学(子ども)						前期	粟光 由里子	
5-009	I	子	発達心理学	I	子	発達心理学	I	子	発達心理学	I	子	後期	粟光 由里子	
5-010	III	子	子どもの遊びと文化	III	子	子どもの遊びと文化						後期	中西 利恵	
5-011	III	子	ICT活用教育	III	子	ICT活用教育						後期	横島 三和子	
5-012	IV	子	子ども生活文化論									前期	川中 美津子+進藤 容子	
5-013	IV	子	子ども生活文化演習									前期	川中 美津子	



1. 基礎科目・共通科目



1-001

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	中平 了悟		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教 (1) 基礎</p> <p>第3回 人間と宗教 (2) 発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ (2) 発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ (2) 発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度 (参加状況) ・ 宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間 (90分) 		
課題へのフィードバック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	日高 明		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教（1）基礎</p> <p>第3回 人間と宗教（2）発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ（1）基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ（2）発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ（1）基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ（2）発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 : 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

1-003

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教（1）基礎</p> <p>第3回 人間と宗教（2）発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ（1）基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ（2）発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ（1）基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ（2）発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回：相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A01	期間	後期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	塚田 博教		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教經典『仏説無量寿經』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教 (1) 基礎</p> <p>第3回 人間と宗教 (2) 発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ (2) 発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ (2) 発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度 (参加状況) ・ 宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>・ 授業時間外における予習・復習等に必要な時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間 (90分)</p>		
課題へのフィードバック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

1-005

ナンバリング	CC100A01	期間	後期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	本多 彩		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教 (1) 基礎</p> <p>第3回 人間と宗教 (2) 発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ (2) 発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ (2) 発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度 (参加状況) ・ 宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。 ・ 授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間 (90分) 		
課題へのフィードバック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	釋 大智		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教（1）基礎</p> <p>第3回 人間と宗教（2）発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ（1）基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ（2）発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ（1）基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ（2）発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回：相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 55%</p> <p>試験・レポート・課題・提出物 45%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要な時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

1-007

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	赤井 智顕		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を十分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教（1）基礎</p> <p>第3回 人間と宗教（2）発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ（1）基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ（2）発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ（1）基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ（2）発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 : 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100B01	期間	後期
授業科目名	仏教思想と現代		
英訳科目名	The Teachings of the Buddha and Modern Society		
担当教員名	日高 明		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>仏教のみならず、およそ宗教は人々の生活や社会と深く結びついて展開してきました。本学の建学の精神である仏教・浄土真宗は、日本の文化・思想・生活に大きな影響を与えています。授業では、宗教とは何かという問いから出発して、世界の宗教を概観し、仏教の特色や広がり、浄土思想、そして親鸞聖人の教えの意義などを学びます。この授業を通して、現代社会のあり方と私たちの生き方について深く見詰め、宗教的情操の涵養をめざしましょう。</p> <p>また、月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>宗教・仏教・浄土真宗の概要を理解し、それらを現代に生きる自己とのかかわりで考えることができるようになる。また、宗教・仏教に隣接する心理学や社会学など諸分野との関連について知り、仏教の視点をもとに自らの人生の課題を見つめることができるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現代に生きる仏教思想 第2回 宗教とは何か 第3回 宗教の種々相 第4回 ブッダの生涯と苦の自覚 第5回 縁起思想について 第6回 空の思想について 第7回 浄土思想：阿弥陀仏と極楽浄土 第8回 浄土思想：中国浄土教思想 第9回 浄土思想：日本浄土教の流れ 第10回 親鸞聖人の教え：親鸞聖人の生涯 第11回 親鸞聖人の教え：他力について 第12回 現代社会と仏教：概説 第13回 現代社会と仏教：「教」の側面から 第14回 現代社会と仏教：「行」の側面から 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 50% 試験・レポート・課題・提出物 50%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間外における予習・復習等のアドバイス 講義中に質問することがあるので復習をしておこう。 身のまわりにある「宗教的視点」を観察してみよう。 現代社会にみられる課題を考えてみよう。 ・講義時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分） 		
課題へのフィード バック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。 担当者から個別に注意事項が伝達される場合があります。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

1-009

ナンバリング	CC100B01	期間	前期
授業科目名	仏教思想と現代		
英訳科目名	The Teachings of the Buddha and Modern Society		
担当教員名	本多 彩		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>仏教のみならず、およそ宗教は人々の生活や社会と深く結びついて展開してきました。本学の建学の精神である仏教・浄土真宗は、日本の文化・思想・生活に大きな影響を与えています。授業では、宗教とは何かという問いから出発して、世界の宗教を概観し、仏教の特色や広がり、浄土思想、そして親鸞聖人の教えの意義などを学びます。この授業を通して、現代社会のあり方と私たちの生き方について深く見つめ、宗教的情操の涵養をめざしましょう。</p> <p>また、月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>宗教・仏教・浄土真宗の概要を理解し、それらを現代に生きる自己とのかかわりで考えることができるようになる。また、宗教・仏教に隣接する心理学や社会学など諸分野との関連について知り、仏教の視点をもとに自らの人生の課題を見つめることができるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現代に生きる仏教思想 第2回 宗教とは何か 第3回 宗教の種々相 第4回 ブッダの生涯と苦の自覚 第5回 縁起思想について 第6回 空の思想について 第7回 浄土思想：阿弥陀仏と極楽浄土 第8回 浄土思想：中国浄土教思想 第9回 浄土思想：日本浄土教の流れ 第10回 親鸞聖人の教え：親鸞聖人の生涯 第11回 親鸞聖人の教え：他力について 第12回 現代社会と仏教：概説 第13回 現代社会と仏教：「教」の側面から 第14回 現代社会と仏教：「行」の側面から 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 50% 試験・レポート・課題・提出物 50%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間外における予習・復習等のアドバイス 講義中に質問することがあるので復習をしておこう。 身のまわりにある「宗教的視点」を観察してみよう。 現代社会にみられる課題を考えてみよう。 ・講義時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分） 		
課題へのフィードバック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。 担当者から個別に注意事項が伝達される場合があります。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-010

ナンバリング	CC100B01	期間	後期
授業科目名	仏教思想と現代		
英訳科目名	The Teachings of the Buddha and Modern Society		
担当教員名	多村 至恩		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>仏教のみならず、およそ宗教は人々の生活や社会と深く結びついて展開してきました。本学の建学の精神である仏教・浄土真宗は、日本の文化・思想・生活に大きな影響を与えています。授業では、宗教とは何かという問いから出発して、世界の宗教を概観し、仏教の特色や広がり、浄土思想、そして親鸞聖人の教えの意義などを学びます。この授業を通して、現代社会のあり方と私たちの生き方について深く見つめ、宗教的情操の涵養をめざしましょう。</p> <p>また、月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>宗教・仏教・浄土真宗の概要を理解し、それらを現代に生きる自己とのかかわりで考えることができるようになる。また、宗教・仏教に隣接する心理学や社会学など諸分野との関連について知り、仏教の視点をもとに自らの人生の課題を見つめることができるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現代に生きる仏教思想 第2回 宗教とは何か 第3回 宗教の種々相 第4回 ブッダの生涯と苦の自覚 第5回 縁起思想について 第6回 空の思想について 第7回 浄土思想：阿弥陀仏と極楽浄土 第8回 浄土思想：中国浄土教思想 第9回 浄土思想：日本浄土教の流れ 第10回 親鸞聖人の教え：親鸞聖人の生涯 第11回 親鸞聖人の教え：他力について 第12回 現代社会と仏教：概説 第13回 現代社会と仏教：「教」の側面から 第14回 現代社会と仏教：「行」の側面から 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 50% 試験・レポート・課題・提出物 50%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間外における予習・復習等のアドバイス 講義中に質問することがあるので復習をしておこう。 身のまわりにある「宗教的視点」を観察してみよう。 現代社会にみられる課題を考えてみよう。 ・講義時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分） 		
課題へのフィードバック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。 担当者から個別に注意事項が伝達される場合があります。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-011

ナンバリング	CC100B01	期間	後期
授業科目名	仏教思想と現代		
英訳科目名	The Teachings of the Buddha and Modern Society		
担当教員名	乗山 悟		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>仏教のみならず、およそ宗教は人々の生活や社会と深く結びついて展開してきました。本学の建学の精神である仏教・浄土真宗は、日本の文化・思想・生活に大きな影響を与えています。授業では、宗教とは何かという問いから出発して、世界の宗教を概観し、仏教の特色や広がり、浄土思想、そして親鸞聖人の教えの意義などを学びます。この授業を通して、現代社会のあり方と私たちの生き方について深く見つめ、宗教的情操の涵養をめざしましょう。</p> <p>また、月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>宗教・仏教・浄土真宗の概要を理解し、それらを現代に生きる自己とのかかわりで考えることができるようになる。また、宗教・仏教に隣接する心理学や社会学など諸分野との関連について知り、仏教の視点をもとに自らの人生の課題を見つめることができるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現代に生きる仏教思想 第2回 宗教とは何か 第3回 宗教の種々相 第4回 ブッダの生涯と苦の自覚 第5回 縁起思想について 第6回 空の思想について 第7回 浄土思想：阿弥陀仏と極楽浄土 第8回 浄土思想：中国浄土教思想 第9回 浄土思想：日本浄土教の流れ 第10回 親鸞聖人の教え：親鸞聖人の生涯 第11回 親鸞聖人の教え：他力について 第12回 現代社会と仏教：概説 第13回 現代社会と仏教：「教」の側面から 第14回 現代社会と仏教：「行」の側面から 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 50% 試験・レポート・課題・提出物 50%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間外における予習・復習等のアドバイス 講義中に質問することがあるので復習をしておこう。 身のまわりにある「宗教的視点」を観察してみよう。 現代社会にみられる課題を考えてみよう。 ・講義時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間（90分） 		
課題へのフィードバック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。 担当者から個別に注意事項が伝達される場合があります。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-012

ナンバリング	CC100B01	期間	後期
授業科目名	仏教思想と現代		
英訳科目名	The Teachings of the Buddha and Modern Society		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	○
ディプロマ・ポリシー-3	○	ディプロマ・ポリシー-4	◎
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>仏教のみならず、およそ宗教は人々の生活や社会と深く結びついて展開してきました。本学の建学の精神である仏教・浄土真宗は、日本の文化・思想・生活に大きな影響を与えています。授業では、宗教とは何かという問いから出発して、世界の宗教を概観し、仏教の特色や広がり、浄土思想、そして親鸞聖人の教えの意義などを学びます。この授業を通して、現代社会のあり方と私たちの生き方について深く見詰め、宗教的情操の涵養をめざしましょう。</p> <p>また、月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>宗教・仏教・浄土真宗の概要を理解し、それらを現代に生きる自己とのかかわりで考えることができるようになる。また、宗教・仏教に隣接する心理学や社会学など諸分野との関連について知り、仏教の視点をもとに自らの人生の課題を見つめることができるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現代に生きる仏教思想 第2回 宗教とは何か 第3回 宗教の種々相 第4回 ブッダの生涯と苦の自覚 第5回 縁起思想について 第6回 空の思想について 第7回 浄土思想：阿弥陀仏と極楽浄土 第8回 浄土思想：中国浄土教思想 第9回 浄土思想：日本浄土教の流れ 第10回 親鸞聖人の教え：親鸞聖人の生涯 第11回 親鸞聖人の教え：他力について 第12回 現代社会と仏教：概説 第13回 現代社会と仏教：「教」の側面から 第14回 現代社会と仏教：「行」の側面から 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度（参加状況）・宗教行事への参加 50% 試験・レポート・課題・提出物 50%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間外における予習・復習等のアドバイス 講義中に質問することがあるので復習をしておこう。 身のまわりにある「宗教的視点」を観察してみよう。 現代社会にみられる課題を考えてみよう。 ・講義時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間 (90分) 		
課題へのフィード バック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。 担当者から個別に注意事項が伝達される場合があります。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期/後期
授業科目名	大学と地域社会		
英訳科目名	University and Regional Society		
担当教員名	中村 圭爾		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>いま、日本の大学は、大学の中だけで教育や研究を行うだけではなく、そのことを通して、社会や地域に対して貢献することが大きな役割であるとされるようになってきました。大学にたくわえられた豊かな知識や技術を広く世界や日本全体、とくにそれぞれの大学が位置する地域社会に提供し、それぞれの地域社会の発展や振興に寄与するのが、現在の大学の重要な使命となっているのです。</p> <p>それでは、私たち相愛大学は、大学が位置している大阪府や大阪市、そして実際にキャンパスがある住之江区や中央区に対して、これまでどのような役割を果たしてきているのでしょうか、またどのような役割をこれから果たしていこうとしているのでしょうか。</p> <p>このようなことを考える時には、まず相愛大学がどのような精神で設立され、どのような方針で大学の使命を果たそうとしているのかを正しく理解したうえで、相愛大学の教育や研究、地域貢献の考え方と、具体的な内容を知るとともに、地元大阪府大阪市、そして中央区や住之江区の現状、地元と大学の現在の関係について認識を広めていくことが重要となります。</p> <p>この科目は、相愛大学の歴史、相愛大学の地域社会に関する教育・研究・地域貢献の現状を、大学の立場から学ぶとともに、地元地域の実情と、地元のさまざまな立場からの大学に対する見方や考え方を認識し、大学と地域とのよりよい共生や連携を発展させるために、地元の方々の協力も得て、提供されるものです。</p>		
到達目標	相愛大学の歴史と地域への貢献、地域の経済・社会・文化のさまざまな現状や課題について十分に理解でき、そのことを自分で他者に対して正しく説明できるようになる。		
授業計画	第1回 授業内容と進め方の説明 第2回 相愛大学のあゆみ 第3回 日本の大学と社会 第4回 相愛大学と社会 第5回 相愛大学の研究と社会 第6回 相愛大学の社会貢献 第7回 音楽学部の教育研究と地域社会 第8回 人文学部の教育研究と地域社会 第9回 人間発達学部の教育研究と地域社会 第10回 大阪の経済社会文化の現状と課題 第11回 地元自治体の経済社会文化の現状と課題Ⅰ 第12回 地元自治体の経済社会文化の現状と課題Ⅱ 第13回 地元の保育・教育界の現状Ⅰ 第14回 地元の保育・教育界の現状Ⅱ 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	毎回、授業の後で復習としてレポートを作成することにします。 各回のレポートの評価点を合計した点数を成績とします。 ・授業への参加態度 20% ・授業内容の理解度 80%		
失格条件	欠席回数が5回をこえた場合（6回欠席すれば失格です）。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	この授業は、復習を重視します。毎回、授業の後で、所定の用紙に、授業のまとめ（約100字）と授業の感想（よく分かった所、印象に残った所、難しかった点、気付いた点など、約100字）、あわせて約200字を記し、提出してください（所要時間4時間）。提出日時、提出場所等詳細については、1回目の授業時に説明します。		
課題へのフィード バック	毎回提出するレポートについて、それぞれの回の担当者から、到達目標とその達成度、理解不足の部分の内容などの意見を出して頂き、その概要を最終授業日のまとめで紹介するとともに、ポータルサイトで履修者に向けて周知します。		
教科書	不使用。基本的に毎回授業資料を配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	各回の授業中に、必要があれば紹介します。		
その他	特になし		
備考	この授業の第10回、第11回、第12回は自治体の管理職（住之江区長、中央区長、大阪市経済戦略局の局長）を外部講師として招き、行政責任者としての実務経験をもとに授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC100A02	期間	前期/後期
授業科目名	大学と社会		
英訳科目名	Soai University and Society		
担当教員名	中村 圭爾		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	○
ディプロマ・ポリシー-3	○	ディプロマ・ポリシー-4	◎
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>この科目には、二つの大きな目的があります。一つ目は、相愛大学はどのような大学なのかを在學生に皆さんに正しく理解していただき、相愛大学生であることの自覚をもって大学生生活を有意義に過ごしていただく一助とすることです。二つ目は、相愛大学をふくめ、日本の大学は今どのような状況にあり、どのような役割を期待されているかを社会との関係でとらえ、大学生としてどのように社会と関わるのかを、受講生一人一人に考えていただくことです。</p> <p>いま、日本の大学は、大学の中だけで教育や研究を行うだけではなく、そのことを通して、社会や地域に対して貢献することが大きな役割であるとされるようになってきました。大学にたくわえられた豊かな知識や技術を広く世界や日本全体、とくにそれぞれの大学が位置する地域社会に提供し、それぞれの地域社会の発展や振興に寄与するのが、現在の大学の重要な使命となっているのです。</p> <p>そのために、まず相愛大学がどのような精神で設立され、どのような歴史をもっているのか、教育や研究、社会貢献についてどのような体制と方針で大学の使命を果たそうとしているのかを正しく理解していただく必要があります。それと同時に、今日本の社会全体はもちろん、相愛大学が位置する地元大阪府大阪市、そして中央区や住之江区の現状、地元と大学の現在の関係について認識を広めていくことが重要となります。</p> <p>この科目は、相愛大学の建学の精神と歴史、現在の教育・研究・地域貢献の具体的な現状を、大学の立場から学ぶとともに、地元地域の実情と、地元のさまざまな立場からの大学に対する見方や考え方を認識し、大学と地域とのよりよい共生や連携を発展させるために、地元の方々の協力も得て、提供されるものです。</p>		
到達目標	相愛大学の歴史と現在および社会に果たしている役割、地域の経済・社会・文化のさまざまな現状や課題について十分に理解でき、そのことを自分で他者に対して正しく説明できるようになる。		
授業計画	<p>第1回 授業内容と進め方の説明 第2回 相愛大学のあゆみ 第3回 日本の大学と社会 第4回 相愛大学と社会 第5回 相愛大学の研究と社会 第6回 相愛大学の社会貢献 第7回 音楽学部の教育研究と地域社会 第8回 人文学部の教育研究と地域社会 第9回 人間発達学部の教育研究と地域社会 第10回 大阪の経済社会文化の現状と課題 第11回 地元自治体の経済社会文化の現状と課題Ⅰ 第12回 地元自治体の経済社会文化の現状と課題Ⅱ 第13回 地元の保育・教育界の現状Ⅰ 第14回 地元の保育・教育界の現状Ⅱ 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回、授業の後で復習としてレポートを作成することにします。 各回のレポートの評価点を合計した点数を成績とします。 ・授業への参加態度 20% ・授業内容の理解度 80%</p>		
失格条件	欠席回数が5回をこえた場合（6回欠席すれば失格です）。		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	この授業は、復習を重視します。毎回、授業の後で、所定の用紙に、授業のまとめ（約100字）と授業の感想（よく分かった所、印象に残った所、難しかった点、気付いた点など、約100字）、あわせて約200字を記し、提出してください（所要時間4時間）。提出日時、提出場所等詳細については、1回目の授業時に説明します。		
課題へのフィードバック	毎回提出するレポートについて、それぞれの回の担当者から、到達目標とその達成度、理解不足の部分の内容などの意見を出して頂き、その概要を最終授業日のまとめで紹介するとともに、ポータルサイトで履修者に向けて周知します。		
教科書	不使用。基本的に毎回授業資料を配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	各回の授業中に、必要があれば紹介します。		
その他	特になし		
備考	この授業の第10回、第11回、第12回は自治体の管理職（住之江区長、中央区長、大阪市経済戦略局の局長）を外務講師として招き、行政責任者としての実務経験をもとに授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期															
授業科目名	大阪学入門																	
英訳科目名	Introduction to Osaka Studies																	
担当教員名	千葉 真也、前垣 和義																	
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2																
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4																
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6																
授業概要・ポイント	<p>前垣は主に現代の大阪についてお話しします。今やカレーライスは国民食ですが、その歴史に、大阪企業が果たした役割をご存じですか。授業は、このように身近なものをテーマに取り上げ、大阪の視点から興味深く分析を図っていきます。(前垣)</p> <p>千葉は古代から江戸時代までの大阪についてお話しします。大阪の歴史とその背景となる地理的条件について基礎知識を身につけましょう。(千葉)</p> <p>江戸時代の大阪の生んだ作家・文人(西鶴、近松、契沖、秋成など)は、新しい領域の開拓者であり第一人者でした。キーワードは新しさです。(千葉)</p>																	
到達目標	<p>大阪という地域を多様な視点から考察することができる。</p> <p>大阪について自分の言葉で表現できる。</p>																	
授業計画	<p>第1回 大阪の地理的条件(千葉)</p> <p>第2回 「コンビニ」で出会える食の大阪学(前垣)</p> <p>第3回 『広辞苑』から見えてくる東西文化比較(前垣)</p> <p>第4回 「カレーライス」から大阪のビジネスを考える(前垣)</p> <p>第5回 「大阪のおばちゃん」から考察する大阪経済学(前垣)</p> <p>第6回 「大阪の地名」から、ことば、文化、歴史を探る(前垣)</p> <p>第7回 クイズで読み解く、「水都大阪」(前垣)</p> <p>第8回 「大阪のしゃれ」考察&まとめ(前垣)</p> <p>第9回 大阪の歴史(1)―古代～中世(千葉)</p> <p>第10回 大阪の歴史(2)―近世～現代(千葉)</p> <p>第11回 井原西鶴(千葉)</p> <p>第12回 近松門左衛門(千葉)</p> <p>第13回 契沖(千葉)</p> <p>第14回 上田秋成(千葉)</p> <p>第15回 与謝蕪村(千葉)</p>																	
評価方法 (合計100%)	<p>二人の担当者の評価を平均して算出します。</p> <p>前垣 授業への参加意欲度、レポート、課題などによって評価します。</p> <table border="1"> <tr> <td>評価比率</td> <td>授業への参加態度、意欲度(授業後提出のコメントを含む)</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>レポート</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>課題</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>千葉 授業への参加態度と小テストによって評価します。</p> <table border="1"> <tr> <td>評価比率</td> <td>授業への参加態度</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小テスト</td> <td>60%</td> </tr> </table>			評価比率	授業への参加態度、意欲度(授業後提出のコメントを含む)	30%		レポート	50%		課題	20%	評価比率	授業への参加態度	40%		小テスト	60%
評価比率	授業への参加態度、意欲度(授業後提出のコメントを含む)	30%																
	レポート	50%																
	課題	20%																
評価比率	授業への参加態度	40%																
	小テスト	60%																
失格条件	なし																	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・次の授業のテーマを捉え、関連情報を探し、家族や友人等と、ディスカッション等を重ねる。(予習時間 1時間)</p> <p>・授業中に配布されたプリントをもとに参考文献や関連するサイトを調べ、小テストやレポートの準備をすること。(3時間)</p>																	
課題へのフィード バック	<p>レポート、課題、授業後のコメントに関しては、提出物受領後、全体に向けコメントします。ポータルサイトを使う場合もあります。(前垣)</p> <p>小テストについては、原則的に実施した次の授業の時に全体に向けてコメントします。また個々の答えは採点后、できるだけ速やかに返却します。(千葉)</p>																	
教科書	プリントを使用します。																	
著者名																		
出版社																		
参考書																		
その他																		
備考																		
科目生への開講	なし																	

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	まちづくり入門		
英訳科目名	Introduction to Community Building		
担当教員名	岡田 裕		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>いま、日本の大学は、大学の中だけで教育や研究を行うだけではなく、そのことを通して、社会や地域に対して貢献することが大きな役割であるとされるようになってきました。大学にたくわえられた豊かな知識や技術を広く世界や日本全体、とくにそれぞれの大学が位置する地域社会に提供し、それぞれの地域社会の発展や振興に寄与するのが、現在の大学の重要な使命となっているのです。</p> <p>それでは、私たちが生まれ育ってきた地域社会、私たちが学んでいる相愛大学が位置する地域社会は現在どのような姿をしていて、その姿の中で私たちはこれからどのように生活していくのでしょうか。そのような疑問を解決していくためのとっかかりとして「幼老共生」について考え、「人口減少社会」・「まちづくり」、さらに「ライフサイクル」という3つの視点について学習します。そしてこれら3つの視点を持って私たちが生まれ育ってきた地域社会、私たちが学んでいる相愛大学が位置する地域社会の姿を見つめ直します。そして自分自身が地域社会の中でこれからどのように生きて行こうとしているのかを仲間とのグループワークやディスカッションを通してより明確にしていきたいと考えています。</p> <p>この科目は、地域を眺め自分の地域生活を見つめ直すことを通して、大学と地域と自分とのよりよい共生や連携を発展させるために、地元の方々の協力も得て、提供されるものです。</p>		
到達目標	地域を「コミュニティ」「まちづくり」という視点から眺め、さらに「ライフサイクル」という視点でもって今後の自分の生き方と地域とのかかわり方について他者に対して自信を持って説明できるようになる。		
授業計画	<p>第1回 授業内容と進め方の説明</p> <p>第2回 「人口減少社会」が意味するもの①</p> <p>第3回 「人口減少社会」が意味するもの②(グループワーク中心)</p> <p>第4回 「人口減少社会」が意味するもの③(プレゼン制作中心)</p> <p>第5回 「人口減少社会」が意味するものについてのグループワークとディスカッション</p> <p>第6回 幼老共生と「ライフサイクル」の意味するもの①</p> <p>第7回 幼老共生と「ライフサイクル」の意味するもの②(グループワーク中心)</p> <p>第8回 幼老共生と「ライフサイクル」の意味するもの③(プレゼン制作中心)</p> <p>第9回 「ライフサイクル」についてのグループワークとディスカッション</p> <p>第10回 「まちづくり」が意味するもの①</p> <p>第11回 「まちづくり」が意味するもの②(グループワーク中心)</p> <p>第12回 「まちづくり」が意味するもの③(プレゼン制作中心)</p> <p>第13回 「まちづくり」についてのグループワークとディスカッション</p> <p>第14回 「今後の自分と地域とのかかわり方」についてのプレゼンテーション</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への積極的参加 30%</p> <p>2回のプレゼン及びレポート 20%</p> <p>最終プレゼン及び最終レポート 50%</p>		
失格条件	<p>出席回数が3分の2を超えない者(遅刻3回で欠席1回とカウントする)</p> <p>レポートを1つでも未提出の者(レポートはすべて提出しないと失格となる)</p>		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>この授業は、授業中のグループワークとディスカッションを重視します。欠席が続くと授業についていけなくなります。ですからクラスの中に友人(学習ペア)を作っておいて、もし欠席した時には授業中にどんなグループワークしたか、また次回までに個人作業として準備しておくべきことは何かを相互に教え合って、欠席した時間分を必ず自分で補習しておきましょう。(最初の授業オリエンテーションで学習ペアづくりをします)</p> <p>1回の授業(2時間)に予習・復習の時間を4時間充てましょう。</p>		
課題へのフィードバック	課題やプレゼンに対して、学生同士で相互評価したり、教員がコメントする。		
教科書	使用しません。ただ内容によってプリントを配布することがあります。		
著者名			
出版社			
参考書	各回の授業中に、必要があれば紹介します。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	CC300A01	期間	前期/後期
授業科目名	キャリアデザイン論/キャリアデザイン		
英訳科目名	Career Design Theory/Career Design		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この講義は、建学の精神を在学生活の中で行動によって表現し、いずれ社会に出て活躍する「プロフェッショナル」のフィールドでも踏襲して実践する人物になるための要素を体系的に学びます。講義形式の授業の中に、教員と学生または学生同士のコミュニケーションなどを取り入れ、社会との関わりを強く意識します。		
到達目標	周囲に対する働きかけを行えること いろいろなコミュニケーションを実践できること 教養を得る人格を備えること 思考と洞察の能力を高めること これらの素養を通して、卒業後の進路（働くフィールド）を設計すること		
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 変化について -変化をとらえる、変化のあとの世界を描く 第3回 洞察について -物事を見極める、複眼で考える 第4回 コミュニケーションについて -優れたコミュニケーション 第5回 自分の魅力について -自分自身、人間的魅力 第6回 将来を考えることについて* -ディスカッション（全体） 第7回 リーダーシップについて -スタイル、役目、課題など 第8回 決断について -情報、知識 第9回 ネットワーク・人脈について -仕事、人物、接点、他者 第10回 モラル・ルールについて -道徳、正義 第11回 現場感覚について -情報、アイデア、理論と実践 第12回 これからの仕事について* -ディスカッション（全体） 第13回 教養について -学力、学業、語学 第14回 私の役目について -将来のフィールドとは 第15回 周囲と他者への関わり -プロフェッショナルとして		
評価方法 (合計100%)	本授業の意義を理解し、授業への参加態度、授業内課題・レポート、発表等を含め、積極的に取り組んだかを総合的に評価します。具体的な評価割合は以下のとおりです。 1. 授業内パフォーマンス評価（コミュニケーション、課題、発言、リアクションなど） 50% 2. レポート評価（レポート作成への取組み姿勢や文章力など） 50%		
失格条件	1. 欠席5回以上は失格とします。 2. 30分超の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	1. 各回のテーマについて理解を深め、自身の将来設計に役立てること。課題について調べること。（1時間） 2. 自分が社会とどのように関わっていくのかという視点を持つために、世の中のトピックや身の回りの生活環境から情報を常にインプットしておくこと。（1時間）		
課題へのフィードバック	・リアクションペーパーの返却 ・リアクションペーパーに関するフィードバックやコミュニケーション ・質疑に対する受講者シェア型の応答など		
教科書	指定する教科書はありません。板書などに必要なノートやファイルは各自準備してください。		
著者名			
出版社			
参考書	適宜、授業内で指示します。また、ポータルで公開する場合がありますので、常にアクセスできるようにしておいてください。		
その他	ポータルによる教材配信をする場合があります。ポータルへのアクセスが常にできる状態にしておいてください。		
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A01	期間	前期
授業科目名	キャリアデザイン論(子)/キャリアデザイン(子)		
英訳科目名	Career Design Theory/Career Design		
担当教員名	直島 正樹、木村 久男、中井 清津子、松島 京		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	子どもを支援する専門職である保育士・幼稚園教諭・小学校教諭をめざすにあたり、基本的な知識を身につけ、感性を養う。子ども発達学科での4年間の学びの第一段階として、将来の進路選択について考える契機として欲しい。		
到達目標	①保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の仕事・役割に関する基本的な知識を習得できる。 ②将来の進路選択のために必要な基本的知識を身につけ、今後の学びの姿勢についての考えを深めることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業の進め方・留意点・評価方法等 第2回 子どもと自然①：相愛大学の自然環境を活用した学習（概要） 第3回 子どもと自然②：相愛大学の自然環境を体験 第4回 子どもと自然③：自然環境を活用した学習に関するまとめ 第5回 分野別学習①（幼稚園）：幼稚園教諭の仕事・資質について 第6回 分野別学習②（保育所）：保育所における保育士の仕事・資質について 第7回 分野別学習③（施設）：施設における保育士の仕事・資質について 第8回 分野別学習④（小学校）：小学校教諭の仕事・資質について 第9回 分野別学習⑤：分野別学習のまとめ 第10回 今後の現場実習に向けて①：実習について（概要・目的） 第11回 今後の現場実習に向けて②：書類作成について 第12回 今後の現場実習に向けて③：実習先の理解（実習先別） 第13回 今後の現場実習に向けて④：実習記録について（文章作成上の基本的事項） 第14回 今後の現場実習に向けて⑤：実習記録について（実習先別） 第15回 まとめ（半期の振り返り）		
評価方法 (合計100%)	受講状況【積極的参加、マナー等】40% 課題【授業内課題等】60%		
失格条件	以下、2つのいずれかにあてはまる場合、失格とする。 ①出席回数が3分の2（10回）以上に満たない場合 *20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ②課題等が指定通りに提出できなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業内で学んだ内容および関連するものについて、自身で積極的に調べ、意見をまとめておくこと（予習時間：2時間・復習時間：2時間）。		
課題へのフィード バック	・授業内課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントする。 ・最終課題については、ポータルサイト等を通じて、全体に向けてコメントする。		
教科書	①『保育所保育指針解説』（厚生労働省） ②『幼稚園教育要領解説』（文部科学省） ③『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省） *その他、必要に応じてプリント類を配布する。		
著者名	①厚生労働省②文部科学省③内閣府・文部科学省・厚生労働省		
出版社	①②③すべてフレーベル館		
参考書	適宜紹介する。		
その他	①私語等は謹んで意欲的に授業に参加すること。授業態度等の改善が見られない場合、単位認定を行わない場合もある。 ②今後の現場実習に向けての基本的な学習も行う。1年次開講科目（集中講義）である「保育・教育実践学習」も必ず履修すること。 ③指定したテキストは、他の授業でも使用するため、必ず購入すること。		
備考	社会福祉施設職員・社会福祉協議会職員としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（直島） 小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（木村） 幼稚園教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（中井）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	キャリアデザイン演習		
英訳科目名	Career Design Practices		
担当教員名	碓 ともみ		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	社会で大切な「社会人基礎力」を養い、個々人が「なぜ働くのか、どう生きていくのか」を自立的にキャリア形成が出来る様になることを目標とする。自己分析で自分の強みを把握し自己理解を探索し、計画的に将来に向けた準備をする。また、他者との協働作業から人との関わりを学び考えていく。更に、労働市場や雇用形態を学び、職業理解を深めていく。		
到達目標	自立的・主体的にキャリアつくり上げていくことを学ぶ。 単に個々人やグループで考えるだけでなく、パフォーマンスを組み入れ協働意識を高めていくことで、自己理解と共に他者理解を深めていくことのできる。 また、社会に出るためのビジネスマナーを体得できる。		
授業計画	第1回 プロローグ キャリアデザインとは何か 第2回 社会人基礎力 第3回 企業のしくみ（大企業・中小企業・ベンチャー企業） 第4回 現在の労働市場・雇用形態（職業理解） 第5回 働く意義 第6回 自己理解（自分の強みを知ろう） 第7回 他者理解（他者の考えを知る） 第8回 モチベーション論とリーダーシップ論 第9回 ビジネスマナー（丁寧な挨拶、日本語、一般教養） 第10回 多様な働き方（ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティ） 第11回 キャリア理論（計画された偶発性） 第12回 グループワーク①（ケースから学ぶ課題解決型学習） 第13回 キャリアアンカー 第14回 キャリアプランニング（アクションプランをつくる） 第15回 理解度確認チェックとまとめ		
評価方法 (合計100%)	理解度(40%) 授業の参加態度 (20%) 中間レポート (20%) グループワーク・プレゼンテーション(20%) 総合的に判断します。		
失格条件	1.全授業の3分の1以上の欠席(4回まで) 2.30分超の遅刻は欠席とし、遅刻は3回で1回の欠席と考える。（早退も遅刻と同様） 3.評価基準の割合が単位認定割合に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回の授業で発言やコメントを求めることがあります。新聞などで労働市場に関心を持って生活してください。また、講義中に取り上げる項目に対して、自分の考えを発表できるようにまとめておくこと。 1.課題のレポートへの事前準備（予習時間 3時間） 2.グループワークでの課題に対しても学習（予習・復習時間 3時間） 3.理解度確認テストのための学習（復習時間 3時間）		
課題へのフィードバック	・授業理解度や課題のフィードバックは、授業中もしくはポータルサイトを使用して全体にコメントします。		
教科書	特に使用しません。		
著者名			
出版社			
参考書	「受かる」就活女子レッスン 碓ともみ 幻冬舎ルネッサンス ISBN978-4-7790-0844-3		
その他	1.ワーク、発表には積極的に参加すること（ワークはグループごとに評価）。 2.ワークなど指示以外の私語・携帯電話使用 厳禁。 3.アクティブラーニング実施。 4.中間レポートなどの提出期日は厳守。 5.授業の流れは1回目に説明。必要に応じプリントを配布します。 6.理解度テストは参考書からも出題予定です。		
備考	キャリアコンサルタントとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	インターンシップ実践		
英訳科目名	Internship Practice		
担当教員名	碓 ともみ		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	満足いく就職をするためにインターンシップ（就業体験）を経験しておくことは、「働く意義」や「志望企業」を明確にするものとして有意義である。インターンシップの必要性、業界研究、エントリーシートの書き方、ビジネスマナーまで幅広く知ることができ、グループワークやアクティブラーニングを通して、インターンシップに行く前の準備に役立つ実践的な授業を展開する。		
到達目標	インターンシップを応募する前に意義を知り、準備をしていくことで、自信を持って志望企業先に応募することができ、その後の自律的な就職活動を円滑に進めていくための礎となる。また、自己表現力を磨きをかけ、社会人としての振る舞い（ビジネスマナー）を学ぶことができる。		
授業計画	第1回 インターンシップの目的と必要性 第2回 組織と個人（社会との関わり） 第3回 業界・業種を知る（情報収集力） 第4回 インターンシップへの応募書類 第5回 エントリーシートの書き方 第6回 自己表現力①（自己PR） 第7回 自己表現力②（志望動機） 第8回 企業が求める人材 第9回 採用管理(面接を知る) 第10回 ビジネスマナー（服装・身だしなみ・あいさつ） 第11回 ビジネスマナー（会話術、自己紹介） 第12回 ビジネスマナー（会社でのマナー） 第13回 ビジネスマナー（丁寧な日本語） 第14回 インターンシップ計画書 第15回 まとめと総括		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% グループワーク・発表 20% 中間レポート 20% 課題レポート 20% インターンシップ計画書 20%		
失格条件	1.全授業の3分の1以上の欠席(4回まで) 2.30分超の遅刻は欠席とし、遅刻は3回で1回の欠席と考える。（早退も遅刻と同様） 3.評価基準の割合が単位認定割合に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	志望する企業をホームページなどで情報収集をすること（90分） 参考書を予習として事前に目を通しておくこと。（90分） 自己の経験を棚卸して自己理解をしておくこと。（90分）		
課題へのフィード バック	毎時の授業の振り返り、レポートなどについては、授業中もしくはポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	特に使用しません。		
著者名			
出版社			
参考書	「受かる」就活女子レッスン 碓ともみ 幻冬舎ルネッサンス ISBN978-4-7790-0844-3		
その他	1.授業の流れは第1回目に説明します。 2.授業は基本的にパワーポイントを使用して進めていきます。 3.中間レポート・課題レポート・インターンシップ計画書の提出期限厳守。期限や形式は授業中に説明します。4.アクティブラーニング実施。 5.インターンシップは「自分で決める」「大学学生支援センター活用」などご自身で決めてください。 6.課題レポートのテーマは参考書を使用します。		
備考	キャリアコンサルタントとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	大学生のための日本語入門		
英訳科目名	Introduction to Japanese for University Students		
担当教員名	千葉 真也		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	すべての学習の基礎としての日本語学習を今一度見直し、大学での学習につなげるとともに就業力に発展させるのが本クラスの目的である。新聞記事を題材として用いて、日本語の読解力と表現力を向上させ、同時に時事問題への理解を深める。また、読解の基礎となる漢字の読み書き訓練を並行して行う。		
到達目標	新聞記事の内容を理解して他の受講生と議論でき、記事内容およびそれに関する自分の意見（考え）を小レポートとしてまとめることができる。新聞記事のなかで用いられている漢字や用語の意味を調べて理解できる。漢字検定3級模擬問題で、合格ラインとなる140点を獲得できる。		
授業計画	<p>各回の授業は3部構成で行う。第1部は、漢字学習（5分間のテスト、採点、解説）。第2部は、新聞を題材とした文章の読解。記事に含まれる漢字、用語を確認し、記事内容の理解に努める。また、音読を積極的に用いる。第3部は担当教員による説明や指示および前回のレポートの提出など。</p> <p>第1回 授業の進め方などの説明および漢字検定3級模擬問題を用いた到達度の測定。 第2～5回 新聞記事を用いた授業の展開の仕方の練習。担当教員が選んだ最近の記事を用いて、記事の読解、用語の理解、記事内容の把握に努める。 第6～14回 学生自身の興味・関心に基づいて、グループで新聞記事を選び、学習と発表を行う。 記事はなるべく複数準備し、どの記事を用いるかについて担当教員と相談する。準備や発表の方法についてはグループ内でよく相談する。必要に応じて数種類の新聞記事を比較してみる。 第15回 小テストを行い、授業中に学習した漢字や用語などがどれくらい身についているかを確認する。 また、漢字検定模擬問題を用いて到達度の測定を行い、どれくらい漢字力が伸びたかを見る。</p>		
評価方法 (合計100%)	漢字小テスト	30%	
	小レポート	40%	
	グループ発表	30%	
失格条件	欠席5回で失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習について 毎回、授業の冒頭に小テストを行うので、事前に（家または学校での空き時間に）該当する回の問題を全問解いて、解答と照らしあわせて採点し、間違ったところの正解を確認する（予習時間120分）。</p> <p>復習について 大事なところに線を引きながら、当日の授業で用いられた記事を再読し、全部理解できているかどうか確認する。理解できていない点があれば調べたり、友人に教えてもらう。ポイントを整理して記事内容のまとめを書く。記事内容についての自分の考えを整理して、レポートに意見として書く。できれば一度下書きをして、見直し、それでよければ清書する（復習時間120分）。</p>		
課題へのフィードバック	<p>漢字小テストは、実施した次の週に採点して返却する。その際、受講者全体への講評も行う。 小レポートは受領後、すみやかに評価を行い、コメントや採点表をつけて返却する。 グループ発表には、その場でコメントする。</p>		
教科書	模試形式 漢検予想問題集 3級		
著者名	旺文社 編		
出版社	旺文社		
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	大学生のための日本語入門		
英訳科目名	Introduction to Japanese for University Students		
担当教員名	沼田 潤		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	すべての学習の基礎としての日本語学習を今一度見直し、大学での学習につなげるとともに就業力に発展させるのが本クラスの目的である。新聞記事を題材として用いて、日本語の読解力と表現力を向上させ、同時に時事問題への理解を深める。また、読解の基礎となる漢字の読み書き訓練を並行して行う。		
到達目標	新聞記事の内容を理解して他の受講生と議論でき、記事内容およびそれに関する自分の意見（考え）を小レポートとしてまとめることができる。新聞記事のなかで用いられている漢字や用語の意味を調べて理解できる。漢字検定3級模擬問題で、合格ラインとなる140点を獲得できる。		
授業計画	<p>各回の授業は3部構成で行う。第1部は、漢字学習（5分間のテスト、採点、解説）。第2部は、新聞を題材とした文章の読解。記事に含まれる漢字、用語を確認し、記事内容の理解に努める。また、音読を積極的に用いる。第3部は担当教員による説明や指示および前回のレポートの提出など。</p> <p>第1回 授業の進め方などの説明および漢字検定3級模擬問題を用いた到達度の測定。</p> <p>第2～5回 新聞記事を用いた授業の展開の仕方の練習。担当教員が選んだ最近の記事を用いて、記事の読解、用語の理解、記事内容の把握に努める。</p> <p>第6～14回 学生自身の興味・関心に基づいて、グループで新聞記事を選び、学習と発表を行う。記事はなるべく複数準備し、どの記事を用いるかについて担当教員と相談する。準備や発表の方法についてはグループ内でよく相談する。必要に応じて数種類の新聞記事を比較してみる。</p> <p>第15回 小テストを行い、授業中に学習した漢字や用語などがどれくらい身についているかを確認する。また、漢字検定模擬問題を用いて到達度の測定を行い、どれくらい漢字力が伸びたかを見る。</p>		
評価方法 (合計100%)	漢字小テスト 30% 小レポート 40% グループ発表 30%		
失格条件	欠席5回で失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習について 毎回、授業の冒頭に小テストを行うので、事前に（家または学校での空き時間に）該当する回の問題を全問解いて、解答と照らしあわせて採点し、間違ったところの正解を確認する（予習時間120分）。</p> <p>復習について 大事などころに線を引きながら、当日の授業で用いられた記事を再読し、全部理解できているかどうか確認する。理解できていない点があれば調べたり、友人に教えてもらう。ポイントを整理して記事内容のまとめを書く。記事内容についての自分の考えを整理して、レポートに意見として書く。できれば一度下書きをして、見直し、それでよければ清書する（復習時間120分）。</p>		
課題へのフィードバック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	模試形式 漢検予想問題集 3級		
著者名	旺文社 編		
出版社	旺文社		
参考書			
その他	5～6人でグループを構成し、グループで記事選びと発表をしてもらうので、グループ活動がしやすいように互いに連絡できる体制をつくるのが大切。グループ分けと発表順が決まったら直ぐに一度集まり、どのような手順で準備するかを決めておくことも必要。いずれにしろ、時間的余裕をもって、3週間前ぐらいには取り組みを始めるのが賢明。		
備考			
科目生への開講	なし		

1-023

ナンバリング	期間	前期
授業科目名	大学生のための日本語入門 (留)	
英訳科目名	Introduction to Japanese for University Students	
担当教員名	千葉 真也	
ディプロマ・ポリシー1	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	すべての学習の基礎としての日本語学習を今一度見直し、大学での学習につなげるとともに就業力に発展させるのが本クラスの目的である。新聞記事を題材として用いて、日本語の読解力を向上させ、同時に時事問題への理解を深める。また、留学生にとって最も困難な漢字のよみについてとくに丁寧な指導を行う。	
到達目標	新聞記事を正確に音読し、内容が理解できる。漢字検定4級程度の漢字が正確に読める。	
授業計画	<p>各回の授業は3部構成で行う。第1部は、漢字検定の問題集からの小テストと解説を行う。第2部は、前回は配布した新聞を用いて文章を音読させ、漢字・用語の確認、記事内容の理解を図る。第3部は、第2部で音読した記事に出てくる語句についての小テストを行う。</p> <p>第1回 漢字検定4級模擬問題を用いて到達度を測定し、授業の進行についての説明を行う。</p> <p>第2～14回 漢字検定4級程度の漢字の理解を深めさせ、さらに、授業担当者が選んだ記事をもとにして、用いられた用語や取り上げられた問題を理解させる。</p> <p>第15回 漢字検定4級模擬問題を用いて到達度を測定し、さらに、これまでの授業で学習した漢字・用語などがどれくらい身についているかを確認する。</p>	
評価方法 (合計100%)	音読	40%
	漢字検定問題集からのテスト	30%
	新聞記事の漢字のテスト	30%
失格条件	欠席5回で失格とする。	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習について</p> <p>毎回の授業で小テストを行うので、問題集の該当する回の問題を全問解き、解答と照らしあわせて採点をし、正解を確認する。配布された新聞記事の漢字を確認し、難しい語句の意味を調べ、正確に音読できるように練習する (180分)。</p> <p>復習について</p> <p>授業で用いられた記事を再読し、全部理解できているかどうか確認する。理解できていない点があれば調べたり、友人に教えてもらったりして、学習した内容を定着させる (60分)。</p>	
課題へのフィードバック	小テストは採点を、原則的に次回の授業の時に返却します。また、小テスト返却時に、受講者全体に対するコメントを口頭で発表します。	
教科書	模試形式 漢検予想問題集 4級	
著者名	旺文社 編	
出版社	旺文社	
参考書		
その他	特になし	
備考		
科目生への開講	なし	

1-024

ナンバリング		期間	前期/後期
授業科目名	文章表現		
英訳科目名	Japanese Writing		
担当教員名	千葉 真也		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>文章を書く力を実践的に向上させることが狙いです。メールを使って、同窓会のお知らせをしたり、欠席した授業の課題を友だちに聞いたりするのも、本当は文章の力が必要です。大学で提出するレポートや企業に提出するエントリーシートは、とくに文章の力が必要です。「どんな情報をどんな順序で書けばよいか」（「この本を読んでくださるかたへ」から）を一緒に考えてゆきましょう。授業の前後、授業中に教科書の課題にしたがって、いくつかの文章を作成してもらいます。また課題をめぐっての話し合いにも積極的に参加することが望まれます。</p>		
到達目標	<p>読み手を意識した文章を書くことができる。 正確な文章を書くことができる。 文章を簡単に書くことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 はじめに 第2回 お知らせのメール 第3回 レストランのメニュー 第4回 問い合わせのメール 第5回 注意書きやサービス案内 第6回 お願いのメール 第7回 レポートや論文を書く① 第8回 レポートや論文を書く② 第9回 お店やイベントの広告 第10回 わかりやすいマニュアル 第11回 ニュースレターを作る 第12回 アンケート用紙を作る 第13回 日本語弱者のことを考えて書く 第14回 自己アピールする① 第15回 自己アピールする②</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度50% 提出物50%</p>		
失格条件	欠席が3分の1を超える場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>毎回、課題が与えられます。与えられた課題に対して、自分自身で考えて文章を書いてもらいます（予習時間 2時間） また、授業の後、授業をふまえて読み手を念頭に置いた文章を作成してもらいます（復習時間 2時間）</p>		
課題へのフィードバック	提出された課題は、できるだけ速やかに一つ一つに採点表をつけて返却します。採点表によって自分の長所や短所がわかるようにしています。		
教科書	日本語を書くトレーニング 第2版		
著者名	野田尚史・森口稔		
出版社	ひつじ書房		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

1-025

ナンバリング	CC200A03	期間	前期
授業科目名	世界の文学/文学概論		
英訳科目名	World Literature/Introduction to Literature		
担当教員名	山下 昇		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	さまざま国や地方の文学をなるべく多く取り上げて、その特徴について考える。また代表的な作品を通して人間や社会について考える。世界文学の代表的なものとともに、なるべく現代的なものも取り上げることによって、「今を生きる私たち」に栄養となり、問題提起となる授業を目指す。		
到達目標	世界のさまざまな国や地方の文学について広い知識を身に付けることができる。 実際に作品を読み、文学作品の読み方を習得することができる。 あらすじをまとめたり、意見を述べて、レポートを書けるようになる。		
授業計画	第1回 世界の文学について 第2回 日本の文学 大江健三郎を中心に 第3回 アジアの文学1 韓国・朝鮮の文学 第4回 アジアの文学2 中国 莫言を中心に 第5回 アジアの文学3 ベトナム バオ・ニンを中心に 第6回 アジアの文学4 インドの文学 第7回 アフリカの文学 チヌア・アチェベを中心に 第8回 中東・アラブの文学 ガッサン・カナファアーニを中心に 第9回 ヨーロッパの文学1 フランス アルベール・カミュを中心に 第10回 ヨーロッパの文学2 ドイツ フランツ・カフカを中心に 第11回 ヨーロッパの文学3 ロシア ドストエフスキーを中心に 第12回 ヨーロッパの文学4 イギリス シェークスピアを中心に 第13回 カリブの文学 マリーズ・コンデを中心に 第14回 ラテンアメリカの文学 ガルシア・マルケスを中心に 第15回 アメリカの文学 ウィリアム・フォークナーを中心に		
評価方法 (合計100%)	ワーク（毎回の授業コメント） 30% レポート(2回) 70%		
失格条件	5回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	その時間に取り上げる作品を読んでくる。(3時間) その日の授業で学習したことを整理する。(1時間)		
課題へのフィード バック	前回授業へのコメントのを講義冒頭で紹介し、疑問などに答える。 レポートの特徴的な点を講義で紹介し、受講生全体で共有する。 不十分なレポート等は難点を指摘して、再提出させる。		
教科書	使用しない（プリント配布）		
著者名			
出版社			
参考書	宮下志朗、小野正嗣編「世界文学への招待」NHK出版		
その他			
備考	特になし		
科目生への開講	あり		

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

ナンバリング	CC200A05	期間	前期
授業科目名	世界の歴史/歴史学概論		
英訳科目名	World History/Introduction to History		
担当教員名	岡本 託		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>近現代ヨーロッパ（フランス）の歴史をさまざまなトピックに分けて学んでいきます。現在、EUの主要国であるフランスは、教育、家族、宗教、移民、言語、政治において多様な問題を抱えています。しかし、これらの問題は現代に突然発生したものではなく、その起源と本質を知るためには19世紀にまで遡らなければなりません。そこで、本講義では、これらの問題が19世紀から現代へと、どのように受け継がれていったのかを考えていきます。</p> <p>また、ヨーロッパの事例だけではなく、日本の歴史との比較と関連性の解明も随時おこなっていきます。そのことにより、ヨーロッパの歴史と日本の歴史において異なる点と共通する点とを明らかにしながら、近現代の歴史についてグローバルに学んでいきます。</p>		
到達目標	<p>1.外国の歴史を知ることで、時間と空間の双方で自分の立ち位置を認識できる能力を養います。それは、自分が、過去から現在に至る時間の流れの中で生きている一個人であることを知り、そして、世界の中で生きる一個人であることを知ることです。これらの認識を深めることで、歴史と世界の中で、一個人として自立した人間になる能力を養います。同時に、日本（＝自分）とは異なる国の価値観や社会的・文化的背景を理解することで、グローバルな価値観を身につけることを目指します。</p> <p>2.各項目に対して自分なりの意見をもてるようにします。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：どのようにすれば歴史を正確に理解できるのか 外国の歴史を知ることによどのような意味があるのか 第2回 宗教の歴史：政教分離とは何か／現在の宗教問題との関わりとは 第3回 少子化と移民の歴史：200年前からの少子化国フランス／移民の統合 第4回 ジェンダーの歴史：女性の就業／子育て／議会への女性の進出 第5回 社会福祉の歴史：貧困救済の歴史／国家権力の介入 第6回 スポーツの歴史：娯楽としてのスポーツ／国民的アイデンティティとしてのスポーツ 第7回 教育の歴史：十字架（教会）から三色旗（公教育）へ／ナポレオンがつくった近代的大学 第8回 言語政策の歴史：近代「フランス語」の誕生とグローバリズムの中の地方言語 第9回 近代議会と民衆の政治参加の歴史：万人の代表となるまで／なぜ選挙に行くべきなのか 第10回 音楽の歴史と近代社会：音楽の歴史からみる19世紀の社会 第11回 軍隊と社会の歴史①：国民とは？国家とは？／科学技術が社会に与えた影響 第12回 軍隊と社会の歴史②：江戸のナポレオン伝説／日本の近代軍隊制度と国際社会 第13回 戦争と社会の歴史①：世界初の総力戦（第一次世界大戦）の衝撃／ 兵庫県青野ヶ原捕虜収容所の記憶 第14回 戦争と社会の歴史②：新たな総力戦（第二次世界大戦）の勃発と展開 第15回 植民地の歴史：フランス植民地帝国とその後／異文明間の反発と交流</p> <p>なお、学生の理解度や授業の進行状況により、若干内容を変更することもあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>1.コメントペーパーの作成30% (毎回の授業終了時に感想や質問などを記入してもらいます。担当教員は次回授業時の冒頭にそれらの質問に答えます。)</p> <p>2.授業への参加態度20% (担当教員の質問に対する積極性)</p> <p>3.試験50%</p>		
失格条件	全授業の3分の1を超えて欠席した場合、あるいは学期末筆記試験を受けなかった場合には原則として単位認定いたしません。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・歴史上の出来事を年代順に説明していくスタイルの授業ではありません。また、授業で取り上げるテーマは、現代を生きるみなさんの日常に関係する項目も多くあり、自らとそれらの項目との関係性を常に意識しながら受講してください。</p> <p>授業の際に示す参考文献などを中心に、フランスの文化・歴史に関する文献を読んでください。さらに、授業で取り上げるテーマに対して、自分なりの意見を考えてみてください。</p> <p>・復習及び授業ノートの整理（復習時間 1時間） ・授業中に紹介した参考文献を読むこと（復習時間 2時間）</p>		
課題へのフィードバック	毎講義時に作成されるコメントペーパーを利用し、受講生の疑問・感想に対して担当教員が回答をおこなう。		
教科書	適宜プリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	世界の地理		
英訳科目名	World Geography		
担当教員名	関口 靖之		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>地理学は、地表面にみられる様々な現象を観察・検討し、地域の特性を解明する。自然環境や人間の活動で形成された文化が相互関連して地域に及ぼした影響を検討してその特性を解明する。授業では地理学の基礎的な内容を確認した後に、世界各地の自然環境と主要都市を中心に地域の特性や課題を検討する。受講者の質問は歓迎する。また、シラバスはよく読むこと。</p>		
到達目標	<p>地理の基礎的な内容を理解すること、各地の様子を描いた地図を適切に使用する能力を養うことができる。世界各地の概要を理解し、地域の特性について観察と判断する視点を養うことができる。世界各地の特徴を自然環境と主要都市の確認や検討することから、地理学的な理解が進み、今後の課題についても検討できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 地理学の概要 第2回 世界の地域区分 第3回 ヨーロッパの自然環境 第4回 ヨーロッパの主要都市 第5回 アジアの自然環境 第6回 アジアの主要都市 第7回 アフリカの自然環境 第8回 アフリカの主要都市 第9回 北アメリカの自然環境 第10回 北アメリカの主要都市 第11回 南アメリカの自然環境 第12回 南アメリカの主要都市 第13回 オセアニアの自然環境 第14回 オセアニアの主要都市 第15回 まとめ、学習成果の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	試験70%、授業中課題30%で総合的に評価する。		
失格条件	全授業を3回以上欠席した場合 最終授業を欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	各回授業に関する地図や文献を探し、それらに目を通す努力が必要。(60分) 各回授業で学習した事象や地域の特性について整理するとともに、身近に観察できる地域との比較検討をして、理解を深めること。(60分)		
課題へのフィード バック	授業中課題は、基本的に次回の授業で解説する。 試験の概要は試験終了後に掲示する予定。		
教科書	使用せず、ほぼ毎回資料を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	各種地図・地図帳を授業に持参することが望ましい。 その他の参考図書は授業中に紹介するが、各自で探す努力を求める。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200A06	期間	前期
授業科目名	世界の思想/倫理学概論		
英訳科目名	Modern Thoughts of the World/Introduction to Ethics		
担当教員名	田中 美子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	「人間はいかに生きるべきか」という古くて新しい問題を考えます。「何のために働くのか」や「中絶の是非」など、身近なテーマから入り、哲学的な議論へと考えを深めていきます。講義が中心になりますが、みなさんが授業中に議論したり、自分の考えを文章にまとめたりできるようなワークも取り入れたいと思います。		
到達目標	社会生活のなかで生じる身近な問題に対して、深いレベル（「人間はいかに生きるべきか」という哲学的なレベル）から、捉え直せるようになる。		
授業計画	第1回 事実判断と価値判断 — 倫理学で学ぶこと 第2回 いつか死ぬのに、なぜ生きねばならないの？ — ハイデガーの実存思想 第3回 これが人生か、ではもう一度！ — ニーチェの生の哲学 第4回 生きる目的の決まっている人生は楽か？ — サルトルの実存思想 第5回 女の子は女装して女になる！？ — ジェンダー論（ボーヴォワールの思想） 第6回 なぜか嫌いな人、なぜか魅かれる人 — 無意識の心理学（フロイトとユングの思想） 第7回 いい男／女がない！ — 鷲田清一の恋愛論 第8回 中間まとめ、ディスカッション 第9回 儲けてなんぼ？ — ビジネス倫理学 第10回 下心のある善行と良心にもとづいた善行 — カントの倫理思想 第11回 だれのための仕事 — 鷲田清一の仕事論 第12回 パターナリズムとインフォームド・コンセント — 医療倫理（1） 第13回 赤ちゃんをデザインする？ — 医療倫理（2） 第14回 安楽死と優生思想 — 医療倫理（3） 第15回 正義の味方アンパンマンの孤独 — 正義論		
評価方法 (合計100%)	授業への積極的な参加	約30%	
	学期末レポート	約70%	
失格条件	学期末レポートの未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	自習がしやすいように、教科書を指定しました。復習として、授業で扱った範囲の教科書を読み直しましょう。 （教科書の読解にかかる復習時間 約1時間、ノートなどのまとめ直しにかかる復習時間 約1時間）		
課題へのフィード バック	毎授業で提出するリフレクションシートに対し、次の授業でコメントを返します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	南部ヤスヒロ・相原コージ『4コマ哲学教室』イースト・プレス、2006年、ISBN978-4-87257-651-1 小坂国継他編『倫理学概説』ミネルヴァ書房、2005年、ISBN978-4-623-04141-1 村松茂美他編『はじめて学ぶ西洋思想』ミネルヴァ書房、2005年、ISBN978-4-623-04152-7 岡田安弘『生命科学 ただいま講義中』金芳堂、2016年、ISBN978-4-7653-1677-4		
その他	授業内容は、多少変更することがあります。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-029

ナンバリング	CC200A04	期間	前期/後期
授業科目名	心理学入門/心理学概論		
英訳科目名	Introduction to Psychology		
担当教員名	渡部 美穂子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	心理学には様々な方法論的立場があるが、本講義では、人間の行動や心の働きに関して、経験科学的な心理学がもたらした知見を紹介する。入門の講義なので、知覚、学習、記憶、発達、社会心理など、心の働きの広範な側面について最も基礎的な事柄を取り上げ、心に関する全般的な理解を図る。また、心という非実体的な対象を扱う上での、経験科学的心理学独特の観点や研究方法についての理解を目指す。		
到達目標	日常生活で経験する自分の心の働きや他者の行動を、心理学の知見に基づいて、科学的に理解できる。		
授業計画	第1回 心理学的研究の対象と方法 第2回 感覚 第3回 知覚 第4回 学習 第5回 記憶 第6回 発達(1) 乳幼児期、学童期 第7回 発達(2) 青年期 第8回 発達(3) 成人以降 第9回 性格 第10回 臨床 第11回 社会心理(1) 自己認知 第12回 社会心理(2) 対人認知 第13回 社会心理(3) 援助、攻撃 第14回 社会心理(4) 同調、服従 第15回 内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 (授業内に指示する課題への取り組みを含む) 30% 試験の評価 70%		
失格条件	試験を受験しなかった場合 出席回数が3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示された課題について積極的に取り組む (予習1時間)。 配布した資料や板書したものをもとに、授業内容を復習しながらノートにまとめる (復習3時間)。		
課題へのフィードバック	授業において、課題へのフィードバックを行う。		
教科書	イラストレート心理学入門		
著者名	齊藤 勇		
出版社	誠信書房		
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1-030

ナンバリング	CC200A09	期間	集中
授業科目名	経済学入門/経済学概論		
英訳科目名	Introduction to Economics		
担当教員名	薛 秀娟		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	経済学はマクロ経済学とミクロ経済学の2つ分野に大別される。この経済学入門では、2つ分野のうちマクロ経済の基礎的な内容について、講義して行きたい。この講義を通じて、マクロ経済学の基本経済用語及び基礎理論を習得することが授業のポイントである。		
到達目標	マクロ経済学の基本用語と基礎理論を習得し、今まで関心なく聞き流していた経済ニュースについて、理論的に考察できるようになること。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 市場における需要と供給 第3回 GDPとは何か 第4回 GDPの構成要素 第5回 消費者物価指数とインフレーション 第6回 長期の実物経済 第7回 消費関数 第8回 投資関数 第9回 乗数理論 第10回 貨幣と為替レート 第11回 貨幣の需要と供給 第12回 IS曲線とIM曲線 第13回 金融政策の効果 第14回 失業と自然失業 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% レポート 20% 試験 50%		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義で紹介する参考文献を次回までに読んでおくこと。(予習時間 1時間) 講義終了時に講義の内容を復習し、課題を完成すること。(復習時間 3時間)		
課題へのフィード バック	小テストは授業時間内に返却し、解説します。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200A07	期間	前期/後期
授業科目名	日本国憲法		
英訳科目名	The Japanese Constitution		
担当教員名	秋元 洋祐		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>憲法の役割は、基本的人権の保障にある。人権には、公立学校における生徒の髪型の自由から、商売を始める際の営業の自由まで様々な保障が認められている。もっとも、これらの人権は、完全な自由を保障するものではなく、学校の校則や商店の開設を制限する法律によって規制を受ける。この法的な規制に対して、憲法が保障する自由は、どこまで認められるのが最も重要な問題となる。そのため、憲法を学ぶうえでの視点は、法的な規制に対峙する人権保障の限界を探ることにあるので、その限界について考えていきたい。</p> <p>憲法の人権保障と制限について、裁判例を題材にして学ぶ。平等権や表現の自由といった各人権規定について、毎回の授業で1つずつ裁判例を踏まえることで、社会での憲法の役割を明確にする。とりわけ、実際に起こった事例に触れることで、憲法を含めた法律の身近さを体感し、法学一般への興味をもってもらいたい。</p>		
到達目標	<p>①憲法の人権保障を理解できる。</p> <p>②人権を規制する法律の問題点を説明できる。</p> <p>③主要な裁判例について条文を参照しながら、解決方法を考えることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 法学の基礎①：オリエンテーション、憲法と法律</p> <p>第2回 法学の基礎②：社会における法の役割</p> <p>第3回 法学の基礎③：法解釈や法と慣習・道徳の差異</p> <p>第4回 憲法の基礎：憲法の構造と歴史的な経緯</p> <p>第5回 人権の享有主体：在留期間の更新が認められなかった事案を題材に、外国人や子供の人権</p> <p>第6回 幸福追求権：男子生徒の髪型で丸刈り校則を制定された事案を題材に、一般的・包括的人権</p> <p>第7回 法の下での平等①：形式的平等と実質的平等の区別</p> <p>第8回 法の下での平等②・到達度の確認（小テスト）：法定相続分が問題になった事案を題材に、法の下での平等</p> <p>第9回 法の下での平等③：女性の再婚禁止期間が問題になった事案を題材に、平等権と合理的な区別</p> <p>第10回 精神的自由①：高校受験の際に不適切な内申書を記載された事案を題材に、思想・良心の自由</p> <p>第11回 精神的自由②：剣道の不受講によって退学処分を受けた事案を題材に、信教の自由</p> <p>第12回 精神的自由③：少年事件の匿名報道が問題になった事案を題材に、推知報道と表現の自由</p> <p>第13回 経済的自由①：既存の小売市場からの距離制限が問題になった事案を題材に、営業の自由</p> <p>第14回 経済的自由②：予防接種によって健康被害を受けた事案を題材に、財産権の保障</p> <p>第15回 教育権：学力テストを実力で妨害した事案を題材に、国家と国民の教育権の所在</p>		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 70% ・小テスト 30% 		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験を受験しなかった場合 ・私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・受講の際には、事前に教科書の該当範囲を伝えるので、一読しておく（予習2時間）。 ・区切りごとに復習問題を配布するので、授業用プリントを参考に取り組む（復習2時間）。 		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・復習問題で2・3回の授業内容を顧みる。 ・小テストを授業中に返却するので、間違いを復習問題で確認する。 		
教科書	いちばんやさしい憲法入門〔第5版〕		
著者名	初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行		
出版社	有斐閣		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
その他	毎回授業用プリントを配布する。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-032

ナンバリング	CC200A07	期間	後期
授業科目名	日本国憲法		
英訳科目名	The Japanese Constitution		
担当教員名	奥野 浩之		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	◎
ディプロマ・ポリシー-3		ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	「憲法とは何か」から始まり、国民主権、基本的人権、平和主義、統治機構（国会・内閣・裁判所の作用）、地方自治、憲法の改正、といった憲法全体の主要事項の内容について概説する。また、それぞれの項目に関連する基本問題や主要判例を提示し、憲法理念と現実社会の動向について考察する。		
到達目標	国民主権、基本的人権、平和主義、統治機構、地方自治、憲法の改正といった憲法全体の主要事項について理解し、憲法理念と現実社会の動向について考える力を身につける。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 憲法とは何か 第3回 日本の憲法 第4回 基本的人権の原理 第5回 基本的人権の限界 第6回 包括的基本権 第7回 内容理解の確認 第8回 精神的自由権 第9回 経済的自由権 第10回 社会権 第11回 平和主義 第12回 統治機構 第13回 地方自治 第14回 憲法の改正 第15回 到達度確認		
評価方法 (合計100%)	試験 60% 授業への参加状況 20% 小テスト 20%		
失格条件	試験を受験しなかった場合 出席が授業回数の2/3を満たさない場合 (20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする) 私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業の中で出す予習課題に取り組み各回の授業に臨むこと。 ・各回配布したプリントはファイリングし、次の授業までに前回の復習をしておくこと。 ・次の授業までに、予習1時間、復習3時間を目標として学習に取り組むこと。		
課題へのフィード バック	課題に対する評価規準を明確に示すとともに、提出課題の講評を行う。		
教科書	ここから始める『憲法学習』の授業 ー児童生徒の深く豊かな学びのためにー		
著者名	長瀬・杉浦・奥野・渡辺・松森		
出版社	ミネルヴァ書房		
参考書	授業の中で適宜紹介する。		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-033

ナンバリング	CC200A08	期間	前期/後期
授業科目名	教育原論		
英訳科目名	Pedagogics		
担当教員名	長谷川 精一		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この科目は、教育の基礎理論に関する科目であり、教育思想の歴史を振り返り、教育の理念、目的に関してこれまで蓄積されてきた知見に関して思想史的な考察を行なうこと、及び、現在の学校教育が抱える様々な問題について、教育改革の歴史や諸外国との比較も視野に入れつつ、その背景にある社会状況の現代的変容を検討すること、の2点を通じて、子どもの発達、成長を促す営みとしての教育の意義と課題について原理的な理解を深めることを目指す。		
到達目標	人間の発達、成長を促す営みとしての教育の意義と課題について、また、その思想史的な展開について、原理的な理解を深め、自らの教育観、人間観を築いていく上での基本的な視座を得ること。		
授業計画	第1回 授業の概要と導入 第2回 教育の理念：人間の成長・発達と教育 第3回 教育的価値の歴史的多様性 第4回 教育思想の歴史：近代教育思想の誕生 第5回 教育思想の歴史：子どもの発見 第6回 教育思想の歴史：近代公教育思想の展開 第7回 社会の変容と教育格差問題 第8回 これまでの授業に対する内容理解の確認 第9回 学校教育の諸問題：教師の力量の問題 第10回 学校教育の諸問題：学力問題とゆとり教育 第11回 学校教育の諸問題：学級崩壊 第12回 学校教育の諸問題：不登校 第13回 学校教育の諸問題：いじめ 第14回 教育改革の歴史 第15回 授業のまとめと内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	課題レポート（60%）、グループワークや発表などへの参加の積極性（40%）などを総合して評価を行う。		
失格条件	授業中に課したすべてのレポートを期限内に提出しなかった場合 担当日時の決定した発表等を正当な理由なく行なわなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業中に、その回の授業の内容に基づいて、また、次回の授業の準備として、各自自宅を書くようにと指定した課題レポート、あるいは、読むようにと指定した参考文献に関しては十分な時間（大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間（大学の1時間は45分として考えることとなっているため、180分）以上）をかけて取り組むこと。		
課題へのフィードバック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	特定の教科書は用いず、必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年3月告示） 文部科学省 高等学校学習指導要領		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-034

ナンバリング	CC200A10	期間	前期/後期
授業科目名	生活の中の数学		
英訳科目名	Mathematics in Daily Life		
担当教員名	魚住 義介		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>数学の考え方や基本的構造を学びます。 話題の中心は整数の性質です。数学の得意な学生や反対に苦手な学生でも数学に興味を持てるように話し進めたいと思います。</p>		
到達目標	<p>人々のこれまでの暮らしの中から数や数学が生まれて来たことに気付くこと。 また、数学の考え方の合理性を学ぶこと。</p>		
授業計画	<p>第1回 数の誕生 第2回 一対一対応 第3回 整数の基本的な性質 第4回 分数や小数の誕生 第5回 合同式その1 第6回 合同式その2 第7回 合同式その3 第8回 合同式その4 第9回 合同式その5 第10回 合同式その6 第11回 集合論の初歩 第12回 確率の考え方 第13回 テストの実施 第14回 順列・組み合わせ 第15回 予備</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>①試験 (60%) ②小テスト (30%) ③授業への参加態度 (10%) 試験は授業の13回目に予定しています。 小テストは毎回の授業で実施します。 授業への参加態度は授業中の発言や発表を評価します。</p>		
失格条件	出席回数が10回未満の場合は失格とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	問題意識をもって授業に臨んでください。復習を十分におこなって試験に臨んで下さい。		
課題へのフィード バック	小テスト(10回または5回)実施の予定。 その返却時にそれまでの内容を再説明することで理解の充実を図りたい。		
教科書	授業で配布するプリントを使用するので教科書は指定しません。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特に無し		
備考	教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200A11	期間	前期
授業科目名	科学史入門/科学史概論		
英訳科目名	Introduction to History of Science/Introduction to Science History		
担当教員名	池山 説郎		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>世界各地（エジプト・メソポタミア・中国・ギリシア・インド・イスラーム圏など）の昔の算数や暦の話から、面白そうなトピックを選んで紹介する。</p> <p>算数は、中学くらいの数学がわかれば十分。ただし、私たちとは異なった文明圏の、しかも大昔の人たちの考えの流れについてゆくことはそれほどやさしくはないかもしれない。問題を解きながら、「なんでそんな風に考えるの?!」という驚き、戸惑いを楽しんでいただきたいと思う。</p> <p>暦はあたりまえに使っているがそのしくみとなると予想外に難しい。いろいろな予備知識が必要になるので、それらをそのつど解説しながら進めたいと思う。</p>		
到達目標	古代文明のさまざまな算数を知ることで、複眼的な、柔軟なものの見方を身につける。		
授業計画	<p>授業の順番や時間数、確認テストの実施日は変更することがある。</p> <p>第1回 イントロダクション / 足し算・引き算・掛け算・割り算①</p> <p>第2回 足し算・引き算・掛け算・割り算②</p> <p>第3回 足し算・引き算・掛け算・割り算③</p> <p>第4回 さまざまな問題①（アハ問題、財産相続問題など）</p> <p>第5回 さまざまな問題②（盈不足算、三量法など）/ 確認テスト①</p> <p>第6回 ピュタゴラスの定理①</p> <p>第7回 ピュタゴラスの定理②</p> <p>第8回 ピュタゴラスの定理③</p> <p>第9回 円の面積①</p> <p>第10回 円の面積②/確認テスト②</p> <p>第11回 暦①（暦の種類、基礎知識、グレゴリオ暦の確認）</p> <p>第12回 暦②（グレゴリオ暦の歴史①）</p> <p>第13回 暦③（グレゴリオ暦の歴史②）</p> <p>第14回 暦④（グレゴリオ暦の歴史③）/ 確認テスト③</p> <p>第15回 暦⑤ 確認テスト③の振り返りとまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>内容の区切りごとに確認テストを行なう。勉強しないで点が取れるほど甘いテストではない。確認テスト3回の平均点で評価するので、各確認テストの配分は33%ということになる。</p> <p>1度でも、確認テストを受験しなかったものは単位不認定とする。ただし正当な理由があると担当が認めた場合はその限りではない。必ず申し出て、指示を仰ぐように。</p> <p>出席は毎回確認する。</p>		
失格条件	いい加減な受講姿勢（私語、居眠り、授業中のスマホ使用など）には、単位不認定など厳しい態度で臨む。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習として、中学で習った数学や天文の知識を、復習しておくことよい。（各回1時間（45分））</p> <p>授業中は話をよく聞き、その内容をまとめてしっかりノートを取る。授業概略や資料のプリントを配ることもあるが、それだけを見ても授業内容はわからない。また、板書をぼんやり書き写しても理解していかなくては意味がない。</p> <p>初めて聞く事柄が多いと思うので、授業内容をしっかり復習しておくこと。（各回3時間（135分））</p>		
課題へのフィードバック	確認テストは、次週に答案を返却し、正答を示しながら解説をする。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	授業中の私語など「他の学生の邪魔になる行為」には厳しく対処する。その場で退室命令をする場合もある。留意されたい。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	生物学入門		
英訳科目名	Introduction to Biology		
担当教員名	太田 和孝		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>現在、地球上には、未知の生物も含めて約10003000万種の生物が生息しているといわれています。その生物の半分以上は皆が忌み嫌う昆虫です。昆虫に対し、嫌いだからいなくなればいいと考える人は多くいますが、もしいなくなれば地球上の半分の生物が消失します。地球上に棲む生物、それが昆虫であれ哺乳類であれ、我々と決して無関係ではありません。彼らが本当にいなくなるとどうなるか想像できますか？このような多種多様な生物は、元々地球上に存在していたわけではなく、全ては約40億年前に地球に誕生した原始生命体から進化してきたものです。皆さんは、この進化という言葉テレビ、新聞、雑誌など見聞きしたことがあるはずですが、日常で使う言葉かもしれません。しかし、殆どの人は進化の意味を勘違いしており、正しく理解できていません。本講義では、生物と我々との関わりや生物の面白い生態を通じて、生物多様性及び生物の進化について解説していきたいと考えています。</p>		
到達目標	本講義では、生物の進化について理解し、生き物を正しく見る目を養うことを目標とします。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション この講義内で学べる内容、評価方法などを説明 本講義を受講する意思のある場合、必ず出席すること</p> <p>第2回 生物多様性1 社会問題である生物多様性の減少について、現状を交えながら解説</p> <p>第3回 生物多様性2 社会問題である生物多様性の減少について、現状を交えながら解説</p> <p>第4回 生命の誕生 地球上にいかにして生命が誕生したのかについて、現在の知見をもとに解説</p> <p>第5回 分類、種 の概念 生物を分けるという作業の意味を説明</p> <p>第6回 多様性と進化1 ダーウィンの進化論を説明</p> <p>第7回 多様性と進化2 ダーウィンの進化論を実例とともに説明</p> <p>第8回 多様性と進化3 最新の知見を交えて進化論をさらに詳しく解説。小テスト実施</p> <p>第9回 生物間相互作用1 生き物同士の関わり合いとその進化について説明</p> <p>第10回 生物間相互作用2 生き物同士の関わり合いとその進化について説明</p> <p>第11回 生物間相互作用3 生き物同士の関わり合いとその進化について説明</p> <p>第12回 性と進化1 性とは何か、性があることでどんな進化が起こるかを説明</p> <p>第13回 性と進化2 ダーウィンの進化論を実例とともに説明</p> <p>第14回 生物の社会 生物間相互作用とは異なる着物同士のつながりについて説明</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度と参加意欲 30%</p> <p>試験 70%</p>		
失格条件	総合点（授業への参加度と参加意欲の点数＋試験の点数）で評価する。 試験を受けなかったものは失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	参考図書を事前に読んでおくことは、本講義内容を理解する上で役に立ちます。また、TVで放送されている生物系ドキュメンタリーも本講義内容を理解する上で役立つでしょう。登下校、休み時間に回りにいる生物に目を向ければ、その面白い生態を見ることが出来るでしょう。そのような簡単なことから生物についての見識を深めることができます。		
課題へのフィードバック	小テスト、期末試験を実施しますが、いずれも終了後全体に向けてコメントします。 各人の希望があれば個別にコメントすることもできます。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	<p>進化のなぜを解明する、ジェリー・A・コイン 著、日経BP社</p> <p>生物多様性と生態学—遺伝子・種・生態系、宮下直・井鷲裕司・千葉聡著、朝倉書店</p> <p>生命の意味、桑村哲生 著、裳華房</p> <p>フィンチの嘴—ガラパゴスで起きている種の変貌、ジョナサン・ワイナー 著、ハヤカワ・ノンフィクション</p> <p>クジャクの雄はなぜ美しい？増補改訂版、長谷川真理子 著、紀伊国屋書店</p>		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-037

ナンバリング	CC200A12	期間	後期
授業科目名	現代と医学/生活の中の医学		
英訳科目名	Medical Science and Modern Society/Medical Science in Daily Life		
担当教員名	中川 学		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	現代に生きる人間にとって、医学（医療）は生活を営む上でなくてはならない存在になっている。本講義においては、その歴史や最新のトピックス等を題材に、現代における医学について考える。		
到達目標	現代において利用されている治療手法や薬剤などは、有名、無名の先人達の大いなる努力と犠牲のもとに確立されてきたものである。 また、技術の進歩により優れた治療法が生まれる一方で、新たな問題点も生じている。これらを理解することで、生命に対する考え方が深まる。		
授業計画	第1回 医学のあゆみ（医学史概略） 第2回 古代の医療 第3回 中世～近代の医療 第4回 代謝（栄養素の働き） 第5回 薬と臨床 第6回 精神衛生 第7回 生活習慣病①(糖尿病) 第8回 生活習慣病②（脂質異常症） 第9回 公衆衛生 第10回 出産と性 第11回 死とは（脳死、臓器移植） 第12回 医学と工学① 第13回 医学と工学② 第14回 医療崩壊 第15回 内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	最終試験(約70%)を中心に評価する。 その他、授業への参加態度(約30%)等を考慮して総合的に評価する。		
失格条件	3分の1より多く欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	この講義は本学オリジナルであり、各回の内容はそれぞれ独立しています。 また、教科書は使用しません。 日常生活を過ごす際にシラバスに記載されたテーマに関連するニュースなどに興味を持ち、自分なりに健康や生命について考える習慣を身につけましょう。（予習 約1時間に相当） そして各回の講義終了後は、配布資料、板書ノートなどを利用して、各自十分に復習し、自分なりの考えをまとめるように心がけてください。（復習 約2時間）		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	適宜、プリント資料を配布します。		
備考			
科目生への開講	あり		

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

ナンバリング	CC300A03	期間	前期/後期
授業科目名	健康科学		
英訳科目名	Health Science		
担当教員名	西迫 成一郎		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	健康的な生活はわれわれの幸福の源であり、生活の質を高める基本的な条件である。そして、健康的な生活を維持するためには日常的に積極的な取り組みが必要でもある。健康科学の授業では、その方途の基礎となる栄養と健康との関係についての問題や運動・スポーツを通じて如何に健康的な生活を維持していくのかといった問題、また飲酒・喫煙が健康に及ぼす悪影響の問題、さらにリラクセーションと健康の問題などを取り上げていく。		
到達目標	健康的で質の高い生活を送るために必要な知識を獲得し、実生活において健康的な生活習慣を実践できること。		
授業計画	第1回 健康科学とは 第2回 食生活と健康(1)食生活の変遷 第3回 食生活と健康(2)現代社会における食生活上の問題点 第4回 食生活と健康(3)各栄養成分の働き 第5回 喫煙と健康(1)喫煙による害 第6回 喫煙と健康(2)禁煙への取り組み 第7回 飲酒と健康(1)飲酒による害 第8回 飲酒と健康(2)アルコール依存 第9回 リラクセーション 第10回 運動と健康(1)運動の効用 第11回 運動と健康(2)スポーツ 第12回 運動と健康(3)運動と疲労 第13回 現代社会と薬物(1)薬の人類への貢献 第14回 現代社会と薬物(2)薬の副作用と薬物乱用問題 第15回 授業のまとめ・理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	試験の評価 70% 授業への参加態度（授業に出席することだけでなく、質問されたことや課題への取り組み度合いなどを含め総合的に評価します） 30%		
失格条件	次のいずれかに該当した場合は失格となる。 1. 5回を超えて欠席した場合（20分以上遅れて来た場合は欠席に数えます。20分以内の遅刻3回で1回の欠席と数えます） 2. 試験を受験しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示された予習については、積極的に資料を検索して行うこと。（予習時間 1時間） また、授業後の復習は欠かさず行い、授業で示された各用語をしっかりと理解したうえで覚えること。（復習時間 3時間）		
課題へのフィード バック	試験終了後、必要に応じて、全体に向けポータルを通じコメントします。		
教科書	適宜プリントを配布する		
著者名			
出版社			
参考書	『健康科学』 前橋明監修 明研図書		
その他	試験は、ノート、プリントなど一切持ち込み不可という条件で行う。原則、座席を指定する。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A03	期間	後期
授業科目名	健康科学		
英訳科目名	Health Science		
担当教員名	奥野 暢通		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	健康的な生活はわれわれの幸福の源であり、生活の質を高める基本的な条件である。そして、健康的な生活を維持するためには積極的な取り組みが必要でもある。健康科学の授業では、その方途の基礎となる栄養と健康との関係についての問題や運動・スポーツを通じて如何に健康的な生活を維持していくのかといった問題、また飲酒・喫煙が健康に及ぼす悪影響の問題、さらにリラクセーションと健康の問題などを取り上げていく。		
到達目標	健康的で質の高い生活を送るために必要な知識を獲得し、実生活において健康的な生活習慣を実践できること。		
授業計画	第1回 健康とは・健康科学とは 第2回 食生活と健康 第3回 5大栄養素とは 第4回 各栄養素の働き (1) 糖・タンパク質 第5回 各栄養素の働き (2) 脂質・ミネラル・ビタミン 第6回 体力とは 第7回 健康と体力 第8回 健康の増進について 第9回 トレーニングの基礎概念 第10回 筋収縮のエネルギー源 第11回 有酸素運動と無酸素運動 第12回 筋と運動 第13回 アルコール・喫煙の影響 第14回 薬物・睡眠・ストレスの影響 第15回 授業のまとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度と学習態度の総合評価 30% レポート 70%		
失格条件	次のいずれかに該当した場合は失格となる。 1.5回を超えて欠席した場合 (20分以上遅れて来た場合は欠席に数えます。20分以内の遅刻3回で1回の欠席と数えます) 2.レポートを提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示された予習については、積極的に資料を検索して行うこと。(予習時間 1時間) また、授業後の復習は欠かさず行い、授業で示された各用語をしっかりと理解したうえで覚えること。(復習時間 3時間)		
課題へのフィード バック	毎時間前時までの学習内容の確認を行う。		
教科書	適宜プリントを配布する		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-040

ナンバリング	CC300A04	期間	前期/後期
授業科目名	健康とスポーツ実技		
英訳科目名	Health and Physical Practices		
担当教員名	奥野 暢通		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	これまでの体育科の授業を基礎にして、体力・運動能力のいっそうの向上を目指します。楽しいスポーツの在り方を学び、健康的で充実した学生生活がおくれるよう、各種のスポーツ実習を通して理解を深め、健康とスポーツ実施の意義を学びます。スポーツ種目としては、「バドミントン」、「卓球」、「テニス」等の中から1種目を選択することになります。ただし、みなさんが希望により1または2種目を決定し同一種目を授業期間を通して実施します。偏りがあった場合、希望した種目になるとは限りません。1回目の授業で実施の種目を決めます。欠席しないようにしてください。		
到達目標	スポーツを楽しむことのできる態度ならびに能力の獲得		
授業計画	第1回 オリエンテーション、実施種目の選択 第2回 ウォーミングアップとクーリングダウンの意義 第3回 基本のサーブ 第4回 ためしのゲーム（1：簡易ルールで） 第5回 フォアハンドでの打法 第6回 フォアハンドを中心としたラリー 第7回 バックハンドでの打法 第8回 ラリー（バックハンドも含める） 第9回 ためしのゲーム（2：正規のルールで） 第10回 リーグ戦（シングル）①前回までに獲得した技術をうまく利用して 第11回 リーグ戦（シングル）②ゲームの組み立てを工夫 第12回 種々のサーブ 第13回 ダブルス練習 第14回 リーグ戦（ダブルス）①ゲームに反映させる打ち方の工夫 第15回 リーグ戦（ダブルス）②試合の流れ、陣形の工夫		
評価方法 (合計100%)	授業時における技能評価50% 授業への取り組み方50%		
失格条件	全授業の1/4以上欠席したもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	スポーツの実施可能な体調の維持・管理を心がけること。 授業以外での身体活動を積極的に行うこと。		
課題へのフィード バック	技能向上の毎時間の確認		
教科書	授業中に適宜プリント等を配布する		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜示す		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-041

ナンバリング	CC300A04	期間	前期/後期
授業科目名	健康とスポーツ実技		
英訳科目名	Health and Physical Practices		
担当教員名	越智 祐光		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	これまでの体育科の授業を基礎にして、体力・運動能力のいっそうの向上を目指します。楽しいスポーツの在り方を学び、健康的で充実した学生生活がおくれるよう、各種のスポーツ実習を通して理解を深め、健康とスポーツ実施の意義を学びます。スポーツ種目としては、「バドミントン」「卓球」のいずれか1種目を開講することになります。1回目の授業で実施の種目を決めます。欠席しないようにしてください。		
到達目標	スポーツを楽しむことのできる態度ならびに能力の獲得		
授業計画	第1回 オリエンテーション、実施種目の選択 第2回 ウォーミングアップとクーリングダウンの意義 第3回 基本のサーブ 第4回 ためしのゲーム（1：簡易ルールで） 第5回 フォアハンドでの打法 第6回 フォアハンドを中心としたラリー 第7回 バックハンドでの打法 第8回 ラリー（バックハンドも含める） 第9回 ためしのゲーム（2：正規のルールで） 第10回 リーグ戦（シングル）①前回までに獲得した技術をうまく利用して 第11回 リーグ戦（シングル）②ゲームの組み立てを工夫 第12回 種々のサーブ 第13回 ダブルス練習 第14回 リーグ戦（ダブルス）①ゲームに反映させる打ち方の工夫 第15回 リーグ戦（ダブルス）②試合の流れ、陣形の工夫		
評価方法 (合計100%)	授業時における技能評価50% 授業への取り組み方50%		
失格条件	全授業の1/4以上欠席したもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	スポーツの実施可能な維持・管理を心がけること。 授業以外での身体活動を積極的に行うこと。		
課題へのフィード バック	実技の取り組みに対して、全体、または個別にコメントする。		
教科書	授業中に適宜プリント等を配布する		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜示す		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1-042

ナンバリング	CC300A04	期間	後期
授業科目名	健康とスポーツ実技 (健康コース)		
英訳科目名	Health and Physical Practices		
担当教員名	越智 祐光		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	これまでの体育科の授業を基礎にして、体力・運動能力のいっそうの向上を目指します。楽しいスポーツの在り方を学び、健康的で充実した学生生活がおくれるよう、各種のスポーツ実習を通して理解を深め、健康とスポーツ実施の意義を学びます。スポーツ種目としては、「バドミントン」、「卓球」等を予定しています。各クラスでの実施種目はこのうち指定された2種目あるいは3種目となり、その中から1種目を選択することになります（担当者が1名のクラスの場合には1種目しか指定されません）。ただし、みなさんが希望した（選択した）種目に偏りがあった場合、希望した種目になるとは限りません。1回目の授業で実施の種目を決めます。欠席しないようにしてください。		
到達目標	スポーツを楽しむことのできる態度ならびに能力の獲得		
授業計画	第1回 オリエンテーション、実施種目の選択 第2回 ウォーミングアップとクーリングダウンの意義 第3回 基本のサーブ 第4回 ためしのゲーム（1：簡易ルールで） 第5回 フォアハンドでの打法 第6回 フォアハンドを中心としたラリー 第7回 バックハンドでの打法 第8回 ラリー（バックハンドも含める） 第9回 ためしのゲーム（2：正規のルールで） 第10回 リーグ戦（シングル）①前回までに獲得した技術をうまく利用して 第11回 リーグ戦（シングル）②ゲームの組み立てを工夫 第12回 種々のサーブ 第13回 ダブルス練習 第14回 リーグ戦（ダブルス）①ゲームに反映させる打ち方の工夫 第15回 リーグ戦（ダブルス）②試合の流れ、陣形の工夫		
評価方法 (合計100%)	授業時における技能評価50% 授業への取り組み方50%		
失格条件	全授業の1/4以上欠席したもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	スポーツの実施可能な維持・管理を心がけること。 授業以外での身体活動を積極的に行うこと。		
課題へのフィード バック	実技の取り組みに対して、全体、または個別にコメントする。		
教科書	授業中に適宜プリント等を配布する		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜示す		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-043

ナンバリング	CC300B02	期間	前期
授業科目名	生涯健康とスポーツ実技		
英訳科目名	Sports and Fitness Maintenance (Physical Education)		
担当教員名	奥野 暢通		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	これまでの体育科の授業を基礎にして、体力・運動能力のいっそうの向上を目指します。楽しいスポーツの在り方を学び、健康的で充実した学生生活がおくれるよう、各種のスポーツ実習を通して理解を深め、健康とスポーツ実施の意義を学びます。スポーツ種目としては、「バドミントン」、「卓球」、「テニス」、「ゴルフ」等の中から1種目を選択することになります。ただし、みなさんが希望により1または2種目を決定し同一種目を授業期間を通して実施します。偏りがあった場合、希望した種目になるとは限りません。1回目の授業で実施の種目を決めます。欠席しないようにしてください。		
到達目標	スポーツを楽しむことのできる態度ならびに能力の獲得		
授業計画	第1回 オリエンテーション、実施種目の選択 第2回 ウォーミングアップとクーリングダウンの意義 第3回 基本のサーブ 第4回 ためしのゲーム（1：簡易ルールで） 第5回 フォアハンドでの打法 第6回 フォアハンドを中心としたラリー 第7回 バックハンドでの打法 第8回 ラリー（バックハンドも含める） 第9回 ためしのゲーム（2：正規のルールで） 第10回 リーグ戦（シングル）①前回までに獲得した技術をうまく利用して 第11回 リーグ戦（シングル）②ゲームの組み立てを工夫 第12回 種々のサーブ 第13回 ダブルス練習 第14回 リーグ戦（ダブルス）①ゲームに反映させる打ち方の工夫 第15回 リーグ戦（ダブルス）②試合の流れ、陣形の工夫		
評価方法 (合計100%)	授業時における技能評価50% 授業への取り組み方50%		
失格条件	全授業の1/4以上欠席したもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	スポーツの実施可能な維持・管理を心がけること。 授業以外での身体活動を積極的に行うこと。		
課題へのフィード バック	技能向上の毎時間の確認		
教科書	授業中に適宜プリント等を配布する		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜示す		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

ナンバリング	CC300A02	期間	前期/後期
授業科目名	情報処理演習 A		
英訳科目名	Data Processing A		
担当教員名	岡本 久仁子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この授業では、大学における授業・研究に最低限必要なコンピュータの基礎的運用技術の習得を目標とします。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロソフトを使って文書を作成できるようになること。 ・インターネットで情報を収集できるようになること。 ・表計算ソフトを使って数値データを処理しグラフを作成できるようにすること。 ・プレゼンテーションソフトを使って発表できるようになること。 		
授業計画	第1回 オリエンテーション 情報機器の基本操作とタッチタイピング 第2回 Word(1) 日本語の入力 第3回 情報検索 インターネット 第4回 Word(2) 文字の編集とページ設定 第5回 Word(3) 罫線を使った表の作成 印刷 第6回 Word(4) 図形描画 第7回 Word(5) 課題A作成 (ワードの課題) 第8回 Excel(1) エクセルの基本操作 表の作成 第9回 Excel(2) 計算と関数 第10回 Excel(3) グラフ作成 印刷 第11回 Excel(4) データ統合 課題B作成 (エクセルの課題) 第12回 PowerPoint(1) パワーポイントの基本操作 第13回 PowerPoint(2) 課題C作成 (パワーポイントの課題) アウトラインの作成 第14回 PowerPoint(3) 課題C作成 (パワーポイントの課題) 仕上げと配布資料の作成 第15回 PowerPoint(4) プレゼンテーション 評価表の作成		
評価方法 (合計100%)	課題 (3回) : 60% タッチタイピング能力および練習態度 : 10% 受講態度および授業への参加態度 : 30%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・全授業の3分の1以上欠席した者 (遅刻は3回で1欠席とします) ・課題未提出の者 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業は大学の環境 (Windows 10、Office2016) で行うので、自宅での環境について調べておくこと。 また、授業中に配布するプリント類はOffice2016を使った内容のものです。バージョンによる操作の違いなどは質問してください。 ・シラバスに基づいた機能のチェック。(予習時間1時間) ・授業で行ったことについてレポートを作成すること。(復習時間1時間)		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・提出されたワード課題・エクセル課題については、提出された印刷物にコメントをつけて個別に返却します。 ・パワーポイントの課題については、総評として全体に対してコメントします。 		
教科書	不使用。プリントを配布。		
著者名			
出版社			
参考書	30時間でマスターOffice2016		
その他	授業を遅刻、欠席した場合は自分でその内容を学習しておくこと。 配布プリントはポータルサイトにアップしてあります。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-045

ナンバリング	CC300A02	期間	前期/後期
授業科目名	情報処理演習 A		
英訳科目名	Data Processing A		
担当教員名	岡田 裕		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この授業では、大学における授業・研究に最低限必要なコンピュータ技術の習得を目標とする。 情報機器の基本操作(Windows)、タッチタイピングの練習、インターネットでの情報収集(Internet Explorer)、レポートの作成方法(Word)、データの分析の仕方(Excel)、プレゼンテーションと資料作成(PowerPoint)などを行う。		
到達目標	大学における授業・研究に最低限必要なコンピュータリテラシーを習得し、レポート作成やゼミ発表等に役立てることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 情報機器の基本操作 第2回 Office365とOneDrive（クラウドメモリー）の利用 第3回 Word(1) 日本語の入力 第4回 Word(2) 文字の編集・ページ設定・印刷 第5回 Word(3) 表の作成・文書編集 第6回 Word(4) 課題作成 第7回 Excel(1) 基本操作・表の作成 第8回 Excel(2) 計算と関数 第9回 Excel(3) グラフ作成 第10回 Excel(4) 課題作成 第11回 PowerPoint(1) 基本操作 第12回 PowerPoint(2) プレゼンテーションの基礎知識 第13回 PowerPoint(3) 課題作成 第14回 PowerPoint(4) プレゼンテーション 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 課題とプレゼンテーション 70%（タッチタイピング30%を含む）		
失格条件	出席回数が3分の2を超えない者（遅刻3回で欠席1回とカウントする） 課題を1つでも未提出の者（課題をすべて提出しないと失格になります）		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	パソコンは慣れることが重要なので、家庭や自習室で必ず復習をしておきましょう。 またもし休んだ場合は、その日の学習内容を友人から聞いて必ず確認・習得しておきましょう。 1回の授業（2時間）に予習・復習の時間を4時間充てましょう。		
課題へのフィード バック	課題やプレゼンに対して、学生同士で相互評価したり、教員がコメントする。		
教科書	学生のためのOffice2016&情報モラル		
著者名			
出版社	noa出版		
参考書	必要に応じて指示します		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

ナンバリング	CC300A02	期間	前期/後期
授業科目名	情報処理演習 A		
英訳科目名	Data Processing A		
担当教員名	中島 欣哉		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解>◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能>◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力>◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度>○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>パソコンの基本的な使い方を学び、さらに、各自の興味・能力に応じて好きな課題に取り組んでもらいます。ワープロWord、表計算ソフトExcel、プレゼンソフトPowerPointやネット検索の技術について基本を学び、レポートは次の2つを作成します。</p> <p>●基本課題：ワープロ文書作成。案内状や自己紹介など、好きなものを作る。</p> <p>●応用課題：Word、Excel、PowerPoint、音楽ソフト、動画作成ソフトなど、どんなソフトを使ってもよいから、何か自由課題に取り組む。</p> <p>課題例</p> <p>◎文章や絵の作品製作。カレンダー、絵本、ミュージシャン紹介など。</p> <p>◎PowerPointでプレゼンや簡単なアニメなどを作成。</p> <p>◎動画、アニメ制作 ◎ゲーム制作 ◎プログラミング ◎ホームページ制作</p> <p>◎楽譜作成（既存曲の打ち込み、耳コピ、自作の作曲・編曲）</p> <p>◎「打ち込み」による音楽制作</p> <p>◎Excelで家計簿、カロリー計算表などを作成。</p> <p>◎アンケート調査。アンケート用紙を作って配り、データを集計・分析。</p>		
到達目標	ワープロ、表計算ソフト、プレゼンソフトやネット検索を自力で使いこなせ、さらにそれらを組み合わせて比較的長期間にわたって規模の大きな製作物を作り上げられるようになること。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、パソコンの基本操作</p> <p>第2回 ワープロの基本編集操作、タッチタイプの練習</p> <p>第3回 ワープロ文書の装飾、タッチタイプの練習</p> <p>第4回 ワープロ文書作成練習（見本通りのビジネス文書作成）</p> <p>第5回 ワープロで各自オリジナルの文書作成（基本課題）、ネットの情報収集のコツ</p> <p>第6回 基本課題の続き、ネットの情報収集の練習</p> <p>第7回 Excelによるデータ処理：基本操作、関数、データ分析</p> <p>第8回 Excelによるデータ処理：データ分析、グラフ作成</p> <p>第9回 PowerPointの基本操作、プレゼンテーション作成</p> <p>第10回 PowerPointによるプレゼンテーション作成、発表のコツ</p> <p>第11回 応用課題（各自の選んだ課題に応じて、使用するソフトの勉強、製作開始）</p> <p>第12回 応用課題（ソフトの勉強、製作続き）</p> <p>第13回 応用課題（製作続き）</p> <p>第14回 応用課題（製作続き、報告書の作成について）</p> <p>第15回 応用課題（作品の完成。報告書まとめ、または発表）</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% レポート 80%		
失格条件	6回以上欠席した者（遅刻3回で、欠席1回分にカウントします。） また、最初の3回（第1～3回）を全て欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	次回までに予習が必要な事項はその都度指示するので予習すること。（予習時間 1時間） その日に学んだパソコン技術の練習と、レポートの作成をすること。（復習時間 3時間）		
課題へのフィード バック	授業内小課題については、適宜個別もしくは全体にコメントします。 提出物の作成は授業内に行うことが多いので、提出までに個別に何度もコメントやアドバイスを与え、修正・改善してもらい、教師・学生双方が納得したうえで提出してもらいます。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	★★★ 注意 ★★★ 文字入力やワープロの基本操作などの初歩的な事柄はすでに習得している人は、「情報処理演習B」（担当教員：中島欣哉）の方を選んでください。そちらはこの科目と似た内容ですが、初歩的な事柄は省略して、少し進んだ内容で、応用課題（自由に好きなものを作る）に多くの時間をかけてもらいます。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B01	期間	後期
授業科目名	情報処理演習B		
英訳科目名	Data Processing B		
担当教員名	岡本 久仁子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この授業では、大学における授業・研究に必要なコンピュータの発展的な運用技術の習得を目標とします。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロソフトを使って文書を作成できるようになること。 ・インターネット上のデータベースからデータをダウンロードし加工することができるようになること。 ・表計算ソフトを使って数値データを目的に合わせて処理しグラフを作成できるようにすること。 ・グラフや図表などを使ったレポートが作成できるようになること。 		
授業計画	第1回 Wordの基礎 ワードの基礎（復習） ページ設定・文字書式・段落書式 第2回 Wordの基礎 表の作成 第3回 Wordの基礎 図形描画 第4回 Excelの基礎 エクセルの基礎（復習） 第5回 Excelの応用 順位と絶対参照 第6回 Excelの応用 IF関数による条件判定 第7回 Excelの応用 グラフ作成 ExcelとWordの連携 第8回 Excelの応用 インターネットからのデータベース検索 第9回 Wordの応用 レポート演習（表紙・脚注など） 第10回 Wordの応用 レポート演習（長文練習） 第11回 Wordの応用 レポート演習（図・表の入ったレポートの作成） 第12回 Wordの応用 レポート演習（グラフの入ったレポートの作成） 第13回 総合練習(1) 資料検索とアウトラインの作成 第14回 総合練習(2) 最終課題レポート作成（表、グラフ、図の作成） 第15回 総合練習(3) 最終課題レポート作成（形式にのったレポートの作成）		
評価方法 (合計100%)	タッチタイピング能力及び練習態度10% 受講態度および授業への参加態度40% 最終課題レポート50%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・全授業の3分の1以上欠席した者（遅刻は3回で1欠席とします） ・最終課題未提出の者 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業は大学の環境（Windows10、Office2016）で行うので、自宅の環境について調べておくこと。 また授業中に使用するプリント類はOffice2016を使った内容のものになるので、バージョンによる操作の違いについては質問してください。 シラバスに基づいた機能のチェック。（予習時間1時間） 授業内容に関するレポート作成。（復習時間1時間）		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題については、注意点などを全体に向けてコメントします。 ・最終課題は、ポータルサイトを通じコメントします。 		
教科書	不使用。プリントを配布。		
著者名			
出版社			
参考書	30時間でマスターOffice2016		
その他	授業を遅刻、欠席した場合は自分でその内容を学習しておくこと。 配布プリントはポータルサイトにアップしてあるので参照すること。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B01	期間	後期
授業科目名	情報処理演習B		
英訳科目名	Data Processing B		
担当教員名	中島 欣哉		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解>◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能>◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力>◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度>○
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>パソコンの基本的な使い方を学び（★注： 文字入力やワープロの基本操作などの初歩的な事柄は省略します。下の「その他」欄の注意を参照）、さらに、各自の興味・能力に応じて好きな課題に取り組んでもらいます。ワープロWord、表計算ソフトExcel、プレゼンソフトPowerPointやネット検索の技術について基本を学び、レポートは次の2つを作成します。</p> <p>●基本課題：ワープロ文書作成。案内状や自己紹介など、好きなものを作る。</p> <p>●応用課題：Word、Excel、PowerPoint、音楽ソフト、動画作成ソフトなど、どんなソフトを使ってもよいから、何か自由課題に取り組む。</p> <p>課題例</p> <p>◎文章や絵の作品製作。カレンダー、絵本、ミュージシャン紹介など。</p> <p>◎PowerPointでプレゼンや簡単なアニメなどを作成。</p> <p>◎動画、アニメ制作 ◎ゲーム制作 ◎プログラミング ◎ホームページ制作</p> <p>◎楽譜作成（既存曲の打ち込み、耳コピ、自作の作曲・編曲）</p> <p>◎「打ち込み」による音楽制作</p> <p>◎Excelで家計簿、カロリー計算表などを作成。</p> <p>◎アンケート調査。アンケート用紙を作って配り、データを集計・分析。</p>		
到達目標	ワープロ、表計算ソフト、プレゼンソフトやネット検索を自力で使いこなせ、さらにそれらを組み合わせて比較的長期間にわたって規模の大きな製作物を作り上げられるようになること。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、パソコンの操作、ワープロの操作</p> <p>第2回 ワープロで各自オリジナルの文書作成（基本課題）、ネットの情報収集のコツ</p> <p>第3回 基本課題の続き、ネットの情報収集の練習</p> <p>第4回 Excelによるデータ処理：基本操作、関数、データ分析</p> <p>第5回 Excelによるデータ処理：データ分析、グラフ作成</p> <p>第6回 PowerPointの基本操作、プレゼンテーション作成</p> <p>第7回 PowerPointによるプレゼンテーション作成、発表のコツ</p> <p>第8回 応用課題（各自の選んだ課題に応じて、使用するソフトの勉強、製作開始）</p> <p>第9回 応用課題（ソフトの勉強、製作続き）</p> <p>第10回 応用課題（製作続き）</p> <p>第11回 応用課題（製作続き、課題の経過報告）</p> <p>第12回 応用課題（製作続き、報告書の作成について）</p> <p>第13回 応用課題（製作続き）、プレゼン課題選択者の発表会</p> <p>第14回 応用課題（製作続き）、プレゼン課題選択者の発表会続き</p> <p>第15回 応用課題（作品の完成。報告書まとめ、または発表）</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% レポート 80%		
失格条件	6回以上欠席した者（遅刻3回で、欠席1回分にカウントします。） また、最初の3回（第1～3回）を全て欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	次回までに予習が必要な事項はその都度指示するので予習すること。（予習時間 1時間） その回に学んだパソコン技術の練習と、レポートの作成をすること。（復習時間 3時間）		
課題へのフィード バック	授業内小課題については、適宜個別もしくは全体にコメントします。 提出物の作成は授業内に行うことが多いので、提出までに個別に何度もコメントやアドバイスを与え、修正・改善してもらい、教師・学生双方が納得したうえで提出してもらいます。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	★★★ 注意 ★★★ 文字入力やワープロの基本操作などの初歩的な事柄から学習したい人は、「情報処理演習A」（担当教員：中島欣哉）の方を選んでください。そちらはこの科目と似た内容ですが、初歩的な事柄から教えます。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200A01	期間	後期集中
授業科目名	生涯学習概論		
英訳科目名	Lifelong Learning/Introduction to Lifelong Learning		
担当教員名	鉦 純香		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この授業では、司書課程の学習に関連して「生涯学習」という考え方を紹介し、具体的な活動を紹介しながら、理論的・実践的に考えていく。生涯学習とは、誰もが「いつでも・どこでも」、自分の人生（仕事・趣味・生活…）を充実させるために、また積極的に市民として社会に参加していくために、それぞれが興味と能力を高めていくことを意味する。授業ではこれを推進する、図書館を中心とした社会教育施設や学校、地域などの活動について、映像や資料を使って紹介しながら、背景にある考え方を理解し、実際に生涯学習に参加し、なおかつそれを支援するための情報や考え方を提供したい。		
到達目標	学習目標は次の3つである。①生涯学習概念について具体的な実践から考え、その理論を理解できる。②自らが生涯学習者として自身の学びを計画、評価できる。③図書館などの社会教育施設において、人を育てる、人の学びを支援する専門職として学び続けることができる。		
授業計画	第1回 ガイダンスー生涯学習とは何か 第2回 生涯学習入門① 学びを学びほぐす「unlearn」の可能性 第3回 生涯学習入門② 生涯学習の理念についてーその系譜と社会的背景 第4回 生涯学習入門③ 生涯学習の「空間」ー社会教育施設について（図書館を中心に） 第5回 生涯学習入門④ 生涯学習の「時間」ーライフスタイルと学習 第6回 生涯学習における学びの方法1ー事例から考える 第7回 生涯学習における学びの方法2ー計画と実践 第8回 生涯学習支援者の役割ー司書を中心に 第9回 図書館における生涯学習1ー国内の実践事例から 第10回 図書館における生涯学習2ー国外の実践事例から 第11回 図書館における生涯学習3ー学習支援の在り方について考える 第12回 生涯学習と学校・地域・社会 第13回 生涯学習支援と評価 第14回 生涯学習における学びを企画する 第15回 まとめー生涯学習支援のこれから		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度及び小レポート：60% 最終レポート：40%		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	身近な図書館・博物館・公民館の講座や取り組みについて関心を持ち、ある程度知っておくこと（予習） 授業内で紹介した参考文献等をもとに課題を考える（復習）		
課題へのフィード バック	小レポートに関しては、授業内で適宜行うが、最終レポートに関しては成績評価後コメントをつけて返却する。		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜指示する		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-050

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	ボランティア論		
英訳科目名	Volunteer Theory		
担当教員名	名和 月之介		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	ボランティアは、障がい者、高齢者、児童という社会福祉の分野を中心に、地域や地域を越えて、国際協力に至るまで、様々な分野への広がりを見せている。ボランティアの担い手も、一部の有志者から、企業人や一般市民にまで及んでいる。授業計画に沿って、基礎的なボランティアに関する知見を得ることによって、学生自身による自発的・主体的なボランティア活動への発展を意図して授業を進めてゆく。		
到達目標	ボランティアに関する基本的な知識の習得と活動展開への基盤を構築する。		
授業計画	第1回 ボランティアとは何か(1)ボランティアの考え方 第2回 ボランティアとは何か(2)ボランティアの目的 第3回 地域の問題とボランティア 第4回 地域福祉とボランティア 第5回 障がい者福祉におけるボランティア 第6回 障がい者の活動と参加のためのボランティア 第7回 高齢社会のボランティア 第8回 高齢者の社会参加とボランティア 第9回 児童問題とボランティア 第10回 児童養護とボランティア 第11回 地域の子育て支援とボランティア 第12回 社会貢献・募金活動とボランティア 第13回 外国人との共生社会におけるボランティア 第14回 ボランティアの新しい展開 第15回 授業のまとめ		
評価方法 (合計100%)	期末レポート50% 授業への参加態度50%		
失格条件	期末レポートを提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	配布プリントを30分～1時間読んでおくことが望ましい。		
課題へのフィード バック	レポート提出時授業において全体に向けてコメントします。		
教科書	関連プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	早瀬昇『「参加の力」が創る共生社会』ミネルヴァ書房 (ISBN978-4-623-08338-1)		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

1-051

ナンバリング	期間	後期
授業科目名	ボランティア体験	
英訳科目名	Volunteer Experience	
担当教員名	名和 月之介	
ディプロマ・ポリシー1	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	履修者自身が、ボランティア活動を計画・実践し、さらに評価・反省することによって、ボランティア活動についてPLAN-DO-SEEという方法論の習得を図る。	
到達目標	ボランティア活動に関するPLAN-DO-SEEという方法論の習得。	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回～2回 事前指導（教室で2回） ・中間指導（教室で2回） ・ボランティア体験活動のレポート発表提出（教室で1回） なお中間指導とボランティア体験活動発表提出の日時については事前指導時に通知する。	
評価方法 (合計100%)	ボランティア体験活動のレポート(400字4枚計1600字相当)発表提出(70%) 事前・中間指導への参加態度(30%) なおボランティア体験活動は、授業がない時（平日の空き時間、日曜祝日、長期休暇等）合計18時間以上、または終日3日間以上行うこととする。	
失格条件	事前・中間指導を1回も出席しなかった場合、あるいはボランティア体験活動のレポート発表提出をしなかった場合。	
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	授業において適宜アドバイスする。	
課題へのフィード バック	レポート提出時授業において全員にコメントします。	
教科書	不使用	
著者名		
出版社		
参考書		
その他		
備考		
科目生への開講	なし	

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1-052

ナンバリング	CC200B01	期間	前期/後期
授業科目名	人権教育		
英訳科目名	Human Rights Education		
担当教員名	葛目 巴恵子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>子どもたちは社会の不安定な中で、自分の存在を否定されかねない状況におかれています。子どもたちに自分を大切にできる力を育てるのが人権教育の最大のテーマです。具体的には、仲間を大切にできる力を育て、人々が誠実に生きている姿を伝え、子ども達の自尊感情を育てる教育を、現実の学校教育の場の実践から学び、人々の生きている姿から学びます。</p> <p>さらに、学校だけでなくさまざまな場面で子どもと出会い指導者となっていく皆さんの、人権感覚を高めていく授業を目指します。</p>		
到達目標	<p>人権とは何かを具体的課題につなげて説明できる。</p> <p>人権教育の課題を説明できる</p> <p>学習課題である人権上のテーマについて自分の考えで述べる事が出来る。</p>		
授業計画	<p>第1回 シラバス アンケートをとる</p> <p>第2回 NHKスペシャルのビデオを観る</p> <p>第3回 スペシャルのいきさつ</p> <p>第4回 6年2組の子どもたち</p> <p>第5回 好きな先生、嫌いな先生について</p> <p>第6回 いじめ・体罰</p> <p>第7回 いじめの問題と子どもの人権のDVDを観る</p> <p>第8回 名前の由来を考える</p> <p>第9回 障害児教育についてのDVDを観る</p> <p>第10回 被爆者への暴言平和への願い</p> <p>第11回 中国（小皇帝の涙）を観る（DVD）</p> <p>第12回 子どもへのメッセージ七夕の願い</p> <p>第13回 子どもの問題行動</p> <p>第14回 保護者との関係</p> <p>第15回 まとめ、テスト</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（発言、聴く姿勢、資料ノートの整理）50%</p> <p>試験 50%</p>		
失格条件	<p>欠席は4回まで</p> <p>試験を受けない場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習プリントを配られたときはあらかじめ読んで、自分なりの考えをノートに記入しておくこと。（毎週1時間）</p> <p>配布プリントは整理し、講義ごとに、自分なりの考えをまとめておくこと。（毎週1時間）</p> <p>新聞等で講座のテーマに関連すること、自分とのかかわりで問題意識を持っていることは整理しておくこと。（毎週1時間）</p> <p>建前でなく本音でものを考える習慣をつけてください。</p>		
課題へのフィードバック	<p>今起こっている社会の出来事の中で、授業で取り上げた課題を通して、人権について考えてみる。</p> <p>毎授業の感想を書き、それぞれの意見を出し合う。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

1-053

ナンバリング	CC200B01	期間	前期
授業科目名	人権教育		
英訳科目名	Human Rights Education		
担当教員名	葛目 巴恵子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>子どもたちは社会の不安定な中で、自分の存在を否定されかねない状況におかれています。子どもたちに自分を大切にできる力を育てるのが人権教育の最大のテーマです。</p> <p>具体的には、仲間を大切にできる力を育て、人々が誠実に生きている姿を伝え、子ども達の自尊感情を育てる教育を、現実の学校教育の場の実践から学び、人々の生きている姿から学びます。</p> <p>さらに、学校だけでなくさまざまな場面で子どもと出会い指導者となっていく皆さんの、人権感覚を高めていく授業を目指します。</p>		
到達目標	<p>人権とは何かを具体的課題につなげて説明できる。</p> <p>人権教育の課題を説明できる</p> <p>学習課題である人権上のテーマについて自分の考えで述べる事が出来る。</p>		
授業計画	<p>第1回 シラバス アンケートをとる</p> <p>第2回 NHKスペシャルのビデオを観る</p> <p>第3回 スペシャルのいきさつ</p> <p>第4回 6年2組の子どもたち</p> <p>第5回 好きな先生、嫌いな先生について</p> <p>第6回 いじめ・体罰</p> <p>第7回 いじめの問題と子どもの人権のDVDを観る</p> <p>第8回 名前の由来を考える</p> <p>第9回 障害児教育についてのDVDを観る</p> <p>第10回 被爆者への暴言平和への願い</p> <p>第11回 中国（小皇帝の涙）を観る（DVD）</p> <p>第12回 子どもへのメッセージ七夕の願い</p> <p>第13回 子どもの問題行動</p> <p>第14回 保護者との関係</p> <p>第15回 まとめ、テスト</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（発言、聴く姿勢、資料ノートの整理）50%</p> <p>試験 50%</p>		
失格条件	<p>欠席は4回まで</p> <p>試験を受けない場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習プリントを配られたときはあらかじめ読んで、自分なりの考えをノートに記入しておくこと。（毎週1時間）</p> <p>配布プリントは整理し、講義ごとに、自分なりの考えをまとめておくこと。（毎週1時間）</p> <p>新聞等で講座のテーマに関連すること、自分とのかかわりで問題意識を持っていることは整理しておくこと。（毎週1時間）</p> <p>建前でなく本音でものを考える習慣をつけてください。</p>		
課題へのフィードバック	<p>今起こっている社会の出来事の中で、授業で取り上げた課題を通して、人権について考えてみる。</p> <p>毎授業の感想を書き、それぞれの意見を出し合う。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

1-054

ナンバリング	CC300C02	期間	前期
授業科目名	TOEIC対策 I A/ステップアップ英語 A		
英訳科目名	Preparation for TOEIC I A/Step-up English A (TOEIC Preparation 1)		
担当教員名	野口 昌子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	TOEIC Listening & Reading Testのスコアアップを図るため、出題形式に慣れ、リスニングとリーディングの力を磨くタスクを行います。		
到達目標	TOEICスコア400以上を目指して、次の項目を達成目標とします。 1.音声変化などの発音に慣れ、聴き、音読してリスニング力を上げる 2. 語彙を増やし、英文を読んで内容をより正確に理解できる 3.文法・語法・口語表現をよりよく理解し、認識できる		
授業計画	第1回 オリエンテーション Unit 1 Traffic 現在時制 第2回 Unit 2 Weather & Events 過去時制 第3回 Unit 3 Lunchtime 進行形・完了形 第4回 Unit 4 Hotels 冠詞・代名詞 第5回 Unit 5 Health 名詞 第6回 Unit 6 A New Life 形容詞・副詞 第7回 Unit 7 Mini Test 第8回 Unit 8 Job Hunting 比較 第9回 Unit 9 Workplaces & Products 不定詞・動名詞 第10回 Unit 10 Customer Service & Office Crime 受動態・助動詞 第11回 Unit 11 Office Messages 使役動詞・知覚動詞 第12回 Unit 12 Ordering & Shipping 関係代名詞・関係副詞 第13回 Unit 13 Business Trips 接続詞・前置詞 第14回 Unit 14 Success in Business 仮定法 第15回 まとめ 達成度の確認		
評価方法 (合計100%)	出席率(10%) 授業への参加態度・内容(30%) 小テスト・提出課題(10%) 試験(50%)		
失格条件	欠席回数が5回又は5回を超えた場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業は毎回テキストの1課を消化していきます。前もって問題に目を通し、解らない語や語句に印をつけ、辞書で意味を確認する形の予習をして下さい。(1時間～2時間) 授業後に間違った箇所は重点的に復習をしましょう。又テキストのリスニング問題はCDが添付されているので、リスニング問題の復習もしっかり続けて下さい。(2時間～3時間)		
課題へのフィードバック	提出された課題や小テストは次回の授業でコメントをつけ個別に返却します。		
教科書	Totally TOEIC L & R Test: Challenge 400 TOEICテスト：チャレンジ400		
著者名	Terry O'Brien/三原 京/塩谷 直史/木村 博是		
出版社	南雲堂		
参考書			
その他	第1回目の授業からテキストを使用します。遅刻・欠席をしないで、筆記用具も忘れず持参すること。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-055

ナンバリング	CC300C03	期間	後期
授業科目名	TOEIC対策 I B/ステップアップ英語 B		
英訳科目名	Preparation for TOEIC I B/Step-up English B (TOEIC Preparation 2)		
担当教員名	野口 昌子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	基本的な英語力の強化に努め、近年就職に役立つTOEICのスコアアップを目指す。		
到達目標	TOEICで500点以上のスコアを取得できることを目標とする。		
授業計画	第1回 オリエンテーション Unit 1 Let's One's Hair Down 名詞 第2回 Unit 2 In the Pink 前置詞 第3回 Unit 3 Let the Cat Out of the Bag 接続詞 第4回 Unit 4 Sell like Hotcakes 5文型 第5回 Unit 5 Have Feet of Clay 受動態 第6回 Unit 6 It's Fishy 時制 第7回 Unit 7 No ifs, Ands or Buts 関係詞 第8回 Unit 8 Jump the Gun 不定詞 第9回 Unit 9 Eat Someone Up 動名詞 第10回 Unit 10 Have the World by the Tail 仮定法 第11回 Unit 11 Cool as a Cucumber 否定 第12回 Unit 12 Turn Purple with Rage 比較 第13回 Unit 13 Have It Made 完了形 第14回 Unit 14 Get Out from Under 助動詞 第15回 まとめと理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度・内容 30% 小テスト、提出課題など 20% 試験 50%		
失格条件	5回またはそれ以上の欠席を失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業は毎回テキストの1単元を消化していきます。前もって問題に目を通し、解らない語や語句に印をつけ、辞書で意味を確認する形の予習をして下さい。(1時間～2時間) 間違った箇所は重点的に復習をしましょう。又テキストのリスニング問題は無料でダウンロードできるので、リスニング問題の復習をしっかりと続けて下さい。(2時間～3時間)		
課題へのフィード バック	提出課題や小テストは次回の授業でコメントをつけ個別に返却します。		
教科書	TOEIC L & R Test: 500 Power Phrases 使える英語フレーズ500ではじめるTOEICテスト		
著者名	竹村 日出夫/永田 喜文/小田井 勝彦/大谷 多摩貴		
出版社	南雲堂		
参考書			
その他	第1回目の授業からテキストを使用します。遅刻・欠席をしないで、筆記用具も忘れず持参すること。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	TOEIC対策ⅡA		
英訳科目名	Preparation for TOEICⅡA		
担当教員名	森川 康子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	近年、多くの会社や企業がTOEICの試験を社員教育の一環として推奨するようになってきた。このクラスはTOEIC対策のための問題演習を行い、会社や、企業など社会の一員として求められるであろうTOEICのスコアを目指すとともに、限られた時間内に問題を解く処理能力、またその為に必要とされる英語力を身につけることを目標とする。		
到達目標	できる限り多くのTOEICの問題に触れ、その傾向と対策を学ぶことで、450点以上を取得できることを目標とする。		
授業計画	第1回 Pre-test 第2回 Pre-test Review 第3回 Unit1 and Unit2 第4回 Unit3 and Unit4 第5回 Unit5 and Unit6 第6回 Unit7 and Unit8 第7回 Unit9 and Unit10 第8回 Unit11 and Unit 12 第9回 Unit 13 and Unit 14 第10回 Post-test 第11回 Post-test Review 第12回 演習① 第13回 演習② 第14回 演習③ 第15回 学期末試験		
評価方法 (合計100%)	試験50% 問題演習への取り組み・課題提出など30% 授業への参加態度(参加状況)20% 20分以上の遅刻は欠席とする。 3回の遅刻を1回の欠席とする。		
失格条件	学期を通じて1/3以上欠席すると失格する。 学期末試験を受けなかった場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	各ユニットに入る前に不明な英単語の意味を調べておくこと。また、文法、リーディングの問題はできる範囲で解いておき、不明な単語や分からない文章などをマークしておくこと。 (予習時間 1時間) 学んだユニットのリスニングを自習用CDで聞き返し、また、シャドーイングをしておく。 間違った文法、リーディングの問題を見直すこと。ポイントになる英語表現、難しいと感じた英単語などを書き出しておくこと。(復習時間 3時間)		
課題へのフィードバック	Comments will be made in class after submission and check of homework assignments. At times, it will be made on an individual basis.		
教科書	Power-up Practice for the TOEIC Listening and Reading Test		
著者名	Kazumichi Enokida,Satoshi Hiramoto,Simon Fraser		
出版社	Eihosha		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

1-057

ナンバリング	期間	後期
授業科目名	TOEIC対策ⅡB	
英訳科目名	Preparation for TOEICⅡB	
担当教員名	相馬 沙織	
ディプロマ・ポリシー1	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	資格英語ⅡAに続いて、後期はさらに難度の高いTOEICの問題に挑戦する。多様なシーンでの問題に触れるとともに、細かく文法・語彙の確認をする。テキスト以外にもプリントを使う。	
到達目標	前期で学んだTOEICの問題の傾向と対策を踏まえて、450点以上を取得することができる。	
授業計画	第1回 Introduction 第2回 Unit1 Food and Restaurant 第3回 Unit2 Entertainment 第4回 Unit3 Travel 第5回 Unit4 Sports & Health 第6回 Unit5 Purchasing 第7回 Unit6 Housing & Accommodations 第8回 Unit7 Office Work (1) 日常業務 第9回 Unit8 Office Work (2) クレーム処理 第10回 Unit9 Employment 第11回 Unit10 Lectures & Presentations 第12回 Unit11 Business Affairs 交渉 第13回 Unit12 Business Affairs 市場調査 第14回 Review 第15回 Final Exam (到達度確認テスト)	
評価方法 (合計100%)	試験50% 問題演習への取り組み・課題提出など30% 授業への参加態度(参加状況)20% 20分以上の遅刻は欠席とする。 3回の遅刻を1回の欠席とする。	
失格条件	学期を通じて1/3以上欠席すると失格する。 学期末試験を受けなかった場合、失格とする。	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	各ユニットに入る前に不明な英単語の意味を調べておくこと。また、文法、リーディングの問題はできる範囲で解いておき、不明な単語や分からない文章などをマークしておくこと。 (予習時間 1時間) 学んだユニットのリスニングを自習用CDで聞き返し、また、シャドーイングをしておく。 間違った文法、リーディングの問題を見直すこと。ポイントになる英語表現、難しいと感じた英単語などを書き出しておくこと。(復習時間 3時間)	
課題へのフィードバック	課題提出後、コメントをつけて個別に返却し、また、全体に向けコメントします。	
教科書	Fast Pass for the TOEIC L&R Test、Revised Edition	
著者名	Ritsuko Uenaka and Seiko Korechika	
出版社	センゲージラーニング株式会社	
参考書		
その他		
備考		
科目生への開講	なし	

1-058

ナンバリング	CC300A05	期間	前期
授業科目名	英会話 I		
英訳科目名	English Conversation I		
担当教員名	森川 康子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. The course covers the four primary skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication.</p> <p>英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。</p>		
到達目標	To develop students' communicative English skills.		
授業計画	<p>Lessons will proceed according to Units 1-10 of the textbook. There will be homework and writing assignments.</p> <p>教科書に沿って授業を進める。適宜、クイズや小テストを行う。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>1)Class participation 授業への参加態度 30%</p> <p>2)Homework and essays 課題 50%</p> <p>3)Evaluation of achievement 到達度評価 20%</p>		
失格条件	<p>Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness". Three latenesses equal one absence.</p> <p>8回の欠席で失格となる。20分以上の遅刻は欠席とみなす。3回の遅刻は1回の欠席と計算する。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>Students should read the text aloud at least 5 times to familiarize themselves with the wording and sentence structure of the text. They are also recommended to make notes of vocabulary that might come in use when discussing the text or answering questions.</p> <p>If there is a sentence or phrase that is difficult to understand, the student should ask the teacher. (予習1時間・復習1時間)</p>		
課題へのフィード バック	Comments will be made in class after submission and check of homework assignments. At times, it will be made on an individual basis.		
教科書	Reading Pass 1		
著者名	Andrew Bennett		
出版社	Nan'un-do		
参考書	University-level dictionaries		
その他	<p>The class size is limited within 20. (20名以下限定のクラス) Students are expected to actively participate in class activities.</p> <p>If a student is absent, he/she must check with classmates as to the homework assignment and come to class prepared.</p> <p>All homework assignments must be handed in on the due date.</p>		
備考			
科目生への開講	あり		

1-059

ナンバリング	CC300A05	期間	前期
授業科目名	英会話 I		
英訳科目名	English Conversation I		
担当教員名	Alexander Morgus		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. 英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。		
到達目標	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。		
授業計画	Lessons will proceed according to the contents of the textbook. Occasionally there will be written quizzes and conversation tests. テキストの7ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2週で終えることになる。適宜クイズや小テストを行う。 第1回 Introduction 第2～3回 Unit 1 第4～5回 Unit 2 第6～7回 Unit 3 第8～9回 Unit 4 第10～11回 Unit 5 第12～13回 Unit 6 第14回 Unit 7 第15回 Review Unit 1～7		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes (conversation check)	クイズ	30%
	evaluation of achievement	到達度評価	30%
失格条件	Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence. 前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. They should speak English with each other as much as possible during the lesson and after the lesson. At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. 予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(1時間) 授業中はお互いのできるだけ英語で話す努力をすること。復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(1時間)		
課題へのフィードバック	Homework and assignments will be returned with comments. 宿題や提出物はコメントをつけて返却します。		
教科書	TOP Notch: Fundamentals with Active Book (3rd edition)		
著者名	Joan Saelow and Allen Ascher		
出版社	ピアソン・ロングマン出版		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他	Students are expected to actively participate in class activities. 積極的な授業参加を期待する。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-060

ナンバリング	CC300A05	期間	前期
授業科目名	英会話 I		
英訳科目名	English Conversation I		
担当教員名	Jonathan MacNab		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication.</p> <p>英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。</p>		
到達目標	<p>The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English.</p> <p>この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。</p>		
授業計画	<p>Lessons will proceed according to the contents of the textbook. Occasionally there will be written quizzes and conversation tests. テキストの7ユニットを15週で終える予定なので、1ユニットを2週で終えることになる。適宜クイズや小テストを行う。</p> <p>第1回 Introduction 第2～3回 Unit 1 第4～5回 Unit 2 第6～7回 Unit 3 第8～9回 Unit 4 第10～11回 Unit 5 第12～13回 Unit 6 第14回 Unit 7 第15回 Review Unit 1～7</p>		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes (conversation check)	クイズ	30%
	evaluation of achievement	到達度評価	30%
失格条件	<p>Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence.</p> <p>前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. They should speak English with each other as much as possible during the lesson and after the lesson. At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review.</p> <p>予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(1時間) 授業中はお互いのできるだけ英語で話す努力をすること。復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(1時間)</p>		
課題へのフィードバック	<p>Homework and assignments will be returned with comments.</p> <p>宿題や提出物はコメントをつけて返却します。</p>		
教科書	TOP Notch: Fundamentals with Active Book (3rd edition)		
著者名	Joan Saelow and Allen Ascher		
出版社	ピアソン・ロングマン出版		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他	Students are expected to actively participate in class activities. 積極的な授業参加を期待する。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-061

ナンバリング	CC300A05	期間	前期
授業科目名	英会話 I		
英訳科目名	English Conversation I		
担当教員名	Marcel Hurtado		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication.</p> <p>英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。</p>		
到達目標	<p>The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English.</p> <p>この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。</p>		
授業計画	<p>Lessons will proceed according to the contents of the textbook. Occasionally there will be written quizzes and conversation tests. テキストの7ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2週で終えることになる。適宜クイズや小テストを行う。</p> <p>第1回 Introduction 第2～3回 Unit 1 第4～5回 Unit 2 第6～7回 Unit 3 第8～9回 Unit 4 第10～11回 Unit 5 第12～13回 Unit 6 第14回 Unit 7 第15回 Review Unit 1～7</p>		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes (conversation check)	クイズ	30%
	evaluation of achievement	到達度評価	30%
失格条件	<p>Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence.</p> <p>前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. They should speak English with each other as much as possible during the lesson and after the lesson. At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review.</p> <p>予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(1時間) 授業中はお互いのできるだけ英語で話す努力をすること。復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(1時間)</p>		
課題へのフィードバック	<p>Homework and assignments will be returned with comments.</p> <p>宿題や提出物はコメントをつけて返却します。</p>		
教科書	TOP Notch: Fundamentals with Active Book (3rd edition)		
著者名	Joan Saelow and Allen Ascher		
出版社	ピアソン・ロングマン出版		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他	Students are expected to actively participate in class activities. 積極的な授業参加を期待する。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-062

ナンバリング	CC300A05	期間	前期
授業科目名	英会話 I		
英訳科目名	English Conversation I		
担当教員名	名和 月之介		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. 英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。		
到達目標	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English.この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。		
授業計画	Lessons will proceed according to the contents of the textbook. There will be quizzes. テキストの6ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2回で終えることになる。随時クイズを行う。 第1回 Introduction 第2～3回 Unit 1 第4～5回 Unit 2 第6～7回 Unit 3 第8回 Review Unit 1～3 第9～10回 Unit 4 第11～12回 Unit 5 第13～14回 Unit 6 第15回 Review Unit 4～6		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes	クイズ	40%
	evaluation of achievement	到達度評価	20%
失格条件	Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence. 前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席とみなす。3回の遅刻は1回の欠席とみなす。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. (2hours) At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. (2hours) 予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(2時間) 復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(2時間)		
課題へのフィードバック	After the review test in class, all the students will be informed about it .授業内試験後、履修者全員に向けてコメントします。		
教科書	Four Corners Student' s Book 1		
著者名	Jack C. Richards・David Bohlke		
出版社	Cambridge University Press		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A05	期間	前期
授業科目名	英会話 I		
英訳科目名	English Conversation I		
担当教員名	相馬 沙織		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. 英語の4つの基本技能(聞く、話す、読む、書く)を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。		
到達目標	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. 授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上させることである。		
授業計画	第1回 Unit 1 Introductions 第2回 Unit 1 Introductions: personal information 第3回 Unit 1 Introductions: short talk 第4回 Unit 2 Daily Life 第5回 Unit 2 Daily Life:routines 第6回 Unit 2 Daily Life:break fast 第7回 Unit 3 Weekend Events 第8回 Unit 3 Weekend Events:interests 第9回 Unit 3 Weekend Events:Favorites 第10回 Unit 4 Small Talk 第11回 Unit 4 Small Talk:Greeting 第12回 Unit 4 Small Talk:Part time 第13回 Unit 5 Likes and Dislikes 第14回 Unit 5 Likes and Dislikes:preferences 第15回 Unit 5 Likes and Dislikes:Activities 第16回 Unit 6 Student Life 第17回 Unit 6 Student Life:needs 第18回 Unit 6 Student Life:events 第19回 Unit 7 Family 第20回 Unit 7 Family:appearance 第21回 Unit 7 Family:future image 第22回 Unit 8 Friends 第23回 Unit 8 Friends:examples 第24回 Unit 8 Friends:personality 第25回 Unit 9 Going out 第26回 Unit 9 Going out:schedules 第27回 Unit 9 Going out:favorite places 第28回 Review: Unit 1~4 第29回 Review: Unit 5~9 第30回 Final Exam (到達度確認テスト)		
評価方法 (合計100%)	Class participation 授業への参加態度 30% Quizzes and Assignments 小テスト・課題 20% Evaluation of achievement 到達度評価 50%		
失格条件	Absences from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. 8回またはそれ以上の欠席で失格となる。20分以上の遅刻は欠席とみなす。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. (2hours) At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. (2hours) 予習として、知らない意味の単語を辞書で調べ、学習範囲のCDを聞いてくること。(2時間) 復習として、自習用CDを聞いて発音を再度確認し、練習すること。(2時間)		
課題へのフィード バック	I will return students' homework individually and give comments to all the students in class. 課題提出後、コメントをつけて個別に返却し、また、全体に向けコメントします。		
教科書	Free Talking-Basic Strategies for Building Communication		
著者名	Matthew Guay/Lauren Eldekvist/長谷川 由貴		
出版社	センゲージラーニング株式会社		
参考書	University-level Dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-064

ナンバリング	CC300B03	期間	後期
授業科目名	英会話Ⅱ		
英訳科目名	English Conversation II		
担当教員名	森川 康子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>This course is the follow-up course of English Conversation I. This course will help students develop communicative skills in English. Since classes will be smaller than in the first semester, students are encouraged to participate in the class activities more actively than in the first semester.</p> <p>英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。</p>		
到達目標	To develop students' communicative English skills.		
授業計画	<p>Lessons will proceed according to Units 11-20 of the textbook. Occasionally there will be written assignments and quizzes.</p> <p>教科書に沿って授業を進める。適宜、クイズや小テストを行う。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>1)Class participation 授業への参加態度 30%</p> <p>2)Homework and essays 課題 50%</p> <p>3)Evaluation of achievement 到達度評価 20%</p>		
失格条件	<p>Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness". Three latenesses equal one absence.</p> <p>8回の欠席で失格となる。20分以上の遅刻は欠席とみなす。3回の遅刻は1回の欠席と計算する。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>Students should read the text aloud at least 5 times to familiarize themselves with the wording and sentence structure of the text. They are also recommended to make notes of vocabulary that might come in use when discussing the text or answering questions.</p> <p>If there is a sentence or phrase that is difficult to understand, the student should ask the teacher. (予習1時間・復習1時間)</p>		
課題へのフィード バック	Comments will be made in class after submission and check of homework assignments. At times, it will be made on an individual basis.		
教科書	Reading Pass 1		
著者名	Andrew Bennett		
出版社	Nan'un-do		
参考書	University-level dictionaries		
その他	<p>The class size is limited within 20. (20名以下限定のクラス) Students are expected to actively participate in class activities.</p> <p>If a student is absent, he/she must check with classmates as to the homework assignment and come to class prepared.</p> <p>All homework assignments must be handed in on the due date.</p>		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B03	期間	後期
授業科目名	英会話Ⅱ		
英訳科目名	English Conversation Ⅱ		
担当教員名	Alexander Morgus		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. 英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。		
到達目標	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。		
授業計画	Lessons will proceed according to the contents of the textbook. Occasionally there will be written quizzes and conversation tests. テキストの7ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2週で終えることになる。適宜クイズや小テストを行う。 第1～2回 Unit 8 第3～4回 Unit 9 第5～6回 Unit 10 第7～8回 Unit 11 第9～10回 Unit 12 第11～12回 Unit 13 第13～14回 Unit 14 第15回 Review Unit 8～14		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes (conversation check)	クイズ	30%
	evaluation of achievement	到達度評価	30%
失格条件	Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence. 前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. They should speak English with each other as much as possible during the lesson and after the lesson. At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. 予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(1時間) 授業中はお互いのできるだけ英語で話す努力をすること。復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(1時間)		
課題へのフィードバック	Homework and assignments will be returned with comments. 宿題や提出物はコメントをつけて返却します。		
教科書	Top Notch		
著者名	Joan Saeloe and Allen Ascher		
出版社	ピアソン・ロングマン出版		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他	Students are expected to actively participate in class activities. 積極的な授業参加を期待する。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B03	期間	後期
授業科目名	英会話Ⅱ		
英訳科目名	English Conversation II		
担当教員名	Jonathan MacNab		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication.</p> <p>英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。</p>		
到達目標	<p>The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English.</p> <p>この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。</p>		
授業計画	<p>Lessons will proceed according to the contents of the textbook. Occasionally there will be written quizzes and conversation tests. テキストの7ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2週で終えることになる。適宜クイズや小テストを行う。</p> <p>第1～2回 Unit 8 第3～4回 Unit 9 第5～6回 Unit 10 第7～8回 Unit 11 第9～10回 Unit 12 第11～12回 Unit 13 第13～14回 Unit 14 第15回 Review Unit 8～14</p>		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes (conversation check)	クイズ	30%
	evaluation of achievement	到達度評価	30%
失格条件	<p>Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence.</p> <p>前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. They should speak English with each other as much as possible during the lesson and after the lesson. At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review.</p> <p>予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(1時間) 授業中はお互いのできるだけ英語で話す努力をすること。復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(1時間)</p>		
課題へのフィードバック	<p>Homework and assignments will be returned with comments.</p> <p>宿題や提出物はコメントをつけて返却します。</p>		
教科書	Top Notch		
著者名	Joan Saeloe and Allen Ascher		
出版社	ピアソン・ロングマン出版		
参考書	<p>University-level dictionaries</p> <p>大学レベルの英英、英和、和英辞書</p>		
その他	<p>Students are expected to actively participate in class activities.</p> <p>積極的な授業参加を期待する。</p>		
備考			
科目生への開講	あり		

1-067

ナンバリング	CC300B03	期間	後期
授業科目名	英会話Ⅱ		
英訳科目名	English Conversation II		
担当教員名	Marcel Hurtado		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. 英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。		
到達目標	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。		
授業計画	Lessons will proceed according to the contents of the textbook. Occasionally there will be written quizzes and conversation tests. テキストの7ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2週で終えることになる。適宜クイズや小テストを行う。 第1～2回 Unit 8 第3～4回 Unit 9 第5～6回 Unit 10 第7～8回 Unit 11 第9～10回 Unit 12 第11～12回 Unit 13 第13～14回 Unit 14 第15回 Review Unit 8～14		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes (conversation check)	クイズ	30%
	evaluation of achievement	到達度評価	30%
失格条件	Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence. 前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. They should speak English with each other as much as possible during the lesson and after the lesson. At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. 予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(1時間) 授業中はお互いのできるだけ英語で話す努力をすること。復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(1時間)		
課題へのフィードバック	Homework and assignments will be returned with comments. 宿題や提出物はコメントをつけて返却します。		
教科書	Top Notch		
著者名	Joan Saeloe and Allen Ascher		
出版社	ピアソン・ロングマン出版		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他	Students are expected to actively participate in class activities. 積極的な授業参加を期待する。		
備考			
科目生への開講	あり		

1-068

ナンバリング	CC300B03	期間	後期
授業科目名	英会話Ⅱ		
英訳科目名	English Conversation II		
担当教員名	名和 月之介		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication.</p> <p>英語の4つの基本技能（聞く、話す、読む、書く）を学ぶ。また対話において、相手を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。</p>		
到達目標	<p>The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English.この授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。</p>		
授業計画	<p>Lessons will proceed according to the contents of the textbook. There will be quizzes.</p> <p>テキストの6ユニットを15回で終える予定なので、1ユニットを2回で終えることになる。随時クイズを行う。</p> <p>第1回 Introduction 第2～3回 Unit 7 第4～5回 Unit 8 第6～7回 Unit 9 第8回 Review Unit 7～9 第9～10回 Unit 10 第11～12回 Unit 11 第13～14回 Unit 12 第15回 Review Unit 10～12</p>		
評価方法 (合計100%)	class participation	授業への参加態度	40%
	quizzes	クイズ	40%
	evaluation of achievement	到達度評価	20%
失格条件	<p>Absence from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. Coming to class 1 to 20 minutes late is counted as "lateness." Three latenesses equal one absence.</p> <p>前期の授業のうち、8回もしくはそれ以上欠席したものは失格する。20分以上の遅刻は欠席と見なす。また3回の遅刻を1回の欠席と計算する。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. (2hours) At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. (2hours)</p> <p>予習として、知らない単語の意味を辞書で調べる。学習範囲のCDを聞いてくる。(2時間) 復習として、家でもCDを聞いて理解し、音をまね、発音練習をすること。(2時間)</p>		
課題へのフィードバック	<p>After the review test in class, all the students will be informed about it.</p> <p>授業内テスト終了後、全体に向けてコメントします。</p>		
教科書	Four Corners Student's Book 1		
著者名	Jack C. Richards ・ David Bohlke		
出版社	Cambridge University Press		
参考書	University-level dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B03	期間	後期
授業科目名	英会話Ⅱ		
英訳科目名	English ConversationⅡ		
担当教員名	相馬 沙織		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	The course covers the four skills of English: listening, speaking, reading and writing. Students will also learn the importance of eye-contact and facial and bodily expressions in intercultural communication. 英語の4つの基本技能(聞く、話す、読む、書く)を学ぶ。また対話において、相手の目を見て話すことや、顔・身体で表現することの大切さを学ぶ。		
到達目標	The primary goal of this course is to develop students' communicative skills in English. 授業の第一の目標は、英語コミュニケーション能力を向上できることである。		
授業計画	第1回 Unit 10.Restaurants 第2回 Unit 10.Restaurants:Ordering 第3回 Unit 10.Restaurants:Short talk 第4回 Unit 11.Shopping 第5回 Unit 11.Shopping:Shopping places 第6回 Unit 11.Shopping:Opinions 第7回 Unit 12.Strengths and weaknesses 第8回 Unit 12.Strengths and weaknesses:abilities 第9回 Unit 12.Strengths and weaknesses:Personal skills 第10回 Unit 13.Places 第11回 Unit 13.Places:features 第12回 Unit 13.Places:Hometown 第13回 Unit 14.Vacations 第14回 Unit 14.Vacations:travel plans 第15回 Unit 14.Vacations:plans 第16回 Unit 15.Experiences 第17回 Unit 15.Experiences:feelings 第18回 Unit 15.Experiences:Memories 第19回 Unit 16.Opinions 第20回 Unit 16.Opinions:comparisons 第21回 Unit 16.Opinions:relax 第22回 Unit 17.Health and Illness 第23回 Unit 17.Health and Illness:health problems 第24回 Unit 17.Health and Illness:habits 第25回 Unit 18.The Future 第26回 Unit 18.The Future:Dreams 第27回 Unit 18.The Future:Future plans 第28回 Review Unit 10~14 第29回 Review Unit 15~18 第30回 Final Exam (到達度確認テスト)		
評価方法 (合計100%)	Class participation 授業への参加態度 30% Quizzes and Assignments 小テスト・課題 20% Evaluation of achievement 到達度評価 50%		
失格条件	Absences from 8 or more classes will result in denial of credit. Students who are more than 20 minutes late are considered absent. 8回またはそれ以上の欠席で失格となる。20分以上の遅刻は欠席とみなす。		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	At home students should consult their dictionary and listen to the class CD as preparation. (2hours) At home they should listen to the CD and copy the pronunciation as a review. (2hours) 予習として、知らない意味の単語を辞書で調べ、学習範囲のCDを聞いてくること。(2時間) 復習として、自習用CDを聞いて発音を再度確認し、練習すること。(2時間)		
課題へのフィード バック	I will return students' homework individually and give comments to all the students in class. 課題提出後、コメントをつけて個別に返却し、また、全体に向けコメントします。		
教科書	Free Talking-Basic Strategies for Building Communication		
著者名	Matthew Guay、Lauren Eldevkist、長谷川由貴		
出版社	センゲージラーニング株式会社		
参考書	University-level Dictionaries 大学レベルの英英、英和、和英辞書		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-070

ナンバリング	CC300A06	期間	前期
授業科目名	英語 I		
英訳科目名	English I		
担当教員名	飯盛 康史		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	主にTOEICテスト対策を目的とした教材を用いて、TOEIC試験に主眼を置いた授業を行う。ただ講義を行うだけでなく実際に文を読み上げる、訳を行うなどの内容も取り入れ、総合的な英語力の養成を目的とする。		
到達目標	TOEICテスト350程度の英語力を身につけ、日常的な英語の文章やスピーチに対応できる。		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN 授業の説明を行います。履修者は必ず出席してください。</p> <p>第2回 Unit 1前半</p> <p>第3回 Unit 1後半</p> <p>第4回 Unit 2前半</p> <p>第5回 Unit 2後半</p> <p>第6回 Unit 3前半</p> <p>第7回 Unit 3後半</p> <p>第8回 Unit 4前半</p> <p>第9回 Unit 4後半</p> <p>第10回 Unit 5前半</p> <p>第11回 Unit 5後半</p> <p>第12回 Unit 6前半</p> <p>第13回 Unit 6後半</p> <p>第14回 Unit 7前半</p> <p>第15回 Unit 7後半</p> <p>第16回 Unit 8前半</p> <p>第17回 Unit 8後半</p> <p>第18回 Unit 9前半</p> <p>第19回 Unit 9後半</p> <p>第20回 Unit 10前半</p> <p>第21回 Unit 10後半</p> <p>第22回 Unit 11前半</p> <p>第23回 Unit 11後半</p> <p>第24回 Unit 12前半</p> <p>第25回 Unit 12後半</p> <p>第26回 Unit 13前半</p> <p>第27回 Unit 13後半</p> <p>第28回 Unit 14前半</p> <p>第29回 Unit 14後半</p> <p>第30回 前期内容のまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>試験 60%</p> <p>小テスト (毎回、単語テストを実施します) 20%</p> <p>課題 (その回の内容に関連した課題を課します) 20%</p>		
失格条件	8回以上の理由なき欠席、および試験を受けないものは失格となります。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>毎回、辞書で分からない単語は調べておくなどの準備が必要です。(予習目安：1時間)</p> <p>また、章が終わっても必ず問題を復習する必要があります。特にリスニングに関しては授業で一度聞いただけで学習できるものではありませんので、指定のサイトより音声ダウンロードし、復習するようにしてください。(復習目安：3時間)</p>		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST INTRO		
著者名	水本篤・Mark D. Stafford		
出版社	桐原書店		
参考書			
その他	原則として、20名以下の限定クラスとする。 TOEIC学内団体試験を必ず受験すること。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A06	期間	前期
授業科目名	英語 I		
英訳科目名	English I		
担当教員名	野口 昌子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	英文法の基礎を固め、英語でのコミュニケーション能力の向上を目的とします。練習問題だけでなく、パラグラフリーディングも取り入れ読解力の向上も目指します。		
到達目標	基礎的な英文法が理解でき、表現を正しく使うことができる。 パラグラフリーディングに慣れ、内容をよりよく読みとれることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 履修者は必ず出席してください 第2回 Unit 1 名詞 前半 第3回 Unit 1 名詞 後半 第4回 Unit 2 冠詞 前半 第5回 Unit 2 冠詞 後半 第6回 Unit 3 代名詞 (1)前半 第7回 Unit 3 代名詞 (1)後半 第8回 Unit 4 代名詞 (2)前半 第9回 Unit 4 代名詞 (2)後半 第10回 Unit 5 時制 前半 第11回 Unit 5 時制 後半 第12回 Unit 6 進行形 前半 第13回 Unit 6 進行形 後半 第14回 Unit 1～Unit 6 復習 第15回 Unit 7 完了形 (1)前半 第16回 Unit 7 完了形 (1)後半 第17回 Unit 8 完了形 (2)前半 第18回 Unit 8 完了形 (2)後半 第19回 Unit 9 助動詞 (1)前半 第20回 Unit 9 助動詞 (1)後半 第21回 Unit 10 助動詞 (2)前半 第22回 Unit 10 助動詞 (2)後半 第23回 Unit 11 態 (1)前半 第24回 Unit 11 態 (1)後半 第25回 Unit 12 態 (2)前半 第26回 Unit 12 態 (2)後半 第27回 Unit 13 不定詞 (1)前半 第28回 Unit 13 不定詞 (1)後半 第29回 Unit 7～Unit 13の復習 第30回 前期のまとめ 達成度の確認		
評価方法 (合計100%)	試験 50% 提出課題・小テスト 20% 授業への参加態度・内容 30%		
失格条件	8回を超える欠席をした場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回、辞書で分からない単語は調べておくなどの準備が必要です。(予習目安：1時間) 授業の後は必ず問題を復習し、間違えたり解らなかつたところはそのままにせず、しっかり確認し直します。パラグラフは読み誤りがないか注意して、ゆっくり読み直します。(復習目安：3時間)		
課題へのフィードバック	提出課題や小テストは、次回の授業でコメントをつけて個別に返却します。		
教科書	Fundamental English Grammar with Short Readings 読解力につなげるコア英文法		
著者名	福井 慶一郎/山中 マーガレット/北山 長貴		
出版社	朝日出版社		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A06	期間	前期
授業科目名	英語 I		
英訳科目名	English I		
担当教員名	西垣 有夏		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本授業ではテキスト中心に授業を進めていくが、英検やTOEICといった検定試験についても解説する。テキスト本文の重要単語・熟語を用いた英作文に取り組むことで語彙を増やし、文法説明を取り入れながら精読することによって正確に英文を読み進める実力を養う。語学には反復学習が欠かせないので定期的に復習する。		
到達目標	1.文法事項の理解、語彙を確認して英文構造を把握し、英文を正しく読み進めることができる。 2.英単語についてはそれらの意味の理解にとどまらず、単語を利用して英作文ができる。		
授業計画	以下に授業計画を記すが、学生の理解度によって変更する可能性があるなのでその都度担当者の指示を聞くように。 第1回 Unit1:From Outer Space, To Your Space—Keywords and Keyphrases 第2回 Unit1:From Outer Space, To Your Space—Writing 第3回 Unit1:From Outer Space, To Your Space—Reading 第4回 Unit1:From Outer Space, To Your Space—Exercises 第5回 Unit2:Injuries Hurt Football's Popularity—Keywords and Keyphrases 第6回 Unit2:Injuries Hurt Football's Popularity—Writing 第7回 Unit2:Injuries Hurt Football's Popularity—Reading 第8回 Unit2:Injuries Hurt Football's Popularity—Exercises 第9回 Unit3:Gaining Popularity Fast—Keywords and Keyphrases 第10回 Unit3:Gaining Popularity Fast—Writing 第11回 Unit3:Gaining Popularity Fast—Reading 第12回 Unit3:Gaining Popularity Fast—Exercises 第13回 Unit4:The Klondike Gold Rush—Keywords and Keyphrases 第14回 Unit4:The Klondike Gold Rush—Writing 第15回 Unit4:The Klondike Gold Rush—Reading 第16回 Unit4:The Klondike Gold Rush—Exercises 第17回 Unit1～Unit4までの復習 第18回 Unit5:Are You Shy?—Keywords and Keyphrases 第19回 Unit5:Are You Shy?—Writing 第20回 Unit5:Are You Shy?—Reading 第21回 Unit5:Are You Shy?—Exercises 第22回 Unit6:Pet Profits—Keywords and Keyphrases 第23回 Unit6:Pet Profits—Writing 第24回 Unit6:Pet Profits —Reading 第25回 Unit6:Pet Profits—Exercises 第26回 Unit7:Eating the Mediterranean Way—Keywords and Keyphrases 第27回 Unit7:Eating the Mediterranean Way—Writing 第28回 Unit7:Eating the Mediterranean Way—Reading 第29回 Unit7:Eating the Mediterranean Way—Exercises 第30回 Unit5～Unit7までの復習、期末試験の説明		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度15%、課題プリント25%、定期試験60%		
失格条件	欠席8回で失格、なお遅刻3回で欠席1回とカウントする。遅刻は授業開始30分以内、それ以降は欠席とする。なお、クラブの公式戦、教育実習、その他やむを得ない事情があると判明できる場合は証明書提出で公欠とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回授業終了時に次回の授業について説明するのであらかじめ辞書で単語を調べて読んでおくこと。(予習時間1時間) 復習を兼ねた課題プリントを配布するので次回の授業時に仕上げ提出すること。また、課題プリントを仕上げることだけに専念せず、授業で読んだテキストの箇所を読み直しておくこと。(復習時間3時間)		
課題へのフィード バック	毎回の授業で、その時間で行った授業内容に関する復習を兼ねた課題プリントを配布し、次の時間に提出してもらう。課題プリントはチェックはもちろん、一人ひとりにコメントを記入して返却する。		
教科書	Comprehensive Reading: Getting Key Skills through 15 Topics		
著者名	Tom Dillon, Michael Schauerte, Koji Nishiya		
出版社	音羽書房鶴見書店		
参考書	必ず授業では英和辞典を持ってくること。		
その他	TOEICや英検などの資格に関心のある学生は個別に相談に応じる。各種英語関係の検定試験の公式問題集や過去問題集は各自で購入すること。テキスト中心で授業を進めるが、合間に資格検定についての説明も取り入れる。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B04	期間	後期
授業科目名	英語Ⅱ		
英訳科目名	EnglishⅡ		
担当教員名	飯盛 康史		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	前期よりやや高度のテキストを用い、TOEIC試験に主眼を置いた授業を行う。ただ講義を行うだけではなく実際に文を読み上げる、訳を行うなどの内容も取り入れ、総合的な英語力の養成を目的とする。		
到達目標	TOEICテスト400程度の英語力を身につけ、日常的な英語の文章やスピーチに対応できる。		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN 授業の説明を行います。履修者は必ず出席してください。</p> <p>第2回 Unit 1前半</p> <p>第3回 Unit 1後半</p> <p>第4回 Unit 2前半</p> <p>第5回 Unit 2後半</p> <p>第6回 Unit 3前半</p> <p>第7回 Unit 3後半</p> <p>第8回 Unit 4前半</p> <p>第9回 Unit 4後半</p> <p>第10回 Unit 5前半</p> <p>第11回 Unit 5後半</p> <p>第12回 Unit 6前半</p> <p>第13回 Unit 6後半</p> <p>第14回 Unit 7前半</p> <p>第15回 Unit 7後半</p> <p>第16回 Unit 8前半</p> <p>第17回 Unit 8後半</p> <p>第18回 Unit 9前半</p> <p>第19回 Unit 9後半</p> <p>第20回 Unit 10前半</p> <p>第21回 Unit 10後半</p> <p>第22回 Unit 11前半</p> <p>第23回 Unit 11後半</p> <p>第24回 Unit 12前半</p> <p>第25回 Unit 12後半</p> <p>第26回 Unit 13前半</p> <p>第27回 Unit 13後半</p> <p>第28回 Unit 14前半</p> <p>第29回 Unit 14後半</p> <p>第30回 後期内容のまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>試験 60%</p> <p>小テスト (毎回、単語テストを実施します) 20%</p> <p>課題 (その回の内容に関連した課題を課します) 20%</p>		
失格条件	8回以上の理由なき欠席、および試験を受けないものは失格となります。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>毎回、辞書で分からない単語は調べておくなどの準備が必要です。(予習目安：1時間)</p> <p>また、章が終わっても必ず問題を復習する必要があります。特にリスニングに関しては授業で一度聞いただけで学習できるものではありませんので、指定のサイトより音声ダウンロードし、復習するようにしてください。(復習目安：3時間)</p>		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 1 Goal 500		
著者名	水本篤・Mark D. Stafford		
出版社	桐原書店		
参考書			
その他	原則として、20名以下の限定クラスとする。 TOEIC学内団体試験を必ず受験すること。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B04	期間	後期
授業科目名	英語Ⅱ		
英訳科目名	EnglishⅡ		
担当教員名	野口 昌子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	英文法の基礎を固め、英語でのコミュニケーション能力の向上を目的とします。練習問題だけでなく、パラグラフリーディングも取り入れ読解力の向上も目指します。		
到達目標	基礎的な英文法が理解でき、表現を正しく使うことができる。 パラグラフリーディングに慣れ、内容をよりよく読みとれることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション Unit 1～Unit 13の復習 第2回 Unit 14 不定詞 (2)前半 第3回 Unit 14 不定詞 (2)後半 第4回 Unit 15 分詞 (1)前半 第5回 Unit 15 分詞 (1)後半 第6回 Unit 16 分詞 (2)前半 第7回 Unit 16 分詞 (2)後半 第8回 Unit 17 動名詞 (1)前半 第9回 Unit 17 動名詞 (1)後半 第10回 Unit 18 動名詞 (2)前半 第11回 Unit 18 動名詞 (2)後半 第12回 Unit 19 形容詞・副詞 前半 第13回 Unit 19 形容詞・副詞 後半 第14回 Unit 14～Unit 19 復習 第15回 Unit 20 比較 (1)前半 第16回 Unit 20 比較 (1)後半 第17回 Unit 21 比較 (2)前半 第18回 Unit 21 比較 (2)後半 第19回 Unit 22 前置詞 前半 第20回 Unit 22 前置詞 後半 第21回 Unit 23 関係詞 (1)前半 第22回 Unit 23 関係詞 (1)後半 第23回 Unit 24 関係詞 (2)前半 第24回 Unit 24 関係詞 (2)後半 第25回 Unit 25 仮定法 (1)前半 第26回 Unit 25 仮定法 (1)後半 第27回 Unit 26 仮定法 (2)前半 第28回 Unit 26 仮定法 (2)後半 第29回 Unit 20～Unit 26の復習 第30回 後期のまとめ 達成度の確認		
評価方法 (合計100%)	試験 50% 提出課題・小テスト 20% 授業への参加態度・内容 30%		
失格条件	8回を超える欠席をした場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回、辞書で分からない単語は調べておくなどの準備が必要です。(予習目安：1時間) 授業の後は必ず問題を復習し、間違えたり解らなかったところはそのままにせず、しっかり確認し直します。パラグラフは読み誤りがないか注意して、ゆっくり読み直します。(復習目安：3時間)		
課題へのフィードバック	提出課題や小テストは、次回の授業でコメントをつけて個別に返却します。		
教科書	Fundamental English Grammar with Short Readings 読解力につなげるコア英文法		
著者名	福井 慶一郎/山中 マーガレット/北山 長貴		
出版社	朝日出版社		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B04	期間	後期
授業科目名	英語Ⅱ		
英訳科目名	EnglishⅡ		
担当教員名	西垣 有夏		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	基本的に授業運営は前期開講の英語Ⅰ(3)と同様だが、本授業では精読だけでなく多読にも力を入れるので授業ペースは英語Ⅰ(3)より速くなる。英文を正確に読み進める実力を養う。語学には反復学習が肝心なので定期的に復習する。		
到達目標	1.多読を通じて英文を正確に読むことができる。 2.英単語・熟語についてはそれらの意味の理解にとどまらず、その語句を利用して英作ができる。		
授業計画	以下に授業計画を記すが、学生の理解度によって変更する可能性があるなのでその都度担当者の指示を聞くように。 第1回 Unit8:New York as Artistic Hub—Reading 第2回 Unit8:New York as Artistic Hub—Exercises 第3回 Unit8:New York as Artistic Hub—Writing 第4回 Unit9:John Dillinger, Public Enemy No.1—Reading 第5回 Unit9:John Dillinger, Public Enemy No.1—Exercises 第6回 Unit9:John Dillinger, Public Enemy No.1—Writing 第7回 Unit8, 9の復習 第8回 Unit10:The Attraction of Kealakekua Bay—Reading 第9回 Unit10:The Attraction of Kealakekua Bay—Exercises 第10回 Unit10:The Attraction of Kealakekua Bay—Writing 第11回 Unit11:Cyber-Bullying—Reading 第12回 Unit11:Cyber-Bullying—Exercises 第13回 Unit11:Cyber-Bullying—Writing 第14回 Unit10,11の復習 第15回 Unit8～Unit11までの復習 第16回 Unit12:A Job for Fast Talkers and Fast Thinkers—Reading 第17回 Unit12:A Job for Fast Talkers and Fast Thinkers—Exercises 第18回 Unit12:A Job for Fast Talkers and Fast Thinkers—Writing 第19回 Unit13:Graphic Novels—Reading 第20回 Unit13:Graphic Novels—Exercises 第21回 Unit13:Graphic Novels—Writing 第22回 Unit12,13の復習 第23回 Unit14:Canal Houses—Reading 第24回 Unit14:Canal Houses—Exercises 第25回 Unit14:Canal Houses—Writing 第26回 Unit15:Road Rage—Reading 第27回 Unit15:Road Rage—Exercises 第28回 Unit15:Road Rage—Writing 第29回 Unit14,15の復習 第30回 Unit12～Unit15の復習、期末試験の説明		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度15%、課題プリント25%、定期試験60%		
失格条件	欠席8回で失格、なお遅刻3回で欠席1回とカウントする。遅刻は授業開始30分以内、それ以降は欠席とする。なお、クラブの公式戦、教育実習、その他やむを得ない事情があると判明できる場合は証明書提出で公欠とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回授業終了時に次回の授業について説明するのであらかじめ辞書で単語を調べて読んでおくこと。(予習時間1時間) 復習を兼ねた課題プリントを配布するので次回の授業時に仕上げ提出すること。また、課題プリントを仕上げることだけに専念せず、授業で読んだテキストの箇所を読み直しておくこと。(復習時間3時間)		
課題へのフィード バック	毎回の授業で、その時間で行った授業内容に関する復習を兼ねた課題プリントを配布し、次の時間に提出してもらう。課題プリントはチェックはもちろん、一人ひとりにコメントを記入して返却する。		
教科書	Comprehensive Reading: Getting Key Skills through 15 Topics		
著者名	Tom Dillon, Michael Schauerte, Koji Nishiya		
出版社	音羽書房鶴見書店		
参考書	必ず授業では英和辞典を持ってくること。		
その他	TOEICや英検などの資格に関心のある学生は個別に相談に応じる。各種英語関係の検定試験の公式問題集や過去問題集は各自で購入すること。テキスト中心で授業を進めるが、合間に資格検定についての説明も取り入れる。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A07	期間	前期
授業科目名	ドイツ語 I		
英訳科目名	German I		
担当教員名	田島 昭洋		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	本科目は、ドイツ語を初めて学習する学生向けられたものである。基本的な文法をもとに、ドイツ語理解（読解、聴解）、ドイツ語表現（会話、作文）をバランスよく学び、ドイツ語能力の基礎を身につけ、それによりまた、自国の客観的な理解を深めていくことを目標とする。授業は、教科書（および補助プリント）を中心として進む。合わせて、視聴覚教材（CDやDVD）を用いたり担当者の体験談や拙唱をこころみたりしながら、音楽や演劇、映画、文学、食文化などに広く触れることをとおして感覚的により深く、語学学習にとどまらないドイツ語圏の文化と社会を学ぶ。		
到達目標	1.読解、聴解において初歩的な文章を大まかに理解できるようにする。 2.会話と作文において動詞の現在形を使って基礎的なコミュニケーションがはかれるようにする。 3.ドイツ語圏の文化と社会についての知識を深める。		
授業計画	第1回 ガイダンスとアンケート、ドイツ語の紹介 第2回 文字と発音、あいさつ 第3回 人称の種類 第4回 動詞の現在人称変化① 第5回 性の前につける敬称 第6回 決定疑問文 第7回 理解度の確認 第8回 名詞の性 第9回 冠詞と名詞の格変化 第10回 duとSieの使い分け 第11回 人称代名詞の格変化 第12回 理解度の確認 第13回 不定冠詞 第14回 所有冠詞 第15回 動詞の現在人称変化② 第16回 理解度の確認 第17回 名詞の複数形 第18回 命令形① 第19回 否定表現 第20回 理解度の確認 第21回 命令形② 第22回 前置詞 第23回 zu不定詞 第24回 否定冠詞kein 第25回 理解度の確認 第26回 形容詞① 第27回 形容詞② 第28回 形容詞③ 第29回 理解度の確認 第30回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	本授業の意義を理解し、習熟度（学習内容の理解度と到達度）、積極性（授業への参加度、自主的な発表など）を担当者が総合的に判断する。 授業参加態度（出席と参加の度合）：40% 到達度（試験）：30% 理解度（小テスト、課題提出、発表）：30%		
失格条件	(次のいずれかに該当すれば失格となるので注意されたい) 1.出席回数3分の2以上に満たない場合 2.欠席が連続3回になった場合 30分以上の遅刻は欠席とし、30分までの遅刻は3回で1回の欠席とする。 (公共交通機関の遅延や演奏会出演などやむをえない特別な場合を除く。交通機関の遅延の場合は教室に入り次第その旨報告すること。演奏会出演の場合は事前に連絡を入れること。) 3.授業の理解度と到達度の確認ができなかった場合（小テストと試験の欠席者）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	初めて学ぶ外国語は感覚が身に付くまでに時間と努力を要します。準備学習においては予習よりも復習に力を入れることが大事です。（予習・復習を合わせて2時間）		
課題へのフィード バック	・準備学習用課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。 ・小テストは授業時間内に返却し、解説します。 ・授業内での個別発表の取り組みに対して個別にコメントします。		
教科書	楽しいドイツ語の旅 ― ペア練習で学ぶ初級ドイツ語 ―		
著者名	神竹道士・田島昭洋		
出版社	朝日出版社		
参考書	第1回授業時に「すすめる辞書」（とあまりお勧めしない辞書）を紹介します。特に指定した辞書ではなくてもかまわないが、独和辞典は必携なので、各自、毎回用意しておくように。 辞書と教科書を含めた準備物（プリントなど）に関しては、最初のガイダンスで説明します。		
その他	ドイツ語は学習初期に覚える規則が多い言語です。その規則はその後新しい言葉のきまり（文法）を学習するたびに应用でき、面白くなってきます。とりわけ「基礎」を大事にして、前進しながらもくりかえし基本に立ちかえることを心がけましょう。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B05	期間	後期
授業科目名	ドイツ語Ⅱ		
英訳科目名	GermanⅡ		
担当教員名	田島 昭洋		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>本科目は、ドイツ語Ⅰの単位取得者向けられたものである。基本的な文法をもとに、ドイツ語理解（読解、聴解）、ドイツ語表現（会話、作文）をバランスよく学び、日常生活に必要なドイツ語能力の基礎を身につけることを目標とする。授業は、教科書（および補助プリント）を中心として進む。合わせて、視聴覚教材（CDやDVD）を用いたり担当者の体験談や拙唱をこころみたりしながら、音楽や演劇、映画、文学、食文化、（本場と言われるドイツの）クリスマスに広く触れることをとおして感覚的により深く、語学学習にとどまらないドイツ語圏の文化と社会を学ぶ。</p>		
到達目標	<p>1.読解、聴解において平易な文章を大まかに理解できるようにする。 2.会話と作文において基礎的なコミュニケーションがはかれるようにする。 3.上記1.2を踏まえて、ドイツ語圏で（一人でも）旅行と生活ができるドイツ語運用能力を目指し、異文化理解を養う。</p>		
授業計画	<p>第1回 前期の復習① 第2回 理解度の確認 第3回 前期の復習② 第4回 理解度の確認 第5回 比較表現 第6回 語順 第7回 理解度の確認 第8回 話法の助動詞 第9回 従属接続詞① 第10回 分離動詞 第11回 理解度の確認 第12回 動詞の3基本形 第13回 過去形 第14回 従属接続詞② 第15回 理解度の確認 第16回 現在完了形① 第17回 現在完了形② 第18回 再帰動詞 第19回 理解度の確認 第20回 関係代名詞 第21回 関係代名詞と指示代名詞 第22回 理解度の確認 第23回 受動文 第24回 理解度の確認 第25回 接続法第1式 第26回 理解度の確認 第27回 接続法第2式① 第28回 接続法第2式② 第29回 理解度の確認 第30回 到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>本授業の意義を理解し、習熟度（学習内容の理解度と到達度）、積極性（授業への参加度、自主的な発表など）を担当者が総合的に判断する。 授業参加態度（参加状況）：40% 到達度（試験）：30% 理解度（小テスト、課題提出、発表）：30%</p>		
失格条件	<p>（次のいずれかに該当すれば失格となるので注意されたい） 1.出席回数が3分の2以上に満たない場合 2.欠席が連続3回になった場合 30分以上の遅刻は欠席とし、30分までの遅刻は3回で1回の欠席とする。 （公共交通機関の遅延や演奏会出演などやむをえない特別な場合を除く。交通機関の遅延の場合は教室に入り次第その旨報告すること。演奏会出演の場合は事前に連絡を入れること。） 3.授業の理解度と到達度の確認ができなかった場合（小テストと試験の欠席者）</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>初めて学ぶ外国語は感覚が身に付くまでに時間と努力を要します。準備学習においては予習よりも復習に力を入れることが大事です。（予習・復習を合わせて2時間）</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・準備学習用課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。 ・小テストは授業時間内に返却し、解説します。 ・授業内での個別発表の取り組みに対して個別にコメントします。 		
教科書	楽しいドイツ語の旅 ― ペア練習で学ぶ初級ドイツ語 ―		
著者名	神竹道士・田島昭洋		
出版社	朝日出版社		
参考書	独和辞典、教科書は授業に必ず持ってくること。		
その他	ドイツ語は学習初期に覚える規則が多い言語であり、ドイツ語Ⅰで学んだ規則はその後新しい言葉のきまり（文法）を学習するたびに応用でき、面白くなってきます。とりわけ「基礎」を大事にして、くりかえし基本に立ちかえりながら、新しい表現を学んで前へ進んでいきましょう。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A08	期間	前期
授業科目名	イタリア語 I		
英訳科目名	Italian I		
担当教員名	小松 寛明		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	アルファベットの読み方、つづり字の読み方の習得、文法の初歩の習得（名詞とその関連事項、基本動詞と一般動詞(現在形)）、基本語彙の習得が主な内容です。イタリアをめぐる諸情勢にも言及します。		
到達目標	発音についてはつづり字を正確に発音できることを目標とします。名詞とその関連領域（冠詞、形容詞）については男性形・女性形の区別、単数形・複数形の区別があるので、その判別ができることとします。最重要事項は動詞の活用です。動詞の活用で主語や時制が判断されるからです。なお、日本語の動詞などの「活用」とは意味が違い、英語ではあまり意識されません。まずは基本動詞（英語のbe動詞やhaveに相当）の変化と用法（現在形）、ついで一般動詞の変化と用法（現在形）を習得し、ごく基本的な内容を理解し表現できるようになることを到達点とします。		
授業計画	第1回 アルファベットの読み方① 第2回 アルファベットの読み方② 第3回 基本的なつづり字の読み方① 第4回 基本的なつづり字の読み方② 第5回 注意すべきつづり字の読み方① 第6回 注意すべきつづり字の読み方② 第7回 名詞の種類と変化① 第8回 名詞の種類と変化② 第9回 冠詞の種類と変化① 第10回 冠詞の種類と変化② 第11回 主語の代名詞、基本動詞（essere）の変化と用法(現在形) ①-1 第12回 主語の代名詞、基本動詞（essere）の変化と用法(現在形) ②-2 第13回 形容詞の変化と用法① 第14回 形容詞の変化と用法② 第15回 基本動詞（avere）の変化と用法(現在形)① 第16回 基本動詞（avere）の変化と用法(現在形)② 第17回 一般動詞の変化と用法(現在形) ① 第18回 一般動詞の変化と用法(現在形) ② 第19回 注意すべき一般動詞の変化と用法(現在形) ①-1 第20回 注意すべき一般動詞の変化と用法(現在形) ①-2 第21回 注意すべき一般動詞の変化と用法(現在形) ②-1 第22回 注意すべき一般動詞の変化と用法(現在形) ②-2 第23回 不規則動詞（現在形）①-1 第24回 不規則動詞（現在形）①-2 第25回 不規則動詞（現在形）②-1 第26回 不規則動詞（現在形）②-2 第27回 不規則動詞（現在形）③-1 第28回 不規則動詞（現在形）③-2 第29回 時刻の表現① 第30回 時刻の表現②		
評価方法 (合計100%)	前期学科試験（40%） 授業中の小テスト（30%） 課題など（30%）		
失格条件	前期学科試験、授業中に行う小テストを受験しなかった場合、課題の提出がなかった場合。小テストと課題は、受験指定日、提出締め切り期日より遅れて受験・提出の場合には減点します。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業の復習は各回徹底すること。項目ごとに小テストを行い、課題提出を求めます。予習（単語調べなど）と課題に毎週1時間30分、復習に2時間30分を目安とすること。辞書や参考書は大学図書館や公共図書館でも利用できます。各種情報端末も利用可能ですが、情報が膨大過ぎたり、不適切なものも相当見受けられるので、警戒してください。		
課題へのフィードバック	課題は添削の上、評価を記載し解答例を付して返却します。小テストは採点の上、解答（配点を明示）を付して返却します。いずれも授業内で復習・自己点検をしていただきます。		
教科書	『イタリアーノ・イタリアーノ』		
著者名	マッテオ・カスターニャ、吉富 文		
出版社	朝日出版社		
参考書	秋山余思監修『フリーモ伊和辞典・和伊付き』（白水社）		
その他	B5(普通のノートの大きさ)のファイルノートを用意してください。（応用問題、課題のプリント、単語・表現集のプリントの保管に使用します。）		
備考	なし		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B06	期間	後期
授業科目名	イタリア語Ⅱ		
英訳科目名	ItalianⅡ		
担当教員名	小松 寛明		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	イタリア語には過去時制が3つありますが、このうち近過去と半過去とを取り上げて、現在形を含めて時制の使い分けを徹底して指導します。日本文化圏における「時」のとらえ方とは異なるからです。日常的な範囲の内容を理解し、かつ表現できる程度までの文法、単語・語彙の習得を目標とします。		
到達目標	動詞についてはまず補助動詞（「…出来る」「…したい」「…すべきだ」のように言えば「気持ち」を加える表現）を習得します。ついで再帰動詞と一般的な動詞との区別（例えば「起こす」と「起きる」違い）ができるようになることとします。時制については過去時制が重要です。過去の事柄をどのように捉えるかに違いがあるからです。（「近過去」と「半過去」）動詞の変化を含めて、この違いを理解し使いこなせることを最大の目標とします。発音については文の抑揚を意識して文を聞き取り表現できることを到達点とします。		
授業計画	第1回 二重子音について① 第2回 二重子音について② 第3回 補助動詞①-1 第4回 補助動詞①-2 第5回 補助動詞②-1 第6回 補助動詞②-2 第7回 再帰動詞①-1 第8回 再帰動詞②-2 第9回 近過去①-1 第10回 近過去①-2 第11回 近過去②-1 第12回 注意すべき近過去① 第13回 注意すべき近過去② 第14回 近過去②-2 第15回 半過去①-1 第16回 半過去①-2 第17回 半過去②-1 第18回 半過去②-2 第19回 時制（現在形・近過去・半過去）の使い分け①-1 第20回 時制（現在形・近過去・半過去）の使い分け①-2 第21回 過去時制（現在形・近過去・半過去）の使い分け②-1 第22回 過去時制（現在形・近過去・半過去）の使い分け②-2 第23回 直接目的語代名詞①-1 第24回 直接目的語代名詞①-2 第25回 直接目的語代名詞②-1 第26回 直接目的語代名詞②-2 第27回 命令法① 第28回 命令法② 第29回 比較表現① 第30回 比較表現②		
評価方法 (合計100%)	後期学科試験（40%） 授業中の小テスト（30%） 課題など（30%）		
失格条件	後期学科試験、授業中に行う小テストを受験しなかった場合、課題の提出がなかった場合。小テストと課題は、受験指定日、提出締め切り日より遅れて受験・提出の場合には減点します。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業の復習は各回徹底すること。項目ごとに小テストを行い、課題提出を求めます。予習（単語調べなど）と課題に毎週1時間30分、復習に2時間30分を目安とすること。辞書や参考書は大学図書館や公共図書館でも利用できます。各種情報端末も利用可能ですが、情報が膨大過ぎたり、不適切な解説や間違いも相当見受けられるので、警戒してください。		
課題へのフィード バック	課題は添削の上、評価を記載し解答例を付して返却します。小テストは採点の上、解答（配点を明示）を付して返却します。いずれも授業内で復習・自己点検をしていただきます。		
教科書	『イタリアーノ・イタリアーノ』（イタリア語Ⅰと同じ）		
著者名	マッテオ・カスターニャ、吉富 文		
出版社	朝日出版社		
参考書	秋山余思監修『プリーモ伊和辞典・和伊付き』（白水社）		
その他	B5(普通のノートの大きさ)のファイルノートを用意してください。(応用問題、課題プリント、単語・表現集のプリントの保管に使用します。)		
備考	なし		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A09	期間	前期
授業科目名	フランス語 I		
英訳科目名	French I		
担当教員名	宮脇 玲奈		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3	◎	ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	あいさつや自己紹介などの基本的な日常のフランス語会話を身につけることを中心に学びます。各授業でペアワークを取り入れ、会話の中からフランス語を習得することを目指します。		
到達目標	実用フランス語能力試験5級程度のフランス語運用能力を身につけること		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン、アルファベットの読み方 第2回 アルファベットの読み方・フランス語のあいさつ 第3回 自己紹介の仕方 第4回 元気かどうか尋ねる表現・数字 (0~20) 第5回 Lesson1のまとめ (まとめでは、その課で習った表現を使ってペアワークをします) 第6回 自分の住んでいるところを伝える表現 第7回 職業・数字(21~30) 第8回 Lesson2のまとめ 第9回 国籍と言語 第10回 「私は~人です」「私は~語を話します」 第11回 数字(30~69)・注文の仕方 第12回 Lesson3のまとめ 第13回 身の回りのもの・「~を持っている」という表現 第14回 否定の表現・数字(0~69) 第15回 到達度の確認 第16回 兄弟・年齢 第17回 Lesson4のまとめ 第18回 「誰ですか?」と尋ねる表現と答え方 第19回 人物の描写の仕方 第20回 疑問詞・所有形容詞 第21回 Lesson5のまとめ 第22回 「これはなんですか?」の尋ね方と答え方 第23回 「~はどこですか?」の尋ね方と答え方 第24回 数字(70~100)・電話番号の読み方 第25回 Lesson6のまとめ 第26回 好き嫌いの尋ね方と答え方1 第27回 「~があります、~がいます」の表現 第28回 Lesson7のまとめ 第29回 色と洋服 第30回 到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度：30% 小テスト：40% 到達度の確認：30%		
失格条件	授業全体の前半に4回、後半に4回を超えて理由もなく欠席した場合 (初習の言語は一度の欠席の影響がとても大きい)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	復習2時間。付属CDを使って、毎日音声を聞くことが望ましい。内容が大体把握できるようになれば、シャドーイングをすること。最終的には意味を理解した上で、文法上の誤りなく聞き取れるか確認するため、ディクテーションをすること。		
課題へのフィード バック	毎回小テストがあり、その都度小テストの間違ったところにコメントをする。 また、15回目には中間テストがあるが、16回目の授業では、中間テストの問題の解説をする。		
教科書	Café Français : nouveau		
著者名	Nicaolas Gaillard, Toyoko Kato, Takayuki Nakagawa, Florence Yoko Sudre, Shu Yanagishima		
出版社	朝日出版社		
参考書	なし		
その他	教科書は必ず購入すること (教科書がない場合は宿題などの平常点に大きく影響します) 毎週1度小テストがあり、必ず宿題が出されます。 新しい言語を学ぶ場合、一度の欠席で付いていけなくなってしまいます。 やむを得ない事情がある場合を除いて欠席しないこと。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B07	期間	後期
授業科目名	フランス語Ⅱ		
英訳科目名	FrenchⅡ		
担当教員名	宮脇 玲奈		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	前期に引き続き、基本的なフランス語の文法や表現を身につけます。また、各授業でペアワークをすることで、話せるフランス語を身につけます。		
到達目標	実用フランス語能力試験4級程度のフランス語運用能力を身につけること		
授業計画	<p>第1回 前期の復習：フランス語の文の作り方・読み方</p> <p>第2回 L8:色と洋服の復習・比較の表現</p> <p>第3回 L8:天気表現</p> <p>第4回 Lesson8のまとめ</p> <p>第5回 L9:「私は～をします」という表現・頻度</p> <p>第6回 L9:「朝食に～を取ります」という表現</p> <p>第7回 Lesson9のまとめ</p> <p>第8回 L10:「～へ行きましょう」の伝え方・曜日</p> <p>第9回 L10:「どのくらい時間がかかりますか?」という表現と答え方</p> <p>第10回 L10:疑問詞combien(どれくらい)の使い方</p> <p>第11回 Lesson10のまとめ</p> <p>第12回 L11:時間表現「～時に…します」・代名詞se coucherについて</p> <p>第13回 L11:時間表現「今何時ですか?」</p> <p>第14回 Lesson11のまとめ</p> <p>第15回 到達度の確認</p> <p>第16回 L12:「～を知っていますか?」という尋ね方・代名詞</p> <p>第17回 L12:自分のアルバイトについて話す</p> <p>第18回 Lesson12のまとめ</p> <p>第19回 L13:レストランでの注文の仕方</p> <p>第20回 L13:料理の感想を相手に伝える</p> <p>第21回 L13:複合過去形(avoir+過去分詞)</p> <p>第22回 L13:半過去形</p> <p>第23回 Lesson13のまとめ</p> <p>第24回 L14:代名詞onの使い方</p> <p>第25回 L14:複合過去形(tre+過去分詞)</p> <p>第26回 L14:複合過去形を使って冬休みの思い出を書く</p> <p>第27回 L14:半過去形を使って冬休みの思い出を書く</p> <p>第28回 L14:複合過去形と半過去形を使って冬休みの思い出を書く</p> <p>第29回 Lesson14のまとめ</p> <p>第30回 到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度：30% 小テスト：40% 到達度の確認：30%		
失格条件	授業全体の前半に4回、後半に4回を超えて理由もなく欠席した場合 (初習の言語は一度の欠席の影響がとても大きい)		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	復習2時間。付属CDを使って、毎日音声聞くことが望ましい。内容が大体把握できるようになれば、シャドーイングをすること。最終的には意味を理解した上で、文法上の誤りなく聞き取れるか確認するため、ディクテーションをすること。		
課題へのフィードバック	毎回小テストがあり、その都度小テストの間違ったところにコメントをする。 また、15回目には中間テストがあるが、16回目の授業では、中間テストの問題の解説をする。		
教科書	Café Français : nouveau		
著者名	Nicaolas Gaillard, Toyoko Kato, Takayuki Nakagawa, Florence Yoko Sudre, Shu Yanagishima		
出版社	朝日出版社		
参考書	なし		
その他	教科書は必ず購入すること(教科書がない場合は宿題などの平常点に大きく影響します) ※ただし、前期に購入済みの場合は購入の必要はありません 毎週1度小テストがあり、必ず宿題が出されます。 新しい言語を学ぶ場合、一度の欠席で付いていけなくなってしまいます。 やむを得ない事情がある場合を除いて欠席しないこと。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300A10	期間	前期
授業科目名	中国語 I		
英訳科目名	Chinese I		
担当教員名	張 煜		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	中国語学習における最初の難関ともいえる発音の学習を重視しながら、基本的な文法が身につくよう、学習を進めていく。この授業は初級中国語として位置づけられ、中国語の発音、単語、簡単な日常会話の確乎とした基礎造りを目指す。		
到達目標	1.中国語の音に慣れ、ピンインがついていれば中国語の文章を音読できる。 2.教室における教師の中国語による指示を聞いて理解できる。 3.自分に関する簡単な情報(姓名、年齢、居住地、所属団体、家族のことなど)を中国語で表現できる。 4.日常的な事柄を簡単な中国語で表現できる。		
授業計画	第1回 第1課 (声調、単母音) 第2回 第1課 (複母音) 第3回 第2課 (声母表,無気音と有気音、他) 第4回 第3課 (鼻音を伴う母音、他) 第5回 第4課 (声調変化、他) 第6回 復習 第7回 第5課 (本文の学習、練習) 第8回 第5課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第9回 第5課 (会話と単語) 第10回 第6課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第11回 第6課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第12回 第6課 (会話と単語) 第13回 第7課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第14回 第7課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第15回 第7課 (会話と単語) 第16回 復習 第17回 第8課 (本文の学習、練習) 第18回 第8課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第19回 第8課 (会話と単語) 第20回 第9課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第21回 第9課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第22回 第9課 (会話と単語) 第23回 第10課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第24回 第10課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第25回 第10課 (会話と単語) 第26回 第11課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第27回 第11課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第28回 第11課 (会話と単語) 第29回 総復習 第30回 到達度の確認 注：一年を通じて、「発音」と「基礎知識」、「自己紹介」「私の家族」「一日の生活」「趣味」「病気」「食事に行く」「スーパーに行く」「遊びに行く」「中国の観光スポット」「中国の交通」などの話題についての説明文、会話文、および翻訳について学ぶ。		
評価方法 (合計100%)	最終試験 (50%)、小テスト等 (20%)、授業への参加態度 (30%) などの各評価の合計により、総合的に判断する		
失格条件	次のいずれかに該当する場合、失格とする。 正当な理由がなく授業数の1/3以上欠席した場合 最終授業試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業の前に、前回学習した内容を確認し、その日学習する予定の箇所に目を通しておくこと。特に新出単語はチェックして、CD等で発音を確認しておくこと。(予習時間 1時間) ・学習したことは、できるだけその日のうちに復習しておこう。習った単語はピンインがなくても読めるように、また、漢字(簡体字)が正しく書けるように練習しておくこと。発音に関しては、テキスト付属のCDを使って繰り返し練習しよう。(復習時間 1時間) ・日頃から中国語を見たり聞いたりして慣れ親しみ、また中国に関連のあるものに対して、常に関心を持つことも大切である。		
課題へのフィード バック	小テストについては次回授業でコメント、解説する。 前期の期末試験については後期授業の初回でコメント、解説する。		
教科書	初級テキスト 日中いぶこみ広場		
著者名	相原茂・陳淑梅・飯田敦子		
出版社	朝日出版社		
参考書			
その他	2011年出版		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC300B08	期間	後期
授業科目名	中国語Ⅱ		
英訳科目名	ChineseⅡ		
担当教員名	張 焜		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	◎	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>1.中国語の音に慣れ、ピンインがついていれば中国語の文章を音読できる。 2.教室における教師の中国語による指示を聞いて理解できる。 3.自分に関する簡単な情報(姓名、年齢、居住地、所属団体、家族のことなど)を中国語で表現できる。 4.日常的な事柄を簡単な中国語で表現できる。</p>		
到達目標	<p>1.文章を朗読し、内容が正確に伝わるレベルまで中国語の発音に習熟する。 2.語句の意味と用法、文化や風俗に関する簡単な談話を聞いて理解できるようになると同時に、それらについて教師に中国語で質問できるようになる。 3.日常的な事柄を簡単な中国語で表現できるようになる。 4.短い文章を読んで大意を理解し、それを中国語で表現できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 前期の復習 第2回 第12課 (本文の学習、練習) 第3回 第12課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第4回 第12課 (会話と単語) 第5回 第13課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第6回 第13課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第7回 第13課 (会話と単語) 第8回 第14課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第9回 第14課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第10回 第14課 (会話と単語) 第11回 第15課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第12回 第15課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第13回 第15課 (会話と単語) 第14回 第16課 (前回の復習、本文の学習、練習) 第15回 第16課 (前回の復習、文法の学習、練習) 第16回 第16課 (会話と単語) 第17回 会話練習1 第18回 会話の話題に関して単語、言葉の練習 第19回 該話題の復習 第20回 会話練習2 第21回 会話の話題に関して単語、言葉の練習 第22回 該話題の復習 第23回 会話の練習3 第24回 会話の話題に関して単語、言葉の練習 第25回 該話題の復習 第26回 会話の練習4 第27回 会話の話題に関して単語、言葉の練習 第28回 該話題の復習 第29回 総復習 第30回 到達度の確認 注：一年を通じて、「発音」と「基礎知識」、「自己紹介」「私の家族」「一日の生活」「趣味」「病気」「食事に行く」「スーパーに行く」「遊びに行く」「中国の観光スポット」「中国の交通」などの話題についての説明文、会話文、および翻訳について学ぶ。</p>		
評価方法 (合計100%)	最終試験 (50%)、小テスト等 (20%)、授業への参加態度 (30%) などの各評価の合計により、総合的に判断する		
失格条件	次のいずれかに該当する場合、失格とする。 正当な理由がなく授業数の1/3以上欠席した場合 最終授業試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の前に、前回学習した内容を確認し、その日学習する予定の箇所に目を通しておくこと。特に新出単語はチェックして、CD等で発音を確認しておくこと。(予習時間 1時間) ・学習したことは、できるだけその日のうちに復習しておこう。習った単語はピンインがなくても読めるように、また、漢字(簡体字)が正しく書けるように練習しておくこと。発音に関しては、テキスト付属のCDを使って繰り返し練習しよう。(復習時間 1時間) ・日頃から中国語を見たり聞いたりして慣れ親しみ、また中国に関連のあるものに対して、常に関心を持つことも大切である。 		
課題へのフィードバック	小テストについては次回授業でコメント、解説する。		
教科書	初級テキスト 日中いぶこみ広場		
著者名	相原茂・陳淑梅・飯田敦子		
出版社	朝日出版社		
参考書			
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B03	期間	前期
授業科目名	市民性（シティズンシップ）育成論		
英訳科目名	Citizenship Education		
担当教員名	長谷川 精一、奥野 浩之、大橋 忠司、生駒 佳也		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>従来より、日本社会は均質性が高いとされ、近年では一部の人々によって、日本「固有」の美点を自画自賛するような説が声高に叫ばれている。しかし、そのような説とは逆に、社会的経済的变化の中で、日本社会には異文化の要素が入るとともに、地域的、社会的、経済的な格差が拡大し、社会の多様化、複合化が進んでいる。このような状況の下で、様々な背景をもつ人々が差別・偏見を許さない社会的公平への信念をもち、互いの人権・人格を尊重し合うことが、今後の社会を展望する上で不可欠である。地球規模で人類全体の状況を理解し考慮するユニバーサルな視点と、自分が今そこで生きる地域の状況を理解し考慮するローカルな視点との両方もち、複眼的な思考ができる市民の存在が重要となっているのである。</p> <p>本講義では、4人の教員によるオムニバス形式で授業を展開し、批判的思考に基づいて、真摯な対話を通じて新しい社会の形成に積極的に参加するという、能動的な意味での市民性をどのように育成していくべきかについて、受講生のみなさんと共に考えていきたい。</p>		
到達目標	<p>①市民性（シティズンシップ）とその育成に関する課題が理解できる。</p> <p>②社会的・倫理的責任を担う主体的・能動的な市民として、どのように行動するべきかを説明できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業のガイダンス（長谷川）</p> <p>第2回 現代的課題としての市民性（シティズンシップ）育成（長谷川）</p> <p>第3回 生涯学習者としての市民（生駒）</p> <p>第4回 地域社会構成者としての市民（生駒）</p> <p>第5回 生涯学習社会と地域社会への参加（生駒）</p> <p>第6回 市民としての社会参加：具体例から考える（生駒）</p> <p>第7回 日本国憲法における人権保障と市民性（奥野）</p> <p>第8回 日本国憲法の国民主権主義とポリティカル・リテラシーの育成（奥野）</p> <p>第9回 学校教育における市民性（シティズンシップ）育成（大橋）</p> <p>第10回 教科教育と市民性育成（大橋）</p> <p>第11回 「総合的な学習の時間」と市民性育成（大橋）</p> <p>第12回 「特別活動」と市民性育成（大橋）</p> <p>第13回 「特別の教科 道徳」と市民性育成（大橋）</p> <p>第14回 これからの教育への展望と市民性育成（大橋）</p> <p>第15回 授業のまとめ（長谷川）</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>提出課題60%</p> <p>授業への参加態度40%</p>		
失格条件	<p>①出席が授業回数の2/3を満たさない場合 (20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする)</p> <p>②私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>授業内容に基づいた、提出課題の作成を、十分な時間（大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間）をかけた取り組みを、（大学の1時間は45分として考えることとなっているため、180分）以上）をかけて取り組むこと。</p>		
課題へのフィード バック	<p>授業で課題へのフィードバックを行う。</p>		
教科書	<p>特定の教科書は用いず、必要に応じてプリント等を配布する。</p>		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>本授業では、講義形式に加えて、グループワークを行う。また、受講者の関心と理解度、受講生数に応じて計画を一部変更することがある。</p>		
備考	<p>教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（大橋）</p>		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B04	期間	前期
授業科目名	共生社会論		
英訳科目名	Inclusive Society		
担当教員名	沼田 潤、大橋 忠司、田中 敏正、奥 忠憲		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	人間は様々な文化的・社会的背景を有している。例えば、民族、使用言語、ジェンダー、出身地、障がいの有無、病気の有無、経済的状況などが挙げられる。そして、多様な文化的・社会的背景を有する他者と共に、安心して生きていくことができる共生社会を実現していくことが今日的な重要課題として考えられるようになってきている。共生社会の実現に向けて、どのような問題があるのか、どのような取り組みが行われているのかを理解して、自らがどのように行動すべきかを考えていくことが欠かせない。本講義では、4人の教員によるオムニバス形式で授業を展開し、共生に関して多角的な観点から考察し、今後どのように共生社会を実現していくべきなのかを考える上での視点について受講生のみなさんと共に考えていきたい。		
到達目標	①共生に関する課題が理解できる。 ②共生社会の実現に向けてどのように行動すべきが説明できる。		
授業計画	第1回 授業のガイダンス（沼田） 第2回 共生とは：偏見・差別を越えた共生社会に向けて（沼田） 第3回 心身の障がいに対する理解（田中） 第4回 障がいのある人々が直面する諸課題（田中） 第5回 障がいのある人々と共生する社会を目指して（田中） 第6回 共生社会の構築における基本的人権の重要性（奥） 第7回 日本国憲法における基本的人権の保障（奥） 第8回 現在の日本社会における労働をめぐる諸問題と共生社会への展望（奥） 第9回 学校教育における共生への課題と取り組み（大橋） 第10回 共生社会を目指す学校教育：教科教育に焦点を当てて（大橋） 第11回 共生社会を目指す学校教育：総合的な学習の時間・特別活動に焦点を当てて（大橋） 第12回 共生社会を目指す学校教育：「特別の教科 道徳」に焦点を当てて（大橋） 第13回 共生社会を目指す学校教育：インクルーシブ教育の理念と実践（大橋） 第14回 共生社会を目指す教育への展望（大橋） 第15回 授業のまとめ（沼田）		
評価方法 (合計100%)	提出課題60%、授業への参加態度40%		
失格条件	①出席が授業回数の2/3を満たさない場合（20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする） ②私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業内容に基づいた、提出課題の作成を、十分な時間（大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間）をかけた取り組み（大学の1時間は45分として考えることとなっているため、180分）以上）をかけて取り組むこと。		
課題へのフィードバック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	特定の教科書は用いず、必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	本授業では、講義形式に加えて、グループワークを行う。また、受講者の関心と理解度、受講生数に応じて計画を一部変更することがある。		
備考	教師としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（大橋） 社会福祉施設での実務経験をもとに、この授業を進めます。（田中）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B05	期間	前期
授業科目名	現代社会とリテラシー		
英訳科目名	Literacies in Modern Society		
担当教員名	千葉 真也、黄 琬茜、猿山 隆子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>「リテラシー」という語は、もともとは「読み書きができる能力」（読解記述力）を意味していたが、今では単に言葉に関してだけでなく、表現されたものを理解して活用する力、分析して判断する総合的な力を表している。現代社会が直面する問題の中には、既存の学問では十分にとらえきれないもの、一つの学問分野には収まらない広がりを持つものも多い。本講義では、3人の教員によるオムニバス形式で、異文化、ジェンダー、言語、環境などの現代的問題について、多角的な観点から考察し、問題を正しく理解し、対処する方法としてのリテラシーという点から考察していく。</p>		
到達目標	<p>異文化・ジェンダー・言語・環境などの現代的問題について、理解、活用、分析、判断する力としてのリテラシーという点から、現代の社会が直面する多様な問題について対処する方法を主体的に考えることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業のガイダンス：リテラシー概念と現代社会における様々なリテラシー（千葉） 第2回 「読み」のリテラシー（千葉） 第3回 異文化リテラシー（1）異文化リテラシーとは何か（黄） 第4回 異文化リテラシー（2）グローバル化における異文化リテラシーの現状（黄） 第5回 異文化リテラシー（3）母語習得と外国語活用能力（黄） 第6回 ジェンダーリテラシー（1）ジェンダー・リテラシーとは何か（黄） 第7回 ジェンダーリテラシー（2）ライフ・コースと結婚・出産（黄） 第8回 ジェンダーリテラシー（3）国際結婚とジェンダー・リテラシー（黄） 第9回 言語リテラシー（1）生活に根ざした教育—生活綴方教育（猿山） 第10回 言語リテラシー（2）おとなの自己教育運動—生活記録運動（猿山） 第11回 言語リテラシー（3）自己に直面するものとしての記録—自分史（猿山） 第12回 環境リテラシー（1）環境問題と記録（猿山） 第13回 環境リテラシー（2）水俣の記録とその意味を事例として（猿山） 第14回 環境リテラシー（3）水俣にみる自治と共生の思想を事例として（猿山） 第15回 まとめ（千葉）</p>		
評価方法 (合計100%)	提出課題60%、授業への参加度40%		
失格条件	<p>①出席が授業回数の2/3を満たさない場合（20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする） ②私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>授業内容に基づいた、提出課題の作成を、十分な時間（大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間）をかけた取り組みを、（大学の1時間は45分として考えることとなっているため、180分）以上）をかけて取り組むこと。</p>		
課題へのフィード バック	授業中で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	特定の教科書は用いず、必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B06	期間	後期
授業科目名	食と健康		
英訳科目名	General Introductions to the Food and Health		
担当教員名	庄條 愛子、角谷 勲、藤本 繁夫、品川 英朗、上田 秀樹、竹山 育子、杉山 文、古川 和子、今井 ももこ、小野 くに子、金石 智津子、水野 淨子		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3		ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	「抗酸化食品」、「スーパーフード」、「アンチエイジングフード」など食と健康に関連するキーワードが、SNSやwebでも日常的に使われています。これらの食品の詳しい内容や身体で働きは、難しそうだから何か良さそうと思ってしまいます。本講義は、毎日食べる「食べ物」や身体の中での働きについて、「食と健康」をテーマに総合的に学ぶことを目的とします。		
到達目標	食と健康に関する正しい知識を身に着け、自らの生活に反映させることができる。		
授業計画	第1回 食べ物と健康分野：食品の意義・目的と健康との関連性について(庄條) 第2回 食べ物と健康分野：SNSやWebで人気の食品について(庄條) 第3回 食べ物と健康分野：食品加工と発酵食品について(庄條) 第4回 食べ物と健康分野：調理と健康について(杉山) 第5回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち分野：食べ物と身体を構成する物質について(水野) 第6回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち分野：食べ物と身体について(藤本) 第7回 基礎栄養学分野：身体の中での食べ物の変化について(今井) 第8回 応用栄養学分野：様々な年齢のヒトの身体と食べ物について(品川) 第9回 栄養教育論分野：第三者への食べ物と健康の指導方法について(小野) 第10回 臨床栄養学分野：健康・疾病と食べ物について(竹山) 第11回 臨床栄養学分野：健康・疾病と食べ物について(金石) 第12回 公衆栄養学分野：健康・疾病と食べ物に関する政策について(古川) 第13回 公衆栄養学分野：健康・疾病と食べ物に関する政策について(上田) 第14回 給食経営管理分野：健康・疾病と食べ物と給食について(角谷) 第15回 まとめ：「食と健康」とは？発達栄養学科の取り組みを紹介(庄條)		
評価方法 (合計100%)	・欠席・遅刻、居眠り、スマートフォン使用や講義中の私語などの授業の参加態度：50% ・課題・レポートの提出：50%		
失格条件	・全授業回数の3分の1以上欠席したものは失格 ・5分以上の遅刻は欠席 ・5分以内の遅刻は3回で1回の欠席 ※電車遅延は、遅刻理由として考慮しません ・レポート・課題など未提出 ※本やWebの内容を丸写ししたレポートや課題は、認めない ※※居眠りやスマートフォンの使用、他講義の課題などを目立って実施している場合には、失格とすることがあります		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・毎日の生活における「食と健康」と運動・行動内容を関連付けて考える ・日常生活の食や栄養、健康についての話題に関心を持ち、講義前後で講義内容の予習・復習として各2時間の学習を実施すること		
課題へのフィード バック	提出された課題・レポート、ミニッツペーパーは教員が点検・添削し、効果的な学習のための指導を行う		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書	各教員が、講義の際に指定します		
その他	講義に出るだけでなく、講義ごとの学習内容をノートにまとめたり、図書館で関連する資料を借りて読むことなど理解を深める努力をすること		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B07	期間	後期
授業科目名	生活文化を知る		
英訳科目名	Life Culture in Society		
担当教員名	川中 美津子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>日本の文化は日本人の社会生活の中で生まれ育ってきました。このように、文化は、ある社会における共通認識、共通言語ということが出来ます。</p> <p>戦後の物資の乏しかった時期から高度経済成長期、バブル期そしてバブルの崩壊、経済の変動と科学技術の進展により、私たちを取り巻く社会は60年余りの間に大きく変化してきました。それに伴い、私たちの生活も大きく変化しました。</p> <p>本講義では、経済成長と共に変化してきた私たちの生活を通して、私たちの文化の移り変わりについて考察すると共に、日本の特徴的な時代における生活文化を概観します。</p>		
到達目標	生活に見られる文化の諸相について、知ることができる。		
授業計画	<p>第1回 本授業について</p> <p>第2回 日本人の生活と文化はどのようなものだったの？</p> <p>第3回 戦後の都市生活と文化</p> <p>第4回 高度経済成長期の生活と文化</p> <p>第5回 東京オリンピックと大阪万博</p> <p>第6回 ファーストフードと歩行者天国</p> <p>第7回 バブル期の社会と生活文化</p> <p>第8回 バブル崩壊後の社会と生活文化</p> <p>第9回 これからの社会生活と文化</p> <p>第10回 まとめと理解の確認1</p> <p>第11回 平安時代の生活と文化</p> <p>第12回 江戸時代の生活と文化</p> <p>第13回 明治時代の生活と文化</p> <p>第14回 大正から昭和初期の生活と文化</p> <p>第15回 まとめと理解の確認2</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 30%</p> <p>小レポート 30%</p> <p>最終レポート 40%</p>		
失格条件	<p>1.最終レポートを提出していない場合</p> <p>2.実授業回数の2/3以上の出席回数がない場合 (30分未満の遅刻は3回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻は欠席とします。)</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p><予習></p> <p>図書館やパソコン演習室を活用して、食に係わる新聞記事や関連資料を調べるなど、積極的に情報を取り入れるように務めて下さい。(予習 2時間)</p> <p><復習></p> <p>授業で取り上げた内容をまとめて下さい。(復習 2時間)</p>		
課題へのフィード バック	<p>小レポートについては、授業時間内に個別もしくは全体にコメントします。</p> <p>最終レポートについては、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントします。</p>		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200A02	期間	前期
授業科目名	図書館概論		
英訳科目名	Introduction to Library and Information Science		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>この科目は図書館司書の資格を取りたい人が最初に受ける科目です。ただ、2019年度に1回生の人は、共通教育科目として、司書の資格を目指していない人も受けることができます。1回生の人はこの授業を受けていく中で、司書の資格を取るかどうか決めてもらえればと思います。</p> <p>まず、「図書館の思い出」を思い出してもらいます。学校の図書室以外は全く思い出せない人がいるかもしれません。</p> <p>次に司書になるにはどうすればいいかを説明します。実は終身雇用の司書になるのは簡単ではありません。図書館で働いている司書はパートやいわゆる契約社員が多いのです。なぜそのような状況になっているのか、日本の図書館の状況を説明します。</p> <p>その後、「なぜ税金を使って図書館を無料で使えるようにしているのか、図書館とは何なのか」や「マンガを図書館でどの程度買うべきか」「電子書籍の時代に図書館は何をしようとしているのか」などを説明し、「図書館は今後どうなっていくのか」を皆さんと一っしょに考えていきます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・公共図書館・学校図書館(図書室)・大学図書館の違いを説明することができる。 ・図書館司書の資格を取るには、司書として働くにはどうすればいいか説明することができる。 ・図書館が無料で利用できる理由を説明することができる。 ・司書がどのようなところに注意しながら仕事をしているか、一般人の判断と司書の判断の違いを説明することができる。 		
授業計画	<p>第1回 図書館の体験の共有</p> <p>第2回 司書になるには</p> <p>第3回 図書館の意義と役割</p> <p>第4回 図書館の歴史</p> <p>第5回 図書館の機能と種類</p> <p>第6回 図書館のサービス</p> <p>第7回 図書館のコレクション</p> <p>第8回 図書館の情報組織化</p> <p>第9回 図書館のネットワーク</p> <p>第10回 電子書籍時代の図書館</p> <p>第11回 図書館利用教育と情報リテラシー</p> <p>第12回 図書館経営</p> <p>第13回 図書館と博物館の違い</p> <p>第14回 知的自由と図書館の自由</p> <p>第15回 まとめと到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回の小テストまたは大福帳：10%</p> <p>学期途中でのレポート課題：50%</p> <p>試験：40%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>大学に来るたびに相愛の図書館の中に入ってください。図書館について学ぶのですから、本を読むことの他に、図書館内のどこに何があるのかや、司書さんはどういう仕事をしているのか、など、図書館の仕組みを週に1回は観察してみてください。また、市立図書館など、他の図書館に実際に行って見てくることも必要です。図書館が出てくる小説やマンガを見て、現実との違いを考えるのもいいことです。こういうことも十分な予習復習です。</p> <p>予習復習・図書館の見学・レポートの作成・テスト勉強などで、授業の他に平均すると1週間あたり3時間の学習時間が必要です。</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは毎回時間内に答え合わせをします。 ・大福帳はコメントをつけて個別に返却するとともに、共有する意義のある内容は次回の授業で振り返ります。 ・レポート課題提出後の授業では、全体に向けてコメントします。 		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	今まど子・小山 憲司 編著『図書館情報学基礎資料』樹村房, 2016, 978-4883672660		
その他	授業の中ではただ聞くだけでなく、指示に応じて隣の人と話したり、自分の考えを言ったりすることが求められます。		
備考	大学図書館での勤務・中学校での専任司書教諭の実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	CC200B08	期間	後期
授業科目名	音楽の楽しみ		
英訳科目名	Introduction to music		
担当教員名	黒坂 俊昭、稲垣 聡、赤石 敏夫、中谷 満、前田 昌宏、松本 直祐樹、清水 信貴、斎藤 建寛、石村 真紀、井上 麻紀、橋田 光代、大谷 玲子、志村 聖子、岡坊 久美子		
ディプロマ・ポリシー-1		ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3		ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	西洋クラシック音楽と一口に言っても、その内容は極めて広範である。時代、作曲家、国や地域にとらわれず、音楽学部教員がオムニバス形式で、これまでの音楽生活の中で着目した楽曲、学生諸君に聴かせたいと感ずる楽曲を個々の視点から選び、解説を交えて音源(CD、DVD等)を試聴、あるいは生演奏を披露し「音楽の感動」を求めていく。		
到達目標	クラシック音楽の個々の作品に接する機会を通じて、音楽の読み解き方を理解することができる。		
授業計画	<p>各回、以下の教員による授業を予定する（急遽変更の可能性あり）。</p> <p>内容についてはポータル等で追って発表する。</p> <p>第1回 授業内容と進め方の説明 コーディネーター：橋田光代</p> <p>第2回 斎藤建寛（チェロ）</p> <p>第3回 大谷玲子（ヴァイオリン）</p> <p>第4回 赤石敏夫（音楽理論）</p> <p>第5回 松本直祐樹（作曲）</p> <p>第6回 中谷満（打楽器）</p> <p>第7回 井上麻紀（ピアノ）</p> <p>第8回 黒坂俊昭（音楽学）</p> <p>第9回 前田昌宏（サクソフォン）</p> <p>第10回 志村聖子（音楽マネジメント）</p> <p>第11回 橋田光代（音楽情報学）</p> <p>第12回 清水信貴（フルート）</p> <p>第13回 石村真紀（音楽療法）</p> <p>第14回 岡坊久美子（声楽）</p> <p>第15回 稲垣聡（ピアノ）</p>		
評価方法 (合計100%)	毎回、授業の後に復習としてレポートを作成する。 15回分の合計を100%に換算（7%×15回÷1.05）して、成績とする。		
失格条件	6回の欠席に到達した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	この授業は、復習を重視する。毎回、授業の後に、レポートとして、所定の用紙に、授業のまとめ（約200字）と授業の感想（よく分かった所、印象に残った所、難しかった点、気付いた点など、約200字）、あわせて約400字を記し、提出すること。（所要時間4時間）。 提出日時、提出場所等詳細については、1回目の授業時に説明する。		
課題へのフィード バック	必要に応じて、個別または授業時に全体に向けてフィードバックする。		
教科書	不使用。授業によって、プリントを配布することがある。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

1-091

ナンバリング	CC200B09	期間	集中
授業科目名	異文化を知る (海外研修実践)		
英訳科目名	Cross-Cultural Training (Short-Term Study Abroad Program)		
担当教員名	J.E.Alsdorf		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	この科目の受講者は、8月に実施される本学の「海外研修」に参加し、帰国後に課題を提出することが求められる。「海外研修」では、ハワイ大学マノア校または英国バンガー大学で実施される3週間の夏期語学研修プログラムに参加し、英語によるコミュニケーション力を養うとともに、米国の文化や自然を体験する。 なお、渡航の手続きを含め、「海外研修」のための事前指導を6～7回、また帰国後も事後指導と報告会をキャンパスタイムに行う。受講者は、この事前・事後指導にも原則として毎回出席するものとする。 また、最後に課題を提出する。		
到達目標	渡航に必要なさまざまな手続きを行うことができる。 英語でコミュニケーションを図ることができる。 異なる文化・習慣を持つ人々とのコミュニケーションとはどのようなものかを知ることができる。 米国または英国の文化の一端を知ることができる。		
授業計画	木曜日5限に67回事前指導を行う。 その中で、渡航の手続きを行ったり、渡航・研修における注意点を確認したり、さらには研修中に行われる「交流会」におけるプレゼンテーションの準備なども行う。 事前指導にはe-ラーニングも利用する。 8月末 出国 海外研修期間3週間 9月下旬頃 帰国 帰国後、キャンパスタイムに事後指導と報告会を行う。		
評価方法 (合計100%)	事前・事後指導への参加態度30% 「海外研修」40% 報告会・課題30%		
失格条件	以下のいずれかに該当する場合 1.事前・事後指導を正当な理由なく4回以上欠席した場合 2.夏期語学プログラムに参加しなかった場合 3.報告会への参加、課題の提出のいずれかを行わなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 8月の海外研修のための事前指導に参加し、自分ですべき必要な手続きや準備を期限内にきちんと行う。 米国または英国での研修に備えて、英語のリスニングの練習や英語の表現の暗記などをする。 復習： ハワイ大学マノア校または英国バンガー大学のプログラムで出された宿題をこなし、クラスや日常生活の中で覚えた単語や表現、異文化体験を書き留める。 (帰国後) 米国または英国で学んだことを、自分なりに振り返り、まとめる(報告会で発表・課題として提出)		
課題へのフィードバック	実技、実習の取り組みに対して個別にコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	事前・事後指導には、辞書を持参すること。		
備考			
科目生への開講	なし		



4. 人文学部



ナンバリング	HU107A01	期間	前期
授業科目名	基礎演習A		
英訳科目名	Freshman Seminar A		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	大学での学びに必要な基礎力を身に付けるための演習を行う。大学での学び方、学内施設の利用方法、資料の探し方、資料の読み方、話の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方、発表・討論の仕方など、大学での学び・生活に必要な知識とスキルを習得し、「人文学」を学ぶ第一歩とする。		
到達目標	自ら学ぶ楽しみを感じ、主体的に読み、考え、表現することができるようになる。自ら問いを立て、問題に取り組む道筋を考え、自分の意見を表現するための創造的な能力を身に付けることができる。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン（自己紹介） 第2回 大学での学び①（シラバス オフィスアワー 学生相談） 第3回 学内施設の利用①（図書館） 第4回 資料を探す 第5回 学内施設の利用②（学生開放PC教室OCEANS・ALPS） 第6回 大学での学び②（受講の心得） 第7回 資料を読み解く・整理する 第8回 発表の準備①（論点を絞り込む） 第9回 発表の準備②（結論に到る） 第10回 発表の準備③（口頭発表とレジュメ作成） 第11回 各自の発表① 第12回 各自の発表② 第13回 各自の発表③ 第14回 各自の発表④ 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（参加状況）50% 発表内容50%		
失格条件	3分の1以上の欠席。発表担当日の無断欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 大学での学びは、自主的に文献を集めて内容を検討し、考えながら情報の蓄積を行うことが重要となる。文章を読み解き、自ら考えることは地道な作業であるが、その積み重ねが後々自身の成長・変革に大きく影響する。さらに、自分の意見を表現する力にも寄与するので、種々の情報に興味を持ってアンテナを張り、多くの文章に触れておくことが学びを進める鍵となる。 ・授業時間外における予習・復習等に必要な時間 講義で紹介する参考文献を読み、関心のある研究テーマの下調べをする…予習 2時間（90分） 講義時に取り上げた問題を整理し、自身の研究テーマとの関連を調べる…復習 2時間（90分）		
課題へのフィード バック	みなさんが行った発表については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	『新編大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック 3訂版』（基礎演習Bでも同じテキストを使用）		
著者名	佐藤智明／編 矢島彰／編 安保克也／編		
出版社	ナカニシヤ出版		
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	20分以上の、正当な理由なき遅刻は、欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回に算定します。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107A01	期間	前期
授業科目名	基礎演習A		
英訳科目名	Freshman Seminar A		
担当教員名	鈴木 徳男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ー
授業概要・ポイント	大学での学びに必要な基礎力を身に付けるための演習を行う。大学での学び方、学内施設の利用方法、資料の探し方、資料の読み方、話の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方、発表・討論の仕方など、大学での学び・生活に必要な知識とスキルを習得し、「人文学」を学ぶ第一歩とする。		
到達目標	自ら学ぶ楽しみを感じ、主体的に読み、考え、表現することができるようになる。自ら問いを立て、問題に取り組む道筋を考え、自分の意見を表現するための創造的な能力を身に付けることができる。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン（自己紹介） 第2回 大学での学び①（シラバス オフィスアワー 学生相談） 第3回 学内施設の利用①（図書館） 第4回 資料を探す 第5回 学内施設の利用②（学生開放PC教室OCEANS・ALPS） 第6回 大学での学び②（受講の心得） 第7回 資料を読み解く・整理する 第8回 発表の準備①（論点を絞り込む） 第9回 発表の準備②（結論に到る） 第10回 発表の準備③（口頭発表とレジュメ作成） 第11回 各自の発表① 第12回 各自の発表② 第13回 各自の発表③ 第14回 各自の発表④ 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（参加状況）50% 発表内容50%		
失格条件	3分の1以上の欠席。発表担当日の無断欠席。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 大学での学びは、自主的に文献を集めて内容を検討し、考えながら情報の蓄積を行うことが重要となる。文章を読み解き、自ら考えることは地道な作業であるが、その積み重ねが後々自身の成長・変革に大きく影響する。さらに、自分の意見を表現する力にも寄与するので、種々の情報に興味を持ってアンテナを張り、多くの文章に触れておくことが学びを進める鍵となる。 ・授業時間外における予習・復習等に必要な時間 講義で紹介する参考文献を読み、関心のある研究テーマの下調べをする…予習 2時間（90分） 講義時に取り上げた問題を整理し、自身の研究テーマとの関連を調べる…復習 2時間（90分）		
課題へのフィード バック	みなさんが行った発表については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	『新編大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック 3訂版』（基礎演習Bでも同じテキストを使用）		
著者名	佐藤智明／編 矢島彰／編 安保克也／編		
出版社	ナカニシヤ出版		
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	20分以上の、正当な理由なき遅刻は、欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回に算定します。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107A01	期間	前期
授業科目名	基礎演習A		
英訳科目名	Freshman Seminar A		
担当教員名	高木 学		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	大学での学びに必要な基礎力を身に付けるための演習を行う。大学での学び方、学内施設の利用方法、資料の探し方、資料の読み方、話の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方、発表・討論の仕方など、大学での学び・生活に必要な知識とスキルを習得し、「人文学」を学ぶ第一歩とする。		
到達目標	自ら学ぶ楽しみを感じ、主体的に読み、考え、表現することができるようになる。自ら問いを立て、問題に取り組む道筋を考え、自分の意見を表現するための創造的な能力を身に付けることができる。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン（自己紹介） 第2回 大学での学び①（シラバス オフィスアワー 学生相談） 第3回 学内施設の利用①（図書館） 第4回 資料を探す 第5回 学内施設の利用②（学生開放PC教室OCEANS・ALPS） 第6回 大学での学び②（受講の心得） 第7回 資料を読み解く・整理する 第8回 発表の準備①（論点を絞り込む） 第9回 発表の準備②（結論に到る） 第10回 発表の準備③（口頭発表とレジュメ作成） 第11回 各自の発表① 第12回 各自の発表② 第13回 各自の発表③ 第14回 各自の発表④ 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（参加状況）50% 発表内容50%		
失格条件	3分の1以上の欠席。発表担当日の無断欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 大学での学びは、自主的に文献を集めて内容を検討し、考えながら情報の蓄積を行うことが重要となる。文章を読み解き、自ら考えることは地道な作業であるが、その積み重ねが後々自身の成長・変革に大きく影響する。さらに、自分の意見を表現する力にも寄与するので、種々の情報に興味を持ってアンテナを張り、多くの文章に触れておくことが学びを進める鍵となる。 ・授業時間外における予習・復習等に必要な時間 講義で紹介する参考文献を読み、関心のある研究テーマの下調べをする…予習 2時間（90分） 講義時に取り上げた問題を整理し、自身の研究テーマとの関連を調べる…復習 2時間（90分）		
課題へのフィード バック	みなさんが行った発表については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	『新編大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック 3訂版』（基礎演習Bでも同じテキストを使用）		
著者名	佐藤智明／編 矢島彰／編 安保克也／編		
出版社	ナカニシヤ出版		
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	20分以上の、正当な理由なき遅刻は、欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回に算定します。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107A01	期間	前期
授業科目名	基礎演習A		
英訳科目名	Freshman Seminar A		
担当教員名	西迫 成一郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	大学での学びに必要な基礎力を身に付けるための演習を行う。大学での学び方、学内施設の利用方法、資料の探し方、資料の読み方、話の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方、発表・討論の仕方など、大学での学び・生活に必要な知識とスキルを習得し、「人文学」を学ぶ第一歩とする。		
到達目標	自ら学ぶ楽しみを感じ、主体的に読み、考え、表現することができるようになる。自ら問いを立て、問題に取り組む道筋を考え、自分の意見を表現するための創造的な能力を身に付けることができる。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン（自己紹介） 第2回 大学での学び①（シラバス オフィスアワー 学生相談） 第3回 学内施設の利用①（図書館） 第4回 資料を探す 第5回 学内施設の利用②（学生開放PC教室OCEANS・ALPS） 第6回 大学での学び②（受講の心得） 第7回 資料を読み解く・整理する 第8回 発表の準備①（論点を絞り込む） 第9回 発表の準備②（結論に到る） 第10回 発表の準備③（口頭発表とレジュメ作成） 第11回 各自の発表① 第12回 各自の発表② 第13回 各自の発表③ 第14回 各自の発表④ 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（参加状況）50% 発表内容50%		
失格条件	3分の1以上の欠席。発表担当日の無断欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 大学での学びは、自主的に文献を集めて内容を検討し、考えながら情報の蓄積を行うことが重要となる。文章を読み解き、自ら考えることは地道な作業であるが、その積み重ねが後々自身の成長・変革に大きく影響する。さらに、自分の意見を表現する力にも寄与するので、種々の情報に興味を持ってアンテナを張り、多くの文章に触れておくことが学びを進める鍵となる。 ・授業時間外における予習・復習等に必要な時間 講義で紹介する参考文献を読み、関心のある研究テーマの下調べをする…予習 2時間（90分） 講義時に取り上げた問題を整理し、自身の研究テーマとの関連を調べる…復習 2時間（90分）		
課題へのフィード バック	みなさんが行った発表については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	『新編大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック 3訂版』（基礎演習Bでも同じテキストを使用）		
著者名	佐藤智明／編 矢島彰／編 安保克也／編		
出版社	ナカニシヤ出版		
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	20分以上の、正当な理由なき遅刻は、欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回に算定します。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107A01	期間	前期
授業科目名	基礎演習A		
英訳科目名	Freshman Seminar A		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	大学での学びに必要な基礎力を身に付けるための演習を行う。大学での学び方、学内施設の利用方法、資料の探し方、資料の読み方、話の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方、発表・討論の仕方など、大学での学び・生活に必要な知識とスキルを習得し、「人文学」を学ぶ第一歩とする。		
到達目標	自ら学ぶ楽しみを感じ、主体的に読み、考え、表現することができるようになる。自ら問いを立て、問題に取り組む道筋を考え、自分の意見を表現するための創造的な能力を身に付けることができる。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン（自己紹介） 第2回 大学での学び①（シラバス オフィスアワー 学生相談） 第3回 学内施設の利用①（図書館） 第4回 資料を探す 第5回 学内施設の利用②（学生開放PC教室OCEANS・ALPS） 第6回 大学での学び②（受講の心得） 第7回 資料を読み解く・整理する 第8回 発表の準備①（論点を絞り込む） 第9回 発表の準備②（結論に到る） 第10回 発表の準備③（口頭発表とレジュメ作成） 第11回 各自の発表① 第12回 各自の発表② 第13回 各自の発表③ 第14回 各自の発表④ 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（参加状況）50% 発表内容50%		
失格条件	3分の1以上の欠席。発表担当日の無断欠席。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 大学での学びは、自主的に文献を集めて内容を検討し、考えながら情報の蓄積を行うことが重要となる。文章を読み解き、自ら考えることは地道な作業であるが、その積み重ねが後々自身の成長・変革に大きく影響する。さらに、自分の意見を表現する力にも寄与するので、種々の情報に興味を持ってアンテナを張り、多くの文章に触れておくことが学びを進める鍵となる。 ・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する参考文献を読み、関心のある研究テーマの下調べをする…予習 2時間（90分） 講義時に取り上げた問題を整理し、自身の研究テーマとの関連を調べる…復習 2時間（90分）		
課題へのフィード バック	みなさんが行った発表については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	『新編大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック 3訂版』（基礎演習Bでも同じテキストを使用）		
著者名	佐藤智明／編 矢島彰／編 安保克也／編		
出版社	ナカニシヤ出版		
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	20分以上の、正当な理由なき遅刻は、欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回に算定します。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107A01	期間	前期
授業科目名	基礎演習A		
英訳科目名	Freshman Seminar A		
担当教員名	沼田 潤		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	大学での学びに必要な基礎力を身に付けるための演習を行う。大学での学び方、学内施設の利用方法、資料の探し方、資料の読み方、話の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方、発表・討論の仕方など、大学での学び・生活に必要な知識とスキルを習得し、「人文学」を学ぶ第一歩とする。		
到達目標	自ら学ぶ楽しみを感じ、主体的に読み、考え、表現することができるようになる。自ら問いを立て、問題に取り組む道筋を考え、自分の意見を表現するための創造的な能力を身に付けることができる。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン（自己紹介） 第2回 大学での学び①（シラバス オフィスアワー 学生相談） 第3回 学内施設の利用①（図書館） 第4回 資料を探す 第5回 学内施設の利用②（学生開放PC教室OCEANS・ALPS） 第6回 大学での学び②（受講の心得） 第7回 資料を読み解く・整理する 第8回 発表の準備①（論点を絞り込む） 第9回 発表の準備②（結論に到る） 第10回 発表の準備③（口頭発表とレジュメ作成） 第11回 各自の発表① 第12回 各自の発表② 第13回 各自の発表③ 第14回 各自の発表④ 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（参加状況）50% 発表内容50%		
失格条件	3分の1以上の欠席。発表担当日の無断欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 大学での学びは、自主的に文献を集めて内容を検討し、考えながら情報の蓄積を行うことが重要となる。文章を読み解き、自ら考えることは地道な作業であるが、その積み重ねが後々自身の成長・変革に大きく影響する。さらに、自分の意見を表現する力にも寄与するので、種々の情報に興味を持ってアンテナを張り、多くの文章に触れておくことが学びを進める鍵となる。 ・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する参考文献を読み、関心のある研究テーマの下調べをする…予習 2時間（90分） 講義時に取り上げた問題を整理し、自身の研究テーマとの関連を調べる…復習 2時間（90分）		
課題へのフィード バック	みなさんが行った発表については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	『新編大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック 3訂版』（基礎演習Bでも同じテキストを使用）		
著者名	佐藤智明／編 矢島彰／編 安保克也／編		
出版社	ナカニシヤ出版		
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	20分以上の、正当な理由なき遅刻は、欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回に算定します。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107A02	期間	後期
授業科目名	基礎演習B		
英訳科目名	Freshman Seminar B		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	<p>この授業では、まず、「基礎演習A」に引き続き、大学で学ぶために必要な知識・スキル・姿勢を身につけることを目指す。特に、テキストを通して、レポートの作成手順と口頭発表の仕方（前期の復習）、文章の要約の仕方、大学・社会におけるマナーについて学び考える。</p> <p>次に、人文学部が主催する「相愛寄席」の実施に受講者全員が何らかの形で関わり、「マナー」と「ホスピタリティ」について学ぶ。また、事前に日本（大阪）の伝統芸能である落語について学び、相愛大学が所在する日本（大阪）の文化に対する関心を養う。</p> <p>これと並行して、テキストでの学びを元に、自ら見つけたテーマについて問いを立て、調査、考察を進め、レジュメを用意して、授業の中で口頭発表する。</p>		
到達目標	<p>大学で学ぶために必要な知識・スキル・姿勢（レポートの作成と口頭発表の仕方、文章の要約の仕方、マナー）を身につけることができる。</p> <p>社会生活やイベントで求められるマナーやホスピタリティを身につけることができる。</p> <p>自ら見つけたテーマについて問いを立て、調査、考察することができる。</p> <p>レジュメを作成し、聞き手にわかりやすく口頭発表することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション／発表日の決定／テキスト(前期の復習) ① (Chapter 6: レポート作成手順、口頭発表)</p> <p>第2回 テキスト② (Chapter 5: 理解と表現 1. 音読のすすめ)</p> <p>第3回 テキスト③ (Chapter 5: 理解と表現 2.文章要約と作文)</p> <p>第4回 テキスト④Chapter 7: 社会意識 1. マナー)</p> <p>第5回 落語について学ぶ①</p> <p>第6回 落語について学ぶ②</p> <p>第7回 落語について学ぶ③</p> <p>第8回 落語実演 鑑賞</p> <p>第9回 相愛寄席 事前打ち合わせ</p> <p>第10回 相愛寄席のフィードバック／各自の発表①</p> <p>第11回 各自の発表②</p> <p>第12回 各自の発表③</p> <p>第13回 各自の発表④</p> <p>第14回 各自の発表⑤</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（参加状況） 20%</p> <p>「相愛寄席」への参加（事前・事後の各種作業を含む） 30%</p> <p>発表（姿勢・内容） 30%</p> <p>期末レポート 20%</p>		
失格条件	3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス</p> <p>大学での学びは、自主的に文献を集めて内容を検討し、考えながら情報の蓄積を行うことが重要となる。文章を読み解き、自ら考えることは地道な作業であるが、その積み重ねが後々自身の成長・変革に大きく影響する。さらに、自分の意見を表現する力にも寄与するので、種々の情報に興味を持ってアンテナを張り、多くの文章に触れておくことが学びを進める鍵となる。</p> <p>・ 授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <p>テキストや配布資料を事前に読んでおく。</p> <p>関心のある研究テーマの下調べをし、発表に備える。…予習 2時間（90分）</p> <p>講義時に学んだ事を整理する。疑問に思ったことを、更に調べ、考える。…復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィードバック	<p>・ 授業での課題（レジュメ、発表）については、授業中または個別にコメントします。</p> <p>・ 提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。</p>		
教科書	『新編大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック 3訂版』（基礎演習Aでも同じテキストを使用）		
著者名	佐藤智明／編 矢島彰／編 安保克也／編		
出版社	ナカニシヤ出版		
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	20分以上の、正当な理由なき遅刻は、欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回に算定します。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107A02	期間	後期
授業科目名	基礎演習 B		
英訳科目名	Freshman Seminar B		
担当教員名	石川 玲子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ー
授業概要・ポイント	<p>この授業では、まず、「基礎演習A」に引き続き、大学で学ぶために必要な知識・スキル・姿勢を身につけることを目指す。特に、テキストを通して、レポートの作成手順と口頭発表の仕方（前期の復習）、文章の要約の仕方、大学・社会におけるマナーについて学び考える。</p> <p>次に、人文学部が主催する「相愛寄席」の実施に受講者全員が何らかの形で関わり、「マナー」と「ホスピタリティ」について学ぶ。また、事前に日本（大阪）の伝統芸能である落語について学び、相愛大学が所在する日本（大阪）の文化に対する関心を養う。</p> <p>これと並行して、テキストでの学びを元に、自ら見つけたテーマについて問いを立て、調査、考察を進め、レジュメを用意して、授業の中で口頭発表する。</p>		
到達目標	<p>大学で学ぶために必要な知識・スキル・姿勢（レポートの作成と口頭発表の仕方、文章の要約の仕方、マナー）を身につけることができる。</p> <p>社会生活やイベントで求められるマナーやホスピタリティを身につけることができる。</p> <p>自ら見つけたテーマについて問いを立て、調査、考察することができる。</p> <p>レジュメを作成し、聞き手にわかりやすく口頭発表することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション／発表日の決定／テキスト(前期の復習) ① (Chapter 6: レポート作成手順、口頭発表)</p> <p>第2回 テキスト② (Chapter 5: 理解と表現 1. 音読のすすめ)</p> <p>第3回 テキスト③ (Chapter 5: 理解と表現 2.文章要約と作文)</p> <p>第4回 テキスト④Chapter 7: 社会意識 1. マナー)</p> <p>第5回 落語について学ぶ①</p> <p>第6回 落語について学ぶ②</p> <p>第7回 落語について学ぶ③</p> <p>第8回 落語実演 鑑賞</p> <p>第9回 相愛寄席 事前打ち合わせ</p> <p>第10回 相愛寄席のフィードバック／各自の発表①</p> <p>第11回 各自の発表②</p> <p>第12回 各自の発表③</p> <p>第13回 各自の発表④</p> <p>第14回 各自の発表⑤</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（参加状況） 20%</p> <p>「相愛寄席」への参加（事前・事後の各種作業を含む） 30%</p> <p>発表（姿勢・内容） 30%</p> <p>期末レポート 20%</p>		
失格条件	3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス</p> <p>大学での学びは、自主的に文献を集めて内容を検討し、考えながら情報の蓄積を行うことが重要となる。文章を読み解き、自ら考えることは地道な作業であるが、その積み重ねが後々自身の成長・変革に大きく影響する。さらに、自分の意見を表現する力にも寄与するので、種々の情報に興味を持ってアンテナを張り、多くの文章に触れておくことが学びを進める鍵となる。</p> <p>・ 授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <p>テキストや配布資料を事前に読んでおく。</p> <p>関心のある研究テーマの下調べをし、発表に備える。…予習 2時間（90分）</p> <p>講義時に学んだ事を整理する。疑問に思ったことを、更に調べ、考える。…復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィードバック	<p>・ 授業での課題（レジュメ、発表）については、授業中または個別にコメントします。</p> <p>・ 提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。</p>		
教科書	『新編大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック 3訂版』（基礎演習Aでも同じテキストを使用）		
著者名	佐藤智明／編 矢島彰／編 安保克也／編		
出版社	ナカニシヤ出版		
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	20分以上の、正当な理由なき遅刻は、欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回に算定します。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107A02	期間	後期
授業科目名	基礎演習B		
英訳科目名	Freshman Seminar B		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	<p>この授業では、まず、「基礎演習A」に引き続き、大学で学ぶために必要な知識・スキル・姿勢を身につけることを目指す。特に、テキストを通して、レポートの作成手順と口頭発表の仕方（前期の復習）、文章の要約の仕方、大学・社会におけるマナーについて学び考える。</p> <p>次に、人文学部が主催する「相愛寄席」の実施に受講者全員が何らかの形で関わり、「マナー」と「ホスピタリティ」について学ぶ。また、事前に日本（大阪）の伝統芸能である落語について学び、相愛大学が所在する日本（大阪）の文化に対する関心を養う。</p> <p>これと並行して、テキストでの学びを元に、自ら見つけたテーマについて問いを立て、調査、考察を進め、レジュメを用意して、授業の中で口頭発表する。</p>		
到達目標	<p>大学で学ぶために必要な知識・スキル・姿勢（レポートの作成と口頭発表の仕方、文章の要約の仕方、マナー）を身につけることができる。</p> <p>社会生活やイベントで求められるマナーやホスピタリティを身につけることができる。</p> <p>自ら見つけたテーマについて問いを立て、調査、考察することができる。</p> <p>レジュメを作成し、聞き手にわかりやすく口頭発表することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション／発表日の決定／テキスト(前期の復習) ① (Chapter 6: レポート作成手順、口頭発表)</p> <p>第2回 テキスト② (Chapter 5: 理解と表現 1. 音読のすすめ)</p> <p>第3回 テキスト③ (Chapter 5: 理解と表現 2.文章要約と作文)</p> <p>第4回 テキスト④Chapter 7: 社会意識 1. マナー)</p> <p>第5回 落語について学ぶ①</p> <p>第6回 落語について学ぶ②</p> <p>第7回 落語について学ぶ③</p> <p>第8回 落語実演 鑑賞</p> <p>第9回 相愛寄席 事前打ち合わせ</p> <p>第10回 相愛寄席のフィードバック／各自の発表①</p> <p>第11回 各自の発表②</p> <p>第12回 各自の発表③</p> <p>第13回 各自の発表④</p> <p>第14回 各自の発表⑤</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（参加状況） 20%</p> <p>「相愛寄席」への参加（事前・事後の各種作業を含む） 30%</p> <p>発表（姿勢・内容） 30%</p> <p>期末レポート 20%</p>		
失格条件	3分の1以上の欠席。		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス</p> <p>大学での学びは、自主的に文献を集めて内容を検討し、考えながら情報の蓄積を行うことが重要となる。文章を読み解き、自ら考えることは地道な作業であるが、その積み重ねが後々自身の成長・変革に大きく影響する。さらに、自分の意見を表現する力にも寄与するので、種々の情報に興味を持ってアンテナを張り、多くの文章に触れておくことが学びを進める鍵となる。</p> <p>・ 授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <p>テキストや配布資料を事前に読んでおく。</p> <p>関心のある研究テーマの下調べをし、発表に備える。…予習 2時間（90分）</p> <p>講義時に学んだ事を整理する。疑問に思ったことを、更に調べ、考える。…復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィードバック	<p>・ 授業での課題（レジュメ、発表）については、授業中または個別にコメントします。</p> <p>・ 提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。</p>		
教科書	『新編大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック 3訂版』（基礎演習Aでも同じテキストを使用）		
著者名	佐藤智明／編 矢島彰／編 安保克也／編		
出版社	ナカニシヤ出版		
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	20分以上の、正当な理由なき遅刻は、欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回に算定します。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107A02	期間	後期
授業科目名	基礎演習B		
英訳科目名	Freshman Seminar B		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ー
授業概要・ポイント	<p>この授業では、まず、「基礎演習A」に引き続き、大学で学ぶために必要な知識・スキル・姿勢を身につけることを目指す。特に、テキストを通して、レポートの作成手順と口頭発表の仕方（前期の復習）、文章の要約の仕方、大学・社会におけるマナーについて学び考える。</p> <p>次に、人文学部が主催する「相愛寄席」の実施に受講者全員が何らかの形で関わり、「マナー」と「ホスピタリティ」について学ぶ。また、事前に日本（大阪）の伝統芸能である落語について学び、相愛大学が所在する日本（大阪）の文化に対する関心を養う。</p> <p>これと並行して、テキストでの学びを元に、自ら見つけたテーマについて問いを立て、調査、考察を進め、レジュメを用意して、授業の中で口頭発表する。</p>		
到達目標	<p>大学で学ぶために必要な知識・スキル・姿勢（レポートの作成と口頭発表の仕方、文章の要約の仕方、マナー）を身につけることができる。</p> <p>社会生活やイベントで求められるマナーやホスピタリティを身につけることができる。</p> <p>自ら見つけたテーマについて問いを立て、調査、考察することができる。</p> <p>レジュメを作成し、聞き手にわかりやすく口頭発表することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション／発表日の決定／テキスト(前期の復習) ① (Chapter 6: レポート作成手順、口頭発表)</p> <p>第2回 テキスト② (Chapter 5:理解と表現 1. 音読のすすめ)</p> <p>第3回 テキスト③ (Chapter 5:理解と表現 2.文章要約と作文)</p> <p>第4回 テキスト④Chapter 7:社会意識 1. マナー)</p> <p>第5回 落語について学ぶ①</p> <p>第6回 落語について学ぶ②</p> <p>第7回 落語について学ぶ③</p> <p>第8回 落語実演 鑑賞</p> <p>第9回 相愛寄席 事前打ち合わせ</p> <p>第10回 相愛寄席のフィードバック／各自の発表①</p> <p>第11回 各自の発表②</p> <p>第12回 各自の発表③</p> <p>第13回 各自の発表④</p> <p>第14回 各自の発表⑤</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（参加状況） 20%</p> <p>「相愛寄席」への参加（事前・事後の各種作業を含む） 30%</p> <p>発表（姿勢・内容） 30%</p> <p>期末レポート 20%</p>		
失格条件	3分の1以上の欠席。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス</p> <p>大学での学びは、自主的に文献を集めて内容を検討し、考えながら情報の蓄積を行うことが重要となる。文章を読み解き、自ら考えることは地道な作業であるが、その積み重ねが後々自身の成長・変革に大きく影響する。さらに、自分の意見を表現する力にも寄与するので、種々の情報に興味を持ってアンテナを張り、多くの文章に触れておくことが学びを進める鍵となる。</p> <p>・ 授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <p>テキストや配布資料を事前に読んでおく。</p> <p>関心のある研究テーマの下調べをし、発表に備える。…予習 2時間（90分）</p> <p>講義時に学んだ事を整理する。疑問に思ったことを、更に調べ、考える。…復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィードバック	<p>・ 授業での課題（レジュメ、発表）については、授業中または個別にコメントします。</p> <p>・ 提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。</p>		
教科書	『新編大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック 3訂版』（基礎演習Aでも同じテキストを使用）		
著者名	佐藤智明／編 矢島彰／編 安保克也／編		
出版社	ナカニシヤ出版		
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	20分以上の、正当な理由なき遅刻は、欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回に算定します。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107A02	期間	後期
授業科目名	基礎演習B		
英訳科目名	Freshman Seminar B		
担当教員名	釈 徹宗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	<p>この授業では、まず、「基礎演習A」に引き続き、大学で学ぶために必要な知識・スキル・姿勢を身につけることを目指す。特に、テキストを通して、レポートの作成手順と口頭発表の仕方（前期の復習）、文章の要約の仕方、大学・社会におけるマナーについて学び考える。</p> <p>次に、人文学部が主催する「相愛寄席」の実施に受講者全員が何らかの形で関わり、「マナー」と「ホスピタリティ」について学ぶ。また、事前に日本（大阪）の伝統芸能である落語について学び、相愛大学が所在する日本（大阪）の文化に対する関心を養う。</p> <p>これと並行して、テキストでの学びを元に、自ら見つけたテーマについて問いを立て、調査、考察を進め、レジュメを用意して、授業の中で口頭発表する。</p>		
到達目標	<p>大学で学ぶために必要な知識・スキル・姿勢（レポートの作成と口頭発表の仕方、文章の要約の仕方、マナー）を身につけることができる。</p> <p>社会生活やイベントで求められるマナーやホスピタリティを身につけることができる。</p> <p>自ら見つけたテーマについて問いを立て、調査、考察することができる。</p> <p>レジュメを作成し、聞き手にわかりやすく口頭発表することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション／発表日の決定／テキスト(前期の復習) ① (Chapter 6: レポート作成手順、口頭発表)</p> <p>第2回 テキスト② (Chapter 5: 理解と表現 1. 音読のすすめ)</p> <p>第3回 テキスト③ (Chapter 5: 理解と表現 2.文章要約と作文)</p> <p>第4回 テキスト④Chapter 7: 社会意識 1. マナー)</p> <p>第5回 落語について学ぶ①</p> <p>第6回 落語について学ぶ②</p> <p>第7回 落語について学ぶ③</p> <p>第8回 落語実演 鑑賞</p> <p>第9回 相愛寄席 事前打ち合わせ</p> <p>第10回 相愛寄席のフィードバック／各自の発表①</p> <p>第11回 各自の発表②</p> <p>第12回 各自の発表③</p> <p>第13回 各自の発表④</p> <p>第14回 各自の発表⑤</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（参加状況） 20%</p> <p>「相愛寄席」への参加（事前・事後の各種作業を含む） 30%</p> <p>発表（姿勢・内容） 30%</p> <p>期末レポート 20%</p>		
失格条件	3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス</p> <p>大学での学びは、自主的に文献を集めて内容を検討し、考えながら情報の蓄積を行うことが重要となる。文章を読み解き、自ら考えることは地道な作業であるが、その積み重ねが後々自身の成長・変革に大きく影響する。さらに、自分の意見を表現する力にも寄与するので、種々の情報に興味を持ってアンテナを張り、多くの文章に触れておくことが学びを進める鍵となる。</p> <p>・ 授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <p>テキストや配布資料を事前に読んでおく。</p> <p>関心のある研究テーマの下調べをし、発表に備える。…予習 2時間（90分）</p> <p>講義時に学んだ事を整理する。疑問に思ったことを、更に調べ、考える。…復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィードバック	<p>・ 授業での課題（レジュメ、発表）については、授業中または個別にコメントします。</p> <p>・ 提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。</p>		
教科書	『新編大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック 3訂版』（基礎演習Aでも同じテキストを使用）		
著者名	佐藤智明／編 矢島彰／編 安保克也／編		
出版社	ナカニシヤ出版		
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	20分以上の、正当な理由なき遅刻は、欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回に算定します。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107A02	期間	後期
授業科目名	基礎演習 B		
英訳科目名	Freshman Seminar B		
担当教員名	千葉 真也		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	<p>この授業では、まず、「基礎演習A」に引き続き、大学で学ぶために必要な知識・スキル・姿勢を身につけることを目指す。特に、テキストを通して、レポートの作成手順と口頭発表の仕方（前期の復習）、文章の要約の仕方、大学・社会におけるマナーについて学び考える。</p> <p>次に、人文学部が主催する「相愛寄席」の実施に受講者全員が何らかの形で関わり、「マナー」と「ホスピタリティ」について学ぶ。また、事前に日本（大阪）の伝統芸能である落語について学び、相愛大学が所在する日本（大阪）の文化に対する関心を養う。</p> <p>これと並行して、テキストでの学びを元に、自ら見つけたテーマについて問いを立て、調査、考察を進め、レジュメを用意して、授業の中で口頭発表する。</p>		
到達目標	<p>大学で学ぶために必要な知識・スキル・姿勢（レポートの作成と口頭発表の仕方、文章の要約の仕方、マナー）を身につけることができる。</p> <p>社会生活やイベントで求められるマナーやホスピタリティを身につけることができる。</p> <p>自ら見つけたテーマについて問いを立て、調査、考察することができる。</p> <p>レジュメを作成し、聞き手にわかりやすく口頭発表することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション／発表日の決定／テキスト(前期の復習) ① (Chapter 6: レポート作成手順、口頭発表)</p> <p>第2回 テキスト② (Chapter 5: 理解と表現 1. 音読のすすめ)</p> <p>第3回 テキスト③ (Chapter 5: 理解と表現 2.文章要約と作文)</p> <p>第4回 テキスト④Chapter 7: 社会意識 1. マナー)</p> <p>第5回 落語について学ぶ①</p> <p>第6回 落語について学ぶ②</p> <p>第7回 落語について学ぶ③</p> <p>第8回 落語実演 鑑賞</p> <p>第9回 相愛寄席 事前打ち合わせ</p> <p>第10回 相愛寄席のフィードバック／各自の発表①</p> <p>第11回 各自の発表②</p> <p>第12回 各自の発表③</p> <p>第13回 各自の発表④</p> <p>第14回 各自の発表⑤</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（参加状況） 20%</p> <p>「相愛寄席」への参加（事前・事後の各種作業を含む） 30%</p> <p>発表（姿勢・内容） 30%</p> <p>期末レポート 20%</p>		
失格条件	3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス</p> <p>大学での学びは、自主的に文献を集めて内容を検討し、考えながら情報の蓄積を行うことが重要となる。文章を読み解き、自ら考えることは地道な作業であるが、その積み重ねが後々自身の成長・変革に大きく影響する。さらに、自分の意見を表現する力にも寄与するので、種々の情報に興味を持ってアンテナを張り、多くの文章に触れておくことが学びを進める鍵となる。</p> <p>・ 授業時間外における予習・復習等に必要な時間</p> <p>テキストや配布資料を事前に読んでおく。 関心のある研究テーマの下調べをし、発表に備える。…予習 2時間（90分）</p> <p>講義時に学んだ事を整理する。疑問に思ったことを、更に調べ、考える。…復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィードバック	<p>・ 授業での課題（レジュメ、発表）については、授業中または個別にコメントします。</p> <p>・ 提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。</p>		
教科書	『新編大学学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック 3訂版』（基礎演習Aでも同じテキストを使用）		
著者名	佐藤智明／編 矢島彰／編 安保克也／編		
出版社	ナカニシヤ出版		
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	20分以上の、正当な理由なき遅刻は、欠席とみなします。 遅刻3回で欠席1回に算定します。		
備考			
科目生への開講	なし		

4-013

ナンバリング	HU107B01	期間	前期
授業科目名	専門基礎演習 A		
英訳科目名	Sophomore Seminar (Specialized) A		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	本授業では、「基礎演習」で身につけたスタディ・スキルをさらに磨き、大学での学びに必要な話す力・聴く力・書く力・読む力・調べる力を強化する。また、入門科目で得た知識を活かして演習し、人文学の専門分野への理解を深める。		
到達目標	本授業は、次の3点を目標とする。 ①資料を収集し、必要な情報を取捨選択できる。 ②相手の話を聴きながら、要点を整理・記録することができる。 ③文章を要約できる、引用できる、それに対する自分の意見・評価が書ける。		
授業計画	第1回 イントロダクション 自己紹介 第2回 1年次の学びのふりかえり 第3回 キーワードで資料を探す 第4回 資料を整理する 第5回 文章を引用する 第6回 引用文に対して、意見を述べる 第7回 講演会に参加する 第8回 講演会の報告書を作成する 第9回 データベースで情報を探す 第10回 情報を整理する 第11回 文章を要約する 第12回 要約文に対して、意見を述べる 第13回 説明会に参加する 第14回 説明会の報告書を作成する 第15回 メールを書く		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度(発表など) 50% 課題 50%		
失格条件	3分の1以上の欠席 発表担当者が正当な理由無く無断で欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で提示された課題に取り組む。(予習時間 2時間) 授業で指摘された箇所を修正する。(復習時間 2時間)		
課題へのフィード バック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	授業中にプリントを配付する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介する。		
その他	20分以上の正当な理由なき遅刻は欠席とする。 遅刻・早退・途中退室は3回で欠席1回とする。		
備考			
科目生への開講	なし		

4-014

ナンバリング	HU107B01	期間	前期
授業科目名	専門基礎演習 A		
英訳科目名	Sophomore Seminar (Specialized) A		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	本授業では、「基礎演習」で身につけたスタディ・スキルをさらに磨き、大学での学びに必要な話す力・聴く力・書く力・読む力・調べる力を強化する。また、入門科目で得た知識を活かして演習し、人文学の専門分野への理解を深める。		
到達目標	本授業は、次の3点を目標とする。 ①資料を収集し、必要な情報を取捨選択できる。 ②相手の話を聴きながら、要点を整理・記録することができる。 ③文章を要約できる、引用できる、それに対する自分の意見・評価が書ける。		
授業計画	第1回 イントロダクション 自己紹介 第2回 1年次の学びのふりかえり 第3回 キーワードで資料を探す 第4回 資料を整理する 第5回 文章を引用する 第6回 引用文に対して、意見を述べる 第7回 講演会に参加する 第8回 講演会の報告書を作成する 第9回 データベースで情報を探す 第10回 情報を整理する 第11回 文章を要約する 第12回 要約文に対して、意見を述べる 第13回 説明会に参加する 第14回 説明会の報告書を作成する 第15回 メールを書く		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度(発表など) 50% 課題 50%		
失格条件	3分の1以上の欠席。 発表担当者が正当な理由無く無断で欠席した場合。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で提示された課題に取り組む。(予習時間 2時間) 授業で指摘された箇所を修正する。(復習時間 2時間)		
課題へのフィード バック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	授業中にプリントを配付する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介する。		
その他	20分以上の正当な理由なき遅刻は欠席とする。 遅刻・早退・途中退室は3回で欠席1回とする。		
備考			
科目生への開講	なし		

4-015

ナンバリング	HU107B01	期間	前期
授業科目名	専門基礎演習 A		
英訳科目名	Sophomore Seminar (Specialized) A		
担当教員名	藤谷 忠昭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	本授業では、「基礎演習」で身につけたスタディ・スキルをさらに磨き、大学での学びに必要な話す力・聴く力・書く力・読む力・調べる力を強化する。また、入門科目で得た知識を活かして演習し、人文学の専門分野への理解を深める。		
到達目標	本授業は、次の3点を目標とする。 ①資料を収集し、必要な情報を取捨選択できる。 ②相手の話を聴きながら、要点を整理・記録することができる。 ③文章を要約できる、引用できる、それに対する自分の意見・評価が書ける。		
授業計画	第1回 イントロダクション 自己紹介 第2回 1年次の学びのふりかえり 第3回 キーワードで資料を探す 第4回 資料を整理する 第5回 文章を引用する 第6回 引用文に対して、意見を述べる 第7回 講演会に参加する 第8回 講演会の報告書を作成する 第9回 データベースで情報を探す 第10回 情報を整理する 第11回 文章を要約する 第12回 要約文に対して、意見を述べる 第13回 説明会に参加する 第14回 説明会の報告書を作成する 第15回 メールを書く		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度(発表など) 50% 課題 50%		
失格条件	3分の1以上の欠席 発表担当者が正当な理由無く無断で欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で提示された課題に取り組む。(予習時間 2時間) 授業で指摘された箇所を修正する。(復習時間 2時間)		
課題へのフィード バック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	授業中にプリントを配付		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介		
その他	20分以上の正当な理由なき遅刻は欠席とする。 遅刻・早退・途中退室は3回で欠席1回とする。		
備考			
科目生への開講	なし		

4-016

ナンバリング	HU107B01	期間	前期
授業科目名	専門基礎演習 A		
英訳科目名	Sophomore Seminar (Specialized) A		
担当教員名	益田 圭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	本授業では、「基礎演習」で身につけたスタディ・スキルをさらに磨き、大学での学びに必要な話す力・聴く力・書く力・読む力・調べる力を強化する。また、入門科目で得た知識を活かして演習し、人文学の専門分野への理解を深める。		
到達目標	本授業は、次の3点を目標とする。 ①資料を収集し、必要な情報を取捨選択できる。 ②相手の話を聴きながら、要点を整理・記録することができる。 ③文章を要約できる、引用できる、それに対する自分の意見・評価が書ける。		
授業計画	第1回 イントロダクション 自己紹介 第2回 1年次の学びのふりかえり 第3回 キーワードで資料を探す 第4回 資料を整理する 第5回 文章を引用する 第6回 引用文に対して、意見を述べる 第7回 講演会に参加する 第8回 講演会の報告書を作成する 第9回 データベースで情報を探す 第10回 情報を整理する 第11回 文章を要約する 第12回 要約文に対して、意見を述べる 第13回 説明会に参加する 第14回 説明会の報告書を作成する 第15回 メールを書く		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度(発表など) 50% 課題 50%		
失格条件	3分の1以上の欠席 発表担当者が正当な理由無く無断で欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で提示された課題に取り組む。(予習時間 2時間) 授業で指摘された箇所を修正する。(復習時間 2時間)		
課題へのフィード バック	提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	授業中にプリントを配付する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介する。		
その他	20分以上の正当な理由なき遅刻は欠席とする。 遅刻・早退・途中退室は3回で欠席1回とする。		
備考			
科目生への開講	なし		

4-017

ナンバリング	HU107B02	期間	後期
授業科目名	専門基礎演習B		
英訳科目名	Sophomore Seminar (Specialized) B		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	本授業では、3年次から専攻に所属して、専門分野を深く追究するための準備を整える。「基礎演習」や「専門基礎演習A」で身につけたスタディ・スキルを活用して、ビブリオバトルやディベートに取り組むことで、専門分野の学びに必要な話す力・聴く力・書く力・読む力・調べる力を総合的に強化する。		
到達目標	本授業は、次の3点を目標とする。 ①聴き手の心を動かす発表ができる。 ②自分の主張を論理的に組み立てることができる。 ③相手の主張を傾聴・理解し、その上で批判することができる。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン ビブリオバトルとは 第2回 「何度も読み返したくなる本」発表原稿の構想を練る 第3回 「何度も読み返したくなる本」発表原稿を執筆する 第4回 「何度も読み返したくなる本」グループでビブリオバトル 第5回 「何度も読み返したくなる本」クラスでビブリオバトル 第6回 「何度も読み返したくなる本」選評を書く 第7回 「人に勧めたい本」発表原稿の構想を練る 第8回 「人に勧めたい本」発表原稿を執筆する 第9回 「人に勧めたい本」グループでビブリオバトル 第10回 「人に勧めたい本」クラスでビブリオバトル 第11回 「人に勧めたい本」選評を書く 第12回 全体でビブリオバトル 第13回 ディスカッションの準備 第14回 ディスカッション 第15回 ディスカッションのふりかえり		
評価方法 (合計100%)	発表内容 50% 授業への参加態度(課題など) 50%		
失格条件	3分の1以上の欠席 発表担当者が正当な理由なく無断で欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で提示された課題に取り組む。(予習時間 3時間) 授業で指摘された箇所を修正する。(復習時間 1時間)		
課題へのフィード バック	・毎回全体に向けてコメントします。 ・必要に応じて個別にコメントします。		
教科書	授業中にプリントを配付する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介する。		
その他	20分以上の正当な理由なき遅刻は欠席とする 遅刻・早退・途中退室は3回で欠席1回とする		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107B02	期間	後期
授業科目名	専門基礎演習B		
英訳科目名	Sophomore Seminar (Specialized) B		
担当教員名	岡田 大輔		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	本授業では、3年次から専攻に所属して、専門分野を深く追究するための準備を整える。「基礎演習」や「専門基礎演習A」で身につけたスタディ・スキルを活用して、ビブリオバトルやディベートに取り組むことで、専門分野の学びに必要な話す力・聴く力・書く力・読む力・調べる力を総合的に強化する。		
到達目標	本授業は、次の3点を目標とする。 ①聴き手の心を動かす発表ができる。 ②自分の主張を論理的に組み立てることができる。 ③相手の主張を傾聴・理解し、その上で批判することができる。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン ビブリオバトルとは 第2回 「何度も読み返したくなる本」発表原稿の構想を練る 第3回 「何度も読み返したくなる本」発表原稿を執筆する 第4回 「何度も読み返したくなる本」グループでビブリオバトル 第5回 「何度も読み返したくなる本」クラスでビブリオバトル 第6回 「何度も読み返したくなる本」選評を書く 第7回 「人に勧めたい本」発表原稿の構想を練る 第8回 「人に勧めたい本」発表原稿を執筆する 第9回 「人に勧めたい本」グループでビブリオバトル 第10回 「人に勧めたい本」クラスでビブリオバトル 第11回 「人に勧めたい本」選評を書く 第12回 全体でビブリオバトル 第13回 ディスカッションの準備 第14回 ディスカッション 第15回 ディスカッションのふりかえり		
評価方法 (合計100%)	発表内容 50% 授業への参加態度(課題など) 50%		
失格条件	3分の1以上の欠席 発表担当者が正当な理由なく無断で欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で提示された課題に取り組む。(予習時間 3時間) 授業で指摘された箇所を修正する。(復習時間 1時間)		
課題へのフィード バック	・毎回全体に向けてコメントします。 ・必要に応じて個別にコメントします。		
教科書	授業中にプリントを配付する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介する。		
その他	20分以上の正当な理由なき遅刻は欠席とする 遅刻・早退・途中退室は3回で欠席1回とする		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107B02	期間	後期
授業科目名	専門基礎演習B		
英訳科目名	Sophomore Seminar (Specialized) B		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	本授業では、3年次から専攻に所属して、専門分野を深く追究するための準備を整える。「基礎演習」や「専門基礎演習A」で身につけたスタディ・スキルを活用して、ビブリオバトルやディベートに取り組むことで、専門分野の学びに必要な話す力・聴く力・書く力・読む力・調べる力を総合的に強化する。		
到達目標	本授業は、次の3点を目標とする。 ①聴き手の心を動かす発表ができる。 ②自分の主張を論理的に組み立てることができる。 ③相手の主張を傾聴・理解し、その上で批判することができる。		
授業計画	第1回 イントロダクション ビブリオバトルとは 第2回 「何度も読み返したくなる本」発表原稿の構想を練る 第3回 「何度も読み返したくなる本」発表原稿を執筆する 第4回 「何度も読み返したくなる本」グループでビブリオバトル 第5回 「何度も読み返したくなる本」クラスでビブリオバトル 第6回 「何度も読み返したくなる本」選評を書く 第7回 「人に勧めたい本」発表原稿の構想を練る 第8回 「人に勧めたい本」発表原稿を執筆する 第9回 「人に勧めたい本」グループでビブリオバトル 第10回 「人に勧めたい本」クラスでビブリオバトル 第11回 「人に勧めたい本」選評を書く 第12回 全体でビブリオバトル 第13回 ディスカッションの準備 第14回 ディスカッション 第15回 ディスカッションのふりかえり		
評価方法 (合計100%)	発表内容 50% 授業への参加態度(課題など) 50%		
失格条件	3分の1以上の欠席 発表担当者が正当な理由なく無断で欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で提示された課題に取り組む。(予習時間 3時間) 授業で指摘された箇所を修正する。(復習時間 1時間)		
課題へのフィード バック	・毎回全体に向けてコメントします。 ・必要に応じて個別にコメントします。		
教科書	授業中にプリントを配付する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介する。		
その他	20分以上の正当な理由なき遅刻は欠席とする 遅刻・早退・途中退室は3回で欠席1回とする		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU107B02	期間	後期
授業科目名	専門基礎演習B		
英訳科目名	Sophomore Seminar (Specialized) B		
担当教員名	山本 幸男		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> -
授業概要・ポイント	本授業では、3年次から専攻に所属して、専門分野を深く追究するための準備を整える。「基礎演習」や「専門基礎演習A」で身につけたスタディ・スキルを活用して、ビブリオバトルやディベートに取り組むことで、専門分野の学びに必要な話す力・聴く力・書く力・読む力・調べる力を総合的に強化する。		
到達目標	本授業は、次の3点を目標とする。 ①聴き手の心を動かす発表ができる。 ②自分の主張を論理的に組み立てることができる。 ③相手の主張を傾聴・理解し、その上で批判することができる。		
授業計画	第1回 イン트로ダクション ビブリオバトルとは 第2回 「何度も読み返したくなる本」発表原稿の構想を練る 第3回 「何度も読み返したくなる本」発表原稿を執筆する 第4回 「何度も読み返したくなる本」グループでビブリオバトル 第5回 「何度も読み返したくなる本」クラスでビブリオバトル 第6回 「何度も読み返したくなる本」選評を書く 第7回 「人に勧めたい本」発表原稿の構想を練る 第8回 「人に勧めたい本」発表原稿を執筆する 第9回 「人に勧めたい本」グループでビブリオバトル 第10回 「人に勧めたい本」クラスでビブリオバトル 第11回 「人に勧めたい本」選評を書く 第12回 全体でビブリオバトル 第13回 ディスカッションの準備 第14回 ディスカッション 第15回 ディスカッションのふりかえり		
評価方法 (合計100%)	発表内容 50% 授業への参加態度 (課題など) 50%		
失格条件	3分の1以上の欠席 発表担当者が正当な理由なく無断で欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で提示された課題に取り組む。(予習時間 3時間) 授業で指摘された箇所を修正する。(復習時間 1時間)		
課題へのフィード バック	・毎回全体に向けてコメントします。 ・必要に応じて個別にコメントします。		
教科書	授業中にプリントを配付する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介する。		
その他	20分以上の正当な理由なき遅刻は欠席とする 遅刻・早退・途中退室は3回で欠席1回とする		
備考			
科目生への開講	なし		

4-021

ナンバリング	HU108B01	期間	前期
授業科目名	専門応用演習 A		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) A		
担当教員名	山本 幸男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	日本古代史の基礎知識を身につけるとともに、歴史的な思考力の体験を目標とする。		
到達目標	専門的な知識を身につけ、対話力、プレゼンテーション力を向上させることができる。		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 基礎編・読解のための辞書類の解説 第3回 基礎編・関係史料の調査方法 第4回 テキストの講読（輪読1、第1章第1～2節） 第5回 テキストの講読（輪読2、第1章第3～4節） 第6回 テキストの講読（輪読3、第2章第1～2節） 第7回 テキストの講読（輪読4、第2章第3節） 第8回 学外授業（奈良方面の古寺踏査） 第9回 テキストの講読（輪読5、第3章第1～2節） 第10回 テキストの講読（輪読6、第3章第2～3節） 第11回 テキストの講読（輪読7、第4章第1節） 第12回 テキストの講読（輪読8、第4章第2～3節） 第13回 テキストの講読（輪読9、第5章第1～2節） 第14回 テキストの講読（輪読10、第5章第3～4節） 第15回 講読のまとめ		
評価方法 (合計100%)	発表 50% 授業への参加態度 50%		
失格条件	全授業の4分の1以上の欠席 指定された回数のを発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業前にテキストをよく読み、わからない事項は辞書などで調べておくこと。発表のときは、事前に教員の指導を受けること。（予習時間 3時間） ・終了後は、授業で取り上げられたテキストの内容を読み返し、必要に応じてノートを作成すること。（復習時間 1時間）		
課題へのフィードバック	・輪読発表後、担当者にコメント、また全体にもコメントします。		
教科書	プリントにて配布		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	なし		

4-022

ナンバリング	HU108B01	期間	前期
授業科目名	専門応用演習 A		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) A		
担当教員名	鈴木 徳男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	古典文学を読解する力を養成することを目標にする。作品本文を正しく理解するために、多くの注釈書、研究文献などを活用し、具体的な課題についての参考論文や評論を探して検討する。古典文学を味わうために必要な様々な方法を学ぶ。中古・中世の作品を考察対象として自らレジュメを作成し、問題を設定する。受講生各人がいくつかの参考書類を調査し、その報告発表をもとに進める。		
到達目標	日本文学（古典）を学ぶ方法を習得できる。		
授業計画	第1回 古典とはなにか - 導入 - 第2回 古典文学史をふりかえり、作品と分野を確認する 第3回 各人それぞれの考察対象を探索する 第4回 様々な分野と主要な作品についての解説① 第5回 様々な分野と主要な作品についての解説② 第6回 研究の方法について① 第7回 研究の方法について② 第8回 参考文献資料の収集検索 第9回 レジュメを作成するしかた 第10回 調査発表の準備 第11回 進行計画作成 第12回 各人の発表と、それに基づく質疑応答① 第13回 各人の発表と、それに基づく質疑応答② 第14回 各人の発表と、それに基づく質疑応答③ 第15回 まとめとして発表用のレジュメを完成させる		
評価方法 (合計100%)	授業中の報告発表 50% 授業への参加態度 50%		
失格条件	授業中の発表を一度も行わなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	受講生各自の発表が必須なので、そのための準備を十分に行う。授業への積極的な参加が重要。予習復習の基準時間は、予習2時間（90分）・復習2時間（90分）。		
課題へのフィード バック	各自の報告発表に基づき、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

4-023

ナンバリング	HU108B01	期間	前期
授業科目名	専門応用演習A		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) A		
担当教員名	荒井 真理亜		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>日本近代文学のうち、授業中に提示したテーマについて調べ、それについて発表するためのレジюмеを作成してもらいます。受講生は調査から発表準備までを次の手順で進めます。</p> <p>①書誌的事項を確認する。 ②作者や作品について調べる。 ③同時代評や先行研究を収集し、論点を整理する。 ④作品を精読する。 ⑤問題を提起し、作品本文や資料に基づいて立論する。 ⑥発表のレジюмеを作成する。</p>		
到達目標	<p>本授業は、次の2点を目標とします。</p> <p>①近代文学の基礎知識を習得する。 ②実践を通して文学研究の方法を身につける。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 作品の読み方を学ぶ 第3回 問題点の見つけ方を学ぶ 第4回 資料の探し方を学ぶ 第5回 資料の読み方を学ぶ 第6回 発表の組み立て方を学ぶ 第7回 レジюмеの作り方を学ぶ 第8回 作者について調べる 第9回 作品について調べる 第10回 注釈をつける 第11回 作品を分析する 第12回 異同を調べる 第13回 同時代の評価と先行研究を調べる 第14回 問題点を発見する 第15回 自分の意見を主張する</p> <p>※受講生の到達度や作業の進捗状況に応じて、内容を一部変更することもあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>発表 50% 授業への参加態度 50%</p>		
失格条件	<p>全授業の3分の1以上の欠席 指定された回数の発表をしなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・発表の準備は早めに始めましょう。テーマや内容については、教員とよく相談してください。(予習2時間) ・ディスカッションに備えて、他の発表者のテーマについても予習しておきましょう。(予習1時間) ・発表で指摘された点を修正しましょう。(復習1時間)</p>		
課題へのフィード バック	<p>課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。</p>		
教科書	<p>授業中にプリントを配付します。</p>		
著者名			
出版社			
参考書	<p>授業中に紹介します。</p>		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108B01	期間	前期
授業科目名	専門応用演習A		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) A		
担当教員名	高木 学		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>本講のねらいは、アニメ・マンガ・ゲームなどのオタク的文化に関する論理的な考察を進めていくことにある。前期のゼミでは、2つのテーマを軸に進めていく。</p> <p>1. ファン活動の考察 : サブカルチャーに関する人々の活動(コスプレ・二次創作・聖地巡礼など)を詳細に取り上げ、考察していく</p> <p>2. 文献精読 サブカルチャーに関する基本文献を分担して要約・発表する</p>		
到達目標	<p>サブカルチャーについて、発表と討論を通じて。自ら学びを深める力を養うことを目標とする</p> <p>1. サブカルチャー理論およびサブカルチャーを取り巻く現代社会の理解を主体的に深められる。</p> <p>2. 発表・資料作成・プレゼンテーションの技能を身につけることができる。</p> <p>3. 個別の作品を日本文化・歴史・社会情勢との関連の中でより深く分析できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 サブカルチャー理論の概観</p> <p>第3回 サブカルチャーの論じ方</p> <p>第4回 解説1 アニメファンの活動</p> <p>第5回 解説2 同人誌</p> <p>第6回 解説3 なろうなど、ネット作品</p> <p>第7回 学生発表1 ファン活動 コスプレ</p> <p>第8回 学生発表2 ファン活動 聖地巡礼</p> <p>第9回 学生発表3 ファン活動 ライブ</p> <p>第10回 学生発表4 文献精読 ゲーム関連1</p> <p>第11回 学生発表5 文献精読 ゲーム関連2</p> <p>第12回 学生発表6 文献精読 アニメ関連1</p> <p>第13回 学生発表7 文献精読 アニメ関連2</p> <p>第14回 全体的討論会・まとめ</p> <p>第15回 到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>発表 40%</p> <p>発表への参加態度 60%</p>		
失格条件	<p>全授業の3分の1以上の欠席</p> <p>指定された回数の発表(ないしレポート提出)をしなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習: 発表予定の作品について基本状況を各自調べる。(各週1時間)</p> <p>復習: 発表について自分なりの考察をまとめる。(各週1時間)</p> <p>発表準備: 自分自身の発表に向けて下調べ・資料準備を進める。(合計30時間)</p>		
課題へのフィード バック	<p>各回でのリアクションペーパーへのコメント</p> <p>発表への講評・指導</p>		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書	授業内で適宜紹介する		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

4-025

ナンバリング	HU108B01	期間	前期
授業科目名	専門応用演習 A		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) A		
担当教員名	釈 徹宗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	テーマの選定から、立論とプレゼンテーション、そして議論の技法などの基礎を身につける。 この演習では、宗教・仏教・浄土真宗からテーマと論点を選ぶことになる。そして、受講者は全員がゼミ発表を行わねばならない。		
到達目標	立論から発表、フィードバックまでの一連の順序を学ぶ。また、ひとつのテーマで議論を深めていく方法論や思考を身につけることができる。		
授業計画	第1回 ゼミ運営に関するレクチャー 第2回 発表と議論に関するレクチャー 第3回 模擬発表・模擬議論 第4回 発表(1) 第5回 発表(2) 第6回 発表(3) 第7回 再発表(1) 第8回 再発表(2) 第9回 再発表(3) 第10回 文献を読む(1) 宗教学 第11回 文献を読む(2) 仏教学 第12回 文献を読む(3) 真宗学 第13回 再々発表(1) 第14回 再々発表(2) 第15回 再々発表(3)		
評価方法 (合計100%)	発表 50% 発表への参加態度 50%		
失格条件	指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	図書館の使い方をしっかりと身につける。 授業時間外における予習・復習等に必要な時間 ・宗教関係の本を読む…予習 120分 ・授業のプリントやノートを見直す…復習 60分		
課題へのフィード バック	課題終了後に、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜紹介		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108B01	期間	前期
授業科目名	専門応用演習 A		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) A		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	主に、臨床心理学や発達心理学等の領域で注目されているテーマについて、文献講読、ディスカッション、ディベート、グループワーク等を行う。そのような活動を通して、心理学の専門的な学びを自ら実践できる力を育むとともに、社会に出てから必要とされる力（問題発見力、論点整理力、論理的思考力、積極性、チームワーク力、プレゼンテーション力、ディベート力、文書作成力など）を磨く。		
到達目標	臨床心理学や発達心理学等の領域で、近年、どのようなテーマに関心を持たれ、どのような方法で研究が進められているのかを理解できる。また、心理学に関する事象に問題意識をもち、専門的な学びを自ら実践できる力を獲得する。さらに、社会に出てから必要とされる力（問題発見力、論点整理力、論理的思考力、積極性、チームワーク力、プレゼンテーション力、ディベート力、文書作成力など）を獲得する。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 臨床心理学における近年の研究動向 第3回 発達心理学における近年の研究動向 第4回 関心のあるテーマを考える 第5回 文献検索の方法と発表方法 第6回 分析手法の理解 第7回 文献のまとめ方 第8回 グループワークと発表① 第9回 グループワークと発表② 第10回 グループワークと発表③ 第11回 グループワークと発表④ 第12回 グループワークと発表⑤ 第13回 グループワークと発表⑥ 第14回 グループワークと発表⑦ 第15回 補足と総括		
評価方法 (合計100%)	発表 50% 授業への参加態度 50%		
失格条件	全授業の3分の1以上の欠席（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業テーマに向けて調べ、関心や問題意識をもって授業に臨むこと(予習時間の目安は1時間)。また、授業で扱ったテーマについてさらに学習を深めたり、学んだ研究手法について繰り返し実践するなど、3時間を目安に復習すること。		
課題へのフィードバック	課題提出後の授業で、必要に応じて全体にコメントします。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108B01	期間	前期
授業科目名	専門応用演習A		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) A		
担当教員名	石川 玲子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>英米の文学作品、映画、文化を論じた文章を読み、要点をつかむと共に、そこに提示された考えについて議論する。このような演習を通して、映画や文学作品を論じる際のアプローチの仕方を学ぶと共に、論理的・批判的に考える力、独自の視点を提示する力を養う。</p> <p>後半の4回は、卒業研究のための問いの立て方や研究計画の立て方について学ぶ。</p>		
到達目標	<p>論説文の趣旨を的確にとらえ、要約し、発表することができる。</p> <p>英米の文学や映画について、様々な視点から考え、議論することができる。</p> <p>関心のあるテーマについて、問いを立て、研究計画を立てることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 映画に映し出されるもの</p> <p>第2回 映画『スタンドバイミー』を見る (1)</p> <p>第3回 映画『スタンドバイミー』を見る (2) / ディスカッション</p> <p>第4回 『スタンドバイミー』についてのエッセイ輪読 (発表とディスカッション) (1)</p> <p>第5回 『スタンドバイミー』についてのエッセイ輪読 (発表とディスカッション) (2)</p> <p>第6回 『スタンドバイミー』についてのエッセイ輪読 (発表とディスカッション) (3)</p> <p>第7回 『スタンドバイミー』についてのエッセイ輪読 (発表とディスカッション) (4)</p> <p>第8回 R.L.スティーブenson『宝島』原作の映画を見る</p> <p>第9回 『宝島』についての論文を読む (発表とディスカッション) (1)</p> <p>第10回 『宝島』についての論文を読む (発表とディスカッション) (2)</p> <p>第11回 『宝島』についての論文を読む (発表とディスカッション) (3)</p> <p>第12回 卒業研究に向けて：関心のあるテーマについての文献を探す</p> <p>第13回 文献紹介と問いの設定 (発表と質疑)</p> <p>第14回 問いの背景と研究計画 (発表・提出) (1)</p> <p>第15回 問いの背景と研究計画 (フィードバック) (2)</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 (発言・課題など) 50%</p> <p>レポート課題 50%</p>		
失格条件	<p>全授業の3分の1以上の欠席</p> <p>指定された回数の発表をしなかった場合</p> <p>期末レポートを提出しなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習：テキストを必ず事前に読み、興味深いと思った点、疑問に思う点などをピックアップする。</p> <p>担当者は、担当個所の要旨と自分の考えをまとめ、レジュメを用意する。</p> <p>復習：論点となったことを自分なりに整理し、興味深いと思った点や疑問に思う点をさらに調べる。</p> <p>予習に90分、復習に90分を費やすことが望ましい。</p>		
課題へのフィード バック	<p>・授業での課題 (レジュメ、発表) については、授業中または個別にコメントします。</p> <p>・提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。</p>		
教科書	なし (演習の中で、適宜、文献を紹介します。)		
著者名			
出版社			
参考書	演習の中で、適宜、紹介します。		
その他	<p>20分以上の正当な理由なき遅刻は欠席とする。</p> <p>遅刻・早退・途中退室は3回で欠席1回とする。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

4-028

ナンバリング	HU108B01	期間	前期
授業科目名	専門応用演習A		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) A		
担当教員名	J.E.Alsdorf		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	This course will look at similarities and differences among the cultures of Japan, the USA, China and other countries. In particular, we will look at cultural value orientations and how values are expressed and reflected in various aspects of culture, including marriage and family relationships, language and communication style, social structures and work relationships.		
到達目標	To further develop students' understanding of the concept of culture and its aspects, including values, and to expand their knowledge of the many variations of culture in different societies around the world.		
授業計画	<p>Week 1.Class orientation. What does "culture" mean?</p> <p>Week 2.Cultural rules for acceptable behavior</p> <p>Week 3.Stereotyping</p> <p>Week 4.Media and culture</p> <p>Week 5.Nonverbal communication: Gestures and body language</p> <p>Week 6.Cultural perspective of time</p> <p>Week 7.Touch and Space. Quiz 1</p> <p>Week 8.Verbal communication norms</p> <p>Week 9.The individual and the group</p> <p>Week 10.Subcultures</p> <p>Week 11.Status</p> <p>Week 12.What is family?</p> <p>Week 13.Gender as culture</p> <p>Week 14.Our connected world. Quiz 2</p> <p>Week 15.Presentation of final projects</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>Class attitude and participation 20%</p> <p>Presentations and assignments 40%</p> <p>Quizzes 40%</p>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ Failure to turn in acceptable projects / assignments on time. ・ Missing more than one third of class hours. 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>Since classes will be conducted in English, it is highly recommended that the student has some working knowledge of the English language.</p> <p>Students will be expected to attend class on time every week, do homework and be active participants in all activities.</p> <p>Students must bring dictionaries to every class. (Japanese to English and English to Japanese) (予習2時間：90分、復習2時間：90分)</p>		
課題へのフィード バック	Students will receive comments and feedback upon completion of assignments.		
教科書	This is Culture		
著者名	Asako Kajiura, Gregory Goodmacher		
出版社	Nan'un-do		
参考書			
その他	Being late 3 times is equal to 1 absence.		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108B01	期間	前期
授業科目名	専門応用演習 A		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) A		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	この科目は、この科目は、卒業研究とリンクしています。個別の卒業テーマに取り組む前段階の「共通ゼミナール」と位置づけ、教員が与える共通テーマについてのビジネス提案（製品・サービスに関わる）を行います。この提案は、個人で行うものとグループで行うものに分けてそれぞれ取り組みます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究のテーマ設定に通じる課題を発見できること ・その課題を解決するための分析と提案ができること ・創造性豊富な思考力を備えることができること ・その上で正確な文字表現によるレポートまたは論文を作成できることなど 		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ヒット商品やサービスの抽出 第3回 ヒット商品やサービスのモニターと成功分析 第4回 ヒット商品やサービスの事例資料の探索と収集 第5回 共同研究1（テーマ提示・情報収集） 第6回 共同研究2（課題発見） 第7回 共同研究3（課題解決・プレゼンテーション準備） 第8回 共同研究4（提案プランのプレゼンテーション） 第9回 個人研究1（テーマ題材設定と情報収集） 第10回 個人研究2（個人テーマ領域の背景・課題発見） 第11回 個人研究3（新製品またはサービスの設定） 第12回 個人研究4（プレゼンテーション準備） 第13回 個人研究5（提案プランのプレゼンテーション） 第14回 卒業研究計画1（テーマ情報収集） 第15回 卒業研究計画2（シェアとプレゼンテーション） ※受講生の到達度や作業の進捗状況に応じて、内容を一部変更することもあります。		
評価方法 (合計100%)	課題研究の作成35% 課題研究のプレゼンテーション35% 正確な日本語による論文作成30% を、出席率100%の受講状況を前提にして総合評価する。		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の欠席 ・課題研究の未提出 ・課題研究プレゼンテーションの未実施 ・日本語能力の向上が見られないことなど 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	課題研究の事例研究と自己作成 課題研究の経過報告の作成 以上90分 課題研究の自己作成の継続 課題研究経過報告フィードバックによる次回報告準備 以上90分 外国人留学生は、日本語能力向上の自主学習を徹底すること（毎日90分）		
課題へのフィードバック	課題研究論文のフィードバック返却 課題研究のプレゼンテーション実施と解説など		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	参考文献、推奨図書などは授業内で指定する		
その他			
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

4-030

ナンバリング	HU108B02	期間	後期
授業科目名	専門応用演習B		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) B		
担当教員名	山本 幸男		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	日本古代史の基礎知識を身につけることを目標とする。後期は史料（活字本・古文書）の講読を行う。		
到達目標	専門的な知識を身につけ、対話力、プレゼンテーション力を向上できる。		
授業計画	第1回 基礎史料の解説 第2回 史料（活字本）読解の実践 第3回 史料の講読（読解1、遣唐使をめぐる日本の史料） 第4回 史料の講読（読解2、遣唐使をめぐる中国の史料） 第5回 史料の講読（読解3、新羅等をめぐる史料） 第6回 学外授業（正倉院展を観覧） 第7回 史料の講読（輪読1、平安期の地方行政史料） 第8回 史料の講読（輪読2、平安期の財政史料） 第9回 史料の講読（輪読3、平安期の行政史料） 第10回 史料の講読（輪読4、平安期の仏教関係史料） 第11回 史料の講読（輪読5、平安期の文化関係史料） 第12回 古文書（正倉院文書）読解の解説 第13回 古文書の読解（輪読1、天平宝字期の請暇解） 第14回 古文書の読解（輪読2、宝亀期の請暇解） 第15回 古文書の読解（輪読3、月借錢解）・まとめ		
評価方法 (合計100%)	発表 50% 授業への参加態度 50%		
失格条件	全授業の4分の1以上を欠席した場合 指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業前にテキストをよく読み、わからない事項は辞書などで調べておくこと。発表のときは、事前に教員の指導を受けること。（予習時間 3時間） ・終了後は、授業で取り上げられたテキストの内容を読み返し、必要に応じてノートを作成すること。（復習時間 1時間）		
課題へのフィードバック	輪読後、担当者に向けてコメントします。、また、全体に向けてもコメントします。		
教科書	プリントにて配布		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	なし		

4-031

ナンバリング	HU108B02	期間	後期
授業科目名	専門応用演習B		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) B		
担当教員名	鈴木 徳男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	古典文学を読解する力を養成することを目標にする。作品本文を正しく理解するために、多くの注釈書、研究文献などを活用し、具体的な課題についての参考論文や評論を探して検討する。古典文学を味わうために必要な様々な方法を学ぶ。中古・中世の作品を考察対象として自らの問題を設定する。受講生各人が調査に基づいてレポートを作成する。		
到達目標	日本文学（古典）を学ぶ方法を習得できる。		
授業計画	第1回 古典研究とは。授業の進め方など、導入 第2回 各人それぞれのテーマを探索する 第3回 古典文学史をふりかえる 第4回 様々な分野と主要な作品についての解説 第5回 研究の方法について、個別の課題により検討する① 第6回 研究の方法について、個別の課題により検討する② 第7回 研究の方法について、個別の課題により検討する③ 第8回 参考文献資料の収集検索等、調査の準備① 第9回 参考文献資料の収集検索等、調査の準備② 第10回 進行計画の作成 第11回 レポート執筆準備のための資料収集 第12回 レポート執筆準備のための資料検討 第13回 構成を考えてレポート執筆 第14回 レポートを読みかえし文章を整える 第15回 まとめとして各自レポートを提出する		
評価方法 (合計100%)	授業中の報告発表およびレポート提出 50% 授業への参加態度 50%		
失格条件	期末のレポートを提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	受講生各自の主體的調査が必須なので、そのための準備を十分に行う。授業への積極的な参加が重要。予習復習の基準時間は、予習2時間（90分）・復習2時間（90分）。		
課題へのフィード バック	個別の課題発表などに対して、受講者全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108B02	期間	後期
授業科目名	専門応用演習B		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) B		
担当教員名	荒井 真理亜		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>日本近代文学のうち、各自が関心を持っているテーマについて発表してもらい、それについて全員でディスカッションを行ないます。受講生は発表からレポート作成までを次の手順で進めます。</p> <p>①書誌的事項を確認する。 ②作者や作品について調べる。 ③同時代評や先行研究を収集し、論点を整理する。 ④作品を精読する。 ⑤問題を提起し、作品本文や資料に基づいて立論する。 ⑥レジュメを作成する。 ⑦発表とディスカッションを経て、レポートを作成する。</p>		
到達目標	<p>本授業は、次の2点を目標とします。</p> <p>①近代文学の基礎知識を習得する。 ②実践を通して文学研究の方法を身につける。</p>		
授業計画	<p>第1回 発表の準備 問題提起 第2回 発表の準備 資料調査 第3回 発表の準備 レジュメの作成 第4回 受講生による発表とディスカッション① 作者 第5回 受講生による発表とディスカッション② 梗概 第6回 受講生による発表とディスカッション③ 注釈 第7回 受講生による発表とディスカッション④ 背景 第8回 受講生による発表とディスカッション⑤ 分析 第9回 受講生による発表とディスカッション⑥ 異同 第10回 受講生による発表とディスカッション⑦ 評価 第11回 受講生による発表とディスカッション⑧ 問題点 第12回 レポートの書き方 第13回 レポートの作成 第14回 レポートの校正 第15回 講評とまとめ</p> <p>※受講生が選択するテーマや準備の進捗状況に応じて、内容を一部変更することもあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>発表 50% 授業への参加態度 50%</p>		
失格条件	<p>全授業の3分の1以上の欠席 指定された回数の発表をしなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・発表の準備は早めに始めましょう。テーマや内容については、教員とよく相談してください。(予習2時間) ・ディスカッションに備えて、他の発表者のテーマについても予習しておきましょう。(予習1時間) ・発表で指摘された点を修正しましょう。(復習1時間)</p>		
課題へのフィード バック	<p>発表に対して個別にコメントします。</p>		
教科書	<p>授業中にプリントを配付します。</p>		
著者名			
出版社			
参考書	<p>授業中に紹介します。</p>		
その他			
備考			
科目生への開講	<p>なし</p>		

ナンバリング	HU108B02	期間	後期
授業科目名	専門応用演習B		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) B		
担当教員名	高木 学		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>本講のねらいは、アニメ・マンガ・ゲームなどのオタク的文化に関する論理的な考察を進めていくことにある。後期のゼミでは、2つのテーマを軸に進めていく。</p> <p>1. 企画立案 サブカルチャーに関する作品およびイベントを企画立案する</p> <p>2. 文献精読 サブカルチャーに関する文献を読み、発表する。卒業研究に向けて各自のテーマを深める</p>		
到達目標	<p>サブカルチャーについて、発表と討論を通じて。自ら学びを深める力を養うことを目標とする</p> <p>1. サブカルチャー理論およびサブカルチャーを取り巻く現代社会の理解を主体的に深められる。</p> <p>2. 発表・資料作成・プレゼンテーションの技能を身につけることができる。</p> <p>3. 個別の作品を日本文化・歴史・社会情勢との関連の中でより深く分析できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 サブカルチャー理論の概観</p> <p>第3回 サブカルチャーの論じ方</p> <p>第4回 作品解説1 ジブリなどアニメ映画</p> <p>第5回 作品解説2 無双系などゲーム作品</p> <p>第6回 作品解説3 ワンピースなど漫画作品</p> <p>第7回 学生発表1 企画立案 ライブイベント</p> <p>第8回 学生発表2 企画立案 アニメ作品</p> <p>第9回 学生発表3 企画立案 ゲーム作品</p> <p>第10回 学生発表4 企画立案 聖地巡礼</p> <p>第11回 学生発表5 文献要約 アニメ</p> <p>第12回 学生発表6 文献要約 ゲーム</p> <p>第13回 学生発表7 文献要約 特撮</p> <p>第14回 全体的討論会・まとめ</p> <p>第15回 到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>発表 40%</p> <p>発表への参加態度 60%</p>		
失格条件	<p>全授業の3分の1以上の欠席</p> <p>指定された回数の発表（ないしレポート提出）をしなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習：発表予定の作品について基本状況を各自調べる。（各週1時間）</p> <p>復習：発表について自分なりの考察をまとめる。（各週1時間）</p> <p>発表準備：自分自身の発表に向けて下調べ・資料準備を進める。（合計30時間）</p>		
課題へのフィード バック	<p>各回でのリアクションペーパーへのコメント</p> <p>発表への講評・指導</p>		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書	授業内で適宜紹介する		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108B02	期間	後期
授業科目名	専門応用演習B		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) B		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>宗教・仏教・浄土真宗などから各自の興味のあるテーマと論点を選び、ゼミ発表を行う。あわせて浄土真宗の学びをふりかえり、内容と構造を体系的に身に付け、その特徴を掘り下げ、検討する。</p> <p>各自の発表と、親鸞聖人・『歎異抄』・蓮如上人・『御文章』を概観することを通して、悩みをかかえて生きる人間の姿、苦悩を越える道としての釈尊の教え、親鸞聖人が歩んだ念仏の生活などについて考察する。</p> <p>卒業研究を前に、改めて宗教・仏教・浄土真宗について、その概要と着目点を確認しておきたい。</p>		
到達目標	<p>宗教、仏教、浄土真宗についての基本的な事柄を学び、人間の姿・苦悩のメカニズム・人生を生き抜く智慧について考える視点を身に付ける。</p> <p>研究テーマに関する文献を集めて内容を検討し、自身の研究成果を整理完成させる技術を習得する。発表や質疑応答を通して、資料作成・意見交換などの表現力を身に付ける。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODククション</p> <p>第2回 宗教・仏教・浄土真宗と各自のテーマ</p> <p>第3回 論文の書き方（1）基礎</p> <p>第4回 論文の書き方（2）発展</p> <p>第5回 各自の発表（1）</p> <p>第6回 各自の発表（2）</p> <p>第7回 親鸞聖人について</p> <p>第8回 親鸞聖人の教えについて</p> <p>第9回 『歎異抄』講読</p> <p>第10回 蓮如上人について</p> <p>第11回 蓮如上人と本願寺について</p> <p>第12回 『御文章』講読</p> <p>第13回 各自の再発表（1）</p> <p>第14回 各自の再発表（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	発表内容50%、授業への参加態度（参加状況）50%		
失格条件	3分の1以上の欠席 指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス</p> <p>宗教・仏教・浄土真宗の思想は、先人の経験と研鑽による積み重ねが多数あるので、それらの文献を読み進めることが大事である。その場合、文字の表面上だけでなく、文章の深意を汲み取る読み解きと、自身の生き方の問いとしての視点が重要となる。思想研究に必要な、辞書や参考図書の扱い方を身に付け、他者の意見に興味を持ってアンテナを張り、吸収することが学びを進める鍵となる。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要な時間</p> <p>講義で紹介する文献や宗教・仏教・浄土真宗に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分）</p> <p>講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……………復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108B02	期間	後期
授業科目名	専門応用演習B		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) B		
担当教員名	西迫 成一郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>本演習では、学生独自の問題意識に基づいて心理学の文献を収集し、その内容をまとめたうえで自身の考察を加え発表し全員でディスカッションを行う。これにより、さらに多くの心理学の知識を獲得するとともに、各々の問題意識を特定していく。</p> <p>この授業における重要ポイントは、1. 問題の提起、2. 文献の収集、3. 問題の特定、4. 研究の方法、である。</p>		
到達目標	心理学領域において、資料を収集しそれを読み解く力を身につけ、また学生自身の問題意識の特定化を到達目標とする。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 自分自身の興味・関心を考える</p> <p>第3回 人々の興味・関心を考える</p> <p>第4回 文献検索の方法と発表方法</p> <p>第5回 分析手法を理解しながら文献を読み解く</p> <p>第6回 文献のまとめ方</p> <p>第7回 文献を読む</p> <p>第8回 発表とディスカッション</p> <p>第9回 発表とディスカッション</p> <p>第10回 発表とディスカッション</p> <p>第11回 発表とディスカッション</p> <p>第12回 発表とディスカッション</p> <p>第13回 発表とディスカッション</p> <p>第14回 発表とディスカッション</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	発表 50% 授業への参加態度（授業に出席することだけでなく、課題への取り組み度合いや議論への積極的な参加などを含め総合的に評価します） 50%		
失格条件	次のいずれかに該当した場合は失格となる。 1.全授業の3分の1以上の欠席 2.指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	関心のある領域について資料を探して読みそれらをまとめる。（予習時間 3時間） 授業や議論の内容を整理し、これからの自身の研究テーマへとつなぐ作業を行う（復習時間 1時間）		
課題へのフィード バック	みなさんが行った発表については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	20分以上遅れて来た場合は欠席に数えます。 20分未満の遅刻3回で1回の欠席と数えます。		
備考			
科目生への開講	なし		

4-036

ナンバリング	HU108B02	期間	後期
授業科目名	専門応用演習B		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) B		
担当教員名	J.E.Alsdorf		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	This course will look at similarities and differences among the cultures of Japan, the USA, China and other countries. In particular, we will look at cultural value orientations and how values are expressed and reflected in various aspects of culture, including marriage and family relationships, language and communication style, social structures and work relationships.		
到達目標	To further develop students' understanding of the concept of culture and its aspects, including values, and to expand their knowledge of the many variations of culture in different societies around the world.		
授業計画	<p>Week 1.Class orientation. What does "culture" mean?</p> <p>Week 2.Cultural rules for acceptable behavior</p> <p>Week 3.Stereotyping</p> <p>Week 4.Media and culture</p> <p>Week 5.Nonverbal communication: Gestures and body language</p> <p>Week 6.Cultural perspective of time</p> <p>Week 7.Touch and Space. Quiz 1</p> <p>Week 8.Verbal communication norms</p> <p>Week 9.The individual and the group</p> <p>Week 10.Subcultures</p> <p>Week 11.Status</p> <p>Week 12.What is family?</p> <p>Week 13.Gender as culture</p> <p>Week 14.Our connected world. Quiz 2</p> <p>Week 15.Presentation of final projects</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>Class attitude and participation 20%</p> <p>Presentations and assignments 40%</p> <p>Quizzes 40%</p>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ Failure to turn in acceptable projects / assignments on time. ・ Missing more than one third of class hours. 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>Since classes will be conducted in English, it is highly recommended that the student has some working knowledge of the English language.</p> <p>Students will be expected to attend class on time every week, do homework and be active participants in all activities.</p> <p>Students must bring dictionaries to every class. (Japanese to English and English to Japanese) (予習2時間：90分、復習2時間：90分)</p>		
課題へのフィード バック	Students will receive comments and feedback upon completion of assignments.		
教科書	This is Culture		
著者名	Asako Kajiura, Gregory Goodmacher		
出版社	Nan'un-do		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108B02	期間	後期
授業科目名	専門応用演習B		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) B		
担当教員名	石川 玲子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>英米の文学作品、映画、文化を論じた文章を読み、要点をつかむと共に、そこに提示された考えについて議論する。このような演習を通して、映画や文学作品を論じる際のアプローチの仕方を学ぶと共に、論理的・批判的に考える力、独自の視点を提示する力を養う。</p> <p>後半の4回は、卒業研究のための問いの立て方や研究計画の立て方について学ぶ。</p>		
到達目標	<p>論説文の趣旨を的確にとらえ、要約し、発表することができる。</p> <p>英米の文学や映画について、様々な視点から考え、議論することができる。</p> <p>関心のあるテーマについて、問いを立て、研究計画を立てることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 映画に映し出されるもの</p> <p>第2回 映画『スタンドバイミー』を見る (1)</p> <p>第3回 映画『スタンドバイミー』を見る (2) / ディスカッション</p> <p>第4回 『スタンドバイミー』についてのエッセイ輪読 (発表とディスカッション) (1)</p> <p>第5回 『スタンドバイミー』についてのエッセイ輪読 (発表とディスカッション) (2)</p> <p>第6回 『スタンドバイミー』についてのエッセイ輪読 (発表とディスカッション) (3)</p> <p>第7回 『スタンドバイミー』についてのエッセイ輪読 (発表とディスカッション) (3)</p> <p>第8回 R.L.スティーブenson『宝島』原作の映画を見る</p> <p>第9回 『宝島』についての論文を読む (発表とディスカッション) (1)</p> <p>第10回 『宝島』についての論文を読む (発表とディスカッション) (2)</p> <p>第11回 『宝島』についての論文を読む (発表とディスカッション) (3)</p> <p>第12回 卒業研究に向けて：関心のあるテーマについての文献を探す</p> <p>第13回 文献紹介と問いの設定 (発表と質疑)</p> <p>第14回 問いの背景と研究計画 (発表・提出) (1)</p> <p>第15回 問いの背景と研究計画 (フィードバック) (2)</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 (発言・課題など) 50%</p> <p>レポート課題 50%</p>		
失格条件	<p>全授業の3分の1以上の欠席</p> <p>指定された回数の発表をしなかった場合</p> <p>期末レポートを提出しなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習： テキストを必ず事前に読み、興味深いと思った点、疑問に思う点などをピックアップする。</p> <p>担当者は、担当個所の要旨と自分の考えをまとめ、レジュメを用意する。</p> <p>復習： 論点となったことを自分なりに整理し、興味深いと思った点や疑問に思う点をさらに調べる。</p> <p>予習に90分、復習に90分を費やすことが望ましい。</p>		
課題へのフィード バック	<p>・授業での課題 (レジュメ、発表) については、授業中または個別にコメントします。</p> <p>・提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。</p>		
教科書	なし (演習の中で、適宜、文献を紹介します。)		
著者名			
出版社			
参考書	演習の中で、適宜、紹介します。		
その他	<p>20分以上の正当な理由なき遅刻は欠席とする。</p> <p>遅刻・早退・途中退室は3回で欠席1回とする。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108B02	期間	後期
授業科目名	専門応用演習B		
英訳科目名	Junior Seminar (Applied) B		
担当教員名	藤谷 忠昭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	卒業研究のそれぞれのテーマに沿って、研究、発表を行ってもらう。まず、それぞれの研究計画の作成を行い、計画推敲のための文献を収集してもらう。その上で、まとめた成果を発表し、議論を行う。 1.自らの卒業研究への熱意。 2.他の者の研究について議論を通し?での協力。つまり相手の観点に立ち、積極的に発言を行うこと。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果を発表できる。 ・研究について議論を交わすことができる。 		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 卒業研究の進め方 第3回 自己紹介と卒業研究への抱負 第4回 自己紹介と卒業研究への抱負 第5回 それぞれの研究計画の発表 第6回 それぞれの研究計画の発表 第7回 それぞれの研究計画の発表 第8回 文献探索 第9回 探索文献の確認 第10回 それぞれの購読文献についての発表と議論 第11回 それぞれの購読文献についての発表と議論 第12回 それぞれの購読文献についての発表と議論 第13回 それぞれの購読文献についての発表と議論 第14回 それぞれの購読文献についての発表と議論 第15回 次年度へ向けての学習の進め方		
評価方法 (合計100%)	発表 50% 授業への参加態度（発言・課題など）50%		
失格条件	全授業の3分の1以上の欠席 指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	出された課題をしっかりとこなすこと（予習2時間:90分、復習2時間:90分）。		
課題へのフィード バック	発表時にコメントする。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書	適宜、個別に指示		
その他	積極的な取り組みか?必要です。 私語、内職、メール操作、熟睡等は出席とはなりません。 私語をするときは、退出してください。 スマートフォンの操作は教室外でお願いします。 板書は写メではなく、手書きで取りましょう。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108C01	期間	前期
授業科目名	専門研究演習		
英訳科目名	Senior Seminar (Advanced)		
担当教員名	荒井 真理亜		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	「卒業研究」のための演習です。各自の「卒業研究」のテーマについて発表してもらい、それについて受講生全員でディスカッションを行ないます。		
到達目標	本授業は、次の2点を目標とします。 ①実践を通して文学研究の方法を身につける。 ②根拠を示して自分の意見を主張することができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 「卒業研究」の進め方 第3回 受講生による発表とディスカッション① 書誌 第4回 受講生による発表とディスカッション② 作者略歴 第5回 受講生による発表とディスカッション③ 成立 第6回 受講生による発表とディスカッション④ 背景 第7回 受講生による発表とディスカッション⑤ 創作動機 第8回 受講生による発表とディスカッション⑥ 注釈 第9回 受講生による発表とディスカッション⑦ 同時代評 第10回 受講生による発表とディスカッション⑧ 先行研究 第11回 受講生による発表とディスカッション⑨ 作品分析 第12回 受講生による発表とディスカッション⑩ 問題点 第13回 受講生による発表とディスカッション⑪ 解釈 第14回 受講生による発表とディスカッション⑫ 主題 第15回 講評とまとめ *受講生のテーマや作業の進捗状況に応じて、内容を一部変更することもあります。		
評価方法 (合計100%)	発表 50% 授業への参加態度 50%		
失格条件	全授業の3分の1以上の欠席 指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・発表の準備は早めに始めましょう。テーマや内容については、教員とよく相談してください。(予習2時間) ・ディスカッションに備えて、他の発表者のテーマについても予習しておきましょう。(予習1時間) ・発表で指摘された点を修正しましょう。(復習1時間)		
課題へのフィード バック	発表に対して個別にコメントします。		
教科書	授業中にプリントを配付します。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介します。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

4-040

ナンバリング	HU108C01	期間	前期
授業科目名	専門研究演習		
英訳科目名	Senior Seminar (Advanced)		
担当教員名	鈴木 徳男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	古典文学を考察する方法を身につけることをめざす。各自が決めたテーマを追究し、形にして行くにはどのようにすればよいかを学ぶ。研究を整理し発表するために、どのような準備が必要かを各自のテーマごとに実践する。対象や主題の決め方、資料や参考文献の読み方、処理の方法などを指導する。各自が考察を深め、報告発表を行い、受講生全員で討論する。		
到達目標	古典文学の研究に必要な知見・方法を具体的に習得できる。		
授業計画	第1回 導入 第2回 文学研究とは 第3回 研究の方法 受講生①②の課題を対象（以下番号で同内容を示す） 第4回 研究の方法 受講生③④ 第5回 研究の方法 受講生⑤⑥ 第6回 文献資料の収集①② 第7回 文献資料の収集③④ 第8回 文献資料の収集⑤⑥ 第9回 資料の読み方と整理①②③ 第10回 資料の読み方と整理④⑤⑥ 第11回 各自の報告発表と討議①② 第12回 各自の報告発表と討議③④ 第13回 各自の報告発表と討議⑤⑥ 第14回 発表に基づく成果をまとめる 第15回 発表に基づく評		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 発表内容 50%		
失格条件	全授業の3分に1以上の欠席 指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	受講生各自の発表報告が必須なので、そのために教員の指導を受けて準備を行う。授業時間外にも各自が積み重ねる事項が多い。予習復習の基準時間は、予習2時間（90分）・復習2時間（90分）。		
課題へのフィード バック	各自の課題について報告発表の後、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

4-041

ナンバリング	HU108C01	期間	前期
授業科目名	専門研究演習		
英訳科目名	Senior Seminar (Advanced)		
担当教員名	山本 幸男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	歴史上の諸問題を各自の関心に即して取り上げ、受講生全員による討論を経験し、卒業論文に仕上げて行く。出席および受講態度を重視する。		
到達目標	史料の収集・検索力、プレゼンテーション能力と対話力を身につけることができる。		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 個別報告 (1) A班3名担当 第3回 個別報告 (2) B班3名担当 第4回 個別報告 (3) C班2名、A班1名担当 第5回 個別報告 (4) A班2名、B班1名担当 第6回 個別報告 (5) B班2名、C班1名担当 第7回 個別報告 (6) C班1名、A班2名担当 第8回 個別報告 (7) A班1名、B班2名担当 第9回 個別報告 (8) B班1名、C班2名担当 第10回 個別報告 (9) A班3名担当 第11回 個別報告 (10) B班3名担当 第12回 個別報告 (11) C班2名、A班1名担当 第13回 個別報告 (12) A班2名、B班1名担当 第14回 個別報告 (13) B班2名、C班1名担当 第15回 個別報告 (14) C班1名担当、夏季休暇の課題の説明		
評価方法 (合計100%)	発表 50% 授業への参加態度 50%		
失格条件	全授業の4分の1以上を欠席した場合 指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・発表を担当するときは、レジュメを作成する。(予習時間 3時間) 終了後は発表内容の吟味をする。(復習1時間) ・発表しないときは、当該時間の発表者のテーマに即した関連書籍を読む。(予習 2時間) 終了後は、発表内容の吟味をする。(復習 2時間)		
課題へのフィードバック	発表担当者に個別にコメントし、また全体に向けてもコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	なし		

4-042

ナンバリング	HU108C01	期間	前期
授業科目名	専門研究演習		
英訳科目名	Senior Seminar (Advanced)		
担当教員名	高木 学		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	サブカルチャー分野を中心に、現代日本社会の諸問題を分析・考察していく。 卒業研究の執筆に向け、テーマの選定・資料調査・論文構成などの各段階に分けて指導をおこなう。		
到達目標	自分の興味や疑問を研究テーマとして整理することができること。 自分の研究テーマについての資料を探し、その資料からテーマについて調べることができること。 資料を調べ得た知識を、研究論文の形式にまとめることができること。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 問題意識の先鋭化 第3回 テーマ絞り込み 第4回 資料・文献の検索方法 第5回 参考文献の収集 ネット 第6回 参考文献の収集 図書館 第7回 論文作法 文章 第8回 論文作法 引用・参照 第9回 論文作法 構成 第10回 学生発表と議論 アニメ関連 第11回 学生発表と議論 ゲーム関連 第12回 学生発表と議論 マンガ関連 第13回 学生発表と議論 そのほかの分野 第14回 議論の深化 第15回 今後の論文作成に向けて		
評価方法 (合計100%)	発表 50% 授業への参加態度 50%		
失格条件	指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	卒業研究には予習復習を問わず、授業外での自主的な取り組みが重要である。 自分のテーマについて、テーマの設定 文献の検索収集、文献精読・要約・考察・構成など必要と思われるプロセスを進めていくこと。(半期合計：45時間)		
課題へのフィード バック	卒業研究に向けて、複数の課題を与え、各自の進行状況、内容に応じた指導・添削等をおこなう。		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書	授業内で適宜紹介する		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

4-043

ナンバリング	HU108C01	期間	前期
授業科目名	専門研究演習		
英訳科目名	Senior Seminar (Advanced)		
担当教員名	益田 圭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	サブカルチャー分野を中心に、現代日本社会の諸問題を分析・考察していく。 卒業研究の執筆に向け、テーマの選定・資料調査・論文構成などの各段階に分けて指導をおこなう。		
到達目標	自分の興味や疑問を研究テーマとして整理することができること。 自分の研究テーマについての資料を探し、その資料からテーマについて調べることができること。 資料を調べ得た知識を、研究論文の形式にまとめることができること。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 問題意識の先鋭化 第3回 テーマ絞り込み 第4回 資料・文献の検索方法 第5回 参考文献の収集 ネット 第6回 参考文献の収集 図書館 第7回 論文作法 文章 第8回 論文作法 引用・参照 第9回 論文作法 構成 第10回 学生発表と議論 第11回 学生発表と議論 第12回 学生発表と議論 第13回 学生発表と議論 第14回 議論の深化 第15回 今後の論文作成に向けて 上記の各講義と平行して、個人面談の時間を設けて個別に興味関心を掘り下げる指導を進める。		
評価方法 (合計100%)	発表 50% 授業への参加態度 50%		
失格条件	全授業の3分の1以上の欠席 指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	卒業研究には予習復習を問わず、授業外での自主的な取り組みが重要である。 自分のテーマについて、テーマの設定 文献の検索収集、文献精読・要約・考察・構成など必要と思われるプロセスを進めていくこと。(半期合計：45時間)		
課題へのフィード バック	課題、取り組みに関して全体、個別にコメントする。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて紹介する。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

4-044

ナンバリング	HU108C01	期間	前期
授業科目名	専門研究演習		
英訳科目名	Senior Seminar (Advanced)		
担当教員名	釈 徹宗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>テーマの選定から、立論とプレゼンテーション、そして議論の技法などの基礎を身につける。</p> <p>この演習では、基本的に宗教・仏教・浄土真宗からテーマと論点を選ぶことになるが、宗教を基盤として展開した文化や芸能など広範囲の領域を取り扱うことも可能である。</p> <p>受講者は全員がゼミ発表を行わねばならない。</p>		
到達目標	立論から発表・フィードバックまでの一連の順序を学ぶことで、ひとつのテーマを深くしっかりと考察することができる。		
授業計画	<p>第1回 ゼミ運営に関するレクチャー</p> <p>第2回 発表と議論に関するレクチャー</p> <p>第3回 模擬発表・模擬議論</p> <p>第4回 先行研究を見つける</p> <p>第5回 先行研究を読む(1) 宗教学</p> <p>第6回 先行研究を読む(2) 仏教学</p> <p>第7回 先行研究を読む(3) 真宗学</p> <p>第8回 発表(1)</p> <p>第9回 発表(2)</p> <p>第10回 発表(3)</p> <p>第11回 レポート・論文の書き方(1) 論旨</p> <p>第12回 レポート・論文の書き方(2) 様式</p> <p>第13回 再発表(1)</p> <p>第14回 再発表(2)</p> <p>第15回 再発表(3)</p>		
評価方法 (合計100%)	発表 50% 授業への参加態度(発言・課題・ディスカッションへの参加度など) 50%		
失格条件	指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>早期にテーマを定めて、それに関する文献を読む。</p> <p>テーマに関する場所へと足を運ぶ。</p> <p>授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教関係の本を読む…予習 40分 ・授業のプリントやノートを見直す…復習 30分 		
課題へのフィード バック	課題終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	指定しない。必要な資料は配付する。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて授業で紹介する。		
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108C01	期間	前期
授業科目名	専門研究演習		
英訳科目名	Senior Seminar (Advanced)		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解>○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能>◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力>◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度>○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度>-	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験>◎
授業概要・ポイント	この科目は、この科目は、卒業研究の導入編です。個別の卒業テーマについての準備を進めて、そのプロセスを報告（授業内の個人報告）を積み重ねて、卒業研究を進めます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関連した文献・資料・情報を多角的に集めることができる ・課題を設定し、その解決に向けた文章構成力を備えることができる ・自分独自の企画提案ができる ・日本語によるレポート・論文作成能力を備えること ・プレゼンテーションのパフォーマンスを向上できる 		
授業計画	第1回 オリエンテーション 卒業研究に向けて 第2回 テーマ題材の商品やサービス情報の収集と報告 第3回 研究テーマ題材と課題の設定によるテーマ再設定 第4回 研究テーマ設定の理由・動機報告（文書化） 第5回 研究テーマの共有（クラス内プレゼンテーション） 第6回 先行研究 情報の収集1（指導） 第7回 先行研究 情報の収集2（実践・報告） 第8回 文献検索1（計画） 第9回 文献検索2（実践・報告） 第10回 調査 分析1（計画） 第11回 調査 分析2（プレゼンテーション） 第12回 調査 分析3（文書化） 第13回 研究計画1（原稿作成） 第14回 研究計画2（共有・プレゼンテーション） 第15回 卒業研究報告（前期成果報告と後期の研究計画） ※受講生の到達度や作業の進捗状況に応じて、内容を一部変更することもあります。		
評価方法 (合計100%)	卒業研究の論文作成 50% 卒業研究の研究報告プレゼンテーション実施 50% 以上を、授業への全回出席を前提に総合評価する		
失格条件	授業の欠席 卒業研究論文の未提出 卒業研究の経過報告未実施		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	卒業に必要な卒業論文の継続的作成（1日90分） 卒業研究の経過報告のフィードバックによる卒業研究題材の研究と分析（1日90分） 日本語能力の向上（1日60分） 以上の事前・事後学習を徹底すること		
課題へのフィード バック	卒業論文の修正・指導 経過報告プレゼンテーションの講評と個別指導など		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108C01	期間	前期
授業科目名	専門研究演習		
英訳科目名	Senior Seminar (Advanced)		
担当教員名	藤谷 忠昭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>各自の研究テーマに沿って、発表を行ってもらい議論をしてもらおう。その作業の中で?、それぞれれのテーマの絞り込みは もちろん、研究方法について明確化してもらおう。論文の書き方については、構成をはし?め、各節こ?とに基礎から指導する。</p> <p>参加するにあたって以下の点か?特に重要て?ある。</p> <p>1.自らの卒業研究への熱意。</p> <p>2.他の者の研究について議論を通し?ての協力。つまり相手の観点に立ち、積極的に発言を行うこと。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のテーマを企画できる。 ・文献を整理て?きる。 ・テ?ータを収集て?きる。 ・効果的なフ?レセ?ンテーションか?て?きる。 		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 卒業研究の進め方</p> <p>第3回 テーマの提示 (1) インストラクト</p> <p>第4回 テーマの提示 (2) 実践</p> <p>第5回 文献探索の方法 (1) インストラクト</p> <p>第6回 文献探索の方法 (2) 実践</p> <p>第7回 文献整理の方法 (1) インストラクト</p> <p>第8回 文献整理の方法 (2) 実践</p> <p>第9回 社会調査の利用法 (1) インストラクト</p> <p>第10回 社会調査の利用法 (2) 実践</p> <p>第11回 文献と調査の分析法 (1) インストラクト</p> <p>第12回 文献と調査の分析法 (2) 実践</p> <p>第13回 結論の書き方</p> <p>第14回 註の付け方</p> <p>第15回 夏期休暇中の研究計画</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>発表 (個人面談での報告を含む) 50%</p> <p>授業への参加態度 (発言・課題など) 50%</p>		
失格条件	<p>全授業の3分の1以上の欠席</p> <p>指定された回数の発表をしなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・出された課題をしっかりとこなすこと (予習2時間: 90分、復習2時間: 90分)。</p>		
課題へのフィード バック	<p>発表時にコメントする。</p>		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書	適宜個別に指示		
その他	<p>積極的な取り組みか?必要です。</p> <p>スマートフォンの操作は教室外でお願いします。</p> <p>板書は写メではなく、手書きで取りましょう。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

4-047

ナンバリング	HU108C01	期間	前期
授業科目名	専門研究演習		
英訳科目名	Senior Seminar (Advanced)		
担当教員名	J.E.Alsdorf		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	This is the first half of a year-long senior seminar course designed to provide assistance to students in writing their graduation thesis. The senior seminar will be devoted to discussion and exploration of various themes and topics in the field of intercultural communication and other areas.		
到達目標	Students will be guided in carrying out the individual research necessary for the graduation thesis and will present their research at various stages to the class.		
授業計画	<p>Week 1.Orientation Library Tour Week 2.Identifying a research theme Week 3.Structuring a thesis (Formal Writing Skills) Week 4.Writing a project outline Week 5.Building a working bibliography Week 6.Presenting preliminary research Week 7.Differences between opinions and facts Week 8.Supporting opinions with facts Week 9.Quoting sources Week 10.Continuing research (Writing the Introduction) Week 11.Continuing research (Revision of Introduction) Week 12.Continuing research (Writing of Chapter 1) Week 13.Continuing research (Revision of Chapter 1) Week 14.Continuing research (Revision of work up to this point) Week 15.Presenting a progress report to the class on research</p> <p>※Schedule can change depending on students' progress (Summer vacation to be spent doing additional research, writing, and rewriting)</p>		
評価方法 (合計100%)	Class attitude and participation	50%	
	Progress Presentations	50%	
失格条件	Failure to turn in acceptable projects / assignments on time. Missing more than one third of class hours.		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	Since classes will be conducted in English, it is highly recommended that the student has some working knowledge of the English language. (予習2時間：90分、復習2時間：90分)		
課題へのフィード バック	Students will receive comments and feedback continuously throughout the semester on the work they are doing and upon completion of the progress report.		
教科書	Will be announced in class.		
著者名			
出版社			
参考書	Dictionaries		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108C01	期間	前期
授業科目名	専門研究演習		
英訳科目名	Senior Seminar (Advanced)		
担当教員名	石川 玲子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	卒業論文を作成するために必要な基礎知識、すなわち資料の収集・整理の仕方、分析の方法、論文の構成などについて学ぶ。さらに、各自が自分の設定したテーマについて卒業論文の構想を練り、何度か発表と質疑応答、ディスカッションを行う中で、考えを深め、まとめていく。		
到達目標	論文の書き方や構成についての知識を持つことができる。 自分のテーマに関する資料を収集し、整理することができる。 具体的な問いを立て、研究の方法と論文の構成を考えることができる。 自分が立てた問いについて論理的に分析し、考えることができる。 自分の考えをわかりやすく発表することができる。		
授業計画	第1回 資料の収集・整理の仕方、分析の方法、論文の構成について学ぶ 第2回 テーマを決め、資料・文献を収集・整理し、議論の大まかな流れを考える(1) 第3回 テーマを決め、資料・文献を収集・整理し、議論の大まかな流れを考える(2) 第4回 テーマを決め、資料・文献を収集・整理し、議論の大まかな流れを考える(3) 第5回 問いを立て、研究の方法と論文の構成を考える(1) 第6回 問いを立て、研究の方法と論文の構成を考える(2) 第7回 問いを立て、研究の方法と論文の構成を考える(3) 第8回 問いの背景と研究計画についての発表(1) 第9回 問いの背景と研究計画についての発表(2) 第10回 問いの背景と研究計画についての発表(3) 第11回 論文を書き進める(1) 第12回 論文を書き進める(2) 第13回 論文を書き進める(3) 第14回 フィードバック・夏休みの課題の確認(1) 第15回 フィードバック・夏休みの課題の確認(2)		
評価方法 (合計100%)	発表50% 授業への参加態度(発言・課題・卒業研究に向けての取り組み) 50%		
失格条件	全授業の3分の1以上の欠席 指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習：図書館を多く利用し、与えられた課題の準備を行う。 復習：授業の中で出された指摘や疑問を元に、課題を再考する。 1回の授業につき、予習・復習ともに90分以上を費やすことが望ましい。		
課題へのフィード バック	・授業での課題(レジュメ、発表)については、授業中または個別にコメントします。 ・提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書	適宜、個別に指示します。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

4-049

ナンバリング	HU108C02	期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	荒井 真理亜		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	各自の「卒業研究」を文章化します。受講生には「卒業研究」の草稿を発表してもらい、それについて意見を交換します。草稿は教員が添削し、受講生に返却します。受講生は草稿の修正を繰り返しながら、「卒業研究」の完成を目指します。		
到達目標	「卒業研究」を完成させることができる。		
授業計画	<p>第1回 「卒業研究」の書き方</p> <p>第2回 受講生による発表と意見交換① 書誌</p> <p>第3回 受講生による発表と意見交換② 作者略歴</p> <p>第4回 受講生による発表と意見交換③ 成立</p> <p>第5回 受講生による発表と意見交換④ 背景</p> <p>第6回 受講生による発表と意見交換⑤ 創作動機</p> <p>第7回 受講生による発表と意見交換⑥ 注釈</p> <p>第8回 受講生による発表と意見交換⑦ 同時代評</p> <p>第9回 受講生による発表と意見交換⑧ 先行研究</p> <p>第10回 受講生による発表と意見交換⑨ 作品分析</p> <p>第11回 受講生による発表と意見交換⑩ 問題点</p> <p>第12回 受講生による発表と意見交換⑪ 解釈</p> <p>第13回 受講生による発表と意見交換⑫ 主題</p> <p>第14回 「卒業研究」の校正と最終発表資料の準備</p> <p>第15回 最終発表のリハーサル</p> <p>*受講生の到達度や作業の進捗状況に応じて、内容を一部変更することもあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	卒業研究 60% 最終発表 20% 授業への参加態度 20%		
失格条件	全授業の4分の1以上の欠席 所定の期日までに卒業研究を提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>「卒業研究」の作成は計画的に進めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表までに指示された内容の草稿を書いておきましょう。(予習3時間) ・発表で指摘された箇所を次の回までに修正しておいてください。(予習1時間) 		
課題へのフィードバック	草稿提出後、コメントをつけて個別に返却します。		
教科書	使用しません。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介します。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

4-050

ナンバリング	HU108C02	期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	鈴木 徳男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	卒業研究をまとめるにあたり、必要事項を指導する。論文を執筆する方法を学び、実際に書き進める。各自のテーマや課題を報告して、それぞれの進度に合わせて具体的に指示する。		
到達目標	各自のテーマによる卒業論文をまとめることができる。		
授業計画	<p>第1回 卒業研究とはなにか。論文を書くための心構え。</p> <p>第2回 研究の方法（卒業論文の具体例）とテーマ確認。</p> <p>第3回 選んだテーマについて趣旨発表</p> <p>第4回 論述の方法① 必要資料の収集・整理</p> <p>第5回 構成を考える。</p> <p>第6回 論文の作成（進捗・内容の確認）①</p> <p>第7回 論文の作成（進捗・内容の確認）②</p> <p>第8回 論文の作成（進捗・内容の確認）③</p> <p>第9回 論文の作成（進捗・内容の確認）④</p> <p>第10回 論文の作成（進捗・内容の確認）⑤</p> <p>第11回 論述の方法②</p> <p>第12回 論文の概要を提出①</p> <p>第13回 論文の概要を提出②</p> <p>第14回 読み直しと発表準備①</p> <p>第15回 読み直しと発表準備②</p>		
評価方法 (合計100%)	卒業研究 60% 最終発表 20% 授業への参加態度 20%		
失格条件	全授業の4分の1以上の欠席 所定の期日までに卒業研究を提出しなかった場合		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	卒業研究（論文）をまとめ、提出するには、授業計画に示したような段階的な準備作業が必要であり、その内容によって研究の充実ぶりが変わってくる。したがって、予習や復習をしつつ授業に積極的に参加することが求められる。予習復習の基準時間は、予習2時間（90分）・復習2時間（90分）。		
課題へのフィードバック	各自の発表や課題提出後の授業で、全体に向けコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

4-051

ナンバリング	HU108C02	期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	山本 幸男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	卒業研究を仕上げるための個別指導を行い、文章表現力、構想力を高めていく。		
到達目標	論理的、説得的な文章を書くことができる。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 個別指導・下書き原稿の作成（1）・「はじめに」を中心に</p> <p>第3回 個別指導・下書き原稿の作成（2）・第1章の前半を中心に</p> <p>第4回 個別指導・下書き原稿の作成（3）・第1章の後半を中心に</p> <p>第5回 個別指導・下書き原稿の作成（4）・第2章の前半を中心に</p> <p>第6回 個別指導・下書き原稿の作成（5）・第2章の後半を中心に</p> <p>第7回 個別指導・下書き原稿の作成（6）・第3章の前半を中心に</p> <p>第8回 個別指導・下書き原稿の作成（7）・第3章の後半を中心に</p> <p>第9回 個別指導・下書き原稿の作成（8）・第4章の前半を中心に</p> <p>第10回 個別指導・下書き原稿の作成（9）・第4章の後半を中心に</p> <p>第11回 個別指導・下書き原稿の作成（10）・「おわりに」を中心に</p> <p>第12回 個別指導・原稿の清書と注の作成（1）・前半部分を中心に</p> <p>第13回 個別指導・原稿の清書と注の作成（2）・後半部分を中心に</p> <p>第14回 発表会に向けてのガイダンス</p> <p>第15回 発表レジュメの作成、模擬発表会</p>		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究 50% ・最終発表 20% ・授業への参加態度 30% 		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・所定期日までに卒業論文を提出できなかった場合 ・全授業の4分の1以上を欠席した場合 ・発表会に参加しなかった場合 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週の個別指導前に卒論原稿（800～1000字程度）を作成する。（予習3時間） ・終了後は添削部分を修正し内容を吟味する。（復習：2時間） 		
課題へのフィード バック	課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	なし		

4-052

ナンバリング	HU108C02	期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	高木 学		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>各自の「卒業研究」を論文にまとめます。受講生には論文の草稿を発表してもらい、それについて意見を交換します。草稿は教員が添削し、受講生に返却します。受講生は草稿の修正を繰り返しながら、卒業論文の完成を目指します。</p> <p>提出後は、論文試問あるいは発表会に向けた指導をおこなう。</p>		
到達目標	卒業論文を完成させる。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 卒業研究草稿への講評 第3回 学生発表と討論 その1 第4回 学生発表と討論 その2 第5回 引用・参照・注釈 第6回 書式、図表添付 第7回 論文の個別指導 第8回 中間発表会 1回目 第9回 中間発表会 1回目 第10回 論文の個別指導 第11回 卒業研究 最終仕上げ 第12回 卒業研究 最終仕上げ 第13回 最終発表会 概要 第14回 最終発表会 想定問答 第15回 最終発表会リハーサル</p>		
評価方法 (合計100%)	卒業研究 60% 最終発表 20% 授業への参加態度 20%		
失格条件	所定の期日までに卒業研究を提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	個別指導を踏まえて、論文の内容深化、精緻化を進めて、完成に近づけていきます。(合計45時間)		
課題へのフィード バック	卒業研究の各段階において、内容や志望に応じた指導、文章添削などをすすめ、学生の作業に対するフィードバックをおこなう。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業内で適宜紹介する		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

4-053

ナンバリング	HU108C02	期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	益田 圭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>各自の「卒業研究」を論文にまとめます。受講生には論文の草稿を発表してもらい、それについて意見を交換します。草稿は教員が添削し、受講生に返却します。受講生は草稿の修正を繰り返しながら、卒業論文の完成を目指します。</p> <p>提出後は、論文試問あるいは発表会に向けた指導をおこなう。</p>		
到達目標	卒業論文を完成させる。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 卒業研究草稿への講評 第3回 学生発表と討論 その1 第4回 学生発表と討論 その2 第5回 引用・参照・注釈 第6回 書式、図表添付 第7回 論文の個別指導 第8回 中間発表会 1回目 第9回 中間発表会 1回目 第10回 論文の個別指導 第11回 卒業研究 最終仕上げ 第12回 卒業研究 最終仕上げ 第13回 最終発表会 概要 第14回 最終発表会 想定問答 第15回 最終発表会リハーサル</p>		
評価方法 (合計100%)	卒業研究 60% 最終発表 20% 授業への参加態度 20%		
失格条件	全授業の3分の1の欠席 所定の期日までに卒業研究を提出しなかった場合 最終発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	個別指導を踏まえて、論文の内容深化、精緻化を進めて、完成に近づけていきます。(合計45時間)		
課題へのフィード バック	課題、取り組みに関して全体、個別にコメントする。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介します。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

4-054

ナンバリング	HU108C02	期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	釈 徹宗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	各人の卒業研究のテーマに従って、研究、卒業論文作成を進めてもらう。そのために各人の研究についての報告を受け、指導・助言をおこなう		
到達目標	自分の興味や疑問を研究テーマとして整理することができること。 自分の研究テーマについての資料を探し、その資料からテーマについて調べることができること。 資料を調べ得た知識を、研究論文の形式にまとめることができること。 自分がまとめた論文について、簡潔、明快に発表することができること。		
授業計画	第1回 オリエンテーションおよび(1) 第2回 卒業研究論文の作成方法についての全体指導 第3回 章立てについて 第4回 個人の発表（章立てについて） 第5回 ディスカッション（章立てについて） 第6回 実験・調査のまとめ方 第7回 草稿の作成 第8回 引用と盗用について 第9回 議論の深化 第10回 論文の脱稿 第11回 論文の推敲 第12回 卒業論文の完成 第13回 論文発表会とレジュメの作成 第14回 発表の練習 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	卒業研究 60% 最終発表 20% 授業への参加態度 20%		
失格条件	全授業の4分の1以上の欠席 所定の期日までに卒業研究を提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で得た知識やを受けた指摘を今一度確認すること（1回の授業あたり復習時間1時間）。 授業や論文指導等を受ける際に求められる準備をしっかりと行うこと（1回の授業あたり予習時間3時間）		
課題へのフィード バック	課題提出後、全体に向けてコメントします。		
教科書	指定しない。必要な資料は配付する。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて授業で紹介する。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

4-055

ナンバリング	HU108C02	期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解>○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能>◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力>◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度>○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度>ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験>◎
授業概要・ポイント	受講生は各自の研究テーマに沿って卒業研究を実施し、卒業論文の完成・提出とその発表を実施させる。そのために必要な指導を行う		
到達目標	必要な文献や資料を収集し整理すること 正確な日本語による文章作成ができること（必須） 客観的分析力を身につけ、論文に反映させること 研究内容のプレゼンテーションができること		
授業計画	第1回 卒業研究全体指導① 第2回 卒業研究全体指導② 第3回 卒業研究全体指導③ 第4回 卒業研究個別指導① 第5回 卒業研究個別指導② 第6回 卒業研究個別指導③ 第7回 卒業研究個別指導④ 第8回 卒業研究個別指導⑤ 第9回 卒業研究個別指導⑥ 第10回 卒業研究個別指導⑦ 第11回 卒業研究個別指導⑧ 第12回 卒業研究個別指導⑨ 第13回 卒業研究個別指導⑩ 第14回 卒業研究発表準備 第15回 卒業研究発表練習		
評価方法 (合計100%)	卒業研究 60% 最終発表 20% 授業への参加態度 20%		
失格条件	全授業の3分の1の欠席 所定の期日までに卒業研究を提出しなかった場合 最終発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	卒業論文の継続作成（90分） 卒業研究の経過報告資料作成（60分） 授業出席後の自己評価による卒業研究論文へのフィードバック（60分） および論文の継続作成と日本語ベースの文章表現力の向上を怠らないこと		
課題へのフィード バック	論文の返却と個別指導 論文のプレゼンテーションに対する解説と助言の共有		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108C02	期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	藤谷 忠昭		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>卒業研究として卒業論文を作成してもらおう。各自の選択したテーマについて、社会学の観点から指導する。文献購読を 出発点に既存研究を調べ?てもらおうか?、フィールド?ワーク、アンケート調査を行う者には、その方法についても個別に指導する。ホ?イントは以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題関心の精鋭化 ・文献探索への助言 ・調査に対する助言 ・論文構成の指導 ・文章表現の指導 ・論理的思考の育成 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら研究のテーマを設定し、文献を整理し、テ?ータを収集し、文章の構成を立て、文章化て?きる。 		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 テーマの検討 第3回 1節の検討 第4回 2節の検討 第5回 3節の検討 第6回 4節の検討 第7回 5節の検討 第8回 結論の検討 第9回 1節の推敲 第10回 2節の推敲 第11回 3節の推敲 第12回 4節の推敲 第13回 5節の推敲 第14回 全体の推敲 第15回 研究発表準備</p>		
評価方法 (合計100%)	論文作成 60% 卒業研究発表 20% 授業への参加態度 20%		
失格条件	全授業の4分の1以上の欠席 所定の期日までに卒業研究を提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 草稿作成 (4時間: 180分) 復習： 草稿修正 (4時間: 180分)		
課題へのフィード バック	各草稿について面談時等でコメントする。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書	個別に指示		
その他	積極的な取り組みか?必要です。 スマートフォンの操作は教室外でお願いします。 板書は写メではなく、手書きで取りましょう。		
備考			
科目生への開講	なし		

4-057

ナンバリング	HU108C02	期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	J.E.Alsdorf		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	This is the second half of a year-long senior seminar course designed to provide assistance to students in writing their graduation thesis. This senior seminar will be devoted to discussion and exploration of various themes and topics in the field of intercultural communication and other areas.		
到達目標	Students will be guided in carrying out the individual research necessary for the graduation thesis and will present their research at various stages to the class.		
授業計画	<p>Week 1. Progress report to class on summer research. Feedback on Introduction and rewriting.</p> <p>Week 2. Progress report to class on summer research. Feedback on Chapter 1 and rewriting.</p> <p>Week 3. Continuing research (Writing of Chapter 2)</p> <p>Week 4. Continuing research (Revision of Chapter 2)</p> <p>Week 5. Continuing research (Writing of Chapter 3)</p> <p>Week 6. Continuing research (Revision of Chapter 4)</p> <p>Week 7. Continuing research (Writing of Conclusion)</p> <p>Week 8. Continuing research (Revision of Conclusion)</p> <p>Week 9. Finish draft of complete paper including conclusion; get feedback and make final revisions to turn in the paper by Thesis due date. (Table of contents)</p> <p>Week 10. Finish draft of complete paper including conclusion; get feedback and make final revisions to turn in the paper by Thesis due date. (Formatting)</p> <p>Week 11. Finish draft of complete paper including conclusion; get feedback and make final revisions to turn in the paper by Thesis due date. (Preparing the final draft)</p> <p>Week 12. Presentation of final draft to the class</p> <p>Week 13. Preparing a resume for Thesis defense.</p> <p>Week 14. Preparing for the thesis defense.</p> <p>Week 15. Presentation (Thesis defense practice)</p> <p>(Schedule may vary depending on student progress.)</p>		
評価方法 (合計100%)	Graduation thesis 60% Presentations and projects 20% Class attitude and participation 20%		
失格条件	Failure to turn in acceptable projects / assignments on time. Missing more than one third of class hours. Failure to do a thesis presentation.		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	Since classes will be conducted in English, it is highly recommended that the student has some working knowledge of the English language. (予習2時間：90分、復習2時間：90分)		
課題へのフィード バック	Students will receive comments and feedback continuously throughout the semester on the work they are doing and upon completion of their thesis and presentation.		
教科書	Will be announced in class		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU108C02	期間	後期
授業科目名	卒業研究		
英訳科目名	Bachelor's Thesis		
担当教員名	石川 玲子		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>学生が各自設定したテーマについて分析・調査・考察を重ねて論文の執筆を進め、提出期限までに卒業論文を完成させることを目指す。</p> <p>論文作成の各段階で、教員と議論を重ね、論文執筆の指導を受ける。</p> <p>卒業研究発表会では、自分の研究をわかりやすくまとめて発表する。</p>		
到達目標	<p>一次資料、二次資料を理解・分析・評価できる。</p> <p>論理的に議論を展開し、自分の考えを主張できる。</p> <p>自分の設定したテーマ・問いについて調査・分析・考察したことを論文としてまとめることができる。</p> <p>伝えたい内容や考えをわかりやすく発表することができる。</p> <p>聞き手の立場に立ったレジュメを作成できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 研究報告とディスカッション（1回目）／論文作成・個人指導</p> <p>第2回 研究報告とディスカッション（1回目）／論文作成・個人指導</p> <p>第3回 研究報告とディスカッション（2回目）／論文作成・個人指導</p> <p>第4回 研究報告とディスカッション（2回目）／論文作成・個人指導</p> <p>第5回 研究報告とディスカッション（2回目）／論文作成・個人指導</p> <p>第6回 研究報告とディスカッション（3回目）／論文作成・個人指導</p> <p>第7回 研究報告とディスカッション（3回目）／論文作成・個人指導</p> <p>第8回 研究報告とディスカッション（3回目）／論文作成・個人指導</p> <p>第9回 研究報告とディスカッション（4回目）／推敲・個人指導</p> <p>第10回 研究報告とディスカッション（4回目）／推敲・個人指導</p> <p>第11回 研究報告とディスカッション（4回目）／推敲・個人指導</p> <p>第12回 卒業論文の最終確認・仕上げ</p> <p>第13回 卒業論文の最終確認・仕上げ</p> <p>第14回 発表の準備と練習（2）</p> <p>第15回 発表の準備と練習（3）</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>論文作成 60%</p> <p>卒業研究発表 20%</p> <p>授業への参加態度 20%</p>		
失格条件	<p>全授業の4分の1以上の欠席</p> <p>所定の期日までに卒業研究を提出しなかった場合</p>		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>予習： 発表または個人指導に備えて、求められた準備をきちんとする。</p> <p>復習： ディスカッションや個人指導で指摘を受けたところを確認し、もう一度よく考えて原稿の手直しをする。</p> <p>1回の授業につき、予習・復習ともに90分以上を費やすことが望ましい。</p>		
課題へのフィード バック	<p>・授業での課題（レジュメ、発表）については、授業中または個別にコメントします。</p> <p>・提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。</p>		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書	個別に指示します。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU201A01	期間	前期
授業科目名	人文学概論		
英訳科目名	Introduction to Humanities		
担当教員名	中村 圭爾 他		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ○
授業概要・ポイント	この授業科目は、人文学について幅広い視野から多角的に学び、人文学についての基礎的・基本的な理解を深めることを目的としています。あわせて、人文学科の専門分野の紹介を行うとともに、人文学科で学んでいくためのさまざまな基礎知識を身につけ、これから4年間の学びの基礎づくりとすることをめざしています。		
到達目標	人文学科の専門分野それぞれについて、大体の内容を理解して自分の言葉で説明できる。 自分にとって関心のある人文学の分野をある程度しぼりこむことができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション（担当：中村） 第2回 人文学の範囲（担当：中村） 第3回 日本文学研究とはⅠ？（担当：鈴木） 第4回 日本文学研究とはⅡ？（担当：荒井） 第5回 日本歴史研究とは？（担当：山本） 第6回 サブカルチャー研究とは？（担当：高木） 第7回 臨床心理学研究とは？（担当：坂田） 第8回 社会心理学研究とは？（担当：益田） 第9回 真宗研究とは？（担当：佐々木） 第10回 仏教文化研究とは？（担当：釈） 第11回 国際コミュニケーション研究とは？（担当：アルスドルフ） 第12回 比較文化研究とは？（担当：石川） 第13回 ビジネス研究とは？（担当：向井） 第14回 現代社会研究とは？（担当：藤谷） 第15回 まとめ（担当：中村）		
評価方法 (合計100%)	毎回、授業の内容を要約し、感想等を述べたレポートを提出することにし、そのレポートの評価の集計を成績とします。 授業への参加態度 20% 授業内容の理解度 80%		
失格条件	3回以上の欠席（4回欠席で失格です）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	復習を重視します。毎回の授業後に、授業の内容について、配布資料やノート等を参考に復習し、授業内容を要約した短文と、その内容についての感想等（どこが理解しやすかったか難しかったか、各自興味・関心を持ったかどうか、その理由など）で構成したレポートを作成し、翌週までに提出してください（約4時間）。		
課題へのフィードバック	・各担当者に、レポートから判断したそれぞれの授業内容への理解度や今後の学修の課題に関するコメントを提出してもらい、最終授業時間にその紹介をすることにします。 ・可能であれば、一部担当者によるポータルサイトでのコメント公表を行います。		
教科書	不使用。毎回授業資料等を配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて授業時に紹介します。		
その他	特になし		
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。（向井） 日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。（坂田） 僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（釈） 僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（佐々木）		
科目生への開講	なし		

4-060

ナンバリング	JL201A02	期間	前期
授業科目名	日本文化概論		
英訳科目名	Introduction to Japanese Culture		
担当教員名	千葉 真也		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ○
授業概要・ポイント	日本や日本文化についての日本人自身の思考をたどり、日本文化の特質を理解するため「神」や神社についてお話しします。奈良時代に古事記や日本書紀が編纂され、神々の姿が描き出されます。儒教や仏教を受容し反発することによって、平安時代には仏菩薩が神の本体であるとする本地垂迹説が広まり、鎌倉時代以後には、逆に神を本地として仏を垂迹とする反本地垂迹説が広まります。江戸時代になると、儒教が本格的に受容される一方、外来思想が渡来する以前の日本固有の精神を明らかにしようとする国学が盛んになっていきます。これらの内容と歴史的な背景をできるだけわかりやすく紹介します。		
到達目標	日本の神や神社について自分の言葉で説明できる。 身近な神社を紹介できる。		
授業計画	第1回 神社とは何か（二十二社） 第2回 奈良時代の神①（始原） 第3回 奈良時代の神②（伊勢と出雲） 第4回 奈良時代の神のまとめ 第5回 平安時代の神と仏 第6回 鎌倉時代の神と仏 第7回 室町時代の神と仏 吉田神道 第8回 平安時代以後の神仏関係のまとめと江戸時代への展望 第9回 儒学の普及（1） 朱子学 第10回 儒学の役割（2） 山崎闇斎 第11回 儒学と古典学 古学派と契沖 第12回 賀茂真淵『万葉考』と『国意考』 第13回 本居宣長における黄泉 第14回 平田篤胤 第15回 神道の教義と江戸時代のまとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 復習レポート 40% 小テスト 30%		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習は、次回の授業に関連するプリントの用語の内容を調べ、音読できるようにしておくこと。（2時間） 復習は、授業内容を要約した復習レポートを作成すること（2時間）。		
課題へのフィード バック	復習レポートは採点し、コメントをつけて返却します。 小テストは実施した翌週、全体に向けてコメントします。		
教科書	プリントを使用する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

4-061

ナンバリング	HS201A03	期間	前期
授業科目名	日本史入門		
英訳科目名	Introduction to Japanese History		
担当教員名	山本 幸男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ○
授業概要・ポイント	日本列島の成り立ち、中国や朝鮮との関係、国家の形成と展開など、原始・古代の日本は、若々しい躍動感にあふれている。授業では、具体的な資料を提示して、当時の日本の様相を概観する。歴史を学ぶ楽しみを実感してほしい。		
到達目標	日本の成り立ちの歴史について詳しく知ることができる。		
授業計画	第1回 日本列島の成り立ち 第2回 旧石器時代から縄文時代へ 第3回 縄文時代から弥生時代へ 第4回 農耕の開始と社会の変化 第5回 邪馬台国 第6回 前方後円墳 第7回 倭王権の伸長 第8回 倭王権の外交（前）・倭の五王を中心に 第9回 倭王権の外交（後）・朝鮮諸国との関係を中心に 第10回 倭王権の展開 第11回 隋・唐の成立と東アジア世界の変化 第12回 遣隋使・遣唐使をめぐって 第13回 律令国家の形成（前）・乙巳の変前後 第14回 律令国家の形成（後）・壬申の乱前後 第15回 律令国家の仕組み・まとめ		
評価方法 (合計100%)	小レポート 20% 授業への参加態度 40% 試験 40%		
失格条件	授業回数の4分の1以上を欠席した場合 試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業前に教科書を読んでおくこと。（予習2時間） 授業内容を書き留めたノートや配布プリントを整理し、確認をしておくこと。（復習2時間）		
課題へのフィード バック	課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。		
教科書	概論 日本歴史		
著者名	佐々木潤之介・他編		
出版社	吉川弘文館		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

4-062

ナンバリング	PS201A04	期間	後期
授業科目名	人間の心と行動		
英訳科目名	The Human Mind and Behavior		
担当教員名	西迫 成一郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ○
授業概要・ポイント	心理学は心の科学である。しかし、意外かもしれないが心理学は行動科学ともいわれる。人間の心の中は見えなくても、行動なら観察することが出来ることから行動が研究対象であると考えられてきたのである。本講義では、心の科学であり行動科学としての心理学を概説して、全体としての心理学の枠組みを紹介する。その中には、意外と思う内容もあるだろう。こんなこともあんなことまでも心理学の研究対象であるのかと、広くさまざまに心理学研究について紹介する講義を行う。		
到達目標	心理学の基礎的知識の獲得とともに、人間の心と行動を科学的に捉える力を身につける。自分の身の回りでおこるさまざまな心理的現象や心理的課題に向き合った時に、それらを分析して説明することでき、問題解決の糸口とすることができる。		
授業計画	第1回 心と行動の科学 第2回 心理学の歴史および心理学の研究方法 第3回 知覚 第4回 記憶 第5回 思考 第6回 学習 第7回 発達(1)発達の要因 第8回 発達(2)各側面の発達 第9回 人格(1)人格の記述 第10回 人格(2)人格の測定方法 第11回 心理的諸問題 第12回 心理的諸問題と行動 第13回 心理的援助 第14回 社会・集団・組織と人間心理 第15回 理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	試験の評価 70% 授業への参加態度（授業に出席することだけでなく、質問されたことや課題への取り組み度合いなどを総合的に評価します） 30% 20分以上の遅刻は欠席と見なします。		
失格条件	試験を受験しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示された予習については、積極的に資料を検索して行うこと。（予習時間 1時間） また、授業後の復習は欠かさず行い、授業で示された各心理学用語をしっかりと理解したうえで覚えること。（復習時間 3時間）		
課題へのフィードバック	試験終了後、必要に応じて、全体に向けポータルを通じコメントします。		
教科書	適宜プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	試験は、ノート、プリントなど一切持ち込み不可という条件で行う。原則、座席を指定する。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC201A05	期間	前期
授業科目名	宗教学概論 A		
英訳科目名	Introduction to Religious Studies A		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ○
授業概要・ポイント	<p>「宗教とは無関係」「宗教は必要ない」「宗教は怖い」「宗教は危険」こんなイメージを宗教にいだく人は少なくないのかもしれない。しかしながら、われわれはどれほど宗教に関する知識を持っているのだろうか。むしろ、現在の世界情勢、社会問題を読み解く上で「宗教」に関する知識は必須といってよい。本講義では宗教を俯瞰するところから始まり、さまざまな宗教を各論的に取り扱い、さらには宗教を通じて「社会」や「人間」へとアプローチしていく。</p> <p>講義は、井上順孝著『フシギなくらい見えてくる！本当にわかる宗教学』をもとに進めていく。</p> <p>また、本講義は、「宗教学概論B」との関連講義であり、特に「宗教文化士」の資格取得を試みる者は両方を受講してもらいたい。</p>		
到達目標	今日的な視点から、宗教と社会の関わりを理解し、宗教を通して人間を見る眼を持つことができる。		
授業計画	<p>第1回 宗教学への誘い</p> <p>第2回 人間と宗教の関わり</p> <p>第3回 世界の宗教 ①</p> <p>第4回 世界の宗教 ②</p> <p>第5回 教義と儀礼</p> <p>第6回 「祈り」について</p> <p>第7回 「祭り」考</p> <p>第8回 「修行」と「戒律」</p> <p>第9回 「神話」という物語について</p> <p>第10回 「死後」の世界：人は死んだらどこへ行くのか</p> <p>第11回 シャーマニズム：憑依と神がかり</p> <p>第12回 聖地と巡礼</p> <p>第13回 宗教と社会</p> <p>第14回 現代の日本の宗教</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（予習や発表、毎回の簡単な課題）60%と、レポートもしくは試験40%の総合評価		
失格条件	講義回数数の3分1以上の欠席と、レポートを出さなかった、もしくは試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>身の周りの「宗教的なもの」を見つけてみる。</p> <p>世界の宗教事情に興味をもつ。</p> <p>授業時間外における予習・復習等に必要な時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教関係の本を読む…予習 90分（2時間） ・授業のプリントやノートを見直す…復習 90分（2時間） 		
課題へのフィード バック	毎回の簡単な課題など、その次の回の授業の冒頭でフィードバックを行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	この講義は「宗教学概論 B」との関連講義です。 月に一度の定例礼拝へ出席し、レポートを提出した者は適宜評価します。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC201A06	期間	前期
授業科目名	仏教学概論 A		
英訳科目名	Introduction to Buddhist Studies A		
担当教員名	渡邊 了生		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ○
授業概要・ポイント	当講義では、他宗教（キリスト教・バラモン＝ヒンドゥー教等）との比較を通しながら、ブッダの根本教説をおさえ、広大な裾野をもつ仏教の共通基盤とその特質を学んでいきたい。 その上で、実践哲学としての仏教思想の立場から、現代社会が抱える諸課題についても考察を深めていきたい。また折に触れ、ブッダの説示と親鸞思想との関連についても言及したいと思う。		
到達目標	ブッダの思想の要点を知ることによって、他宗教との思想的相違が了解できる。		
授業計画	第1回 「宗教」と「仏教」 第2回 『バイブル』と『仏教経典』との違い：「死」についての考え方 第3回 宗教の諸相 第4回 諸宗教中における「仏教」の位置 第5回 ゴータマ・ブッダの生涯[1]：「ルンビニーにおける誕生」「出家」「四門出遊－仏教の目的とは－」 第6回 ゴータマ・ブッダの生涯[2]：「修行」「苦行の否定」「ブッダガヤーの菩提樹下における成道」 第7回 ブッダの根本教説①：「ブッダ無我説と輪廻転生思想」 第8回 ブッダの根本教説②：「苦行主義と快楽主義」「中道の教え」 第9回 ブッダの根本教説③：「バラモン＝ヒンドゥー文化と現代インド社会」 第10回 ブッダの根本教説④：「縁起・無常」「なぜ、苦がおこるのか？」 第11回 ブッダの根本教説⑤：「悟りと呼ばれる苦の超克」「ブッダの悟りと親鸞のすくい」 第12回 ゴータマ・ブッダの生涯[3]：「サールナート(鹿野苑)における初転法輪－最初の説法－」「四諦八正道」 第13回 ゴータマ・ブッダの生涯[4]：「伝道の旅と主な視点」「クシナーラーにおける入滅」 第14回 ブッダ滅後の仏教展開：「部派仏教と大乘仏教運動」 第15回 内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 試験 50% 上記のよう総合的に評価する。 なお、講義進行の妨げとなる私語等の行為については厳正に対処する旨を了解した上で受講して頂きたい。		
失格条件	全講義の3分の1以上、欠席したもの。 「公欠」等以外、正当な理由なしに3回連続で講義を欠席したもの。 正当な理由なしに最終の「試験」を受けなかったもの。 受講態度が甚だ不良につき講義からの退室を命じられたもの。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	学習内容のほとんどは、毎時間に配布するレジюме（文章形式）に記されている。予習では、あらかじめ配布されたレジюмеを読み、内容についての疑問点などを各自、整理した上で、講義に臨んで欲しい。（予習時間 2時間） また復習では、講義レジюмеを眺め、自身で理解できたところ、できなかった部分を明確にし、理解不十分などに関して、次の講義の始まりに（全員の前での質問が、気乗りしない場合には終了時にでもOK）遠慮なく質問を投げかけて欲しい。（復習時間 2時間）		
課題へのフィードバック	課題提出後の授業で、全体に向けてコメントする。		
教科書	教科書は使わず、毎時間、配布するレジюмеをもって講義を進める。		
著者名			
出版社			
参考書	『仏教学序説』山口 益・横超慧日・安藤俊雄・舟橋一哉著（平楽寺書店） 『大乘仏教の根本思想』小川一乗著（法蔵館） その他の参考書については、講義時に説明する。		
その他	「板書」は説明のための必要最低限にとどめ、配布する「レジюме」を中心に講義を進めることとしたい。 なお、留学生受講者の多少・各留学生の日本語能力習得の程度にも対応しながら、上記の「授業計画」を基本に（その「変更」をも視野におきながら）、講義を進めていきたいと考えている。 なお、受講者は、この「仏教学概論A」と共に、他の仏教学・宗教学関係の講義も合わせて履修することが望ましいと思われる。 ※ ①これまでは「日本語辞書」としての講義中の「スマートフォン」等の使用を認めてきたが、昨年度から講義中の「スマートフォン」の使用は原則、禁止とした。留学生の方々には、必要な場合、『辞書』（および電子辞書）そのものを持参、講義中に使用して頂くこととする（「辞書」としての「スマートフォン」を、ずっと見つめながら動画をニコニコと楽しむ方がおられる為）。 ②講義中、やむを得ず退室する場合は「無断」ではなく、必ず、その旨の報告・許可を受けた方のみ、退室を認めることとする。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BS201A09	期間	後期
授業科目名	現代社会論/社会学概論		
英訳科目名			
担当教員名	藤谷 忠昭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ○
授業概要・ポイント	この授業では、社会学の成果に基づいて、現代社会について深い理解を得ることを目的とします。コミュニケーションは社会を構成する要素であり、行為、相互行為、集団行為、組織、全体社会などさまざまな側面で、それぞれの特徴を持っています。現代社会の変化を踏まえつつ、それらの特徴を具体的に概説するとともに、それらへの学問的アプローチの方法について講じます。ともに考えることで、人々の交流への受講者の基本的スタンスの確立を目指すとともに、現代社会における課題について体得してもらいます。社会と自分との関係に関心のある人は、ぜひ受講してください。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会におけるコミュニケーションの成り立ちについて理解できる。 ・現代社会における社会的課題について考えることができる。 		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 社会とコミュニケーション 第3回 コミュニケーションの変化 第4回 自己とコミュニケーション 第5回 社会的自己の構成 第6回 社会的自己の生成 第7回 遊びと社会 第8回 社会的役割 第9回 役割と演技 第10回 ステレオタイプと偏見 第11回 自殺と社会の不安 第12回 高齢社会 第13回 職業と自己 第14回 自己の創造 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 授業内課題提出 40% 期末レポート 30%		
失格条件	課題・レポートの未提出 5回以上の欠席（遅刻は3回で1回欠席とする）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 関連するコンテンツに触れる（2時間: 90分）。 復習： ノートを読み返し、自身の暮らしにあてはめてみる（2時間: 90分）。		
課題へのフィード バック	前回の課題について、授業内でコメントする。		
教科書	プリントを配布		
著者名			
出版社			
参考書	適宜、指示		
その他	私語、内職、メール操作、熟睡等は出席とはなりません。 私語をするときは、退出してください。 スマートフォンの操作は教室外でお願いします。 板書は写メではなく、手書きで取りましょう。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	HU302A01	期間	前期
授業科目名	主体的学習法		
英訳科目名	Proactive Learning Methods		
担当教員名	益田 圭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> △
授業概要・ポイント	<p>この授業は、キャリア支援の第一歩として、大学生活において主体的に学習をするというモチベーションを獲得し、主体的に学習するということがどういうことであるかを理解し、主体的に学習する経験を身につけることを目標とする。</p> <p>そのために「学ぶということ」「学ぶことの楽しさ」とはどのようなものかについて学生自身が体験的に考えることにより、学習へのモチベーションや主体的な学習経験の獲得を目指す。この授業により社会人基礎力の「前に踏み出す力」の「主体性」や「考え抜く力」の「課題発見力」「創造力」などの基礎的能力の育成を目指す。</p>		
到達目標	<p>「学ぶということ」がどういうことか自分なりに答えることが出来る。</p> <p>楽しく学ぶための自分なりの方法を考えることが出来る。</p> <p>主体的に学ぼうとすることが出来る。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 何のために「学ぶ」のか？</p> <p>第3回 私の目標！</p> <p>第4回 柔軟に考える！</p> <p>第5回 社会に出るってどういうこと？</p> <p>第6回 論理的に考える！</p> <p>第7回 私の好きなこと！</p> <p>第8回 PDCAサイクル！</p> <p>第9回 PDCAサイクルと人文学部の学び</p> <p>第10回 基礎学力を向上しよう！</p> <p>第11回 計画を立て実行する！</p> <p>第12回 メリットとデメリットから考える！</p> <p>第13回 私にできること！</p> <p>第14回 私の役割！</p> <p>第15回 交流会・まとめ！</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 50%</p> <p>授業外学習への達成度 50%</p>		
失格条件	2/3以上出席していない者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>準備学習4時間（180分）</p> <p>授業時に課題を提示します。</p> <p>自宅での学習は自分で計画をたて、その計画に従って行き、計画通りに出来たかを検証してもらいます。</p>		
課題へのフィード バック	<p>プリント、課題、取り組みについては全体に向けてコメントする。</p> <p>また授業時のプリントはコメントをつけて個別に返却する。</p>		
教科書	指定しません。必要な資料は配付します。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて紹介します。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU309B01	期間	後期
授業科目名	プレゼンテーション演習		
英訳科目名	Seminar on Presentations		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> △
授業概要・ポイント	<p>自分の持つ情報や考えを効果的に他の人に伝えるスキルを身に付けるよう学ぶ。</p> <p>一般社会や教育、企業の現場において、内容を正確に伝達し共感を生むことは重要である。自分たちが学びのなかで得た知識や情報を、他の人に伝え、理解してもらい、好意的に行動してもらえよう、聞き手に感動を与えるような話し方や、表現力豊かな発信の方法などを習得する。</p> <p>会話における話の構成や聞き手の分析、会場や環境に合わせた表現技術、配付資料や機器の使用、ブログやポスターなど自由なメディアでの発信、質疑応答や意見交換の重要性などを通して、効果的な情報発信、自己表現のスキルを学ぶ。</p>		
到達目標	<p>情報や意見を効果的に相手に伝達することができるようになる。</p> <p>そのことによって、社会人基礎力の「前に踏み出す力」の「働きかけ力」や「考え抜く力」の「計画力」、「チームで働く力」の「発信力」「傾聴力」などを身に付けることができる。</p> <p>自分たちが主体的に学び、得た知識や情報を他の人と共有するためには何が必要なのかを考えていきたい。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 プレゼンテーションの基礎知識とあいさつの練習</p> <p>第3回 表現に関する基礎①（心構えと態度）</p> <p>第4回 表現に関する基礎②（伝え方・聞き方）</p> <p>第5回 手紙を書く</p> <p>第6回 各自の発表①（準備）</p> <p>第7回 各自の発表②（実践）</p> <p>第8回 各自の発表③（ふりかえり）</p> <p>第9回 表現・発信する①（ブログ・ポスター・掲示の活用）</p> <p>第10回 表現・発信する②（文書・ITの活用）</p> <p>第11回 表現・発信する③（レジュメと口演）</p> <p>第12回 表現・発信する④（話し合い・座談会）</p> <p>第13回 各班の発表①（企画・提案）</p> <p>第14回 各班の発表②（報告・各自の役割）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	発表内容50%、授業への参加態度（参加状況）50%		
失格条件	3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス</p> <p>主体的な情報収集と取り組みが重要である。先人の経験と研鑽による積み重ねの文献を読み進め、他者の意見に興味を持ってアンテナを張り、吸収することが学びを進める鍵となる。試行錯誤を重ねるなかで慣れ長じていくものでもあるので、自身の練習を録画・録音したり、他者と意見交換をするなど実践的・主体的な練習が効果を上げる。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <p>講義で行う作業に関する参考文献を読み、必要な下調べをする…予習 2時間（90分）</p> <p>講義時に取り上げた問題を整理し、自身の活動に取り込む……復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU309B02	期間	前期
授業科目名	グループワーキング演習		
英訳科目名	Seminar on GroupWork		
担当教員名	高木 学		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> △
授業概要・ポイント	<p>本科目は、人文学部キャリア支援科目の一環として、社会・集団の中で一定の役割を果たしていくためのスキルと心構えを学んでいくものである。</p> <p>前半：講義と短い実践により、円滑なコミュニケーションの方法や対話上の役割の重要性を学ぶ。</p> <p>後半：グループを固定し、公開発表会でのプレゼンテーションに向けて、学生自らが主体的に情報収集・要点整理・発表準備をおこなう。</p>		
到達目標	<p>単にグループ作業をこなすだけでなく、より効率良く進めようとする姿勢や、より優れた結果を残そうとする態度を身につける。</p> <p>自ら課題を発見し、掘り下げ、解決法を提案するという一連のプロセスを実践できる。</p> <p>他の学年らとの交流を通じて、より開かれた視野を持って課題に取り組むことができる</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 グループディスカッションに関する講義</p> <p>第3回 グループ作り・アイスブレイク</p> <p>第4回 ディスカッション演習1 および 課題さがし</p> <p>第5回 ディスカッション演習2 および 課題決定</p> <p>第6回 ディスカッション演習3 および 課題の掘り下げ（資料調査1）</p> <p>第7回 ディスカッション演習4 および 課題の掘り下げ（資料調査2）</p> <p>第8回 課題の掘り下げ（取材1）</p> <p>第9回 課題の掘り下げ（取材2）</p> <p>第10回 発表会準備 パワーポイント作成</p> <p>第11回 発表会準備 配布資料作成</p> <p>第12回 発表会準備 質疑応答への対応</p> <p>第13回 発表会 前半グループ</p> <p>第14回 発表会 後半グループ</p> <p>第15回 まとめ・ふりかえり</p>		
評価方法 (合計100%)	参加態度	30%	
	グループへの貢献	50%	
	発表内容	20%	
失格条件	5回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>授業内容の復習、および作業の振り返り：各週1時間×15回</p> <p>その他、授業の進度・作業内容に応じて、各自が主体的に作業を進めていく。</p> <p>具体的には、発表に向けた課題探し・下調べ・取材・発表準備など：合計30時間</p>		
課題へのフィード バック	<p>授業各回ではリアクションペーパーにより質問・要望等を受け付け、返答が必要な場合は授業内での告知、あるいは個別連絡をおこなう。</p> <p>作業の過程・結果について、適宜コメントや指導をおこなう。</p> <p>発表会のプレゼンテーションについて、講評・指導をおこなう。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜紹介		
その他	グループで協同的に進めていく内容であるため、一般的な授業より、遅刻・欠席に対して大きなペナルティを課す。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU309C01	期間	後期
授業科目名	社会人基礎力形成演習 (1)		
英訳科目名	Seminar on Establishing Fundamental Competencies for Working		
担当教員名	中村 圭爾		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> △
授業概要・ポイント	<p>「社会人基礎力」とは、将来社会に出て、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力のことをいいます。この力は「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つを総合した力です。もう少し具体的にいいますと、「前に踏み出す力」というのは、ものごとに進んで取り組んだり、他人に働きかけたり、目的をはっきりさせて行動する力です。「考え抜く力」というのは、現状をよく考えて何が問題なのかをはっきりさせたり、その問題を解決するために計画を立てたり、新しい考え方や方法を考え出したりする力です。そして、「チームで働く力」は、色んな人々とともに目標に向けて協力するための力で、自分の意見を分かりやすく伝え、相手の意見をきちんと聞き、お互いの違いを分かり合うとともに、自分と周りの人々の関係を理解し、社会や人々との約束を守り、きびしく苦しい状態になってもそれに向かい合うことができるような力です。</p> <p>この授業は、このような力の一つでも二つでも身につけて、社会に役立つ大学卒業生に成長し、また社会で自分の役割を十分に果たすことができるように、自分をきたえ、みがくことを目的に、個人ごとやグループに分かれて、さまざまな取り組みを行う予定です。</p>		
到達目標	社会人となるための心構えを持つとともに、今まで自分に備わっていないと思っていた新しい力を、何か一つ以上、身につけることができる。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 学士力と社会人基礎力 第3回 自己分析Ⅰ「学修調査」の分析 第4回 自己分析Ⅱ「学生力チェック」 第5回 キャリアガイダンスⅠ 社会人生活の実際 第6回 キャリアガイダンスⅡ「就活」とは何か 第7回 自己分析と表現Ⅰ「履歴書と自己PR」 第8回 自己分析と表現Ⅱ「自己PR」の分析 第9回 キャリアの意識化Ⅰ 第10回 キャリアの意識化Ⅱ 第11回 「問題」の発見と解決Ⅰ（グループワーク） 第12回 「問題」の発見と解決Ⅱ（グループワーク） 第13回 「問題」の発見と解決Ⅲ（プレゼンテーション） 第14回 社会人基礎力チェック 第15回 まとめ</p> <p>* 授業取組の進み方等によって、計画が一部変更になる場合があります。</p>		
評価方法 (合計100%)	授業参加態度（授業後に提出する受講シート、課題に関する提出物、グループワークなど各種取組への主体的参加などを総合して判断します。） 100%		
失格条件	5回欠席で失格になります。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回の授業計画により、準備内容は異なりますが、事前に課題が出された場合には、予習としてその準備をします。事前に課題がない場合には、復習として授業後に授業内容を振り返り、それを各自記録にまとめておきます。どちらの場合も、全体で4時間程度の時間をかけるのが望ましい。		
課題へのフィードバック	毎回受講シートを提出します。受講シートには、その時間の授業内容の概要、授業に対する取り組み姿勢、授業で得たと考える成果などを書き込むことにします。その受講シートに、授業担当者のコメントを記入し、次回授業時に返却することになっています。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	特になし		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU309C01	期間	後期
授業科目名	社会人基礎力形成演習 (2)		
英訳科目名	Seminar on Establishing Fundamental Competencies for Working		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> △
授業概要・ポイント	<p>「社会人基礎力」とは、将来社会に出て、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力のことをいいます。この力は「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つを総合した力です。もう少し具体的にいいますと、「前に踏み出す力」というのは、ものごとに進んで取り組んだり、他人に働きかけたり、目的をはっきりさせて行動する力です。「考え抜く力」というのは、現状をよく考えて何が問題なのかをはっきりさせたり、その問題を解決するために計画を立てたり、新しい考え方や方法を考え出したりする力です。そして、「チームで働く力」は、色んな人々とともに目標に向けて協力するための力で、自分の意見を分かりやすく伝え、相手の意見をきちんと聞き、お互いの違いを分かり合うとともに、自分と周りの人々の関係を理解し、社会や人々との約束を守り、きびしく苦しい状態になってもそれに向かい合うことができるような力です。</p> <p>この授業は、このような力の一つでも二つでも身につけて、社会に役立つ大学卒業生に成長し、また社会で自分の役割りを十分に果たすことができるように、自分をきたえ、みがくことを目的に、個人ごとやグループに分かれて、さまざまな取り組みを行う予定です。</p>		
到達目標	社会人となるための心構えを持つとともに、今まで自分に備わっていないと思っていた新しい力を、何か一つ以上、身につけることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 学士力と社会人基礎力 第3回 自己分析Ⅰ「学修調査」の分析 第4回 自己分析Ⅱ「学生力チェック」 第5回 キャリアガイダンスⅠ 社会人生活の実際 第6回 キャリアガイダンスⅡ「就活」とは何か 第7回 自己分析と表現Ⅰ「履歴書と自己PR」 第8回 自己分析と表現Ⅱ「自己PR」の分析 第9回 キャリアの意識化Ⅰ 第10回 キャリアの意識化Ⅱ 第11回 「問題」の発見と解決Ⅰ（グループワーク） 第12回 「問題」の発見と解決Ⅱ（グループワーク） 第13回 「問題」の発見と解決Ⅲ（プレゼンテーション） 第14回 社会人基礎力チェック 第15回 まとめ ※授業取組の進み方等によって、計画が一部変更になる場合があります。		
評価方法 (合計100%)	授業参加態度（授業後に提出する受講シート、課題に関する提出物、グループワークなど各種取組への主体的参加などを総合して判断します。） 100%		
失格条件	出席状況（全回出席必須） 授業内課題の未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回の授業計画により、準備内容は異なりますが、事前に課題が出された場合には、予習としてその準備をします。事前に課題がない場合には、復習として授業後に授業内容を振り返り、それを各自記録にまとめておきます。どちらの場合も、4時間程度の時間をかけるのが望ましい。		
課題へのフィードバック	事前に課題が出された場合には、その解説を実施する。 課題発表やプレゼンテーションは講評を授業内で共有する。 フィードバックペーパーを課す場合は返却する。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	特になし		
その他	特になし		
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU309C02	期間	前期																																													
授業科目名	社会人基礎力実践																																															
英訳科目名	Implementing Fundamental Competencies for Working Persons																																															
担当教員名	井上 陽、向井 光太郎																																															
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎																																													
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○																																													
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> △																																													
授業概要・ポイント	<p>「社会人基礎力」とは、将来社会に出て、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の三つを総合した力です。</p> <p>「前に踏み出す力」は、ものごとに進んで取り組んだり、他人に働きかけたり、目的をはっきりさせて行動する力です。「考え抜く力」は、現状をよく考えて何が問題なのかをはっきりさせたり、その問題を解決するために計画を立てたり、新しい考え方や方法を考え出したりする力です。そして、「チームで働く力」は、いろいろな人々とともに目標に向けて協力するための力で、自分の意見を分かりやすく伝え、相手の意見をきちんと聴き、お互いの違いを分かり合うとともに、自分と周りの人々の関係を理解し、社会や人々との約束を守り、きびしく苦しい状態になってもそれに向かい合うことができるような力です。</p> <p>この授業では、さまざま世界で活躍するプロフェッショナルが一部の講義を担当し、講師と学生とのコミュニケーションや演習を通して、これらの力を高めて実践できる人物になることを目指します。</p>																																															
到達目標	上記の三つの力はもとより、課題に向き合い考え抜く力、課題を解決する力、考えをまとめ発表する力、書く力、聴く力など、今まで自分に備わっていないと思っていた新しい力を、何か一つ以上、身につけることができる。																																															
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>イントロダクション</td> <td>コンセプトと目標</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>イメージからリアルへ</td> <td>社会進出のオプション拡大</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>コンタクトを身近に</td> <td>人的接触の勇気と浸潤へ</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ケーススタディ1</td> <td>これからの時代の就職活動について</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>商品からサービスへ</td> <td>サービス・マネジメントについて</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>ケーススタディ2</td> <td>サービスにおける心持ちについて</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ケーススタディ3</td> <td>サービス・マネジメント実践研究</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>就職情報のインプット</td> <td>求人情報からのオプション拡大</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>社会への関心から</td> <td>グループで社会の課題発見と解決案</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>社会との関与へ</td> <td>課題解決に向けた心持ちと視野</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>ケーススタディ4</td> <td>課題解決実践研究</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>ケーススタディ5</td> <td>課題解決実践研究</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>プロへのフィールド</td> <td>自分が進出する世界をイメージする</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>プロへの誓い</td> <td>社会への関与・プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>振り返り</td> <td>メッセージの共有</td> </tr> </table> <p>社会で活躍される方々が講師として登壇する予定です。 講師のスケジュールにより、順序の変動が生じる場合があります。</p>			第1回	イントロダクション	コンセプトと目標	第2回	イメージからリアルへ	社会進出のオプション拡大	第3回	コンタクトを身近に	人的接触の勇気と浸潤へ	第4回	ケーススタディ1	これからの時代の就職活動について	第5回	商品からサービスへ	サービス・マネジメントについて	第6回	ケーススタディ2	サービスにおける心持ちについて	第7回	ケーススタディ3	サービス・マネジメント実践研究	第8回	就職情報のインプット	求人情報からのオプション拡大	第9回	社会への関心から	グループで社会の課題発見と解決案	第10回	社会との関与へ	課題解決に向けた心持ちと視野	第11回	ケーススタディ4	課題解決実践研究	第12回	ケーススタディ5	課題解決実践研究	第13回	プロへのフィールド	自分が進出する世界をイメージする	第14回	プロへの誓い	社会への関与・プレゼンテーション	第15回	振り返り	メッセージの共有
第1回	イントロダクション	コンセプトと目標																																														
第2回	イメージからリアルへ	社会進出のオプション拡大																																														
第3回	コンタクトを身近に	人的接触の勇気と浸潤へ																																														
第4回	ケーススタディ1	これからの時代の就職活動について																																														
第5回	商品からサービスへ	サービス・マネジメントについて																																														
第6回	ケーススタディ2	サービスにおける心持ちについて																																														
第7回	ケーススタディ3	サービス・マネジメント実践研究																																														
第8回	就職情報のインプット	求人情報からのオプション拡大																																														
第9回	社会への関心から	グループで社会の課題発見と解決案																																														
第10回	社会との関与へ	課題解決に向けた心持ちと視野																																														
第11回	ケーススタディ4	課題解決実践研究																																														
第12回	ケーススタディ5	課題解決実践研究																																														
第13回	プロへのフィールド	自分が進出する世界をイメージする																																														
第14回	プロへの誓い	社会への関与・プレゼンテーション																																														
第15回	振り返り	メッセージの共有																																														
評価方法 (合計100%)	授業でのパフォーマンス（コミュニケーション、課題、ワークなど）50% 授業でのアウトプット（コメント、プレゼンテーション、提出課題など）50%																																															
失格条件	3分の1以上の欠席																																															
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示された予習については、積極的に資料を検索して行うこと(予習時間 1時間)。 また、授業後の復習は欠かさず行い、授業で指示された課題等の作成を行うこと(復習時間 3時間)																																															
課題へのフィード バック	授業でのパフォーマンス・アウトプットについてその都度、もしくはその次の回にフィードバックを行ういます。																																															
教科書	不使用。																																															
著者名																																																
出版社																																																
参考書																																																
その他	定められている授業開始時刻から測って20分以上の遅刻は欠席とみなす。 遅刻3回で欠席1回とみなす。																																															
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。（向井）																																															
科目生への開講	なし																																															

ナンバリング	HU304B01	期間	後期
授業科目名	データ分析		
英訳科目名	Data Analysis		
担当教員名	益田 圭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> △
授業概要・ポイント	この授業は、官庁統計、調査報告書などの統計資料を理解するために必要な基礎的知識の習得を目的とする。単純集計、度数分布、記述統計量、クロス集計などの記述統計データやグラフの正確な理解と、そうしたデータ分析をおこなうための基礎的知識と技術を身につけていく。		
到達目標	統計分析についての基本的な知識を得ることができる。 必要な官庁統計、調査報告書などを検索し、入手することができる。 官庁統計、調査報告書などを読み、内容が理解できる。 基本的なデータの整理、分析などの処理ができる。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 統計資料の種類と特性 第3回 統計資料の収集と利用 第4回 質的変数と量的変数 第5回 単純集計と度数分布 第6回 代表値 第7回 散布度 第8回 相関関係とは 第9回 相関関係と散布図 第10回 相関係数 第11回 統計的仮説の検定 第12回 クロス集計 第13回 カイニ乗分析 第14回 グラフ 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度30% 提出物20% レポート50%		
失格条件	レポートを提出しないもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習1時間(45分) 授業時に予習課題を提示する。 復習3時間(135分) まず、授業時に出した持ち帰り課題を、確実にやってくること。 また、授業時に記入・提出したプリントや持ち帰り課題が返却されたら、必ずもう一度その内容を確認し、わからないことや理解が不十分なところを見つけ、つぎの授業時に質問すること。		
課題へのフィード バック	プリント、課題、取り組みについては全体に向けてコメントする。 また授業時のプリントは必要に応じコメントをつけて個別に返却する。		
教科書	指定しない		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて紹介する。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HU309N01	期間	集中
授業科目名	海外研修		
英訳科目名	Overseas Summer Program		
担当教員名	J.E.Alsdorf		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> △
授業概要・ポイント	この科目の受講者は、8月に実施される本学の「海外研修」に参加し、帰国後に課題を提出することが求められる。「海外研修」では、ハワイ大学マノア校または英国バンガー大学で実施される3週間の夏期語学研修プログラムに参加し、英語によるコミュニケーション力を養うとともに、米国の文化や自然を体験する。 なお、渡航の手続きを含め、「海外研修」のための事前指導を6～7回、また帰国後にも事後指導と報告会をキャンパスタイムに行う。受講者は、この事前・事後指導にも原則として毎回出席するものとする。 また、最後に課題を提出する。		
到達目標	渡航に必要なさまざまな手続きを行うことができる。 英語でコミュニケーションを図ることができる。 異なる文化・習慣を持つ人々とのコミュニケーションとはどういうものかを知ることができる。 米国または英国の文化の一端を知ることができる。		
授業計画	木曜日5限に67回事前指導を行う。 その中で、渡航の手続きを行ったり、渡航・研修における注意点を確認したり、さらには研修中に行われる「交流会」におけるプレゼンテーションの準備なども行う。 事前指導にはe-ラーニングも利用する。 8月末 出国 海外研修期間3週間 9月下旬頃 帰国 帰国後、キャンパスタイムに事後指導と報告会を行う。		
評価方法 (合計100%)	事前・事後指導への参加態度30% 「海外研修」40% 報告会・課題30%		
失格条件	以下のいずれかに該当する場合 1.事前・事後指導を正当な理由なく4回以上欠席した場合 2.夏期語学プログラムに参加しなかった場合 3.報告会への参加、課題の提出のいずれかを行わなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習：8月の海外研修のための事前指導に参加し、自分ですべき必要な手続きや準備を期限内にきちんと行う。 米国または英国での研修に備えて、英語のリスニングの練習や英語の表現の暗記などをする。 復習：ハワイ大学マノア校または英国バンガー大学のプログラムで出された宿題をこなし、クラスや日常生活の中で覚えた単語や表現、異文化体験を書き留める。(帰国後) 米国または英国で学んだことを、自分なりに振り返り、まとめる(報告会で発表・課題として提出)		
課題へのフィードバック	実技、実習の取り組みに対して個別にコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	事前・事後指導には、辞書を持参すること。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL401A01	期間	後期
授業科目名	日本文学入門 1		
英訳科目名			
担当教員名	鈴木 徳男		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	藤原定家の撰である『百人一首』をとりあげ、古典和歌を鑑賞するための基礎知識や修辞技巧を理解する。テキストを活用して所収の和歌のいくつかを選んで味わい、歌人の生き方、詠歌の背景、和歌の歴史について考える。撰者定家の事績や広く古典文学についても考えたい。		
到達目標	日本文学（主として古典）を理解するための基礎的な能力を養うことができる。注釈書を活用して、内容を掘りさげて味わい、作者の事績や歴史的背景の調べ方や読解の具体的方法を身につける。日本文学を理解する技術的な習得だけでなく、受け継がれる古典の本質を学び、広く伝統文化の醍醐味を知る能力を培う。		
授業計画	第1回 百人一首とはなにか、百人一首の成立過程・撰者 第2回 古典和歌を読むための基礎知識（2、3番歌を例として） 第3回 百人一首の出典（勅撰集などについて） 第4回 7番歌（仲麿）。以下、主としてとりあげて読む歌およびキーワード。 第5回 9番歌（小野小町）、12番歌（遍昭） 歌風 第6回 15番歌（光孝天皇）、17番歌（業平） 和歌が詠まれる場 第7回 21番歌（素性法師） 古典和歌の奥行き 第8回 33番歌（友則）、35番歌（貫之） 古今集 第9回 40、41番歌（兼盛、忠見） 歌合について 第10回 42番歌（元輔）、43、50、52番歌（敦忠、義孝、道信） 後朝の歌 第11回 56、60番歌（和泉式部、小式部内侍） 王朝女流歌人 第12回 74番歌（俊頼）、90番歌（殷富門院大輔） 本歌取りなど 第13回 97番歌（定家）、99番歌（後鳥羽院） 自讃歌 第14回 到達度の確認 第15回 まとめと解説		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 40% 試験 60%		
失格条件	授業6回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	教科書の内容をしっかりと理解することが重要なので、次の時間に学習する箇所を前もって読んでおく。また授業後はポイントを復習して理解を確実にする。予習復習の基準時間は、予習2時間（90分）・復習2時間（90分）。		
課題へのフィード バック	毎時の授業後に理解度を確認する課題について記述、それに対して次の回に全体に向けてコメントします。		
教科書	『百人一首（全）』（ビギナーズ・クラシックス日本の古典）		
著者名	谷知子		
出版社	角川ソフィア文庫(角川書店)		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL401A02	期間	後期
授業科目名	日本文学入門2		
英訳科目名	Introduction to Japanese Literature 2		
担当教員名	野田 直恵		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>本科目では、近代の日本文学を読み解くための基礎的な力を養うことを目指します。そのため、授業では文学作品以外に、近代という時代を映し出した文献なども扱います。作品が発表された当時の時代状況を知ったうえで、作者が作品を通じて表現しようとしたことを読み取り、それが現在の私たちにどのようにつながってくるのかをより多角的に考えられる読み手になりましょう。</p>		
到達目標	近代文学研究に必要な基本的知識および手法を習得する。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・作品を受容するという立場 第2回 作家と作品との関係 第3回 西洋と明治時代の作家～翻訳と留学 第4回 女性にとっての近代～教育と創作 第5回 近代文学と古典文学との接点～文学史的視点からの考察 第6回 与謝野晶子と『源氏物語』1～近代における古典受容 第7回 与謝野晶子と『源氏物語』2～近代における古典受容 第8回 作品と古典文学①～芥川龍之介「鼻」を読む1 第9回 作品と古典文学②～芥川龍之介「鼻」を読む2 第10回 作品と古典文学③～芥川龍之介「鼻」を読む3 第11回 初出本文と全集本文①～芥川龍之介「奉教人の死」を読む1 第12回 初出本文と全集本文②～芥川龍之介「奉教人の死」を読む2 第13回 本文異同から見えるもの①～芥川龍之介「奉教人の死」を読む3 第14回 本文異同から見えるもの②～芥川龍之介「奉教人の死」を読む4 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（発言・授業内コメント等）40% 提出物60%		
失格条件	原則として6回以上欠席した場合 提出物の作成において、不正行為（剽窃・盗用等）を行った場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>評価は提出物の評点に大きく左右されます。提出物には以下のA・Bの2種類があり、提出期限をもうけて授業内に回収します。最終授業時を含め、A・Bそれぞれ数回ずつの提出を求める予定です。</p> <p>授業の予習・復習をせずに提出物の作成に臨んでも、提出物を仕上げることはできません。授業への積極的参加はもちろん、日常の積み重ねを大切にしよう心がけてください。（予習2時間・復習2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物A「予習課題に関するもの」 ・提出物B「復習課題に関するもの」 <p>A・Bいずれの提出物も、自身で準備してきた下書きをもとに授業時に仕上げて提出してもらいます。ただし、1回の授業内でA・B2種類の提出物の提出を求めることはありません。提出期限を過ぎた提出物は原則として受け取りませんが、公欠で提出できなかった場合などは考慮します。</p>		
課題へのフィードバック	授業内の発表やコメントに対する個別の講評、提出物に対する全体的な講評を行います。なお、提出物に対する個別の講評も必要に応じて行います。		
教科書	授業中にプリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に指示します。		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL402B01	期間	前期
授業科目名	日本古典文学史		
英訳科目名	History of Japanese Classic Literature		
担当教員名	鈴木 徳男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	1300年以上にわたる日本文学の歴史を鳥瞰し、その展開を把握し全体像を見極めるための諸問題を、いくつかの作家・作品・ジャンルに焦点を絞って考える。「日本文学史」とは何か？たとえば個別の作品を時代の中に配置することで何が見えてくるのだろうか。日本文学の研究とは、文学史に始まり文学史に終わるといってもよい。古典の基礎的な理解を目指して、『古事記』『万葉集』から江戸時代の文学作品まで、主だった作品の一部を鑑賞しつつ考えたい。そのためにも教科書にしたがい授業を進めるので前もって必ず一読しておくことが求められる。		
到達目標	日本古典文学史という講義は、暗記科目ではなく、歴史のなかで文学がどのように変化をたどっていったのか、なぜ変化したのかを理解してもらおうものである。作品がなぜ書かれ、どういう特質があり、なぜ読み継がれているのか、文学史全体を巨視的に考えるという大きな視座を身につけることができる。		
授業計画	第1回 導入 文学史ということ、時代区分など 第2回 上代の文学① 神話・伝説・説話—『古事記』の世界 第3回 上代の文学② 詩歌—『万葉集』 第4回 中古の文学① 国風文化—『古今集』、物語の出来はじめの親—『竹取物語』 第5回 中古の文学② 歌物語—『伊勢物語』・『大和物語』 第6回 中古の文学③ 日記と随筆—『土左日記』『枕草子』 第7回 中古の文学④ 物語文学—『源氏物語』 第8回 中古の文学⑤ 説話文学と歴史物語—『今昔物語集』ほか 第9回 中世の文学① 軍記物語—『平家物語』 第10回 中世の文学② 随筆—『方丈記』・『徒然草』 第11回 中世の文学③ 説話文学 第12回 中世の文学④ 演劇—能・狂言 第13回 近世の文学① 元禄の文学 第14回 近世の文学② 大衆文学の時代 第15回 到達度の確認ならびに解説		
評価方法 (合計100%)	①授業への参加態度 40% ②内容理解の確認に対してなされた評価 60%		
失格条件	出席率60%以下の者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	高校時代、文学史をやっていない場合は、国語便覧など、高校用のサブテキストを購入することを薦めます。教員採用試験を受ける人はもちろんのこと、就職試験にも役立ちます。教科書を必ず購入し、受講前に一読しておくこと。予習復習の基準時間は、予習2時間(90分)・復習2時間(90分)。		
課題へのフィード バック	理解度確認のテストを行い提出後採点をして個別に返却します。		
教科書	詳説日本文学史		
著者名	濱川勝彦・大槻修		
出版社	数研出版		
参考書			
その他	この講義は、中学高校の教員免許取得を目指す人にとっては必修です。講義は、そうした学生を対象にしているつもりですから、欠席や遅刻は厳しく対処します。講義受講に際して十分に注意してください。		
備考			
科目生への開講	あり		

4-077

ナンバリング	JL402B02	期間	後期
授業科目名	日本近代文学史		
英訳科目名	History of Japanese Modern Literature		
担当教員名	荒井 真理亜		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>明治・大正・昭和の作家や作品を紹介し、その文学史的な位置づけを確認します。個別の事例を整理しながら、近代文学の成立と展開を解説していきます。</p> <p>国語の教員免許の取得を目指している受講生は、本授業を通して日本の近代文学史の知識を身につけてください。</p>		
到達目標	<p>本授業は、次の3点を目標とします。</p> <p>①作家や作品の基本情報をおさえることができる。</p> <p>②文学がおかれた時代状況を把握することができる。</p> <p>③近代文学史の全体像をつかむことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションー近世から近代へー</p> <p>第2回 明治の文学① 写実主義</p> <p>第3回 明治の文学② 浪漫主義</p> <p>第4回 明治の文学③ 擬古典主義</p> <p>第5回 明治の文学④ 自然主義</p> <p>第6回 明治の文学⑤ 反自然主義</p> <p>第7回 大正の文学① 耽美派・白樺派</p> <p>第8回 大正の文学② 新現実主義</p> <p>第9回 昭和の文学① プロレタリア文学</p> <p>第10回 昭和の文学② 新感覚派・新興芸術派</p> <p>第11回 昭和の文学③ 昭和10年代の文学</p> <p>第12回 昭和の文学④ 無頼派・戦後派</p> <p>第13回 昭和の文学⑤ 第三の新人・内向の世代</p> <p>第14回 昭和の文学⑥ 高度経済成長期の文学</p> <p>第15回 到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 (小テストなど) 50%</p> <p>到達度 (試験) 50%</p>		
失格条件	<p>6回以上の欠席</p> <p>到達度の確認を受けなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げる時代について調べておきましょう。(予習時間 1時間) ・授業中の課題に備えて、授業の内容を復習しておいてください。(復習時間 1時間) ・授業で紹介した作品を実際に読んでみましょう。(復習2時間) 		
課題へのフィード バック	<p>小テストは採点して返却します。</p>		
教科書	詳説日本文学史		
著者名	濱川勝彦・大槻修		
出版社	数研出版		
参考書	授業中に紹介します。		
その他	<p>日本古典文学史と同じ教科書を使います。</p> <p>日本古典文学史を受講し、既に教科書を持っている場合は改めて購入する必要はありません。</p>		
備考			
科目生への開講	あり		

4-078

ナンバリング	JL401B01	期間	後期
授業科目名	国語学概論		
英訳科目名	Introduction to Japanese Linguistics		
担当教員名	河野 光将		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	我々が普段話している日本語は様々な歴史的变化の上に成立しており、さらに「今」現在も変化している。日本語について様々な歴史の変遷を辿ることにより、どのような変化の上に、「今」の日本語があるのかについて概説する。		
到達目標	主に国語学学習未経験者を対象として、現代語と古典語との対比を通じて、日本語の音声・表記・文法・語彙に関する体系的な知識を身につけることを目標とする。		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本語の音声・音韻 (1) 第3回 日本語の音声・音韻 (2) 第4回 日本語の音声・音韻 (3) 第5回 日本語の文字・書記 (1) 第6回 日本語の文字・書記 (2) 第7回 日本語の文法 (1) 第8回 日本語の文法 (2) 第9回 日本語の文法 (3) 第10回 日本語の語彙 (1) 第11回 日本語の語彙 (2) 第12回 日本語の語彙 (3) 第13回 日本語の方言 第14回 日本語教育と国語学 (日本語学) 第15回 日本語研究史		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% 試験 80%		
失格条件	出席回数が3分の2に満たない場合 最終試験未受験の場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義終了後に、講義内容について復習を行うこと(4時間)。		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントする。		
教科書	特になし。 必要に応じて、適宜プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて、講義中に指示する。		
その他	評価方法・失格条件についての詳細は、第1回目の講義中に説明する。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL402B03	期間	前期
授業科目名	国語史		
英訳科目名	History of Japanese Language		
担当教員名	安井 寿枝		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	「国語史」とは、「日本語の歴史」のことです。現在わたしたちが話している日本語は、さまざまな変化を経て成立したものです。そして、日本語は今も変化し続けています。本講義は、それら過去の変化を日本史と対応させながら総覧していきます。		
到達目標	・自身が話している現在の日本語が、どのように形成されたかを通時的に理解できるようになること。		
授業計画	第1回 ガイダンスー日本語の歴史とはー 第2回 縄文時代と弥生時代 第3回 大和朝廷 第4回 奈良時代 第5回 平安時代（1） ひらがな 第6回 平安時代（2） カタカナ 第7回 平安時代（3） 音韻 第8回 鎌倉時代 第9回 室町時代 第10回 江戸時代（1） 音韻・文法 第11回 江戸時代（2） 方言 第12回 江戸時代（3） 位相語 第13回 明治時代（1） 文字 第14回 明治時代（2） 文章 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度30% 試験70%		
失格条件	試験を受けなかった者は失格とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・各時代について、高等学校までの日本史の復習をしておくこと。（予習時間 1時間） ・各時代について、文学史を復習し、どのような文学作品が存在するかを把握しておくこと。（予習時間 1時間） ・「第15回 到達度の確認」に向けて、講義内容を復習すること。（復習時間 3時間）		
課題へのフィード バック	・学習シートについて、毎時間全体に向けて解説します。		
教科書	不使用		
著者名	なし		
出版社	なし		
参考書	沖森卓也 編（1989）『日本語史』おうふう		
その他	通時的な内容は、1回の講義内容が分からなくなってしまうと、その後の講義への理解に支障をきたします。そのため、分からないことは必ずその日のうちに質問して解決するようにしてください。また、休んでしまった場合も、必ず次の講義までに各自で補習を行っておいてください。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL401B02	期間	集中
授業科目名	言語学概論		
英訳科目名	Introduction to Linguistics		
担当教員名	藤岡 克則		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>目的：「ことば」とは何かを言語学の枠組みでとらえ、ことばを科学的、客観的に考える側面を理解する。 方法：発話には表面的なものの背景に必ずそれを形成する深層があり、それらの一部を個別にとりあげてわたしたちの「ことば」には、特定の原理や法則が働いていることを示し、それを重ねて体系を解説する。</p> <p>受講者個人の内省と発音を駆使して、身近な材料、自分の発想、発話から具体的に「ことば」がどのように出てくるかを確認し、理解していく手法を用いる。</p> <p>波及効果：ものごとで表面に見えているわかりやすいことは、真相から程遠い現実を理解する。</p>		
到達目標	言語の個性（個別言語の特性）と普遍性ならびに「ことば」の有用性を理解する。		
授業計画	第1回 言語学とは：言語の定義と言語学の研究分野 第2回 動物の「ことば」 第3回 世界の言語の多様性と類似性 第4回 音声学：音のまとまりの形とその法則 第5回 まとめ①：第1回～4回までの復習と、まとめレポート作成① 第6回 語の構造 第7回 文の成り立ちと「文法」 第8回 意味論と語用論：ことばの意味と運用 第9回 ことばと社会 第10回 まとめ②：第5回～9回までの復習と、まとめレポート作成② 第11回 子供の言語習得過程 第12回 ことばによらないコミュニケーション 第13回 日本語の特質 第14回 ことばと文学 第15回 まとめ③：第11回～14回までの復習と、まとめレポート作成③		
評価方法 (合計100%)	授業への積極的参加態度と振り返りシートの提出40% まとめレポート作成と提出（全3回）60%（各レポート20%で評価）		
失格条件	（次のいずれかに該当すれば失格とする。） 1. 5回以上欠席した場合。（遅刻3回で欠席1回とみなす。） 2. まとめレポートを1回でも出さなかった場合。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	集中講義ですので、準備学習として講義開始までに指定テキストを読み終えて下さい。		
課題へのフィード バック	まとめレポートは授業時間内で完成してもらいます。また、授業時間内で添削やアドバイスをを行いながら、レポートに対するコメントをします。		
教科書	『現代の言語学』		
著者名	石黒昭博・山内信幸他		
出版社	金星堂		
参考書	『日本語の音声』窪園晴夫 岩波書店、『言語学入門』ジーン・エイチソン 金星堂、『はじめての人の言語学』上山あゆみ くろしお出版		
その他			
備考	国語科教職課程の必修科目につき、授業では資格取得に必要な専門的修得内容を含むため、受講者は教職課程履修者または当該科目の専門的な学びを志す者に限る。		
科目生への開講	あり		

4-081

ナンバリング	JL401B03	期間	後期
授業科目名	日本文学概論		
英訳科目名	Japanese Literature		
担当教員名	鈴木 徳男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	1300年以上にわたる日本文学の歴史の中から、いくつかの作品をとりあげ、教科書を読み進めながら、古典のおもしろさを感じ取る。古典の世界を知ること、日本文化を見る目を養い、人間とは何か、さらに現代の我々自身を理解することにもなる。		
到達目標	各時代の主要な日本文学作品が、どのように生み出され、さらに新たな展開を促してきたか、その文化的真髄を考える。「日本文学とはなにか」という問いを、具体的な観点から考察し、各人自ら答える能力を養うことができる。		
授業計画	第1回 プロローグ (以下、教科書から主として取り上げる作品とサブタイトル) 第2回 『古事記』 一言葉が生む悲劇 第3回 『風土記』 タブーと地名由来 第4回 『竹取物語』 成長するかぐや姫 第5回 『伊勢物語』 命をかける、それが愛 第6回 『大和物語』 歌物語から説話文学へ 第7回 『落窪物語』 セリフから人物が見える 第8回 『枕草子』 エッセイトの条件 第9回 『源氏物語』 一言葉に仕掛けられた秘密 第10回 『今昔物語集』 落差のある言葉づかいの魅力 第11回 『方丈記』 見事なドキュメンタリー 第12回 『平家物語』 鮮烈に描かれる若武者の死 第13回 『徒然草』 兼好法師は女嫌いか 第14回 狂言 短い時間で笑いを作る。エピローグ 第15回 到達度をみる試験		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 40% 試験 60%		
失格条件	授業6回以上の欠席。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	段階をふんで習得していくことが重要なので、授業への積極的な参加が必須。予習復習の基準時間は、予習2時間 (90分) ・復習2時間 (90分)。		
課題へのフィード バック	課題提出後の授業で、全体に向けコメントします。		
教科書	日本語の古典		
著者名	山口 仲美		
出版社	岩波書店		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL405B01	期間	後期
授業科目名	日本文学講読A		
英訳科目名	Readings in Japanese Literature A		
担当教員名	溝端 悠朗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	よく知られた古典文学である『竹取物語』全編を読む。『竹取物語』は、昔話「かぐや姫」の物語として人口に膾炙しているが、細かなことは意外とよく知られていない。本講義では、五人の貴公子による求婚譚、それに対する難題譚、帝との対面を経て昇天するかぐや姫の物語を、古典の原文で読み通す。『竹取物語』を詳細に読むことで、古典文学を深く読み解く力を養う。加えて、教員を目指す学生は、教材研究の方法やヒントを学ぶ。		
到達目標	古典文学を深く読むための知識や研究方法を身につけることができる。古典についての理解を深めることができる。文学研究にあたっての基本的な作業を習得することができる。		
授業計画	第1回 ガイダンス（授業の進め方） 第2回 『竹取物語』概説①（成立・時代背景） 第3回 『竹取物語』概説②（構成・文学史） 第4回 竹取の翁とかぐや姫 第5回 かぐや姫と求婚者たち 第6回 難題① 仏の御石の鉢 第7回 難題② 蓬萊の玉の枝 第8回 難題③ 火鼠の皮衣 第9回 難題④ 竜の首の珠 第10回 難題⑤ 燕の子安貝 第11回 帝との対面 第12回 かぐや姫の悲嘆 第13回 かぐや姫の昇天 第14回 『竹取物語』の展開 第15回 まとめ ※授業の進捗状況により、内容を変更する場合がある。		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 提出物（課題） 50%		
失格条件	①授業6回以上の欠席 ②課題において剽竊などの不正行為を行った場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業は教科書によって進めるため、必ず手元に準備しなければならない。 ・次回の箇所を前もって読んでくること（予習1時間）。 ・授業内容は連続しているため、欠席は極力避け、既習内容を復習しておくこと。 ・授業で課された課題に取り組むこと（復習3時間）。		
課題へのフィードバック	提出を求める課題については、次回の授業で全体に向けてコメントする。また、必要に応じて個別にコメントなどの対応をとる場合もある。		
教科書	竹取物語（全）（ビギナーズ・クラシックス 日本の古典）		
著者名	角川書店（編）		
出版社	KADOKAWA（角川ソフィア文庫）		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL405B02	期間	後期
授業科目名	日本文学講読 B		
英訳科目名	Readings in Japanese Literature B		
担当教員名	諸岡 知徳		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	物語には、さまざまな別の物語が混在している。作家は先行する物語を、ある時は意識的に地として、またある時は無意識に因として自らの物語に組み込み、再編成していく。本授業では、大阪などを舞台にした織田作之助の小説をいくつか取り上げて、その読解を通してさまざまな小説の読み方、論じ方を具体的に学ぶことにしたい。		
到達目標	織田作之助をはじめとする文学テキストの読解を通じて、日本文学について分析するために必要な基礎的知識を獲得する。さらに、明治、大正、昭和時代の文学テキストなどを読解することで、さまざまな時代の文章の理解に役立つ基礎的な知識も養成する。		
授業計画	<p>テーマ : 小説のなかの大阪・関西 大阪や京阪神地域を舞台とした小説を取り上げ、テキストを詳細に読み進めていく。 取り上げる小説は、織田作之助の大阪・京阪神を舞台とした小説を予定している。</p> <p>第1回 導入 織田作之助と関西・大阪 「木の都」 第2回 織田作之助とは何か? 「木の都」② 第3回 織田作之助と文学 「郷愁」① 第4回 織田作之助と文学 「郷愁」② 第5回 物語としての大阪① 「女の橋」① 第6回 物語としての大阪① 「女の橋」② 第7回 物語としての大阪② 「船場の娘」① 第8回 物語としての大阪② 「船場の娘」② 第9回 物語としての大阪③ 「大阪の女」① 第10回 「夫婦善哉」① 第11回 「夫婦善哉」②小説と映画① 第12回 「夫婦善哉」③小説と映画② 第13回 「夫婦善哉」④小説と映画③ 第14回 「夫婦善哉」⑤小節と映画④ 第15回 「夫婦善哉」⑥ まとめ</p> <p>以上の構成については、進度や理解度を考慮し、順序を入れ替える可能性もある。</p>		
評価方法 (合計100%)	成績評価は、1.講義プリントなど50%、2.宿題15%、3.レポート・その他35% とする。 レポートの提出日時、課題は授業内で伝える。		
失格条件	授業6回以上の欠席。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業の前後に作品を読む。 予習復習の基準時間は、予習2時間(90分)・復習2時間(90分)。		
課題へのフィードバック	最終回に全体の内容のフィードバックを行う。		
教科書	授業時にプリントを配布します		
著者名			
出版社			
参考書	授業時間内に紹介します		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL406C01	期間	前期
授業科目名	日本文学演習 A		
英訳科目名	Readings in Chinese Classics A		
担当教員名	溝端 悠朗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	『今昔物語集』および『宇治拾遺物語』のうちから、いくつかの説話を読む。「説話」とは、主に世間で語り伝えられてきた短い話のことである。平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて成立したこれらの説話集は、仏教思想を背景に持っているながらも、笑い話や処世術を示す教訓譚などの世俗的な説話を多く含んでおり、興味深い作品である。本講義では、説話集の読解を通して古典の世界を味わうとともに、古典文学を読むための基礎知識や、研究するための態度・方法を身につける。加えて、教員を目指す学生は、教材研究の方法やヒントを学ぶ。		
到達目標	古典文学を読むための基礎知識を身につけ、読解のポイントを知ることができる。古典についての理解を深めることができる。文学研究にあたっての基本的な作業を習得することができる。		
授業計画	第1回 ガイダンス（授業の進め方） 第2回 説話文学概説（文学史・時代背景） 第3回 『宇治拾遺物語』序文 第4回 仏を射た獵師 第5回 田舎の児と散る桜 第6回 受領と平茸 第7回 保昌と袴垂 第8回 木こりと隠題の和歌 第9回 小野篁の才覚 第10回 陰陽師・安倍晴明 第11回 姨捨山の月 第12回 鼻の長い僧侶① 第13回 鼻の長い僧侶② 第14回 説話と芥川龍之介 第15回 まとめ ※授業の進捗状況や受講生の反応などにより、内容を変更する場合がある。		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 提出物（課題） 50%		
失格条件	①授業6回以上の欠席 ②課題において剽竊などの不正行為を行った場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・次回の説話を前もって読み、内容を理解してくること（予習1時間）。 ・授業内容を復習するほかに、授業で課された課題を作成すること（予習3時間）。		
課題へのフィード バック	提出をを求める課題については、次回の授業で全体に向けてコメントする。また、必要に応じて個別にコメントなどの対応をとる場合もある。		
教科書	使用しない。プリントを配付する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL406C02	期間	後期
授業科目名	日本文学演習B		
英訳科目名	Readings in Chinese Classics B		
担当教員名	吉川 望		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>夏目漱石・芥川龍之介・太宰治・村上春樹といった近現代を代表する作家の短編小説を取り上げ、</p> <p>①担当者による発表</p> <p>②受講生全員での意見交換</p> <p>③自分の意見を短い文章にまとめるを行います。</p> <p>作品について、調べ、じっくりと分析的に読み、人の意見を聞きながら自分の考えを深めるということを通して、文学の魅力や読むことの面白さを味わいましょう。</p>		
到達目標	<p>①近現代を代表する作家の作品について、深い理解を持っている</p> <p>②文学作品を分析するための基本的な手順を身につけ、用いることができる</p> <p>③文学作品について、自己の解釈を他者に向けて説得的に示すことができる</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方・発表者の割り当て</p> <p>第2回 発表の仕方について (1) 問題点の見つけ方</p> <p>第3回 発表の仕方について (2) 資料の探し方</p> <p>第4回 発表の仕方について (3) レジュメの作り方</p> <p>第5回 発表・意見交換・意見文作成 夏目漱石</p> <p>第6回 発表・意見交換・意見文作成 森鷗外</p> <p>第7回 発表・意見交換・意見文作成 内田百閒</p> <p>第8回 発表・意見交換・意見文作成 芥川龍之介</p> <p>第9回 発表・意見交換・意見文作成 志賀直哉</p> <p>第10回 発表・意見交換・意見文作成 井伏鱒二</p> <p>第11回 発表・意見交換・意見文作成 太宰治</p> <p>第12回 発表・意見交換・意見文作成 遠藤周作</p> <p>第13回 発表・意見交換・意見文作成 向田邦子</p> <p>第14回 発表・意見交換・意見文作成 鷲沢萌</p> <p>第15回 発表・意見交換・意見文作成 角田光代</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 40%</p> <p>発表およびレジュメ 30%</p> <p>授業内での意見文 30%</p>		
失格条件	<p>6回以上の欠席</p> <p>割り当てられた発表を行わなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>発表者は、1週間前にレジュメを提出してください。発表が当たっていない回では、必ず事前に作品を読んで配布するコメントシートに記入し、意見を言えるようにしておくこと（予習時間 2時間）。また授業後は、自身の発表に備えて、他の発表者のレジュメなどを見直すようにしましょう（復習時間 2時間）。</p>		
課題へのフィード バック	<p>・予習用のコメントシートについては、それを元に全員で意見交換を行います。</p> <p>・授業中に作成する意見文については、必要に応じて次の授業で全体に向けてコメントします。</p>		
教科書	各自、授業で扱う作品を用意してください（初回の授業で案内します）。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介します。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL405B03	期間	前期
授業科目名	漢文学講読 A		
英訳科目名	Readings in Chinese Letters A		
担当教員名	北山 円正		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	漢文学は、日本文化を理解する上で不可欠な学問です。日本の歴史における中国文化受容の足跡や、現在の日本を知ることにも繋がります。授業では漢文読解のための基礎学力習得を第一目標とします。身近にある格言や故事成語などを読んで、読み方の基礎を学びながら、漢文に慣れるようにつとめます。さらに、格言・故事成語などの背後にある歴史や思想にも触れるつもりです。また、古来日本人が愛好し、多くの人が教養として身に付けていた唐の時代の漢詩を読み、その魅力を伝えます。		
到達目標	漢文訓読の基礎を習得する。漢詩の基礎知識を習得する。漢文訓読語に親しむ。歴史的仮名遣になれる。		
授業計画	第1回 漢文訓読の方法を説明 第2回 守株 第3回 蛇足 第4回 矛盾 第5回 虎の威を借る狐 第6回 五十歩百歩 第7回 塞翁が馬 第8回 漁夫の利 第9回 伯牙絶絃 第10回 刎頸の交わり 第11回 唐詩（李白） 第12回 唐詩（王翰・孟浩然） 第13回 唐詩（杜甫） 第14回 唐詩（韓愈） 第15回 唐詩（白居易）		
評価方法 (合計100%)	試験 90% 小テスト・課題 10%		
失格条件	授業回数の3分の1以上を欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	事前に配付する資料は必ず読んでおくこと。 紹介する本は読むこと。 一つの教材を読み終えたら、その箇所の書き下し文が書けるかどうか自分で確認すること。(予習時間 2時間・復習時間 2時間)		
課題へのフィードバック	1、授業中に行った小テストを返却する際に、テストの要点やねらいについて解説します。 2、提出された課題について、返却時に改善点等について解説します。		
教科書	授業中に配布する資料を教科書として使用する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL405B04	期間	前期
授業科目名	漢文学講読B		
英訳科目名	Readings in Chinese Letters B		
担当教員名	中村 圭爾		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>漢文学は古代以来の日本文化の重要な要素のひとつですが、それは古代中国文化からはじまって、東アジアに広がった漢字文化圏の象徴ともいえます。漢文学を学ぶことは、日本文化を学ぶことにとどまらず、広くアジア文化の理解にもつながるものといえます。</p> <p>この授業では、はじめに漢文という文章を読むための方法である「訓読」について復習をし、その後で日本の奈良・平安時代に文章のお手本としてもっともたっとばれた『文選』という中国古代中世の名文集から、いくつかの文章をえらんで、その全部または一部分を読みます。少し難しい文章ですが、挑戦してみましょう。</p> <p>授業では、毎回、できるだけ多くの受講生に「訓読」してもらい、その状況を成績の参考にします。</p> <p>(漢文学は古典漢語が対象です。漢語の現代文を読む授業ではありませんので、留学生は注意して下さい。)</p>		
到達目標	簡単な漢文を、訓読することができるようになる。古代中世時代の知識人の考え方や感覚を理解することができるようになる。		
授業計画	<p>第1回 漢文訓読の基礎の確認</p> <p>第2回 漢文訓読の練習 (詩)</p> <p>第3回 曹操の短歌行他</p> <p>第4回 阮籍の詠懐詩他</p> <p>第5回 陶淵明の詩</p> <p>第6回 古詩十九首から I</p> <p>第7回 古詩十九首から II</p> <p>第8回 漢文訓読の練習 (散文)</p> <p>第9回 諸葛亮出師表 I</p> <p>第10回 諸葛亮出師表 II</p> <p>第11回 諸葛亮出師表 III</p> <p>第12回 司馬遷報任少卿書 I</p> <p>第13回 司馬遷報任少卿書 II</p> <p>第14回 司馬遷報任少卿書 III</p> <p>第15回 授業のまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回の予習と復習および授業中の積極的な取組姿勢 (テキストへの書き込み、「訓読」の状況等) を評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中の「訓読」への姿勢や状況 30% ・ 授業への参加態度 (授業資料への書き込みを毎回点検します) 30% ・ 授業の予習である文章の用語調べの取り組み方の評価 20% ・ 復習である各時間に読んだ文章内容についてのまとめの評価 20%とします。 		
失格条件	5回以上の欠席 (6回欠席で失格です)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習として、毎回の授業で読む文章中の難しい用語 (担当者が指示します) について、授業前に漢和辞典を引いてその意味を書き取っておくようにします (約2時間)。</p> <p>復習として、毎回授業で読んだ文章の内容を簡単にまとめ、これに感想文をつけて、約100字の文章を作成することにします (約2時間)。</p>		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、配布するテキストに各自が授業内容等をメモすることとし、それを添削して、次回授業で返却します。 ・ 各作品の文章のまとめや感想については、コメントをつけて適宜返却します。 		
教科書	不使用。担当者が作成した授業資料をテキストにします。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介します。		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL402B04	期間	後期
授業科目名	日本美術史		
英訳科目名	History of Japanese Art		
担当教員名	高志 緑		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	本講義では、日本の仏教絵画史を中心に、美術作品を鑑賞するための知識を学びます。仏教美術は主題が難解でよくわからない、親しみが持ちにくいという印象を持たれがちですが、各時代の英知を結集して作られた作品からは、当時の思想や技術などさまざまなことが読み取れます。講義では古代から中世にかけての日本の仏教絵画を中心に扱いますが、作品の理解を深めるために、彫刻や工芸、中国の美術も併せて紹介し、作品の文化的背景にも触れる予定です。講義にはPower Pointを用いて、作品図版を豊富に紹介します。		
到達目標	日本美術史の知識を得て、より自由で豊かな作品鑑賞と解釈ができること。		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 仏教美術の基礎知識 第3回 東アジア絵画史と仏教美術（価値観と表現技術） 第4回 東アジア絵画史と仏教美術（線描と彩色の変化） 第5回 仏伝の美術 第6回 古代の仏教美術 第7回 仏涅槃図 第8回 空海将来図像と密教絵画 第9回 阿弥陀信仰の美術 第10回 地獄絵と閻魔像 第11回 絵師と絵仏師 第12回 仏教儀礼と絵画 第13回 祖師像と肖像画 第14回 予備日 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度30% 小レポート20% 試験50%		
失格条件	（下記のいずれかに該当すれば失格となる） 1.出席回数が3分の2以上に満たない場合 2.試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	美術館・博物館・寺社等に積極的に足を運び、実作品にできるだけ多く触れてください。 展覧会情報は、授業中に紹介します。（予習時間 1時間・復習時間 3時間）		
課題へのフィード バック	授業中に生じた質問や意見に対して、個別または全体に向けてコメントします。 試験終了後や小レポートの提出後に、全体に向けてコメントします。		
教科書	教科書は使用せず、適宜講義プリントを配布。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に指示します。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL405A01	期間	前期
授業科目名	国語表現法		
英訳科目名	Japanese Expressions		
担当教員名	野田 直恵		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>本科目では、テキストの問題を解くことにより、円滑なコミュニケーションを行うために必要な力（相手が伝えようとしていることを的確に読み取る力・自分が伝えようとしていることを的確に表現する力）をさらに高め、ゆけるような地力の獲得を目指します。</p> <p>授業は、新しい単元の解説→演習というかたちで進めます。なお、課題回収や小テストは、原則として授業のはじめに行います。</p> <p>意欲的な取り組みを通じて、社会人として求められる日本語の表記・表現についての知識を深め、論理的に文章を組み立てるための力を養いましょう。</p>		
到達目標	日本語の表記・表現能力を高め、社会人として求められる文章力を身につける。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス ・ 第1課 漢字習得の近道 第2回 第26課 待遇表現① ・ 第2課 同音異義語 第3回 第27課 待遇表現② ・ 第3課 同訓異義語 第4回 第16課 手紙と葉書① ・ 第4課 音訓と熟語 第5回 第17課 手紙と葉書② ・ 第5課 熟語の構造 第6回 第21課 ビジネス文書 ・ 第6課 四字熟語 第7回 第22課 案内状 ・ 第7課 仮名遣いと送り仮名 第8回 第8課 文のしくみ ・ 第14課 慣用表現の誤用 第9回 第9課 文章構成 ・ 第10課 文章の要約 ・ 第11課 アイデアの開発 第10回 第13課 レトリック ・ 第25課 広告のキャッチコピー ・ 第15課 原稿用紙の使い方 第11回 第23課 レポート・小論文 ・ 第24課 論説文と批評文 ・ 第12課 ディベート 第12回 第18課 日誌 ・ 第19課 履歴書 ・ 第20課 エントリーシート 第13回 第28課 接客・電話の応対 第14回 第29課 プレゼンテーション ・ 第30課 面接の作戦・自己アピール 第15回 まとめ （第1～第30課はテキストの目次番号を示しています。）</p>		
評価方法 (合計100%)	平常点（授業への参加態度・授業内提出物） 50% 小テスト・課題 50%		
失格条件	原則として6回以上欠席した場合 1回でも不正行為（カンニングなど）とみなされる行為を行った場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>テキストは必ず持参してください（忘れた場合は、授業開始時までに必要な箇所をコピーし、代用してください。コピーの準備もない場合は、授業参加意欲に欠けるものと見なして減点します）。</p> <p>小テストは原則として、事前に指定した範囲から出題します（テキストによる自主学習に必要な解答は、授業時に配付します）。少なくとも5回以上行うことを予定していますので、十分に準備して臨み、間違えた箇所は確実に修正するようにしてください（予習2時間・復習2時間）。</p> <p>授業時には、なるべく辞書類（電子辞書でも可）を持参するようにしてください。</p>		
課題へのフィードバック	提出者全体に対する講評を行い、必要に応じて個人に対する講評も行います。		
教科書	キャリアアップ 国語表現法 18訂版		
著者名	丸山顯徳 編著		
出版社	嵯峨野書院		
参考書			
その他	状況によっては事前連絡のうえ、授業内容を前後させる場合があります。小テストに代わるものとして小レポート課題を出す場合もあります。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL403A01	期間	後期
授業科目名	ことばと文化		
英訳科目名	Language and Culture		
担当教員名	千葉 真也		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	言葉は、長い時間の中でさまざまな変容を遂げてきた。社会のあり方が変われば言葉も変わり、異質の文化との接触によっても言葉は変わる。中国や西洋の文化との接触による日本語の変化の跡を文学作品や種々の辞書を手がかりにして探求する。また、西洋や日本の文化と近代の中国語の関わりを考察する。		
到達目標	中国や西洋の文化と日本語の関わりを分かりやすく説明できる。 中国の近代文化と日本語の関わりをわかりやすく説明できる。 言葉について問題を発見し、調べたり考えたりすることができる。 言葉についての生の資料を解説し、問題点を見つけることができる		
授業計画	第1回 はじめに 第2回 中国の文化と日本語①『古事記』・『万葉集』 第3回 中国の文化と日本語②漢文訓読と日本語 第4回 中国の文化と日本語③『和名類聚抄』・『類聚名義抄』・『色葉字類抄』 第5回 中国の文化と日本語④近世文学と中国語（秋成・蕪村） 第6回 日本文化と中国語①概要 第7回 日本文化と中国語②『現代漢語外来詞研究』『漢語外来詞詞典』 第8回 日本文化と中国語③中国語における外来語の変化 第9回 西洋の文化と日本語①キリシタンと日本語（日葡辞書） 第10回 西洋の文化と日本語②日仏辞書と和英語林集成 第11回 西洋の文化と日本語③和英語林集成初版・第2版・第3版 第12回 西洋の文化と日本語④幕末・明治初期における日本語の変化（所収語彙の変化） 第13回 西洋の文化と日本語⑤幕末・明治初期における日本語の変化（英和の部の訳語の変化） 第14回 日本文化と中国語 補足 日本語・中国語と西洋文明 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 大きなレポート 25% 復習レポート 25% テスト 20%		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	多くの受講者にとって資料名や人名は初めて目にするものが多いと思います。授業の内容をある程度理解すれば、自分で問題を発見することも可能になってくるでしょう。 復習 原則として毎回、基礎的事項の理解と授業内容の応用に関する復習レポートを提出してもらいます。（4時間）。		
課題へのフィードバック	復習レポートは受領した後、評価をつけて授業中に返却します。 休業期間を利用した大きなレポートとテストについては全体に向けたコメントをポータルサイトに掲示します。		
教科書	プリントを使用する。		
著者名			
出版社			
参考書	山田孝雄『漢文の訓読によりて伝へられたる語法』 伊藤東涯『操觚字訣(そうこじけつ)』 荻生徂徠『訳文筌蹄(やくぶんせんてい)』 『邦訳日葡辞書(ほうやくにつぼじしょ)』 ヘボン『和英語林集成(わえいごりんしゅうせい)』（初版、第三版） パジェス『日仏辞書』		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL409C01	期間	後期
授業科目名	日本語プレゼンテーション		
英訳科目名	Japanese Language Presentations		
担当教員名	安井 寿枝		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>大学では、口頭発表などの機会がたくさんあります。大学を卒業すればそんな機会はないと思うのは大きな過ちで、口頭発表を「意見を述べる」に置き換えれば、生活の中には、意見を述べる場がさまざまあるものです。そこで本講義では、日常のさまざまな場面で使われる日本語の表現を紹介しします。まずは、自身の意見を効果的に述べるための語彙力を増やしましょう。</p> <p>次に、発言することに抵抗感をなくす練習をしましょう。そのために、講義は演習を中心に行い、必ず全員が発言する形にします。また、受講生の前に出て発表する機会も設けます。発表では、1分間自己紹介、ビブリオバトル、商品紹介などを行ってもらい、発表の様子をスマートフォンを使用して撮影します。撮影された自身の発表を見ることで、客観的に自身を評価し、次の発表に活かしましょう。総括では、全員に「私の主張」として意見を述べ、多くの人の共感を得ることを目的に発表を行ってもらいます。</p> <p>プレゼンテーションがうまくなる一番のコツは、度胸をつけること。本講義で、前に立って話すことに慣れていきましょう。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で堂々と発表できるようになること。 ・ジェスチャーやアイコンタクトなどを駆使して、効果的な発表ができるようになること。 ・滞りなく、抑揚をつけて、音読できるようになること。 ・共通語アクセントで、音読できるようになること。 ・語彙を増やし、さまざまな日本語の表現を的確に使うことができるようになること。 		
授業計画	<p>第1回 ガイドンスーププレゼンテーションとはー</p> <p>第2回 1分間自己紹介</p> <p>第3回 同訓異義語・同音異義語</p> <p>第4回 熟語の読み</p> <p>第5回 四字熟語</p> <p>第6回 慣用句・故事成語</p> <p>第7回 ことわざ</p> <p>第8回 待遇表現</p> <p>第9回 手紙・はがきの形式</p> <p>第10回 慶事の表現</p> <p>第11回 レポート</p> <p>第12回 レジュメと読み原稿</p> <p>第13回 ブレーンストーミング</p> <p>第14回 私の主張</p> <p>第15回 ディベート</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度50% 発表50%		
失格条件	5回以上欠席した者、指定された発表を行わなかった者は失格とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容について、調べること。(予習時間 1時間) ・発表の原稿を作成すること。(予習時間 1時間) ・声に出して、発表の練習をすること。(予習時間 1時間) ・適切な資料を準備すること。(予習時間 2時間) 		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・発表毎に、「良かった点」「改善すべき点」を個別に伝えます。 ・発表について、上位3名を受講者の投票により決定し、講義内で公表します。 ・課題プリントは、コメントを付して、講義内で返却し、全体に向けて解説を行います。 		
教科書	不使用		
著者名	なし		
出版社	なし		
参考書	特になし		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL408C01	期間	前期
授業科目名	日本語教授法		
英訳科目名	Teaching of Japanese Language		
担当教員名	嶋本 圭子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> △	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	私たちが普段何気なく話している日本語、これを日本語学習者（主に外国人）の目から見た「外国語」としてとらえると、実に様々な発見があります。この授業では、日本語を日本語学習者に教える際に、必要な基本的事柄を、文法や語彙を中心に学びます。		
到達目標	日本語を「外国語」としてみる目を養い、その文法や語彙を、日本語学習者がわかるように日本語で説明することができるようになる。		
授業計画	第1回 「外国語」として日本語を見る 第2回 日本語のアクセント 第3回 動詞のグループ分け 第4回 「て形」とは？ 第5回 動詞のまとめ 第6回 「～ている」「～てみる」「～である」どう違う？ 第7回 形容詞 第8回 オノマトベ「きりぎり」「がんがん」「ひりひり」どこがどう痛い？ 第9回 「寝る」と「眠る」どこが同じでどこが違う？ 第10回 「気持ちが悪い」と「気分が悪い」使い分けは？ 第11回 「海で泳ぐ」と「海を泳ぐ」助詞の違いでどう変わる？ 第12回 「5時まで」と「5時までに」違いをどう説明する？ 第13回 「りさんはわたしにおみやげをあげました」この間違い、どう直す？ 第14回 理論に基づいた教授法を体験しよう 第15回 内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	出席状況、授業内活動の参加度や授業態度、提出物、試験により総合的に評価する。 出席・授業参加態度 30% 試験 40% 提出物 30%		
失格条件	・出席が全授業数の3分の2に満たない場合 ・学期末試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	例えば、「5時まで」と「5時までに」この違いを日本語学習者に聞かれたら、すぐに説明できますか。もしできないとしても、私たちは普段、きちんと使い分けしているはずですが。無意識に使っていることばや文法を日本語学習者に説明できるように考える、それを授業の中の話し合いを通して行います。この授業を受ける人は、授業内の活動に積極的に参加すること、そしてその活動を通して自分が何を学び、どのような経験をしたのか振り返って考えることをしてほしいと思っています。(予習時間 1時間・復習時間 3時間)		
課題へのフィードバック	・グループ活動の際には各グループを回り、課題に対してグループが出した答えに対し、コメントやフィードバックをします。 ・毎回、授業の終わりにリフレクションシートの記入があります。次の授業時にコメントをつけて返却します。		
教科書	プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業内で適宜紹介する。		
その他	この授業では、母語として日本語を使用する日本人の目、第2言語として日本語を学ぶ留学生の目、どちらも重要です。そのため、日本人と留学生のグループ活動が中心となります。また、履修者の人数や進度によって、シラバスは変更する場合があります。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL401B04	期間	後期
授業科目名	漢文学		
英訳科目名	Chinese Classics		
担当教員名	北山 円正		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	漢文学つまり中国文学・中国文化は、豊かな表現・発想を生み出してきました。その表現・発想等は、日本文化にも大きい影響を与えており、現代の我々にも根付いているものが多くあります。授業では、中国・日本にわたる、さまざまな花や木々に関する漢詩・漢文を取り上げて読み、そこから見える、人々の考え方や心のうちをうかがってみたいと思います。		
到達目標	漢文訓読の基礎を習得する。漢詩の基礎知識を習得する。漢文訓読語に親しむ。歴史的仮名遣に慣れる。		
授業計画	第1回 漢文訓読の基礎について解説 第2回 桃の漢詩文（1） 第3回 桃の漢詩文（2） 第4回 桃の漢詩文（3） 第5回 菊の漢詩文（1） 第6回 菊の漢詩文（2） 第7回 菊の漢詩文（3） 第8回 菊の漢詩文（1） 第9回 松の漢詩文（2） 第10回 松の漢詩文（3） 第11回 松の漢詩文（1） 第12回 松の漢詩文（2） 第13回 梅の漢詩文（3） 第14回 梅の漢詩文（1） 第15回 梅の漢詩文（2）		
評価方法 (合計100%)	試験 90% 小テスト・課題 10%		
失格条件	授業回数の3分の1以上を欠席した場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	事前に配布する資料は必ず読んでおくこと。 紹介する参考書は読むこと。 一つの教材を読み終えたら、その箇所の書き下し文が書けるかどうか自分で確認すること。(予習時間 2時間・復習時間 2時間)		
課題へのフィードバック	1、授業中に行った小テストを返却する際に、テストの要点やねらいについて解説します。 2、提出された課題について、返却時に改善点等について解説します。		
教科書	授業中に配付する資料を教科書として使用する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL402B05	期間	前期
授業科目名	漢文学史A		
英訳科目名	History of Chinese Classics A		
担当教員名	福田 知可志		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>昨年に引き続き、中国の古典小説の歴史を概観する。 本年も古代中国の神話・伝承を取り上げてゆく。 前期は古代の地理書である『山海経』を読む。 受講者は漢文の基礎的知識を有することが望ましいが、 初学者のため返り点の練習などを行う予定である。</p>		
到達目標	<p>中国の神話や伝承の特徴を理解する。 漢文の基礎知識（返り点・構文・虚字の用法）を身に付ける。</p>		
授業計画	<p>第1回 中国古典小説の特徴 第2回 中国における神話の概説 第3回 山海経読解1（東山経1） 第4回 山海経読解2（東山経2） 第5回 山海経読解3（東山経3） 第6回 山海経読解4（東山経4） 第7回 山海経読解5（東山経5） 第8回 山海経読解6（中山経1） 第9回 山海経読解7（中山経2） 第10回 山海経読解8（中山経3） 第11回 山海経読解9（中山経4） 第12回 山海経読解10（中山経5） 第13回 山海経読解11（中山経6） 第14回 山海経読解12（中山経7） 第15回 内容理解の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>期末試験70% 授業への参加態度（提出物の評価）30%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席（6回以上欠席）・提出物を3分の1以上未提出・期末試験を受験しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>毎時配付する文章の予習をしておくこと。（予習時間 2時間 授業中に指名して解答を求める） 授業で解説した説明を踏まえて、次回に提出する課題を作成すること。（復習時間 2時間） 漢文既習者は、高校時代に使用した教科書や参考書、漢和辞典（例：『新字源』）を用意すること。 初学者は初回・第二回で配布予定の読解のマニュアルを参考にし、漢和辞典を用意すること。 受講後は自分の解釈の誤りがあれば訂正し、疑問があれば次講時に教師に確認すること。</p>		
課題へのフィード バック	<p>・毎回提出してもらったプリントは、次回授業時に採点ののち返却する。 ・また返却時に誤りの多かった箇所は、適宜ピックアップして、全体で復習する。 ・最終試験については、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントする。</p>		
教科書	授業中に作成した資料を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	<p>小川環樹・西田太郎『漢文入門』（岩波書店、一九五七年） 袁珂著・鈴木博訳『中国の神話伝説』（上・下）（青土社、一九九三年） 魯迅著・中島長文訳注『中国小説史略』（平凡社、一九九七年）</p>		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL402B06	期間	後期
授業科目名	漢文学史B		
英訳科目名	History of Chinese Classics B		
担当教員名	福田 知可志		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>前期に引き続き、中国古代の地理書である『山海経』を読む。 各地の山の紹介とともに、まつわる神や怪物の伝承を味わって欲しい。 西洋や日本の神話伝承との比較も適宜行う予定である。 受講者は漢文の基礎的知識を有することが望ましいが、 初学者のため返り点の練習などを随時行う予定である。</p>		
到達目標	<p>中国古代の神話の特徴を理解する。 漢文の基礎知識（返り点・構文・虚字の用法）を身に付ける。</p>		
授業計画	<p>第1回 中国古典小説の特徴 第2回 中国における神話の概説 第3回 山海経読解1（中山経8） 第4回 山海経読解2（中山経9） 第5回 山海経読解3（中山経10） 第6回 山海経読解4（中山経11） 第7回 山海経読解5（中山経12） 第8回 山海経読解6（中山経13） 第9回 山海経読解7（中山経14） 第10回 山海経読解8（中山経15） 第11回 山海経読解9（中山経16） 第12回 山海経読解10（海外南経1） 第13回 山海経読解11（海外南経2） 第14回 山海経読解12（海外南経3） 第15回 内容理解の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>期末試験70% 授業への参加態度（提出物の評価）30%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席（6回以上欠席）・提出物を3分の1以上未提出・期末試験を受験しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>毎時配付する文章の予習をしておくこと。（予習時間 2時間 授業中に指名して解答を求める） 授業の解説を踏まえて、次回に提出する課題を作成すること。（復習時間 2時間） 漢文既習者は、高校時代に使用した教科書や参考書、漢和辞典（例：『新字源』）を用意すること。 初学者は初回・第二回で配布予定の読解のマニュアルを参考にし、漢和辞典を用意すること。 受講後は自分の解釈の誤りがあれば訂正し、疑問があれば次講時に教師に確認すること。</p>		
課題へのフィード バック	<p>・毎回提出してもらうプリントは、次回授業時に採点ののち返却する。 ・また返却時に誤りの多かった箇所は、適宜ピックアップして、全体で復習する。 ・最終試験については、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントする。</p>		
教科書	授業中に作成した資料を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	<p>小川環樹・西田太郎『漢文入門』（岩波書店、一九五七年） 袁珂著・鈴木博訳『中国の神話伝説』（上・下）（青土社、一九九三年） 魯迅著・中島長文訳注『中国小説史略』（平凡社、一九九七年）</p>		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL409B01	期間	前期
授業科目名	書道 A		
英訳科目名	Japanese Calligraphy A		
担当教員名	増田 達治		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> △	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校及び中学校国語科の中に位置づけられている「書写」について、各学年の目標及び内容を理解するとともに、楷書・行書・仮名の特長をよく理解しながら、その書法の習得を目指す。 ・ 具体的な教材を実際に演習しながら漢字と仮名の調和をはかる書き方や日常生活に活用できる書写能力を養い、実践的な指導力を身に付ける。 ・ 徹底した臨書、実技演習を通して書技を高める。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校・中学校の「書写」の目標及び内容・方法について理解できる。 ・ 毛筆及び硬筆の演習を通して文字感覚を養い、書写能力を高めることができる。 ・ 漢字(楷書と行書)と仮名の基本点画を学び、様々な漢字(楷書と行書)と仮名の筆使いと形の取り方を身に付けることができる。 ・ 漢字と仮名の読みやすく調和のとれた書き方を習得することができる。 ・ 用筆法と結構法の両面から学び、文字の点画を正しく美しく組み立てることに重点を置くことにより書写としての基本的な技術を身に付けることができる。 ・ 日常生活や授業等で活用できる実践力を身に付けることができる。 		
授業計画	<p>第1回 小学校及び中学校の「書写」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書の知識、書写・書道教育の変遷、現行指導要領における国語科「書写」(書写に関する事項・内容の取扱い)について ・ 文字と書道の基本について — 文字の成立、書体の変遷、筆順等 ・ ガイダンス、筆・墨・紙等、書道の用具について ・ 半紙に筆と墨で自分の名前を書く <p>第2回 毛筆書道の基本について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 執筆の望ましい姿勢(構え)と筆の持ち方、含墨について ・ 筆の性能(弾力)を知る ・ 基本点画の書き方 — 永字八法等 <p>第3回 楷書を古典に学ぶ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の課題を書く「大志」「新風」 ・ 唐 欧陽詢「九成宮醴泉銘」の用筆法? <p>第4回 楷書を古典に学ぶ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆の性能(弾力)を体得するために隷書の基本点画を通して逆筆を学ぶ ・ 唐 欧陽詢「九成宮醴泉銘」の用筆法? <p>第5回 楷書を古典に学ぶ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 唐 欧陽詢「九成宮醴泉銘」の用筆法?と結構法? <p>第6回 楷書を古典に学ぶ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 唐 欧陽詢「九成宮醴泉銘」の結構法? <p>第7回 楷書を古典に学ぶ⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 唐 欧陽詢「九成宮醴泉銘」の結構法? <p>第8回 仮名を学ぶ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楷書に調和する仮名の用筆と形 <p>第9回 行書を古典に学ぶ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行書の基本的な書き方=行書の筆脈と動きのパターン ・ 東晋 王羲之「蘭亭序」の用筆法? ・ 作品ファイルの提出(第1回から第8回までの全ての作品) <p>第10回 行書を古典に学ぶ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 点画の変化(右払いの変化、縦画の変化、点の変化) ・ 点画の連続(横画からの連続、点からの連続、折れから横画への直接連続) ・ 点画の省略(点の省略) ・ 東晋 王羲之「蘭亭序」の用筆法? <p>第11回 行書を古典に学ぶ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東晋 王羲之「蘭亭序」の用筆法?と結構法? <p>第12回 行書を古典に学ぶ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東晋 王羲之「蘭亭序」の結構法? <p>第13回 行書を古典に学ぶ⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東晋 王羲之「蘭亭序」の結構法? <p>第14回 仮名を学ぶ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行書に調和する仮名の用筆と形 ・ 消しゴム印の制作(フェルトペン・カッターナイフを持参すること) ・ 作品ファイルの提出(第9回から第14回までの全ての作品) <p>第15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物等、目的・用途に応じた様々な筆記具、様々な書式による書写(鉛筆・ボールペン・筆ペン・フェルトペン・色マジック等)について ・ 葉書、手紙などの実用的な書写(筆ペン・ボールペン)、葉書と封筒、便箋の使い方などについて ・ 身の回りの書、街中の書・文字について ・ 板書の仕方について ・ 自分の名前を半紙に書く(楷書と行書) ・ 作品の制作(自分の好きな言葉を書く)…額、その他必要に応じて色紙、絵の具等を用意すること 		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	40%	
	提出作品の出来栄	60%	
失格条件	全授業のうち、1/3以上欠席の場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で学習した毛筆や硬筆の教材をもとに家庭等で繰り返し実技練習し、書き方の基礎・基本を確実に習得するよう努めると(復習時間 4時間=180分)。できれば30分ずつでもいいから毎日実技練習をすることが望ましい。		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間の実技、実習の取り組みやその作品に対してその都度、全体にそしてまた個別に指導助言・コメントを与えます。 ・ 作品ファイルの返却時に、全体に対する講評と個別へのコメントを与えます。 		
教科書	中学校国語科(書写)用 教科書 「新編 新しい書写 一・二・三」		
著者名			
出版社	東京書籍		
参考書	書の古典と理論(全国大学書道学会 編・光村図書)		
その他	初回授業時に書道の道具(筆・墨・紙等)について説明するので、購入の上、教科書と共にその都度授業に必要な道具類を持参すること。 また、配布した資料及び授業中に書いた作品は、毎回必ずその全てをファイルに綴り、第9回と第14回の授業終了時に提出すること。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL409B02	期間	後期
授業科目名	書道 B		
英訳科目名	Japanese Calligraphy B		
担当教員名	増田 達治		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> △	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校国語科の中に位置づけられている「書写」について、各学年の目標及び内容を理解するとともに、楷書・行書・仮名の長所をよく理解しながら、その書法の習得を目指す。 ・具体的な教材を実際に演習しながら漢字と仮名の調和をはかる書き方や日常生活に活用できる書写能力を養い、実践的な指導力を身に付ける。 ・徹底した臨書、実技演習を通して書技を高める。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の「書写」の目標及び内容・方法について理解できる。 ・毛筆及び硬筆の演習を通して文字感覚を養い、書写能力を高めることができる。 ・漢字(楷書と行書)と仮名の基本点画を学び、様々な漢字(楷書と行書)と仮名の筆使いと形の取り方を身に付けることができる。 ・漢字と仮名の読みやすく調和のとれた書き方を習得することができる。 ・用筆法と結構法の両面から学び、文字の点画を正しく美しく組み立てることに重点を置くことにより書写としての基本的な技術を身に付けることができる。 ・日常生活や授業等で活用できる実践力を身に付けることができる。 		
授業計画	<p>第1回 中学校の「書写」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領における国語科「書写」(書写に関する事項・内容の取扱い)について ・書の知識、書写・書道教育の変遷について ・文字(漢字・仮名)の基本について…文字の成立、書体の変遷、筆順等 <p>第2回 毛筆書道の基本について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆・墨・紙等、書道の用具・用材について ・執筆の望ましい姿勢(構え)と筆の持ち方、含墨について ・筆の性能(弾力)を知る <p>第3回 楷書を古典に学ぶ⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北魏「張猛龍碑」の用筆法? <p>第4回 楷書を古典に学ぶ⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆の性能(弾力)を体得するために隷書の基本点画を通して逆筆を学ぶ ・北魏「張猛龍碑」の用筆法? <p>第5回 楷書を古典に学ぶ⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北魏「張猛龍碑」の用筆法?と結構法? <p>第6回 楷書を古典に学ぶ⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北魏「張猛龍碑」の結構法? <p>第7回 楷書を古典に学ぶ⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北魏「張猛龍碑」の結構法? <p>第8回 仮名を学ぶ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楷書に調和する仮名の用筆と形 <p>第9回 行書を古典に学ぶ⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行書の基本的な書き方=行書の筆脈と動きのパターン ・東晋 王羲之「集字聖教序」の用筆法? 作品ファイルの提出(第1回から第8回までの全ての作品) <p>第10回 行書を古典に学ぶ⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点画の変化(右払いの変化、縦画の変化、点の変化) ・点画の連続(横画からの連続、点からの連続、折れから横画への直接連続) ・点画の省略(点の省略) ・東晋 王羲之「集字聖教序」の用筆法? <p>第11回 行書を古典に学ぶ⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東晋 王羲之「集字聖教序」の用筆法?と結構法? <p>第12回 行書を古典に学ぶ⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東晋 王羲之「集字聖教序」の結構法? <p>第13回 行書を古典に学ぶ⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東晋 王羲之「集字聖教序」の結構法? <p>第14回 仮名を学ぶ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行書に調和する仮名の用筆と形 消しゴム印の制作(フェルトペン・カッターナイフを持参のこと) 作品ファイルの提出(第9回から第14回までの全ての作品) <p>第15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揭示物等、目的・用途に応じた様々な筆記具、様々な書式による書写(鉛筆・ボールペン・筆ペン・フェルトペン・色マジック等)について ・葉書、手紙などの実用的な書写(筆ペン・ボールペン)、葉書と封筒、便箋の使い方などについて ・身の回りの書、街中の書・文字について ・板書の仕方について ・自分の名前を半紙に書く(楷書と行書) 作品制作(自分の好きな言葉を書く)…額、その他必要に応じて色紙、絵の具等を用意すること 		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	40%	
	提出作品の出来栄	60%	
失格条件	全授業のうち、1/3以上欠席の場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で学習した毛筆の教材をもとに家庭等で繰り返し実技練習し、書き方の基礎・基本を確実に習得できるよう努めること(復習時間 4時間=180分)。できれば30分ずつでもいいから毎日実技練習をすることが望ましい。		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の実技・実習の取り組みやその作品に対してその都度全体に、そしてまた個別に指導助言・コメントを与えます。 ・作品ファイルの返却時に、全体に対する講評と個別へのコメントを与えます。 		
教科書	中学校国語科(書写)用教科書 「新編 新しい書写 一・二・三」		
著者名			
出版社	東京書籍		
参考書	書の古典と理論(全国大学書道学会 編・光村図書)		
その他	教科書及び授業に必要な道具類を必ず持参すること。 配布した資料及び授業中に書いた作品は、毎回必ずその全てをファイルに綴り、第9回と第14回の授業終了時に提出すること。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL404C02	期間	前期
授業科目名	国語学演習B		
英訳科目名	Seminar in Japanese Linguistics B		
担当教員名	河野 光将		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	現在の日本語学は、近代以降の言語学の影響と近世期国学の影響の下に成立している。特に、いわゆる学校文法の成立にあたっては、国学者の一連の研究の影響が強い。本科目では、国学者の文法研究を取り上げ、現在の「学校文法」との比較を通じて、「文法」を相対的に捉えなおす。		
到達目標	古典文法について説明できるようになる。 日本語の文法について理解を深める。		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近世期の日本語研究概説（1） 第3回 近世期の日本語研究概説（2） 第4回 近世期の日本語研究概説（3） 第5回 受講者による発表・討議（1） 第6回 受講者による発表・討議（2） 第7回 受講者による発表・討議（3） 第8回 受講者による発表・討議（4） 第9回 受講者による発表・討議（5） 第10回 受講者による発表・討議（6） 第11回 受講者による発表・討議（7） 第12回 受講者による発表・討議（8） 第13回 受講者による発表・討議（9） 第14回 受講者による発表・討議（10） 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	発表（50%） 期末レポート（50%）		
失格条件	出席回数が3分の2に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習：口頭発表に向けた調査・考察を行う。あわせて、日本語学に関する書籍を適宜選び、読み進める。（120分） 復習：議論で指摘されたことがらに対する調査を行い、追加発表の準備を進める。発表者以外は、口頭発表に対するコメントを文章にまとめる。（120分）		
課題へのフィードバック	発表の内容・取り組みについて、全体に向けコメントを行います。		
教科書	教員が用意する。		
著者名			
出版社			
参考書	古田東朔・築島裕（1972）『国語学史』東京大学出版会		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL404B01	期間	後期
授業科目名	文学と芸能		
英訳科目名	Literature and Performing Arts		
担当教員名	浜畑 圭吾		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>芸能作品の多くは文学や伝説などを下敷きとしている。伝統芸能は敷居の高いイメージがあるが、テーマとなっているのは、「愛」や「情」といった、現代の私たちの感覚と同じものであることが多い。本講義では大阪の芸能として知られる人形浄瑠璃「文楽」をとりあげる。具体的には、英雄として名高い源義経を題材とした「義経千本桜」を鑑賞する。「義経千本桜」は三代名作などとされ、歌舞伎などでもたびたび上演されている。題材となった平安時代の歴史や文化とともに、文楽の演出なども学ぶ。講義では事前にあらすじを確認してから鑑賞する。</p>		
到達目標	<p>文楽の鑑賞を通して日本の伝統芸能への理解を深める。到達目標は次の通り。</p> <p>①題材となった時代の風習文化を理解することができる。</p> <p>②各回のテーマを理解することができる。</p> <p>③文楽の演出について理解することができる。</p> <p>④大阪が生んだ伝統芸能についての理解を深める。</p>		
授業計画	<p>第1回 ガイダンスー講義の進め方、文楽入門、源義経についてー</p> <p>第2回 文楽「義経千本桜」鑑賞①ー大序 仙洞御所の段ー</p> <p>第3回 文楽「義経千本桜」鑑賞②ー北嵯峨の段ー</p> <p>第4回 文楽「義経千本桜」鑑賞③ー堀川御所の段 1ー</p> <p>第5回 文楽「義経千本桜」鑑賞④ー堀川御所の段 2ー</p> <p>第6回 文楽「義経千本桜」鑑賞⑤ー伏見稲荷の段ー</p> <p>第7回 文楽「義経千本桜」鑑賞⑥ー渡海屋・大物浦の段 1ー</p> <p>第8回 文楽「義経千本桜」鑑賞⑦ー渡海屋・大物浦の段 2ー</p> <p>第9回 文楽「義経千本桜」鑑賞⑧ー渡海屋・大物浦の段 3ー</p> <p>第10回 文楽「義経千本桜」鑑賞⑨ー椎の木の段ー</p> <p>第11回 文楽「義経千本桜」鑑賞⑩ー小金吾討死の段ー</p> <p>第12回 文楽「義経千本桜」鑑賞⑪ーすしやの段 1ー</p> <p>第13回 文楽「義経千本桜」鑑賞⑫ーすしやの段 2ー</p> <p>第14回 文楽「義経千本桜」鑑賞⑬ーすしやの段 3ー</p> <p>第15回 文楽「義経千本桜」鑑賞⑭ー河連法眼館奥庭の段ー</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>毎回のリアクションペーパーおよび受講態度 (50%)</p> <p>期末レポート (50%)</p>		
失格条件	<p>1、6回以上の欠席</p> <p>2、期末レポートの未提出</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・講義中に紹介する参考文献を次回講義までに読んでおくこと。(予習時間1時間)</p> <p>・講義終了時に出す課題についてレポートを作成すること(復習時間3時間)</p>		
課題へのフィード バック	<p>・講義中に紹介した文献については次回、解説する。</p> <p>・最終レポートについてはポータルサイトを通じて全体に向けコメントする。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	私語厳禁。文楽を楽しんで欲しい。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL404B02	期間	前期
授業科目名	日本文学と仏教		
英訳科目名	Japanese Literature and Buddhism		
担当教員名	浜畑 圭吾		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	『方丈記』の著者として知られる鴨長明は、『発心集』という仏教説話集もまとめている。「発心」を得て、仏道修行に励んだ人々の記録である。本講義ではそのうち、巻1と巻2を読む。毎回いくつかの説話をとりあげ、表現やテーマからその背景や魅力について考える。また説話同士のつながりである「配列」にも注目し、巻1、巻2のまとまりについても考えをひろげてみる。そして初回に序文を読み、最終回に再び読むことで、より深い理解を目指す。「発心とはどのようなものか」「出家者はどうあるべきか」といった問題意識を持っていた長明の思想を学ぶ。		
到達目標	この授業は、『発心集』を通して日本文学と仏教との関わりについての理解を目指す。達成目標は次の通り。 ①『発心集』巻1、2の説話のテーマを理解することができる。 ②配列から『発心集』全体の構造を理解することができる。 ③日本文学と仏教がどのような関係にきたのかを理解することができる。		
授業計画	第1回 ガイダンスー講義の進め方、『発心集』序文を読むー 第2回 巻1を読む①「遁世とは」（玄敏僧都） 第3回 巻1を読む②「なぜ遁世するのか」（平等供奉と千観内供） 第4回 巻1を読む③「執着とは」（僧賀上人と南筑紫上人） 第5回 巻1を読む④「執着の恐ろしさ」（教懐上人と大江佐国、仏種房） 第6回 巻1を読む⑤「隠徳とは」（天王寺の聖と高野の上人） 第7回 巻1を読む⑥「世俗の名聞と出家の名聞」（藤原顕能） 第8回 巻2を読む①「出家はどのようにして生計をたてるのか」（安居院聖と永観律師） 第9回 巻2を読む②「本当の発心」（寂心と寂照、仙命） 第10回 巻2を読む③「往生の証拠」（楽西上人） 第11回 巻2を読む④「聖遺物の力」（相真と真浄房） 第12回 巻2を読む⑤「天狗になった僧侶」（前滝口助重と橘守助） 第13回 巻2を読む⑥「念仏と宿善」（念仏聖と老翁、善導） 第14回 『発心集』の時代 第15回 まとめー再び『発心集』の序文を読むー		
評価方法 (合計100%)	毎回のリアクションペーパーおよび受講態度（50%） 期末レポート（50%）		
失格条件	1、6回以上の欠席 2、期末レポートの未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・講義中に紹介する参考文献を次回講義までに読んでおくこと。（予習1時間 1時間） ・講義終了時に出す課題についてレポートを作成すること。（復習3時間）		
課題へのフィード バック	・講義時に紹介した参考文献については、次回講義時に解説する。 ・最終レポートについては、ポータルサイトを通じて全体に向けてコメントする。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	古文が苦手な人でも受講に問題はない。疑問点があればリアクションペーパーなどを活用して欲しい。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	JL404B03	期間	前期
授業科目名	映像と文学		
英訳科目名	Image and Literature		
担当教員名	諸岡 知徳		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	文学を読む時も、映画を観賞する時も、私たちは〈物語〉を楽しみます。〈物語〉は、文学の場合、文字を媒体として読者に伝えられますが、映画の場合は映像と音によって鑑賞者に伝えられます。本授業では、日本の近代文学作品で映画化されたものを取り上げます。文学作品と映像作品を比較し、内容や表現にどのような差異があるかを検討します。		
到達目標	本授業では、次の2点を目標とします。 ①言語表現と映像表現それぞれの特徴を理解することができる。 ②文学と映像の影響関係を考えることができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 小説「藪の中」精読 第3回 小説「藪の中」分析 第4回 小説「藪の中」解釈 第5回 映画「羅生門」鑑賞 第6回 映画「羅生門」解説 第7回 小説「藪の中」と映画「羅生門」の比較 第8回 宮沢賢治①精読 第9回 宮沢賢治②分析 第10回 宮沢賢治③解釈 第11回 宮沢賢治アニメーション①鑑賞 第12回 宮沢賢治アニメーション②解説 第13回 文字テキストとアニメーションの比較 第14回 まとめ 第15回 到達度の確認 ※授業の進捗状況により、講義内容を一部変更することもあります。		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（授業中の課題など） 65% 到達度（試験） 35%		
失格条件	6回以上の欠席 到達度の確認を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業で取り上げる作品を事前に読んでおいてください。（予習2時間） ・教員の説明はもちろんです。作品を読んだり、映画を鑑賞したりしている時にも気がついたことをメモしておき、授業中の課題やレポートの作成に備えましょう。（復習2時間）		
課題へのフィード バック	最終回、到達度の確認においてフィードバックを行う。		
教科書	授業中にプリントを配付します。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介します。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL403B01	期間	後期
授業科目名	浪速の文学		
英訳科目名	Naniwa (Traditional Osaka) Literature		
担当教員名	千葉 真也		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	浪速は江戸時代、経済的にも文化的にも全盛期を迎える。とくに元禄時代、井原西鶴や近松門左衛門の活躍はめざましいものがあった。江戸時代の文学における頂点と言える元禄時代の日本文学史は大阪を除いては考えられない。さらに江戸時代中期の上田秋成や与謝蕪村についても紹介し、代表的な作品を精読する。		
到達目標	西鶴や近松の作品のついて、正確な事実に基づいて自分自身の意見感想を述べるができる。 大阪についての歴史的な展望ができる。 身につけた知識をもとに、大阪の文化の現状に対して提案ができる。		
授業計画	第1回 浪速の文学概観 地理的な条件 第2回 浪速の文学概観 連歌と俳諧) 第3回 井原西鶴の生涯 第4回 西鶴の作品概観 第5回 西鶴精読『西鶴置き土産』 一の一前半 第6回 西鶴精読『西鶴置き土産』 一の一後半 第7回 人形浄瑠璃と大阪 第8回 近松門左衛門の生涯 第9回 近松世話物精読『曾根崎心中』 生玉の場 第10回 近松世話物精読『曾根崎心中』 天満屋の場 第11回 上田秋成の生涯 第12回 秋成精読『雨月物語』 「蛇性の姪」前半 第13回 秋成精読『雨月物語』 「蛇性の姪」後半 第14回 与謝蕪村『春風馬提曲』 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	30%	
	レポート	20%	
	確認テスト	20%	
	まとめのテスト	30%	
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習 次週講義する内容を毎回配布するので、語句や事項を調べて大要を理解できるようにしておくこと（予習時間 2時間） 復習 毎回、前の時間にとりあげた基本的な事項の確認テストを実施するので、確実に答えられるようにすること（復習時間 2時間）		
課題へのフィードバック	確認テストは実施後速やかに採点し、授業中に返却します。 まとめのテストとレポートは、全体に向けてのコメントをポータルサイトに掲示します。		
教科書	プリントを使用する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL407B01	期間	後期
授業科目名	文化資料論 A (日本文学)		
英訳科目名	Cultural Resources A (Japanese Literature)		
担当教員名	鈴木 徳男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	相愛大学の特殊文庫である「春曙文庫(しゅんしょぶんこ)」を例にして文献資料の書誌的な考察を試みる。古い時代の書物に触れながら、ながく受け継がれてきた古典の世界を知り、どのように文学作品が伝えられてきたか、将来に向けてこれらの文化財をいかに残していくかを考えてみよう。		
到達目標	書籍(本)についての様々な知見を習得できるとともに、自分が学んでいる相愛大学の伝統を知ることができる。		
授業計画	第1回 古典文学との出会い(高校の教科書など) 第2回 古典を読むとは(活字本、古典文学の叢書など) 第3回 「春は曙…」、『枕草子』とは、どのような作品か。 第4回 随筆について 第5回 『枕草子』の作者(具体的に作品を読む) 第6回 『枕草子』の成立(具体的に作品を読む) 第7回 春曙文庫の成立 第8回 春曙文庫の内容 第9回 春曙文庫見学 第10回 田中重太郎の学問(枕草子の文献学的研究、校本枕冊子など) 第11回 田中重太郎の学問(枕草子の注釈的研究) 第12回 日本の文献学についての基礎知識 第13回 書写・印刷と装丁ほか(書物の形態) 第14回 日本の文献学の課題 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 40% 試験 60%		
失格条件	授業6回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	貴重資料室の展示を実際に見学するために、段階的に予備知識を学ぶので授業への積極的な参加が必要。予習復習の基準時間は、予習2時間(90分)・復習2時間(90分)。		
課題へのフィード バック	授業終了時に理解度などを記述したカードに対して次回の授業開始時にコメントします。また課題提出後の授業で、全体に向けコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL407B02	期間	前期
授業科目名	文化資料論 B (日本文学)		
英訳科目名	Cultural Resources B (Japanese Literature)		
担当教員名	荒井 真理亜		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	近代文学の書誌的な考察を試みます。作家が書いた原稿は活字化され、雑誌や新聞に掲載されたり、さらに単行本に収められたりして、読者の手に渡ります。また、草稿や原稿などの自筆資料から、作家が作品を完成させるまでの試行錯誤の様子が見えてくることがあります。作品のあり方やその成立過程を知ることで、作家や作品に対する理解も深まっていくはずで、この授業では、資料を手がかりに、様々な角度から作家や作品について考えます。		
到達目標	本授業は、次の3点を目標とします。 ① 近代文学の資料を探ることができる。 ② 近代文学の資料を読み解くことができる。 ③ 近代文学の考察に資料を活かすことができる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション—書誌とは何か— 第2回 作品の成立過程 第3回 異同の調査と考察① 決定稿と草稿との比較 第4回 作品の発表方法 第5回 異同の調査と考察② 決定稿と初出との比較 第6回 素材の探索 第7回 異同の調査と考察③ 決定稿と素材との比較 第8回 自筆資料の読み方 第9回 自筆資料の解読① 原稿 第10回 注釈① 原稿 第11回 自筆資料の解読② 書簡 第12回 注釈② 書簡 第13回 同時代評と先行研究 第14回 授業のまとめ 第15回 到達度の確認 * 授業の進捗状況により、内容を一部変更することがあります。		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 (授業中の課題など) 50% 到達度 (試験) 50%		
失格条件	6回以上の欠席。 到達度の確認を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・ 授業で取り上げる作品を事前に読んでおきましょう。(予習2時間) ・ インターネットや図書館などを活用し、授業で紹介した文献資料を実際に探しましょう。(復習2時間)		
課題へのフィード バック	課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。		
教科書	授業中にプリントを配付します。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に紹介します。		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL408C02	期間	前期
授業科目名	日本文学研究法		
英訳科目名	Japanese Literature Research Methodology		
担当教員名	千葉 真也		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	日本文学を研究するためのもっとも基本的な事柄を一緒に考えていきたいと思います。 文学を読むことは誰にでも出来るはずですが、深く味わい、正確に理解するためには準備と努力が必要です。使わなくてはならない資料がいくつもあったり、一つの文章に多くの解釈があったりすることを知ると、最初のうちは元気をなくしてしまいます。しかし、それらを咀嚼してゆくことによって、ひとりの力では不可能な高みにたどり着くことができます。その手がかりを提供したいと思います。		
到達目標	研究対象を見つけることができる。 対象を理解するための的確な方法を考えることができる。 注釈書や辞書を使って資料に即した正確な解釈ができる。 必要な先行研究を探して理解することができる。		
授業計画	第1回 はじめに 第2回 文学研究の意味 第3回 研究対象の選択 第4回 研究の基本資料1 (本文・辞典・事典・講座等) 第5回 本文を読むこと 第6回 訓詁 (『万葉集』) 第7回 解釈 (『古今和歌集』) 第8回 近代の注釈 (『古今和歌集』) 第9回 前近代の注釈 (『古今和歌集』) 第10回 校異 (『徒然草』) 第11回 典拠 (『徒然草』) 第12回 異本 第13回 近代文学における本文 (初出本文) 第14回 近代文学における本文 (未定稿) 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度30% 復習レポート 35% テスト 35%		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習は、次回の授業のキーワードを調べて簡単な説明ができるようにすること。(1時間) 復習は、授業内容を要約し、授業で採り上げた問題について考察する復習レポートを作成すること(3時間)。		
課題へのフィード バック	復習レポートについては受け取った次回の授業で全体に向けて講評します。 また、レポート受領後、授業期間内のなるべく早い時期に評価をつけて返却します。 テストについては全体に向けた講評をポータルサイトに掲示します。		
教科書	プリントを使用する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	JL403B02	期間	前期
授業科目名	日本文化特殊講義（日本文学）		
英訳科目名	Special Topics in Japanese Culture（Japanese Literature）		
担当教員名	荒井 真理亜		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>【大阪の近代文学を読む】</p> <p>大阪は古くから経済や交通の要衝として栄え、独自の文化を育んできました。文学作品を読んでいると、私たちの知らない大阪の姿を発見することがあります。小説の中で大阪がどのように描かれているかを確認し、文学の風土としての大阪を考えます。</p> <p>また、国語の教員免許の取得を目指している受講生は、本授業を通して教材研究の視点を身につけてください。</p>		
到達目標	<p>本授業は、次の3点を目標とします。</p> <p>①近代文学の基礎知識を習得することができる。</p> <p>②作品を読解する力を身につけることができる。</p> <p>③読書の幅を広げることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 大阪の近代文学</p> <p>第3回 山崎豊子「船場狂い」精読</p> <p>第4回 山崎豊子「船場狂い」分析</p> <p>第5回 山崎豊子「船場狂い」解釈</p> <p>第6回 山崎豊子「暖簾」精読</p> <p>第7回 山崎豊子「暖簾」分析</p> <p>第8回 山崎豊子「暖簾」解釈</p> <p>第9回 山崎豊子「暖簾」鑑賞</p> <p>第10回 谷崎潤一郎「春琴抄」精読</p> <p>第11回 谷崎潤一郎「春琴抄」分析</p> <p>第12回 谷崎潤一郎「春琴抄」解釈</p> <p>第13回 谷崎潤一郎「春琴抄」鑑賞</p> <p>第14回 授業のまとめ</p> <p>第15回 到達度の確認</p> <p>※授業の進捗状況により、講義内容を一部変更することもあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（授業中の課題など）50%</p> <p>到達度の確認 50%</p>		
失格条件	<p>6回以上の欠席</p> <p>到達度の確認を受けなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>授業で取り上げる作品を事前に読んでおいてください。（予習2時間）</p> <p>インターネットや図書館などを活用し、授業中に出された課題を次の回までに仕上げてください。（復習2時間）</p>		
課題へのフィード バック	<p>課題提出後、全体に向けてコメントします。</p>		
教科書	<p>授業中にプリントを配付します。</p>		
著者名			
出版社			
参考書	<p>授業中に紹介します。</p>		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HS402B01	期間	前期
授業科目名	日本文化史 A		
英訳科目名	Japanese Culture History A		
担当教員名	山本 幸男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	文化が人間を人間たらしめる限り、文化の成り立ちを理解することは人間の質を高める上で大きな意味を持つことであろう。授業では、日本文化を構成する三つの要素、すなわち儒教・仏教・神祇の内容を考察し、これらが有機的に関連しつつ日本文化の特質を形成して行く過程を概観する。日本文化史 B とあわせて受講することが望ましい。		
到達目標	日本の個性が理解出来るようになる。		
授業計画	第1回 日本文化史とは 第2回 文化史の視点 第3回 儒教の成立 第4回 儒教の展開（前）・陰陽五行説との接点 第5回 儒教の展開（後）・天命思想を中心に 第6回 儒教と律令 第7回 仏教の成立 第8回 仏教の展開（前）・大乘仏教以前 第9回 仏教の展開（後）・大乘仏教以後 第10回 仏教の東漸（前）・西域へ 第11回 仏教の東漸（後）・中国へ 第12回 中国思想と仏教 第13回 中国仏教の展開 第14回 日本への儒教・仏教の伝来 第15回 日本の固有文化と外来文化（まとめ）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	30%	
	小レポート（授業のまとめ）	20%	
	試験	50%	
失格条件	授業の4分の1以上を欠席した場合 試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	次回の授業のテーマに関連する書籍を読むこと。（予習時間 2時間） 終了後は、ノートや配布プリントなどを参照して授業内容をまとめること。（復習時間 2時間）		
課題へのフィード バック	課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。		
教科書	プリントにて資料を配布		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	HS402B02	期間	後期
授業科目名	日本文化史 B		
英訳科目名	Japanese Culture History B		
担当教員名	山本 幸男		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	日本文化史 B を受けて、外来文化（儒教・仏教）の日本的展開を見通す。座標軸を持たないとされる日本文化の特質の一端に触れることが出来ればと思っている。日本文化史 B とあわせて受講することが望ましい。		
到達目標	日本文化の特質が認識出来る。		
授業計画	第1回 日本文化と外来文化（儒教・仏教） 第2回 外来文化の受容 第3回 日本の固有文化（神々の世界） 第4回 外来文化理解の進展 第5回 神々の体系化（前）・大王（天皇）の権威の源泉を求めて 第6回 神々の体系化（後）・日本的な権威の源泉の形成 第7回 律令国家の形成過程（前）・東アジア世界の変動と日本 第8回 律令国家の形成過程（後）・外来文化定着の契機 第9回 儒教主義と文書主義（前）・その仕組みをめぐって 第10回 儒教主義と文書主義（中）・教育のありかたをめぐって 第11回 儒教主義と文書主義（後）・漢文読解をめぐって 第12回 儒教・仏教・神祇の構図 第13回 日本化する外来文化（前）・儒教を中心に 第14回 日本化する外来文化（後）・仏教を中心に 第15回 まとめと課題の提示		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	30%	
	小レポート（授業のまとめ）	20%	
	試験	50%	
失格条件	授業の4分の1以上を欠席した場合 試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	次の授業のテーマに関係する書籍を読むこと。（予習時間 2時間） 終了後は、ノートや配布プリントなどを参考にして授業の内容をまとめること。（復習時間 2時間）		
課題へのフィード バック	課題提出後、全体に向けてコメントします。		
教科書	プリントにて資料を配布		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	期間	集中
授業科目名	日中比較文化論	
英訳科目名		
担当教員名	青木 五郎	
ディプロマ・ポリシー1	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	日本文化における中国文化の受容のあとを、特に文学の面において検証するとともに、漢文訓読法の習得につとめる。	
到達目標	日本文化に与えた中国文化の深さを理解することができる。	
授業計画	第1回 導入 第2回 漢文訓読法① 第3回 漢文訓読法② 第4回 万葉集と中国文学① 第5回 万葉集と中国文学② 第6回 源氏物語と中国文学① 第7回 源氏物語と中国文学② 第8回 枕草子と中国文学① 第9回 枕草子と中国文学② 第10回 菊花についての日中比較文化史① 第11回 菊花についての日中比較文化史② 第12回 芭蕉と中国文学① 第13回 芭蕉と中国文学② 第14回 漢俳（日中文化交流の所産）① 第15回 漢俳（日中文化交流の所産）②	
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 40% 試験またはレポート60%	
失格条件	出席回数が授業時数の半分に達しない場合 特別な理由がなく、試験を受けなかったり、レポートを不提出の場合	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義で扱う文学作品について、特に中国文学の影響という観点から、あらかじめ下調べをしておくことが望ましい。(予習時間 1時間・復習時間 3時間)	
課題へのフィード バック	試験終了後に、全体に向けてのコメントをします。	
教科書	必要な資料を授業中に配布する。	
著者名		
出版社		
参考書	適宜、授業中に指示する。	
その他		
備考		
科目生への開講	なし	

ナンバリング	HS402B03	期間	後期
授業科目名	日本思想史		
英訳科目名	History of Japanese Thought		
担当教員名	小野 真龍		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	日本における主要な思想や思索者、著作について紹介、解説し日本人の思考の根底にあるものを探求する。日本思想は、古くからの神祇崇拜思想をベースとして、外来文化と出会うたび大きな変化を遂げてきた。特に神祇信仰と仏教文化との統合は日本思想のベースとなっている。その一方で、1500以上にわたり政治・文化の中心として天皇制を維持してきた。日本思想は天皇制に向き合わないわけにはいけない。これらの諸点が授業を理解するポイントとなる。		
到達目標	日本思想上の主要なエッセンス及び思想家についての基本的な知識を得る。そのうえで、日本思想を俯瞰できる視点を獲得する。		
授業計画	第1～2回 日本思想の独自性への視点 第3～5回 古代日本思想：神話にあらわれた思想 第6～8回 中世(歴史物語・中世歴史書)の思想 (『愚管抄』と『平家物語』 ほか) 第9～10回 近世(キリシタン思想、朱子学等) 第11～13回 近代(明治啓蒙思想とその展開) 第14～15回 現代(明治近代思想との対峙)		
評価方法 (合計100%)	期末に提出していただくレポート (40%) 内容の切れ目に提出していただくミニレポート×3回 (20%×3回)		
失格条件	6回以上の欠席。 期末レポートの不提出。 20分以上の正当な理由なき遅刻 (体調不良は理由とはならない)		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	日本思想を学ぶうえで日本史の知識が基礎となるので、受講しようとするものは日本史についての理解を深めておくこと。また、毎回扱う範囲の日本史の知識を確認する予習が必要である。(予習2時間) また、毎回、授業で得られた知識を整理して、前回で扱った思想とどのように関連しているかを復習することが効果的である。(復習2時間)		
課題へのフィードバック	ミニレポートは授業中に、期末レポートについては希望者には講評によってフィードバックを行なう。		
教科書	『日本思想全史』		
著者名	清水正之		
出版社	筑摩書房 (ちくま新書)		
参考書	授業中に適宜指示する。		
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	文化資料論 A (歴史文化)		
英訳科目名			
担当教員名	山本 幸男		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	日本の古代史像は、どのような資料(主に文字資料)をもとに描かれているかを解説する。中国資料(甲骨文、竹簡など)、金石銘文、木簡、墨書土器、古文書、『日本書紀』等の影印をプリントで提示し、資料に親しむ機会を作りたい。		
到達目標	日本史の資料に広く接することができる。		
授業計画	第1回 文字資料入門 第2回 絵文字の世界 第3回 文字(漢字)の成立 第4回 木簡と文字 第5回 紙と文字 第6回 日本への文字の伝来 第7回 文字による記録の習慣(金石銘文を通して) 第8回 帝紀と旧辞(『古事記』序文を通して) 第9回 『古事記』と『日本書紀』(正史の編纂) 第10回 律令国家と文書主義(前)・その概要を中心に 第11回 律令国家と文書主義(後)・文書の具体例を中心に 第12回 正倉院文書(前)・その概要を中心に 第13回 正倉院文書(後)・文書の具体例を中心に 第14回 木簡 第15回 多様な文字資料(まとめ)		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 40% レポート 60%		
失格条件	全授業の4分の1以上を欠席した場合 レポートを提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	配布したプリントをよく読み、わからない語句などがあれば辞書で調べておくこと。(予習時間 2時間) 終了後は、ノートやプリントを参考にして授業内容をまとめること。(復習時間 2時間)		
課題へのフィード バック	課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。		
教科書	プリントにて配布		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HS404B01	期間	前期
授業科目名	歴史と資料		
英訳科目名	History and Resources		
担当教員名	山本 幸男		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	日本の古代史像は、どのような資料(主に文字資料)をもとに描かれているかを解説する。中国資料(甲骨文、竹簡など)、金石銘文、木簡、墨書土器、古文書、『日本書紀』等の影印をプリントで提示し、資料に親しむ機会を作りたい。		
到達目標	日本史の資料に広く接することができる。		
授業計画	第1回 文字資料入門 第2回 絵文字の世界 第3回 文字(漢字)の成立 第4回 木簡と文字 第5回 紙と文字 第6回 日本への文字の伝来 第7回 文字による記録の習慣(金石銘文を通して) 第8回 帝紀と旧辞(『古事記』序文を通して) 第9回 『古事記』と『日本書紀』(正史の編纂) 第10回 律令国家と文書主義(前)・その概要を中心に 第11回 律令国家と文書主義(後)・文書の具体例を中心に 第12回 正倉院文書(前)・その概要を中心に 第13回 正倉院文書(後)・文書の具体例を中心に 第14回 木簡 第15回 多様な文字資料(まとめ)		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 40% レポート 60%		
失格条件	全授業の4分の1以上を欠席した場合 レポートを提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	配布したプリントをよく読み、わからない語句などがあれば辞書で調べておくこと。(予習時間 2時間) 終了後は、ノートやプリントを参考にして授業内容をまとめること。(復習時間 2時間)		
課題へのフィード バック	課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。		
教科書	プリントにて配布。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	期間	後期
授業科目名	日本文化特殊講義（歴史文化）	
英訳科目名		
担当教員名	山本 幸男	
ディプロマ・ポリシー1	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	奈良時代の知識人の動向を史料（歴史資料）に即して読み解き、たどっていく。若き日本の躍動を感じ取ってもらえればと思っている。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上の人物を理解する方法がわかる。 ・歴史資料（史料）に親しみを持って接することができる。 	
授業計画	<p>第1回 課題と方法</p> <p>第2回 海を渡った俊英・吉備真備（1）・生い立ちを中心に</p> <p>第3回 海を渡った俊英・吉備真備（2）・唐留学成果の将来</p> <p>第4回 海を渡った俊英・吉備真備（3）・官僚としての苦節</p> <p>第5回 海を渡った俊英・吉備真備（4）・晩年の栄光</p> <p>第6回 井真成のこと</p> <p>第7回 望郷の詩人・阿倍仲麻呂（1）・唐留学の様相</p> <p>第8回 望郷の詩人・阿倍仲麻呂（2）・玄宗皇帝の信任</p> <p>第9回 望郷の詩人・阿倍仲麻呂（3）・交友関係</p> <p>第10回 望郷の詩人・阿倍仲麻呂（4）・帰国叶わず</p> <p>第11回 文人の首・淡海三船（1）・生い立ちを中心に</p> <p>第12回 文人の首・淡海三船（2）・出家と還俗</p> <p>第13回 文人の首・淡海三船（3）・在家としての仏道修行</p> <p>第14回 文人の首・淡海三船（4）・政治のうねりの中で</p> <p>第15回 まとめ</p>	
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 60% レポート 40%	
失格条件	授業回数の4分の1以上を欠席した場合 課題のレポートを提出しなかった場合	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業時間に紹介する参考書を、図書館などで事前に目を通しておくこと。（予習1時間） 授業内容をまとめたノートや配布プリントを整理し確認しておくこと。（復習2時間）	
課題へのフィード バック	課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。	
教科書	プリントを配布する。	
著者名		
出版社		
参考書		
その他		
備考		
科目生への開講	なし	

ナンバリング	HS402B04	期間	後期
授業科目名	歴史文化特殊講義		
英訳科目名	Special Lecture on History and Culture		
担当教員名	山本 幸男		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	奈良時代の知識人の動向を史料（歴史資料）に即して読み解き、たどっていく。若き日本の躍動を感じ取ってもらえればと思っている。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上の人物を理解する方法がわかる。 ・歴史資料（史料）に親しみを持って接することができる。 		
授業計画	第1回 課題と方法 第2回 海を渡った俊英・吉備真備（1）・生い立ちを中心に 第3回 海を渡った俊英・吉備真備（2）・唐留学成果の将来 第4回 海を渡った俊英・吉備真備（3）・官僚としての苦節 第5回 海を渡った俊英・吉備真備（4）・晩年の栄光 第6回 井真成のこと 第7回 望郷の詩人・阿倍仲麻呂（1）・唐留学の様相 第8回 望郷の詩人・阿倍仲麻呂（2）・玄宗皇帝の信任 第9回 望郷の詩人・阿倍仲麻呂（3）・交友関係 第10回 望郷の詩人・阿倍仲麻呂（4）・帰国叶わず 第11回 文人の首・淡海三船（1）・生い立ちを中心に 第12回 文人の首・淡海三船（2）・出家と還俗 第13回 文人の首・淡海三船（3）・在家としての仏道修行 第14回 文人の首・淡海三船（4）・政治のうねりの中で 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 60% レポート 40%		
失格条件	授業回数の4分の1以上を欠席した場合 課題のレポートを提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業時間に紹介する参考書を、図書館などで事前に目を通しておくこと。（予習1時間） 授業内容をまとめたノートや配布プリントを整理し確認しておくこと。（復習2時間）		
課題へのフィード バック	課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。		
教科書	プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	期間	後期
授業科目名	大阪文化入門A	
英訳科目名		
担当教員名	前垣 和義	
ディプロマ・ポリシー1	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	大阪は「日本のふるさと」、都の歴史では「京都よりも先輩」です。「一寸法師は、なにわっ子」で、外国人観光客の人気スポット「道頓堀」の道頓は、人の名前… 幾つ知っていましたか？ 授業は、地元出身者には、地元への理解が一層高まるよう、留学生には、本学が位置する大阪の地を基礎から学べるように、歴史から現在までを幅広く、興味深く、分かりやすく展開します。理解度の向上をめざし、授業の最後に「大阪クイズ」でおさらいを図り、独創性を磨く観点から、「大阪のオリジナル観光」の提案や発表の機会を設けます。	
到達目標	<p>地元を知ることは、そこに住み、学び、働く喜びを高め、誇りにつながります。そのためにも、授業は、とっつきやすく、興味の持続が図れるように心がけています。達成目標は、次の通りです。</p> <p>①身近なことでも勉強のテーマになることが発見できる。</p> <p>②大阪出身者は、地元大阪を見つめ直すことを通して、「知っている」と「知っているはず」の違いをつかむことができる。</p> <p>③留学生には、本学が位置する大阪に関する基礎知識を修得することができる。</p>	
授業計画	<p>第1回 一寸法師も石川五右衛門も「大坂人」！？</p> <p>第2回 「菜の花や〜」蕪村の句の舞台は？</p> <p>第3回 江戸っ子のヒーロー「助六」と大阪</p> <p>第4回 大阪の代表的な地名を読む</p> <p>第5回 難解な地名を探る</p> <p>第6回 大阪の地名を食べる</p> <p>第7回 大阪弁を学ぶ</p> <p>第8回 大坂城の大疑問</p> <p>第9回 大阪の観光を考える</p> <p>第10回 大阪の歳時入門</p> <p>第11回 東西の違いの文化</p> <p>第12回 大阪食文化入門</p> <p>第13回 大阪のビジネス文化</p> <p>第14回 文化としての大阪のおばちゃん</p> <p>第15回 理解度の確認</p> <p>※順序は、変動することもあります。</p>	
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加意欲度、テスト、レポート等を総合的に評価します。</p> <p>評価比率は 授業への参加態度、意欲度 (授業後に提出を求める質問、疑問等を含む) 30%</p> <p>テスト 50%</p> <p>レポート 20%</p>	
失格条件	なし (授業への参加意欲や姿勢は重視します)	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>?次の授業のテーマを捉え、関連情報を探し、家族や友人等と、ディスカッション等を重ね、話題を広げる。(予習2時間)</p> <p>?授業で関心をもった箇所は、自分の足で現場を訪れ、次回の授業時に提出するコメントなどで報告する。(復習2時間)</p>	
課題へのフィードバック	<p>授業後に提出を求める質問、疑問等には、次の授業で、全体に向け説明します。</p> <p>レポートを発表した学生には、個人に向けてコメントし、提出のみの学生には全体に向けコメントします。</p> <p>テスト終了後、ポータルサイトを通じて、全体に向けコメントします。</p>	
教科書	不使用 (講義ごとに、プリントを配布します)	
著者名		
出版社		
参考書	<p>『大阪のおばちゃん学』前垣和義著 PHP文庫</p> <p>『東京と大阪「味」のなるほど比較事典』前垣和義著 PHP文庫</p> <p>『大阪のお勉強』前垣和義著 西日本出版社</p> <p>『ほな!! ぼちぼちいこか大阪弁』前垣和義著 すばる舎</p> <p>その他は、必要に応じて、講義中に指示します。</p>	
その他	テストは、日常のリサーチ力、視点のオリジナル性、自身のことばで語っているか、以上の3点を重視します。それを心がけてください。	
備考		
科目生への開講	なし	

ナンバリング	HS201A07	期間	前期
授業科目名	サブカルチャー入門A/サブカルチャー入門		
英訳科目名	Introduction to Subcultures		
担当教員名	高木 学		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ○
授業概要・ポイント	アニメ・マンガ・ゲームなど、いわゆるサブカルチャーと呼ばれる分野は、今や日本の誇るべき文化として浸透している。この新しい文化の諸相を概観しつつ、文化研究・社会学の分析視角を学び、サブカルチャーを文化として論ずるための基本的な知見を養う。		
到達目標	アニメ・マンガ・ゲームの概略を学び、サブカルチャーの歴史・特性の理解を深める。 サブカルチャーに関する諸活動と基礎的な理論を学ぶ。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 サブカルチャーとは 第3回 マンガ文化の歴史 第4回 マンガ文化の特性 第5回 アニメ文化の歴史 第6回 アニメ文化の特性 第7回 ゲーム文化の歴史 第8回 ゲーム文化の特性 第9回 その他のサブカルチャー 第10回 オタクという存在 第11回 二次創作 第12回 コンテンツ 第13回 サブカルチャーの論じ方 第14回 授業のまとめ 第15回 理解の確認・補習		
評価方法 (合計100%)	期末レポート 40% 授業各回のプリントおよび積極的参加態度 60%		
失格条件	全授業数の3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業内容と自分の好きなサブカルチャー作品と関連させ、知識の定着を図る。 予習：当該授業に関わるサブカルチャー作品について自主的に調べてみる。毎週1時間（45分）×15回 復習：授業内容を踏まえて、サブカルチャー作品について考察してみる。毎週1時間（45分）×15回 レポート作成 のべ15時間（675分）		
課題へのフィード バック	各回で提出させるリアクションペーパーについて、コメントが必要なものは、次回授業内ないし個別連絡で指導する。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜紹介		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HS401B01	期間	後期
授業科目名	サブカルチャー入門B/サブカルチャー概論		
英訳科目名	Introduction to Subcultures		
担当教員名	神田 貴成		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	アニメ・マンガ・ゲームなど、いわゆるサブカルチャーと呼ばれる分野について、時代背景や作者の意図、ファンの反応などを含めて総合的に論じます。 実際の作品を多くとりあげて、その成り立ちや広がりを探ります。 さらにそこから、新しいものを創り出すときに共通する考え方を学びます。		
到達目標	アニメ・マンガ・ゲームなどのサブカルチャーについての理解を深める。 サブカルチャーに関する事象の分析を通じて、自ら考えることができる力をつける。 さらに、次の文化を創り出すことができる力を養う。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 サブカルチャーとは 第3回 クリエイターとは 第4回 マンガ文化1 特色 第5回 マンガ文化2 創り方 第6回 アニメ文化1 特色 第7回 アニメ文化2 動き 第8回 アニメ文化3 テーマとは 第9回 ゲーム文化 第10回 その他のサブカルチャー 第11回 ビジネスとしてのサブカルチャー 第12回 国際的な広がり 第13回 2019年の概観 第14回 サブカルチャーの未来 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	期末レポート 80% 授業各回のプリント 20%		
失格条件	5回以上の欠席		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	予習1時間(45分)、復習3時間(135分)。 講義内でとりあげた作品を中心に学ぶこと。さらにそこから派生させて興味を広げていくことを勧めます。 作品展なども積極的に見に行くようにしてください。		
課題へのフィード バック	・毎時のオピニオンペーパーは、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HS402B05	期間	前期
授業科目名	現代大阪文化論/大阪学		
英訳科目名	Osaka Studies		
担当教員名	前垣 和義		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>本学は、大阪市内に立地する数少ない大学の一つです。この「大阪」について、体系的に学んだことはありませんか？ 大阪は、一面的な情報でもって都市全体を語られる傾向があります。授業では、そうした先入観がなぜ生じるのかを分析しつつ、人、街、言葉、食、現象などを総合的にとらえ、都市の独自性と奥深さ、気質や真の面白さなどを興味深く掘り下げていきます。その一環として「大阪人の通信簿」作成を図り、毎授業の最後には、おさらいの意味を込めた「大阪クイズ」で、理解度の向上につとめます。</p>		
到達目標	<p>「大阪を学問する」ユニークな授業、内容は多義に及びます。授業を聴くだけでなく、「街も教室である」との視点から、好奇心を携え、自ら学び取る知的行動力の修得をめざします。達成の目標は、次の通りです。</p> <p>①大阪の歴史や現象、大阪人気質、大阪弁などを幅広い視点から把握できる</p> <p>②大阪を知る過程において、先入観にとらわれることなく、本質を見据える幅広い能力を身につけることができる。その基本となるのは、好奇心であることに気づくことができる。</p> <p>③留学生は、生活内では捉えにくい、大阪弁の意味や大阪人の気質などの理解の助けとなる。</p>		
授業計画	<p>第1回 「豚まん箱根駅伝」から見えてくる大阪力</p> <p>第2回 東西の文化比較</p> <p>第3回 大阪となにわ、関西と近畿比較</p> <p>第4回 右？左？ 大阪現象論</p> <p>第5回 なぜ淡い？ 大阪の食文化考</p> <p>第6回 大阪人分析</p> <p>第7回 大阪のおばちゃん文化考</p> <p>第8回 「たこ・とら・きつね」文化考</p> <p>第9回 大阪弁①大阪ことばの法則</p> <p>第10回 大阪弁②日本語化する大阪弁、消える大阪弁</p> <p>第11回 笑都大阪</p> <p>第12回 キタとミナミの街論</p> <p>第13回 「始末」から捉える大阪文化考</p> <p>第14回 大阪文化と歴史総論</p> <p>第15回 理解度の確認</p> <p>※順序は、変動することもあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加姿勢やレポート、テスト等を総合的に評価します。</p> <p>評価比率は、次の通りです。</p> <p>授業への参加態度、意欲度（毎授業後に提出を求める、授業の感想、質問、疑問等を含む）30%</p> <p>テスト 50%</p> <p>レポート 20%</p>		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>?次の授業のテーマを捉え、関連情報を探し、家族や友人等と、ディスカッション等を重ねる（予習2時間）</p> <p>?駅のエスカレーターでは歩かないようにアナウンスされているが、それをリサーチし、大阪では定着するか、じぶんなりの考えをまとめてみる（復習2時間）</p>		
課題へのフィード バック	<p>?毎授業後に提出を求める質問、疑問等に関しては、次の授業で全体に向け説明します。</p> <p>?レポートは、授業内で全体に向けてコメントします。</p> <p>・試験終了後、ポータルサイトを通じて、全体に向けコメントします。</p>		
教科書	不使用（講義ごとにプリントを配布します）		
著者名			
出版社			
参考書	随時、授業内で指示します。		
その他	課題に対しての独自の視点や分析力、表現力も評価の対象とします。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	大阪ビジネス論		
英訳科目名			
担当教員名	前垣 和義		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	大阪には、世界的な商品やシステムを開発した企業が少なくありません。世間を驚かせる、面白い商売も数多く生み出してきました。海外の観光客を引きつけるユニークな看板は、大阪ならではの言葉でしょう。講義では、こうした事例を数多く紹介しますが、最も伝えたいのは、新ビジネスや新商品開発に結びつく開発者の着眼点や発想力、行動力にあります。授業の中で、「feel（感じてほしい）」という言葉で伝えていますが、それを学んでいただきたい。毎授業後には、「大阪クイズ」で、おさらいをし、理解度の向上につとめます。		
到達目標	授業では、開発事例を学ぶことはもとより、開発に結びつく発想や行動力を学び取る姿勢を重視し、その修得をめざします。日ごろから面白いモノやコトに目を光らせる習慣付けを重視し、次の項目を到達目標とします。 ①西日本の核として大阪企業の位置づけや、開発にかける気構えや活力が理解できる ②商品やシステムの開発を通して、いかに世の中に貢献するかという、視点が理解できる ③ビジネスの社会で企画等に携わるときの姿勢や、ネーミングづくり等の重要性が認識できる		
授業計画	第1回 はじめに 大阪ビジネスを考える 第2回 大阪発祥ビジネス その1 第3回 大阪発祥ビジネス その2 第4回 大阪と東京の気質比較 第5回 ビジネス特性①「逆転の発想」 第6回 ビジネス特性②「一坪の知恵」 第7回 ビジネス特性③「とんちの着眼」 第8回 ビジネス特性④「ほらない、始末の視点」 第9回 ビジネス特性⑤「やってみなはれスピリッツ」 第10回 看板文化と大阪プロモーション 第11回 大阪のデザイン 第12回 大阪はなぜ、商都なのか 第13回 大阪のメディアと広告（クリエイティブ） 第14回 大阪と京都比較 第15回 理解度の確認 ※順序は、変動することもあります。		
評価方法 (合計100%)	授業への参加姿勢やレポート、テスト等を総合的に評価します。 授業への参加態度、意欲度（授業後に提出を求める質問、疑問等を含む） 30% テスト 50% レポート 20%		
失格条件	なし（授業への参加意欲、姿勢を重視します）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	?大阪発祥の食の店を訪れるなどの体験を踏まえ、友だちや家族の人々と話し合い、自分なりの意見をもって授業に臨む（予習2時間） ?授業で関心をもったところは、自分の足でたずねてリサーチし、“実感”してみる（復習2時間）		
課題へのフィード バック	?授業後に提出を求める質問、疑問等に関しては、次の授業で、全体に向けて説明します。 ?試験終了後、ポータルサイトを通して、全体に向けてコメントします。 ?レポートは、次の授業等で全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用（講義ごとにプリントを配布します）		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	資料をもとにした「まとめる」力よりも、「じぶんで考え、発想する」力を重視します。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HS402B06	期間	前期
授業科目名	上方落語論		
英訳科目名	Studies in Japanese Rakugo (Comedy and Storytelling)		
担当教員名	桂 文我		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	江戸初期から続く上方落語の歴史を資料に基づき検証し、かつ噺の中身の吟味を行い、他の古典芸能や文学との関連も含めて講義する。		
到達目標	資料に基づく上方落語の歴史や落語を主とした他の古典芸能への造詣を深めることが出来るようになる。		
授業計画	第1回 上方落語の歴史 其の一 第2回 上方落語の歴史 其の二 第3回 上方落語の歴史 其の三 第4回 上方落語の歴史 其の四 第5回 上方落語の歴史 其の五 第6回 上方落語と江戸落語 第7回 落語の連記本 第8回 落語とレコード 第9回 減んでいる落語の再生 其の一 第10回 減んでいる落語の再生 其の二 第11回 落語と文学 其の一 第12回 落語と文学 其の二 第13回 落語と他の芸能 其の一 第14回 落語と他の芸能 其の二 第15回 全体のまとめ ※あくまでも予定ですので 進行状況により変更の可能性も有ります。		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% レポート 70% テスト類はありません		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	積極的に落語鑑賞すること。(予習2時間・復習2時間)		
課題へのフィード バック	授業終了後に全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	落語家としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HS402B07	期間	後期
授業科目名	日本文化特殊講義（大阪文化）/大阪文化特殊講義		
英訳科目名	Special Lecture on Osaka Culture		
担当教員名	釈 徹宗、桂 春團治		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>落語は、日本仏教の「お説教」の形態を色濃く残した特別な芸能です。また、さまざまな日本文化の要素を内容した、興味深い芸能でもあります。</p> <p>そもそも芸能の発生は、宗教儀礼と密接な関係にあります。人類がどのようにして宗教と芸能を生み出してきたか。そして、日本仏教と日本の芸能は、どのように展開してきたのでしょうか。双方を俯瞰することで、さまざまな領域の扉が開きます。</p> <p>本講では、学術的な講義、噺家の語り、伝統芸能の実演、三つのパートの組み合わせで進みます。毎回、落語家さんによる落語や、歌舞のお師匠方による実演を体験することができます。</p> <p>他に類例がないようなユニークな講義です。</p>		
到達目標	宗教と芸能の関係について深く学び、日本仏教や日本文化の特性を知り、落語を通して感受性豊かな精神を育むことができる。		
授業計画	<p>第1回 宗教と芸能について</p> <p>第2回 仏教と芸能について</p> <p>第3回 説教の技法</p> <p>第4回 日本の伝統芸能① 能楽</p> <p>第5回 歌いもの、語りもの</p> <p>第6回 日本の伝統芸能② 講談、浪曲</p> <p>第7回 東京落語と大阪落語</p> <p>第8回 落語を知る① 『醒睡笑』</p> <p>第7回 落語を知る② 名人伝</p> <p>第8回 落語を知る③ 見立て文化</p> <p>第9回 日本仏教と落語① 宗派仏教</p> <p>第10回 日本仏教と落語② 特徴的演目</p> <p>第11回 「寄席文化」を学ぶ</p> <p>第12回 日本仏教の説教① 安居院流</p> <p>第13回 日本仏教の説教② 節談説教</p> <p>第14回 浄土真宗の説教</p> <p>第15回 全講義を振り返る</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度 50% レポート・課題・提出物 50%		
失格条件	期末の試験を欠席、あるいは期末のレポート未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>テレビやラジオなどで、落語を聞いてみよう。</p> <p>可能であれば寄席へ行ってみよう。</p> <p>能・狂言、文楽、歌舞伎などにも興味をもとう。</p> <p>授業時間外における予習・復習等に必要な時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教・落語関係の本を読む…予習 135分 (3時間) ・授業のプリントやノートを見直す…復習 45分 (1時間) 		
課題へのフィードバック	課題提出後、全体に向けてコメントします。		
教科書	『落語に花咲く仏教 宗教と芸能は共振する』（朝日新聞出版社）		
著者名	釈徹宗		
出版社	朝日新聞出版		
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（釈） 落語家としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（桂）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	HS403B01	期間	後期
授業科目名	日本社会とメディア/生活文化論		
英訳科目名	Culture of Everyday Life		
担当教員名	高木 学		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>日本社会や日本文化を考えると、多くの場合、政治や経済など大きな状況に主眼を置いて語ることが多い。一方で社会の大多数を占める一般人の暮らしや生き方が注目されることは少なかった。</p> <p>本講義では、俯瞰的な文化論ではなく、大衆的な生活文化、とくに具体的・個別的な生活の場面を見つめることで、日本の社会や文化の特性を浮かび上がらせることを目指す。</p> <p>日本の生活文化を学ぶために、2つの着眼点を重視して議論を進めていく。一つは戦後の日本の発展と変化の様子に注目するという点である。現代の日本文化の特性を学ぶためには、現状の文化がどのような過程を経て成立するに至ったのかを見つめ直す必要がある。もう一つの着眼点は、メディアである。日本の戦後文化はメディアとともに変化・発展してきた。生活文化を学ぶためにはメディアの関連性を学必要がある。</p> <p>授業では、学生各自に、授業テーマに関してメディア上で話題になっている事項を報告してもらい宿題を課す予定である。</p>		
到達目標	<p>日本の生活文化について知見を深める。</p> <p>とくに戦後の日本の生活文化の変遷・流れと、そこでのメディアの影響力について考える力を養う。</p> <p>メディアが社会に対して与える影響について考える力を養う。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 日本社会 戦後の流れ</p> <p>第3回 メディアによる社会形成</p> <p>第4回 住宅</p> <p>第5回 化粧</p> <p>第6回 結婚</p> <p>第7回 ペット</p> <p>第8回 旅行</p> <p>第9回 健康</p> <p>第10回 オタク</p> <p>第11回 まつり</p> <p>第12回 メール・SNS</p> <p>第13回 その他の諸相</p> <p>第14回 授業のまとめ</p> <p>第15回 到達度の確認・復習</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業内のプリント類および宿題 50%</p> <p>期末のレポート 40%</p>		
失格条件	5回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習：当該授業に関わるテーマについて自主的に調べてみる。毎週1時間（45分）</p> <p>復習：授業内容を踏まえて、メディア（マスコミ・ネットなど）の状況を確認し考察してみる。毎週1時間（45分）</p> <p>レポート作成 のべ15時間（675分）</p>		
課題へのフィード バック	<p>リアクションペーパーで要望・質問等を受け付け、必要なコメントや指導を、次回授業内ないしは個別連絡でおこなう。</p> <p>また授業内で提出させた課題について、授業内で評価・指導をおこなう。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜紹介		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HS402B08	期間	後期
授業科目名	日本のアニメ文化		
英訳科目名	Japanese Animation		
担当教員名	高木 学		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>アニメは、今や日本の誇るべき文化として浸透している。この新しい文化は、単に1つの表現形式としてではなく、マンガ・ゲーム・小説・映画など隣接領域と関連しながら幅広く日本社会に浸透している。現代のサブカルチャーの中心にあるのが、アニメであると言っても過言ではない。本講ではアニメの歴史および文化の諸相を多角的・多面的に概観しつつ、アニメをを文化として論ずるための知見を養う。</p> <p>講義を受身的に受けるだけでなく、授業で学んだ内容を、自分の好きな作品と関連させて考えることで、より内容の理解が深まる。</p>		
到達目標	<p>アニメについての歴史・背景・表現の特徴などの理解を深める。</p> <p>アニメに関する文化現象を学び、分析・考察する力を養う。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 アニメ文化を論ずるとは</p> <p>第3回 アニメの歴史1 80年代</p> <p>第4回 アニメの歴史2 90年代 鑑賞</p> <p>第5回 アニメの歴史3 90年代 考察</p> <p>第6回 アニメの歴史4 2000年代 バトル</p> <p>第7回 アニメの歴史5 2000年代 日常</p> <p>第8回 アニメの歴史6 2010年代 残念</p> <p>第9回 アニメの歴史7 2010年代 劇場版</p> <p>第10回 海外進出</p> <p>第11回 アニメソング</p> <p>第12回 アニメ聖地巡礼</p> <p>第13回 コスプレ</p> <p>第14回 アニメ文化そのほか</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>期末レポート 40%</p> <p>授業各回のプリントおよび積極的参加態度 60%</p>		
失格条件	授業数の3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習 授業に関連する内容の概要を下調べしておく 毎週1時間 (45分)</p> <p>復習 授業と自分の知見と照らし合わせて考察を深める 毎週1時間 (45分)</p> <p>レポート作成 のべ30時間 (675分)</p>		
課題へのフィード バック	各回のリアクションペーパーについて、コメント・指導が必要な場合は、授業内で告知、あるいは個別連絡をおこなう。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜紹介		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	HS404B02	期間	後期
授業科目名	文化資料論B（サブカルチャー）/サブカルチャー資料論		
英訳科目名	Subculture Resources		
担当教員名	高木 学		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	本講のねらいは、アニメ・マンガ・ゲームなどのサブカルチャー作品について、より深く分析・考察する。作品の鑑賞と分析：学生自身が注目する現象・作品を紹介し、その特徴・面白さなどを俯瞰的に論じていく。		
到達目標	サブカルチャーについて、発表と討論を通じて。自ら学びを深める力を養うことを目標とする 1. サブカルチャー理論およびサブカルチャーを取り巻く現代社会の理解を主体的に深められる。 2. 発表・資料作成・プレゼンテーションの技能を身につけることができる。 3. 個別の作品を日本文化・歴史・社会情勢との関連の中でより深く分析できる。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 サブカルチャー理論の概観 第3回 サブカルチャーの論じ方 第4回 サブカル作品の解説1 バトル系などアニメ映画 第5回 サブカル作品の解説2 無双系などゲーム作品 第6回 サブカル作品の解説3 ワンピースなど漫画作品 第7回 サブカル作品の解説4 ゴジラなど特撮作品など 第8回 サブカル作品の解説5 異世界転生作品など 第9回 サブカルチャーについての学生発表1 第10回 サブカルチャーについての学生発表2 第11回 サブカルチャーについての学生発表3 第12回 サブカルチャーについての学生発表4 第13回 サブカルチャーについての学生発表5 第14回 全体的討論会・まとめ 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	発表 40% 発表への参加態度 60%		
失格条件	全授業の3分の1以上の欠席 指定された回数の発表（ないしレポート提出）をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習：発表予定の作品について基本状況を各自調べる。（各週1時間） 復習：発表について自分なりの考察をまとめる。（各週1時間） 発表準備：自分自身の発表に向けて下調べ・資料準備を進める。（合計30時間）		
課題へのフィード バック	各回でのリアクションペーパーへのコメント 発表への講評・指導		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書	授業内で適宜紹介する		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	HS402B10	期間	後期
授業科目名	日本文化特殊講義 (サブカルチャー)		
英訳科目名	Special Lecture on Japanese Culture (Subculture)		
担当教員名	高木 学		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>こんにちの下位文化 (サブカルチャー) はとらえどころがないほどに拡散している。マンガ・アニメ・ゲーム・特撮・アイドルなどサブカルチャーとして語られることの多い分野について、現在の様相を多角的に論じていく。</p> <p>単なるファンの目線ではなく、学術的・理論的な視点でサブカルチャーを論じるため、授業では参考文献の紹介および事前の下読みなどを課していくことが多くなる。</p>		
到達目標	<p>日本におけるサブカルチャーの一領域について、それを構成する様々なトピックについての知識を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サブカルチャー分野のさまざまなできごとを単なる流行りの話題や物珍しい事件としてのみ見るのではなく、相互に結びつけて文化的営為として理解できる視点を獲得する。 ・日常的な営為のなかに埋め込まれた下位文化のありようを理論や概念を通じて把握し、その現状や問題点を言語化するための方法を通して身につける。 		
授業計画	<p>第1回 インTRODククション 第2回 「サブ」の意味するもの 第3回 オタクの視点 第4回 二次創作 第5回 同人誌メディアの特性 第6回 マンガへの規制 第7回 クール・ジャパン 第8回 物語の消費 第9回 マンガ表現の構造と記号性 第10回 プラモデル・フィギュア 第11回 玩具 第12回 声優とライブ 第13回 理論と現実 第14回 まとめ 第15回 理解度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度：60% 期末レポート：40%</p>		
失格条件	出席回数が全体の授業回数の3分の2に満たない場合、失格とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>授業計画を見てもわかるとおり、この授業では多様なトピックスをとりあげていくこととなります。こうした事柄について日頃からマスメディアなどでも予備的に情報を集めておくことが望まれます。普段楽しんでいるアニメやゲームを、文化研究のための理論的語彙をもって分析・説明することが最終的な到達目標です。</p> <p>そのため、そうした概念や語彙については、授業内で提示する参考文献などにもあたりながら、適宜理解を深めていってください。(予習時間 1時間・復習時間 3時間)</p>		
課題へのフィード バック	リアクションペーパーについて、指導やフォローなどが必要な場合、授業内及び個別連絡でフィードバックをおこなっていく。		
教科書	とくに指定しません。必要に応じて参考文献を紹介します。		
著者名			
出版社			
参考書	適宜、授業内で提示します。		
その他	毎回、授業内容の感想や指定したテーマについて書いてもらう「リアクション・ペーパー」を配布し、次回の授業で提出してもらいます。なお、これは「授業への参加度」として成績評価にも含まれます。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC401B01	期間	後期
授業科目名	宗教学概論B		
英訳科目名	Introduction to Religious Studies B		
担当教員名	釈 徹宗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>宗教を俯瞰するところから始まり、さまざまな宗教を各論的に取り扱っていきます。また、哲学・社会学・心理学・文化学など多くの領域と関連させながら宗教について考えてみましょう。</p> <p>伝統的宗教からカルト教団や超常現象問題まで、宗教を通じて「社会」や「人間」へとアプローチしていく。それは、意外と自分自身を見つめ直す手がかりとなり、異文化や他者理解へのきっかけとなります。</p>		
到達目標	宗教を通して社会や人間を見る眼をもつことができる。		
授業計画	<p>第1回 宗教学の基礎(1) アニミズム、シャーマニズム</p> <p>第2回 宗教学の基礎(2) 死の問題</p> <p>第3回 呪術について考える</p> <p>第4回 宗教の機能について考える</p> <p>第5回 宗教組織</p> <p>第6回 聖なる空間</p> <p>第7回 宗教と世俗社会</p> <p>第8回 宗教と政治・経済</p> <p>第9回 仏教の基礎を学ぶ (1) 「建学の精神」のおさらい</p> <p>第10回 仏教の基礎を学ぶ (2) 日本仏教を知る</p> <p>第11回 イスラームについて学ぶ(1) イスラームの基礎</p> <p>第12回 イスラームについて学ぶ (2) 現代社会について考える</p> <p>第13回 カルト宗教について学ぶ(1) マインドコントロール</p> <p>第14回 カルト宗教について学ぶ(2) 世界のカルト事件</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 40%</p> <p>試験 60%</p>		
失格条件	期末の試験に欠席、あるいは期末のレポート未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>身の周りの「宗教的なもの」を見つけてみる。</p> <p>世界の宗教事情に興味をもつ。</p> <p>授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教関係の本を読む…予習2時間 ・授業のプリントやノートを見直す…復習2時間 		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	異教の隣人		
著者名	釈 徹宗		
出版社	晶文社		
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401B02	期間	後期
授業科目名	仏教学概論B		
英訳科目名	Introduction to Buddhist Studies B		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>仏教という宗教の輪郭と特性を学ぶ。ブッダの基本的な立脚点と思想的方向性を知り、人間の心身のメカニズム、悩みをかかえて生きる人間の姿、苦悩を越える道としての教説を考察する。そして、世界に大きく展開した仏教を、特に大乘仏教ムーブメントの必然性とその目指した理念を中心に学ぶ。さらに、大乘仏教のひとつの到達点としての日本仏教、浄土教について理解を深める。仏教の「社会性」「地域性」「他者性」などの特徴を見据え、仏教の思想を自身の生き方の問いとして思索していく姿勢を考えていきたい。</p>		
到達目標	<p>ブッダの思想、大乘仏教の特徴、日本仏教の要点を学び、人間の姿・苦悩のメカニズム・人生を生き抜く智慧について考える視点を身に付けることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 人間と宗教・仏教 第3回 ブッダの問い 第4回 仏教の展開 第5回 部派仏教と大乘仏教 第6回 仏像と大乘経典 第7回 浄土教 第8回 中国仏教 第9回 日本仏教 第10回 日本浄土教 第11回 鎌倉仏教 第12回 法然聖人と親鸞聖人 第13回 親鸞聖人の思想①基礎 第14回 親鸞聖人の思想②発展 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	試験60%、授業への参加態度(参加状況)40%		
失格条件	3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・ 授業時間外における予習・復習等のアドバイス 仏教・宗教の思想は、先人の経験と研鑽による積み重ねが多数あるので、それらの文献を読み進めることが大事である。その場合、文字の表面上だけでなく、文章の深意を汲み取る読み解きと、自身の生き方の問いとしての視点が重要となる。思想研究に必要な、辞書や参考図書の扱い方を身に付け、他者の意見に興味を持ってアンテナを張り、吸収することが学びを進める鍵となる。</p> <p>・ 授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する……復習 2時間 (90分)</p>		
課題へのフィードバック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	指定しない。授業中にプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401B03	期間	後期
授業科目名	哲学概論		
英訳科目名	Introduction to Psychology		
担当教員名	日高 明		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>テーマで読む哲学</p> <p>本講義では、テーマごとに何人かの思想家をピックアップして、彼らの考えを紹介していきます。また、彼らの歩んだ人生にも注目します。とても厄介なものに思われる哲学も、テーマと人物から見ていくことで、身近に感じられるかもしれません。日常とは違う考え方に触れてみましょう。</p>		
到達目標	各テーマについて哲学者たちの見解に触れ、人間や社会を見るための多様な視点と、観察力、分析力、発想力を身につける。		
授業計画	<p>第1回 真理①（プラトン、カント）</p> <p>第2回 真理②（ニーチェ、デリダ、グッドマン）</p> <p>第3回 自然と科学①（ソクラテス以前の思想家たち、フランシス・ベーコン）</p> <p>第4回 自然と科学②（ヒューム、クーン、ファイヤーアーベント、）</p> <p>第5回 社会と個人①（ロック、ルソー）</p> <p>第6回 社会と個人②（ロールズ、ノージック）</p> <p>第7回 言語と論理①（ソシュール、フレーゲ）</p> <p>第8回 言語と論理②（ウィトゲンシュタイン、オースティン）</p> <p>第9回 生と死①（ソクラテス、ショーペンハウアー）</p> <p>第10回 生と死②（ハイデガー、ジャンケレヴィッチ）</p> <p>第11回 心と身体①（デカルト、メルロ＝ポンティ）</p> <p>第12回 心と身体②（チャーチランド、大森荘蔵）</p> <p>第13回 経験①（ジェームズ、ベルクソン）</p> <p>第14回 経験②（フッサール、西田幾多郎）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>レポート提出50%</p> <p>講義への参加態度50%</p> <p>レポートには、期末レポートだけでなく、学期中に課す小レポートや、定例礼拝に出席したさいのレポートを含めます。</p> <p>講義への参加態度は、聴講態度や講義中の意見、毎回の講義後に書いてもらう感想シート、小テストを含めて総合的に判断します。</p>		
失格条件	出席回数が授業全体の3分の2に満たなかった場合、失格とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義中に、前回分の講義の内容確認のため、小テストを実施することがあります。		
課題へのフィード バック	課題提出後の授業で全体に向けてコメントします。		
教科書	講師が作成したプリントを用います。		
著者名			
出版社			
参考書	使用するプリントに掲載、あるいは講義中必要に応じて板書で紹介します。		
その他	月に一度の定例礼拝へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401A02	期間	前期
授業科目名	パーリ語入門		
英訳科目名	Elementary Pali Scriptures		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>本学の入学式・卒業式、定例礼拝などの音楽法要で唱えられている敬礼文・三帰依は、「パーリ (pāṭi)」と呼ばれる言語を用いています。パーリ語は古代インド語の中でも仏教共通語として誕生した聖典言語で、スリーランカーおよびインドシナ半島に広がる上座仏教圏の仏教文献に残っています。またパーリ語の敬礼文・三帰依は全世界共通で使われてもいます。授業では簡単なパーリ語経文を読みながら、誰にでも理解できるように分かりやすく解説していきます。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽法要での敬礼文・三帰依の意味を理解して唱えられるようになる 2. パーリ語の経典を現代日本語に訳せるようになる 3. 上座仏教圏で人気のある『吉祥経』を唱えられるようになる 4. パーリ語を通してインドの言語・文化を理解できるようになる 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 第1回 パーリ語入門への誘い 第2回 インドの言語とパーリ語 第3回 パーリ語と仏教 第4回 敬礼文・三帰依を読もう 第5回 パーリ語の五戒を読もう ① 第6回 パーリ語の五戒を読もう ② 第7回 『吉祥経』を読もう ① 第8回 『吉祥経』を読もう ② 第9回 『吉祥経』を読もう ③ 第10回 『吉祥経』を読もう ④ 第11回 『吉祥経』を読もう ⑤ 第12回 『吉祥経』を読もう ⑥ 第13回 『吉祥経』を読もう ⑦ 第14回 『吉祥経』を読もう ⑧ 第15回 まとめ 		
評価方法 (合計100%)	予習・復習の状況、および授業への参加態度（発表を含む） 100%		
失格条件	授業回数の1/3以上の欠席と授業への参加態度が悪かった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回、輪読するテキストの予習に3時間とその復習に1時間。		
課題へのフィード バック	授業の性格上、予習が大部分を占めるので、講義中にフィードバックを行います。		
教科書	増補改訂 パーリ語辞典		
著者名	水野弘元		
出版社	春秋社		
参考書	必要なものは授業中に指示します。		
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401B04	期間	集中
授業科目名	宗教儀礼概論		
英訳科目名	Introduction to Religious Ritual		
担当教員名	福本 康之		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>儀礼は、宗教において欠かすことのできない文化のひとつで、そのスタイルは宗教ごとに、あるいは同じ宗教でも派や地域、時代によって様々です。</p> <p>本科目では、様々なスタイルの宗教儀礼に慣れ親しむことを第一の目的とします。その上で、それぞれの宗教儀礼について、その構成や変遷、位置づけなどについて学び、考えたいと思います。</p> <p>なお授業では、具体的な儀礼を映像や音源等によって経験し、意見を交換しつつ理解を深めていただきたいと思います。</p>		
到達目標	<p>宗教における儀礼とは、様々な場面において様々な形態をとります。本講義では、主な宗教儀礼について、それぞれの儀礼がもつ歴史的な背景や形態についての理解を深めることを到達目標としています。</p>		
授業計画	<p>第1回 「宗教儀礼」について考える 「宗教儀礼」とは何か？—この語の意味するところを考える</p> <p>第2～3回 仏教諸宗派の儀礼に親しむ 第2回 仏教各宗派の主な儀礼について1—共通の儀礼について 第3回 仏教各宗派の主な儀礼について2—各宗派個別の儀礼について</p> <p>第4～5回 浄土真宗の儀礼に親しむ 第4回 浄土真宗の儀礼について1—本願寺派の儀礼について 第5回 浄土真宗の儀礼について2—本願寺派と他派の比較</p> <p>第6～9回 諸宗教の儀礼に親しむ 第6回 キリスト教の儀礼について 第7回 イスラム教の儀礼について 第8回 神道および日本の諸宗教について 第9回 世界の様々な宗教について</p> <p>第10～12回 宗教儀礼の構成 第10回 宗教儀礼を構成する諸要素について 第11回 宗教儀礼の時間的構成について 第12回 宗教儀礼の空間的構成について</p> <p>第13～14回 宗教儀礼の歴史 第13回 宗教共同体（教団）と儀礼 第14回 社会と宗教儀礼—葬儀を中心に</p> <p>第15回 再び「宗教儀礼」について考える 必要に応じて、学外実習等を行う場合があります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（参加状況）：50% レポート提出：50%</p>		
失格条件	<p>以下のいずれかに該当するものは、失格とします。</p> <p>1) 試験を受けなかった者 2) 出席回数が、講義回数の3分の2に満たない者（30分以上の遅刻は欠席とします）</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>はじめて見聞きする儀礼が多いと思います。予習段階では、次回の授業内容に関する基本的事項についてを確認する程度（約30分）が良いですが、授業後の復習では、授業で採り上げた儀礼の具体的な内容について、実際に体を動かし、ある程度身体化することを目指してください（約150分）。なお、機会があれば実際に、寺院や神社等で行われる儀礼に足を運ぶことをおすすめします。</p>		
課題へのフィード バック	<p>課題提出後全体に向けコメントします。</p>		
教科書	各講義時に資料を配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	映像及び音源資料を含め、各講義時に紹介します。		
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC402B01	期間	前期
授業科目名	宗教社会学		
英訳科目名	Sociology of Religion		
担当教員名	三木 英		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>宗教社会学の基本的立場は、「宗教は社会的である」というものである。「社会的」であるとは、人と人との交流に関わるもの、と理解すればよい。つまり、端的にいえば、宗教は人と人との交わりによって成立するものであるということである。社会あつての宗教と捉えるのがこの学問であるから、本講義が見据えるのは神仏ではなく、（神仏を信じる）人間であり、その人間の形成する集団であり、組織ということになる。そして、そうした人間・集団・組織がどのようなものであるかが追求することによって、私たちの社会がどのような社会であるのかを明確にしてゆく。これこそ、宗教社会学の目的とするところなのである。</p>		
到達目標	<p>私たちの暮らすこの社会が実は宗教的であるということが理解できるようになる。そして様々な宗教、また信仰者・非信仰者に対し、偏りのない態度で臨める客観的姿勢を自分のものとしてできるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 宗教社会学の学祖：ヴェーバーとデュルケム 第2回 「宗教と社会」を考える 第3回 日本における宗教団体の現在 第4回 世界の宗教概観 第5回 新宗教とは何か（1） 第6回 新宗教とは何か（2） 第7回 洗脳とマインドコントロール 第8回 入信の説明理論＝相対的剥奪論 第9回 スピリチュアリティ 第10回 外国籍住民とその宗教 第11回 被災地と宗教 第12回 都市的生活と宗教 第13回 儀礼（祭）論 第14回 宗教と政治 第15回 宗教的無党派層</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>期末テスト（50%） 時折に課すレポート（30%） 授業への参加態度（20%）</p>		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>（初回を除き）第二回目講義以降は、その前回講義において指定した文献を読んでから講義に出席することを望む。30分程度で読める文献を講師の方で準備し、配布する予定である。 また、講義終了後は、講義内容についてのノートを見直すことを求める。そのなかで疑問点等があるようなら、次回講義において講師に尋ねること。これに要する時間も30分程度と見ていただく。</p>		
課題へのフィード バック	<p>受講者には事前学習をしているか、またノートチェックをしているか、について個別に頻繁に問い、アドバイスすることで学習効果を高めてゆく。</p>		
教科書	とくに用いない		
著者名			
出版社			
参考書	その都度指示する。		
その他	とくになし		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC402B02	期間	前期
授業科目名	宗教史		
英訳科目名	History of Religion		
担当教員名	釈 徹宗		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>本講義では、「人類にとっての宗教」という視点から始まり、世界各地における宗教を概観していきます。そして後半は日本の宗教に特化して講義を進める予定です。</p> <p>社会の変容と宗教の展開を合わせて考察することは、これからの社会や人間のありようを模索する際に非常に重要です。人類における宗教の展開を学ぶことで、現代社会や現代人を見る眼を養いましょう。</p>		
到達目標	宗教の営みを通して人間や社会を再解釈することができる。		
授業計画	<p>第1回 人類と宗教の歴史 (1) 人類の第一波、古代の神々</p> <p>第2回 人類と宗教の歴史 (2) アクセルペリオド</p> <p>第3回 世界宗教史 (1) エジプトの宗教・ギリシャの宗教</p> <p>第4回 世界宗教史 (2) ゾロアスター教</p> <p>第5回 ヒンドゥー教を学ぶ (1) 輪廻と解脱</p> <p>第6回 ヒンドゥー教を学ぶ (2) 現代への影響</p> <p>第7回 神道を学ぶ (1) 歴史と構造</p> <p>第8回 神道を学ぶ (2) ケガレと祓い</p> <p>第9回 ユダヤ教を学ぶ (1) 律法について</p> <p>第10回 ユダヤ教を学ぶ (2) タブーについて</p> <p>第11回 ユダヤ教を学ぶ (3) イスラエル問題</p> <p>第12回 カルト宗教について(1)カルト宗教事件</p> <p>第13回 カルト宗教について(2)マインドコントロール</p> <p>第14回 振り返りとまとめ・内容理解の確認</p> <p>第15回 試験</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度・宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	期末の試験を欠席、あるいは期末のレポートを提出しなかった者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。</p> <p>大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</p> <p>授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教関係の本を読む…予習 2時間 ・授業のプリントやノートを見直す…復習 2時間 		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401B05	期間	後期
授業科目名	仏教史		
英訳科目名	History of Buddhism		
担当教員名	直海 玄哲		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>仏教は、シャカが悟りを開いて以来、アジアの諸地域において、それぞれの地域の文化や社会制度の影響を受けて変遷しながら、今日世界宗教として広く信仰をされるに至った。その歴史的過程を学ぶのが仏教史である。</p> <p>仏教史は、仏教教学史と仏教教団史に大別できる。教学史では仏教思想がシャカに創唱されて以来、どのようにその教えに対する理解が深められてきたかを学ぶ。また、教団史では、仏教が伝播した社会と相互に如何に影響し合い、その結果仏教徒やその教団がどのように変化したか、すなわち、仏教自身の歴史の変遷を学ぶ。</p> <p>一方、各時代・各地域に仏教が伝播したことにより、その社会も仏教より大きな影響を受ける。仏教が世界宗教として人類共通の普遍的価値をもつならば、時間的には各時代を通じ、空間的には各地域や国家を貫いて、それぞれの時代や社会を分析する有効な視座となる。この仏教という視座より、歴史を明らかにしようとする試みもまた仏教史という学問である。</p> <p>本講では、仏の悟りの境地を明らかにしようという方向と、世俗化していく方向とが、反発しながらも影響し合い、インドより東アジアへと伝わる過程を概述する。</p>		
到達目標	15回の講義を通じて、「歴史的に仏教と社会を考える力」を身につける。		
授業計画	<p>第1回 はじめに～仏教史とは、どのような学問か～</p> <p>第2回 インド仏教の歴史①～原始仏教教団～</p> <p>第3回 インド仏教の歴史②～部派分裂～</p> <p>第4回 インド仏教の歴史③～大乘仏教興隆の歴史的意義～</p> <p>第5回 インド仏教の歴史④～仏像は偶像か？～</p> <p>第6回 仏教の伝播①～西へ向かう仏教～</p> <p>第7回 仏教の伝播②～地域と仏教～</p> <p>第8回 前半のまとめ</p> <p>第9回 中国仏教の歴史①～経典翻訳の限界と創造～</p> <p>第10回 中国仏教の歴史②～民衆経典の成立～</p> <p>第11回 中国仏教の歴史③～廃仏と国家仏教～</p> <p>第12回 中国仏教の歴史④～中国浄土教の系譜～</p> <p>第13回 中国仏教の歴史⑤～仏儒道の関係～</p> <p>第14回 日本と中国</p> <p>第15回 後半のまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	受講態度・・・30% 講義中の小テスト等（礼拝レポートを含む）・・・30% レポート・・・40%		
失格条件	出席が所定の回数に満たない場合は失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>仏教史の講義では、仏教用語だけでなく、歴史用語も使われる。授業で習った学術用語で理解できなかった言葉を丁寧に調べる習慣をもってもらいたい（予習2時間）。</p> <p>また、与えられた内容を覚えるだけでなく、授業で提起された問題を考える時間を大切にしてほしい（復習2時間）。</p>		
課題へのフィードバック	講義中の小テストに関しては、テスト返却時に全体にコメントする。レポートについては、提出後にポータルサイトを通じてコメントする予定である。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	新アジア仏教史01～10（佼成出版社、2010年～2011年）		
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401B06	期間	前期
授業科目名	真宗史		
英訳科目名	History of Shin Buddhism		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>親鸞聖人によって開かれた浄土真宗は、独特な宗教性や人間観を特徴として人々に受け継がれ展開した。そして大谷廟堂から発展した本願寺は蓮如上人によって大教団へと拡大され、社会的に大きな影響をもつようになる。</p> <p>この講義では、親鸞聖人の生涯、本願寺の成立、蓮如上人と教団の拡大、東西本願寺の分立、現代にいたる本願寺などを中心に、浄土真宗の歴史についてその背景と展開を学ぶ。</p>		
到達目標	<p>親鸞聖人の生涯と浄土真宗の歴史について基本的な事柄を理解し、人間の姿・宗教性・社会と宗教のかかわりなどを踏まえて、日本の文化形成や歴史の特徴について考える視点を身に付けることができるようになる。</p> <p>大学での学び、仏教の思想を通して、自身の生き方を問う姿勢を身に付けることを目指す。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 親鸞聖人の生涯（1）誕生～吉水</p> <p>第3回 親鸞聖人の生涯（2）越後～関東</p> <p>第4回 親鸞聖人の生涯（3）帰洛～往生</p> <p>第5回 大谷廟堂と門弟</p> <p>第6回 本願寺の成立（1）基礎</p> <p>第7回 本願寺の成立（2）発展</p> <p>第8回 蓮如上人と教団の拡大（1）基礎</p> <p>第9回 蓮如上人と教団の拡大（2）発展</p> <p>第10回 東西本願寺の分立</p> <p>第11回 近世の本願寺教団（1）基礎</p> <p>第12回 近世の本願寺教団（2）発展</p> <p>第13回 現代にいたる本願寺（1）基礎</p> <p>第14回 現代にいたる本願寺（2）発展</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	試験60%、講義への参加態度（参加状況）40%。		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身のまわりの「宗教的なもの」「仏教的なもの」「寺院」を観察してみよう。 浄土真宗、親鸞聖人、蓮如上人の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。 ・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や浄土真宗教義・仏教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間（90分） 講義で取り上げた問題や浄土真宗教義・仏教思想について整理する……復習 2時間（90分） 		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	指定しない。講義時にプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	講義中に必要に応じて紹介する。		
その他	月に一度の「定例礼拝」やその他の宗教行事へ参加し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC402C01	期間	前期
授業科目名	日本仏教史 A		
英訳科目名	History of Japanese Buddhism A		
担当教員名	直林 不退		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>宗教・仏教という何か縁遠いと感じる傾向がつよい。その一因として、私たちは、ややもするとその思想の特質のみを、人間社会の現実から、そして自分自身から切り離して、捉えがちではないだろうか。どんな宗教も、苦悩を抱えながら歩み続ける人間に、生きる力を示してこそ、その存在意義があるといえよう。</p> <p>インドで成立した仏教は、中国をはじめとするアジア諸地域を經由して、日本列島にもたらされた。そして、日本列島に住む人々は、仏教との出会いを経験することによって、何を受けとりどのように生き、そして死と向き合っていたのであろうか。</p> <p>一方、アジアの各地域で多彩なひろがりを見せた仏教それ自体も、日本に受容されることによって、かなり変容したようである。仏教は日本において、いかにその姿を変えていったのか。確かに仏教の世界的なスタンダードと比較した場合、日本仏教のあり方は極めて異彩を放っているといえよう。</p> <p>この授業では、「仏教の受容と変容」というテーマを中心として、古代・中世初頭の仏教史を、ともに考えていきたい。</p>		
到達目標	<p>①日本仏教のなりたちについて、インド中国などでの展開を踏まえて、各時代の政治・経済・外交・民衆の動向などと関連付けて、幅ひろく把握できる。</p> <p>②単に過去の歴史事象について、それを客観的に理解するだけでなく、現代社会における仏教のありかたや自身自身の問題をも視野に含めた身近なものとして捉え、将来を考える際の歴史的意識を持つことができる。</p> <p>③これまでの研究成果を、広範に系統立てて整理し、自分なりの歴史像を描くことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 仏教史の学びとは何か？</p> <p>第2回 インド仏教のあゆみ・出家できない人々の救い</p> <p>第3回 中国仏教の歴史的特色・日本仏教への道筋</p> <p>第4回 仏教受容のはじまり・渡来系氏族と仏教</p> <p>第5回 ヤマトの豪族にとっての仏教</p> <p>第6回 聖徳太子（厩戸皇子）の仏教をめぐる</p> <p>第7回 仏教「制度化」の進展</p> <p>第8回 国家と仏教</p> <p>第9回 仏教の社会的ひろがり・僧尼令僧綱制の克服</p> <p>第10回 最澄の生涯と空海</p> <p>第11回 最澄の大乗戒壇の歴史的意義</p> <p>第12回 浄土教のひろがり</p> <p>第13回 鎌倉仏教の歴史的評価・新仏教中心史観</p> <p>第14回 鎌倉仏教の歴史的評価・最近の研究</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 15%</p> <p>授業中の小テスト課題の評価 15%</p> <p>期末レポート 70%</p> <p>本学の「定例礼拝」参加レポートも加味する。</p>		
失格条件	授業への出席や積極的参加の姿勢を著しく欠く場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>授業に先立って、前回の内容から連なる重要なテーマについて、様々な媒体を通じて予備知識を身に付け、授業内容のあらましが理解できるようにしてほしい。</p> <p>授業後は、その日の配布資料の空欄を埋めるとともに、自分のノートなどをよく確認し、紹介した参考文献を実際にひもとき、復習に努める。</p> <p>毎回の予習時間は2時間（90分）、復習時間は2時間（90分）以上とすること。</p>		
課題へのフィード バック	授業中に実施した小テストや課題は、採点またはコメントを付けて個別に返却する。あわせて全体に向けてコメントを行う。		
教科書	特に定めない。 毎回必ず、参考文献を紹介する。 資料などは、毎回配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	直林『構築された仏教思想 妙好人・日暮の中にほとぼしる真実』（佼成出版社）2019年		
その他	特になし		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC402C02	期間	後期
授業科目名	日本仏教史B		
英訳科目名	History of Japanese Buddhism B		
担当教員名	直林 不退		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>日本の仏教は、古代にインド・中国などのアジア諸国からもたらされ、律令国家によって強固な制度の枠をはめられた。それを克服するために、戒律の変革など日本独自の特質を持つにいたり、鎌倉時代に多彩な宗派の成立をみるに至る。</p> <p>そして、中世以降ひろく社会に幅広く浸透し、多くの人々の生活の中に根をはっていった。</p> <p>しかし、近世には、江戸幕府の寺院政策によって、「寺檀制度」という枠組みがはめられ、仏教の活力が次第に失われていった、と捉えられている。その一方で、日本の津々浦々にまでひろがった仏教によって、日本人の毛細血管の隅々にまでいきわたり、豊かな精神性を育み、多彩な文化を創造してきたのも、まぎれもない事実なのだ。</p> <p>そして、明治以後の「近代化」や第二次世界大戦後の社会構造の急激な変化によって、現代の日本仏教は、大きな岐路に立たされているといつてよい。</p> <p>いま、人々の「仏教離れ」がさげられる状況下にあつて、現代の宗教状況に直結する中世・近世・近代の仏教の歩みを辿ってみよう。</p>		
到達目標	<p>①日本の中世以後の仏教の歴史的展開について、古代までの歩みを踏まえううえで、各時代の政治・経済・外交などの状況との関係において、幅広く捉えることができる。</p> <p>②特に、近世・近代に関しては、今までの「通説」にとらわれずに、新しい資料や視点に立脚して、多角的に考えられる。</p> <p>③日本仏教の歩みを振り返ることによって、そのあるべき将来像も、色々と模索できることをめざす。</p> <p>④特に「日本仏教史A」で明らかにした日本仏教の独自性が、今後どのような意味を持ち得るかを展望できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 前期（日本仏教史A）の復習 第2回 鎌倉新仏教の諸相<念仏・禅・法華経信仰> 第3回 鎌倉旧仏教の刷新 第4回 仏教史叙述のはじまり 第5回 仏教の社会的ひろがり・室町期の仏教 第6回 戦国期の仏教 第7回 江戸幕府の宗教政策 第8回 近世仏教の制度的実態 第9回 江戸宗学の発達 第10回 生活の中の仏教 第11回 排仏論のたかまり 第12回 明治維新期の仏教 第13回 「近代化」と仏教 第14回 大正・昭和期の仏教 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 15% 授業中の小テスト課題の評価 15% 期末レポート 70% 本学の「定例礼拝」参加レポートも加味する。</p>		
失格条件	授業への出席や積極的参加の姿勢を著しく欠く場合、失格とする。		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>授業に先立って、前回の内容から連なる重要なテーマについて、様々な媒体を通じて予備知識を身につけ、授業内容のあらましを把握するよう努める。</p> <p>授業後は、その日の配布資料の空欄を埋めるとともに、自分のノートなどをよく確認し、紹介した参考文献を実際にひもとき、復習を行う。</p> <p>毎回の予習時間は2時間（90分）、復習時間は2時間（90分）以上とすること。</p>		
課題へのフィードバック	授業中に実施した小テストや課題は、個別に採点コメントを付けて返却する。あわせて全体にコメントを行う。		
教科書	特に定めない。 毎回必ず、参考文献を紹介する。 資料などは、毎回配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	直林『構築された仏教思想 妙好人 日暮の中にほとぼしる真実』（佼成出版社）2019年		
その他	特になし		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC407B01	期間	前期
授業科目名	仏教思想論		
英訳科目名	Studies of Buddha's Teachings		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	アジア大陸のほぼ東半分に影響を及ぼし、約2500年の歴史を持つ仏教の思想は、人類の英知といっても過言ではない。しかしながら、その仏教の思想は？となると、あまりにも複雑多岐にわたり、窮めて難解でもあり、容易に答えられるものでもない。が、ものごとは「千里の行も足下に始まる」という。大いなる一步を今踏み出し、受講者とともに仏教の思想の海原へ權を下ろし、船をこぎ出そうと思う。そしてその仏教思想をもとに現代社会を生き抜く術を身につけよう。		
到達目標	① 仏教の思想を身につけることで洞察力と思考力を身につけることができる。 ② 身につけた仏教の思想をもとに、現代社会を生き抜くことができる。		
授業計画	第1回 真実は「内なる異文化」の中に：仏教思想論への誘い 第2回 仏陀が見た「真理」について 第3回 「真理」と「慈悲」：仏教の外部性について 第4回 「縁起」攷①：縁起の基本的な考え 第5回 「縁起」攷②：縁起の解釈の変遷 第6回 「空」という思想：般若思想の登場 第7回 究極の真理へ：中観思想について 第8回 「ホトケになる」ということ：仏性論について 第9回 「死者」という他者との出逢い：阿弥陀仏信仰の登場 第10回 「唯識」について：アドラーから仏教心理学へ 第11回 私の心が仏になる：「是心是仏」をめぐる 第12回 「自然」について 第13回 本覚思想：日本の仏教の特質 第14回 親鸞は何を見たのか：『大乘涅槃經』をめぐる問題 第15回 再び「内なる異文化」について：まとめとして		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（毎回のコメント）60%とレポート40%の総合評価		
失格条件	講義回数の3分の1以上の欠席とレポートを出さなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で取りあげる仏教のことばなどについて、事前に調べておく。 授業の後は、ノート整理をして、内容を把握するよう努める。 毎回の予習時間は2時間（90分）、復習時間は2時間（90分）以上とること。		
課題へのフィード バック	毎回のコメント（簡単な課題や質問）について、その次の回にフィードバックを行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	適宜紹介する。		
その他	月に一度の定例礼拝へ出席し、レポートを提出した者は適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC402C03	期間	前期
授業科目名	宗教哲学		
英訳科目名	Philosophy of Religion		
担当教員名	小野 真龍		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>宗教哲学という領域は、哲学の枠組みを前提とする。宗教を批判的自覚する哲学的立場が、宗教哲学であるといえよう。</p> <p>また、哲学が人間とは何かという問いから発せらる限り、死という不可知なものを含みそれに回答を与える宗教との関わりを欠くことはできない。</p> <p>それゆえ、あらゆる哲学は、宗教を否定するにしても、広い意味で宗教哲学でもある。</p> <p>本講義では、宗教哲学の必要な知識を獲得し、宗教を（常に否定的ではなく）批判的に（critically）自覚する思考方法を学ぶ。</p>		
到達目標	代表的な宗教者・哲学者の思想を理解して、宗教哲学の基礎的な知識を得るとともに、彼ら共通の思考方法を通じて、宗教哲学的思考のあり方に触れる。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション～宗教哲学とは？ 以下教科書に沿って検討していく</p> <p>第2回 第一章 源流思想（プラトン、イエス、孔子と孟子など）①</p> <p>第3回 第一章 源流思想（プラトン、イエス、孔子と孟子など）②</p> <p>第4回 第一章 源流思想（プラトン、イエス、孔子と孟子など）③</p> <p>第5回 第一章 源流思想（プラトン、イエス、孔子と孟子など）④</p> <p>第6回 第一章 源流思想（プラトン、イエス、孔子と孟子など）⑤</p> <p>第7回 第二章 日本思想（親鸞、夏目漱石、西田幾多郎など）①</p> <p>第8回 第二章 日本思想（親鸞、夏目漱石、西田幾多郎など）②</p> <p>第9回 第二章 日本思想（親鸞、夏目漱石、西田幾多郎など）③</p> <p>第10回 第三章 西洋近代思想（ルター、カント、ヘーゲルなど）①</p> <p>第11回 第三章 西洋近代思想（ルター、カント、ヘーゲルなど）②</p> <p>第12回 第三章 西洋近代思想（ルター、カント、ヘーゲルなど）③</p> <p>第13回 第四章 現代思想（マルクス、実存主義、フーコーなど）①</p> <p>第14回 第四章 現代思想（マルクス、実存主義、フーコーなど）②</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度、学期末の試験（あるいはレポート）を総合的に評価する（100%）。		
失格条件	3分の1以上の欠席、または、学期末の課題（試験あるいはレポート）を放棄した者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	教科書を読み進める形で行うが、受講生の数によっては、前回の授業のテーマを担当者を決めて、掘り下げてレポートしてもらうことも考えている。 なお、一回の授業に対して、予習1時間、復習3時間の授業時間外の学修が必要である。		
課題へのフィード バック	毎回、興味あるテーマを選んで発表をしてもらうが、その都度、テーマの調査やプレゼンテーションの仕方などについても課題を指摘する。 また、テーマ内容についても、発表者の興味を読み取って、研究すべき思想家を挙げて、さらなる思索の展開を促す。		
教科書	『はじめての哲学・宗教』		
著者名	相澤理		
出版社	大和書房		
参考書	適宜指示する。また、必要があればその都度の授業で参考資料を配布する。		
その他	正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。 遅刻3回で欠席1回とみなす。 月に一度の定例礼拝へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC402B03	期間	前期
授業科目名	比較宗教学		
英訳科目名	Comparative Religion		
担当教員名	三木 英		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>宗教を知ること、学ぶことは実は古臭いことではなく、グローバル社会に生きる私たちこそが努めねばならない、喫緊のものである。なぜなら、世界各国の人々と直接的・間接的に交流することは、現代では常態となっているはずである。そしてその外国の人々の思想・行動の基底には、宗教があるだろう。その宗教を知らずして、彼らとのコミュニケーションが円滑に行えようか。日本人はとかく、自らを宗教嫌いと呼び、宗教に関心を示すことを「変」と捉えたがる節があるが、そうした態度は最早通用しない。世界の多くの宗教、そして自分の国の宗教を知ることが時代の要請である。</p>		
到達目標	<p>国内・国外の宗教文化について、相当の知識を身につけることができる。そうなれば、異文化（異宗教文化）を背景に持つ人々とのコミュニケーションに、大いに裨益する。すなわち、国際人として適切な知識を自分のものにするができると思われる。</p>		
授業計画	<p>第1回 宗教を学ぶことの意義 第2回 日本の宗教①／とくに神道を中心に 第3回 日本の宗教②／とくに仏教を中心に 第4回 日本の宗教③／民俗宗教を中心に 第5回 日本の宗教④／グローバル化と日本の宗教 第6回 アジアの宗教①／東アジアの宗教 第7回 アジアの宗教②／東南アジア、南アジアの宗教 第8回 キリスト教①／その歴史と思想 第9回 キリスト教②／その現代的展開 第10回 イスラーム①／その歴史と思想 第11回 イスラーム②／その現代的展開 第12回 世界の宗教①／仏教・キリスト教・イスラームの現状比較 第13回 世界の宗教②／新宗教運動概観 第14回 宗教に関わる現代世界の諸問題①／文化レベル 第15回 宗教に関わる現代世界の諸問題②／政治レベル</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>期末テスト (50%) 時折に課すレポート (30%) 授業への参加態度 (20%)</p>		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>(初回を除き) 第二回目講義以降は、その前回講義において指定した文献を読んでから講義に出席することを望む。30分程度で読める文献を講師の方で準備し、配布する予定である。 また、講義終了後は、講義内容についてのノートを見直すことを求める。そのなかで疑問点等があるようなら、次回講義において講師に尋ねること。これに要する時間も30分程度と見ていただく。</p>		
課題へのフィード バック	<p>受講生には事前学習をしているか、またノートチェックをしているか、について個別に頻りに問い、アドバイスすることで学習効果を高めてゆく。</p>		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書	その都度、プリントなどを配布指示する。		
その他	とくになし		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC403B02	期間	集中
授業科目名	宗教心理学		
英訳科目名	Psychology of Religion		
担当教員名	釈 徹宗、名越 康文		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	アドラー心理学を軸とした人間関係論を学び、カウンセリングの実際を学ぶ。また、仏教における人間の精神的成長の過程を心理学的に様々な角度から検証し、われわれ21世紀に生きる人間の実生活上の悩みや苦しみ、願望や理想に即した解説と実践論を展開する。これがいわば当面の本連続講義の縦軸である。これを相互的に補足すべく、日本全体の祖といわれる野口春哉の創出した「体癖論」を、臨床心理学的に再構成した気質・性格論を平行して講義する。つまり、縦軸に密教的発達論、横軸に気質・性格分類学を配置して、人間をより包括的にかつ実践的に論じることが本学科の目的である。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の心の成り立ちとその成長過程が把握出来ること。 ・心の制御と成長に必要な実践法が理解され、自らも意志があれば行えたり人に説明することが出来るようになること。 ・気質・性格論を理解し、ある程度他者や自己の気質や行動の理由を推量できるようになること。 		
授業計画	第1回 講義の流れ、趣旨、の説明。体癖論と秘蔵宝鑑の成り立ちについて 第2回 体癖論と秘蔵宝鑑の成り立ちについて（基礎） 第3回 体癖論と秘蔵宝鑑の成り立ちについて（発展） 第4回 宗教心理学の基礎。体癖論の各論。心とは何か、なぜ制御しなければならないのか 第5回 宗教心理学における二つの流れ。体癖論各論。秘蔵宝鑑全体の解説およびその思想性について 第6回 仏教思想と心理学。体癖論各論。具体的な心へのアプローチについて・第一住心との関連において 第7回 体癖論各論。具体的な心へのアプローチ、そのバリエーションについて 第8回 体癖論各論。第二住心すなわち方便としての心へのアプローチとその世界観について 第9回 体癖論各論。第三住心の人間観・世界観について 第10回 体癖論各論。第四・第五住心の心理学的展開について 第11回 体癖論各論。第六・第七住心の心理学的展開について 第12回 体癖論各論。第八・第九住心の心理学的展開について 第13回 体癖論まとめ。第十住心の心理学的展開について（基礎） 第14回 体癖論まとめ。第十住心の心理学的展開について（発展） 第15回 講義まとめ		
評価方法 (合計100%)	レポートの提出100%		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を受けないこと。 ・講義の内容を把握していないこと。こちらが求めるクオリティのレポートを提出できないこと。 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	名越康文『自分を支える心の技法』（医学書院）を通読しておいて下さい。		
課題へのフィード バック	課題提出後、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	『自分を支える心の技法』 医学書院 『どうせ死ぬのになぜ生きるのか』 PHP新書 『体癖論バックナンバー』 http://nakoshiyasufumi.net/		
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（釈） 精神科医としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（名越）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC404B01	期間	前期
授業科目名	仏教と社会福祉		
英訳科目名	Buddhism and Social Welfare		
担当教員名	日高 明		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>●社会福祉とは何か、お寺には何ができるのか</p> <p>福祉とは支援を必要とする人にサービスを提供すること、あるいはそのための制度を指しますが、もともとは「しあわせ」を意味する言葉です。仏教僧は、慈悲の精神を背景として古くから福祉的な活動を行って来ました。行政施策としての社会福祉と、仏教者が行ってきた福祉的な活動とは、どのような点で共通し、どのような点で相違しているのでしょうか。</p> <p>本講義は社会福祉の歴史を振り返り、仏教者が行ってきた福祉的な活動について学びます。講義を通して、「社会福祉とはなにか、お寺には何ができるのか」を考えていきましょう。</p>		
到達目標	<p>現代の社会福祉の大枠を捉え、その根本にある思想について理解する。</p> <p>講義やレポート提出を通して、受講者自身が、今後の寺院や僧侶のあり方について考える。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：講義の概要や進行方法、評価の仕方について</p> <p>第2回 社会福祉の歴史（国家による社会福祉の制度はどのように生まれ、発展してきたか？）</p> <p>第3回 日本の社会保障制度（どのような制度やサービスがあるのか？）</p> <p>第4回 日本の社会保障と財政危機（年金・医療・介護…お金は大丈夫？）</p> <p>第5回 宗教と社会福祉（宗教は福祉とどのように関わってきたか）</p> <p>第6回 宗教と社会福祉（キリスト教と社会福祉）</p> <p>第7回 仏教福祉の歴史①（仏教者はどう行動してきたか？古代～中世）</p> <p>第8回 仏教福祉の歴史②（仏教者はどう行動してきたか？近世～近代）</p> <p>第9回 現代日本、宗派・寺院・僧侶による取り組み①（コミュニティのツナガリを求めて）</p> <p>第10回 現代日本、宗派・寺院・僧侶による取り組み②（生老病死にかかわる）</p> <p>第11回 現代日本、宗派・寺院・僧侶による取り組み③（社会問題に取り組む）</p> <p>第12回 社会貢献活動の主体と活動の持続可能性 （どのような制度を使い、どのような手順を踏んで始めるのか？活動を続けていくには？）</p> <p>第13回 社会貢献活動における寺院の利点（お寺が持っている強みとは？）</p> <p>第14回 宗教者としての僧侶の葛藤（活動を行う僧侶は何に悩むのか？）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>レポート提出50%</p> <p>講義への参加態度50%</p> <p>レポートには、期末レポートだけでなく、学期中に課す小レポートや、定例礼拝へ出席したさいのレポートを含めます。</p> <p>講義への参加態度は、聴講態度や講義中の意見、毎回の講義後に書いてもらう感想シート、小テストを含めて総合的に判断します。</p>		
失格条件	出席回数が授業全体の3分の2に満たなかった場合、失格とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義中に、前回分の講義の内容確認のため、小テストを実施することがあります。		
課題へのフィード バック	課題提出後の授業で全体に向けてコメントします。		
教科書	講師が作成したプリントを用います。		
著者名			
出版社			
参考書	使用するプリントに掲載、あるいは講義中に必要に応じて板書により紹介します。		
その他	月に一度の定例礼拝へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価します。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC407B02	期間	前期
授業科目名	真宗学概論		
英訳科目名	Introduction to Jodo Shinshu Teaching/Introduction to Shin Buddhism Studies		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>親鸞聖人が明らかにされた浄土真宗の教えを体系的に学ぶ。悩みをかかえて生きる人間の姿、苦悩を越える道としての釈尊の教え、親鸞聖人が歩んだ念仏の生活などについて概観する。</p> <p>講義では、『顕浄土真実教行証文類』（『教行信証』）をはじめとした親鸞聖人の著述を通して、浄土三部経の教えと真宗教義の要点を窺う。</p> <p>親鸞聖人の求道と、その結果出遇われ、明らかにされた真実の教えを学ぶことを通して、仏教の思想を自身の問いとして思索していく姿勢を考えていきたい。</p>		
到達目標	<p>浄土真宗の教義、親鸞聖人の生涯の問いについての基本的な事柄を学び、人間の姿・苦悩のメカニズム・人生を生き抜く智慧について考える視点を身に付けることができる。大学での学び、建学の精神を通して、自身の生き方を見つめることの大切さを考える。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 釈尊の教えと大乘仏教</p> <p>第3回 日本の仏教と浄土教</p> <p>第4回 法然聖人と親鸞聖人</p> <p>第5回 親鸞聖人の生涯の問い</p> <p>第6回 親鸞聖人の著述</p> <p>第7回 親鸞聖人の教え「人間」</p> <p>第8回 親鸞聖人の教え「阿弥陀仏」</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え「本願」</p> <p>第10回 親鸞聖人の教え「名号」</p> <p>第11回 親鸞聖人の教え「信心」</p> <p>第12回 親鸞聖人の教え「称名」</p> <p>第13回 親鸞聖人の教え「利益」</p> <p>第14回 親鸞聖人の教え「浄土」</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	試験60%、講義への参加態度（参加状況）40%		
失格条件	3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス</p> <p>浄土真宗の教義、仏教の思想は、先人の経験と研鑽による積み重ねが多数あるので、それらの文献を読み進めることが大事である。その場合、文字の表面上だけでなく、文章の深意を汲み取る読み解きと、自身の生き方の問いとしての視点が重要となる。種々の文献と、他者の意見に興味を持ってアンテナを張り、吸収することが学びを進める鍵となる。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <p>親鸞聖人・浄土真宗に関する参考文献を読む……………予習 2時間（90分）</p> <p>講義時に取り上げた問題と浄土真宗教義について整理する…復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	指定しない。授業中にプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC402B04	期間	後期
授業科目名	真宗聖典学		
英訳科目名	Shin Buddhism Scriptures		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>浄土真宗の教えの構造は、浄土三部経とその解釈書としての七高僧の論釈を根底として成り立っている。これを救済の根拠として、親鸞聖人は、悩み多い人生を力強く生き抜く念仏の道を、『教行信証』をはじめ数多くの著述に明らかにされた。</p> <p>授業では聖典の特徴や親鸞聖人の聖典拝読の姿勢に留意しながら、経典の成立、大乘仏教の展開をふまえて、浄土三部経と『教行信証』の概要を学ぶ。聖典を拝読することを通して、自身の生き方を問うという視点から、真宗教義の内容・特色を考察したい。</p>		
到達目標	<p>浄土三部経と『教行信証』の基本的な事柄を学び、人間の姿・苦悩のメカニズム・人生を生き抜く智慧について、聖典を通して考える視点を身に付けることができる。大学での学び、建学の精神を通して、自身の生き方を見つめることの大切さを考える。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 第2回 聖典の拝読と経典の成立 第3回 仏教の東漸と経典の漢訳 第4回 日本の仏教と浄土教 第5回 浄土三部経と『仏説無量寿経』について 第6回 『仏説無量寿経』を学ぶ①基礎 第7回 『仏説無量寿経』を学ぶ②発展 第8回 『仏説観無量寿経』を学ぶ①基礎 第9回 『仏説観無量寿経』を学ぶ②発展 第10回 『仏説阿弥陀経』を学ぶ 第11回 『教行信証』を学ぶ①基礎 第12回 『教行信証』を学ぶ②発展 第13回 親鸞聖人の著述を学ぶ 第14回 真実五願と生因三願 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	試験60%、授業への参加態度(参加状況)40%		
失格条件	3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 浄土真宗の教義、仏教の思想は、先人の経験と研鑽による積み重ねが多数あるので、それらの文献を読み進めることが大事である。その場合、文字の表面上だけでなく、文章の深意を汲み取る読み解きと、自身の生き方の問いとしての視点が重要となる。文献研究に必要な、辞書や参考図書の扱い方を身に付け、他者の意見に興味を持ってアンテナを張り、吸収することが学びを進める鍵となる。 ・授業時間外における予習・復習等に必要時間 拝読する聖教や仏教教義・浄土真宗教義に関する参考文献を読む……予習 2時間(90分) 拝読した聖教や問題となった仏教教義・浄土真宗教義について整理する…復習 2時間(90分) 		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	指定しない。授業中にプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	月に一度の定例礼拝へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC401C01	期間	集中
授業科目名	宗門法規		
英訳科目名	Rules of Shin Buddhism Organization		
担当教員名	宗本 昌延		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	浄土真宗本願寺派（宗門）の諸法規について 浄土真宗本願寺派教師の資格取得の必須科目の一部として「宗門法規」があり、他の必須科目と併せて取得することにより、教師授与申請の資格が整い、教師取得により寺院住職、布教使、開教使等の就任の途が開かれることとなる。宗門の法規を学ぶことにより、宗門の目的及び組織について理解を深める。		
到達目標	浄土真宗本願寺派（宗門）の組織が理解できる。 浄土真宗本願寺派（宗門）の本山たる本願寺の目的及び構成が理解できる。 浄土真宗本願寺派（宗門）と本願寺の関係が理解できる。 浄土真宗本願寺派（宗門）法規の制定の歴史が理解できる。 憲法に規定される「信教の自由・政教分離の原則」が理解できる。		
授業計画	第1回 はじめに 第2回 宗教法の変遷について 第3回 宗門の諸法規の体系について 第4回 宗門の諸法規の概要について① 第5回 宗門諸法規の概要について② 第6回 宗門の組織機構と活動について① 第7回 宗門の組織機構と活動について② 第8回 宗門の組織機構と活動について③ 第9回 宗門の組織機構と活動について④ 第10回 宗門の組織機構と活動について⑤ 第11回 宗門の本山（本願寺）の役割と活動について 第12回 本山以外の寺院の役割と活動について 第13回 宗教法人法の概要について① 第14回 宗教法人法の概要について② 第15回 まとめ（筆記試験）		
評価方法 (合計100%)	筆記試験 100%		
失格条件	筆記試験を受けなかった場合 試験の時間内に答案用紙の提出がなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	本山（本願寺）の歴史を理解することにより、宗門（浄土真宗本願寺派）の目的及びそのための組織を規定する 宗門の法規の理解が容易になる。（予習2時間・復習2時間）		
課題へのフィード バック	小テストを実施し、授業時間内に解説する。		
教科書	浄土真宗本願寺派「宗門基本法規集」		
著者名	編集 浄土真宗本願寺派 所務部編集		
出版社	本願寺出版社		
参考書			
その他			
備考	浄土真宗本願寺派宗務所での実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC403B04	期間	後期
授業科目名	布教法		
英訳科目名	Missionary Rules of Shin Buddhism		
担当教員名	赤井 智顕		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	宗教においては、教えを正確に他の人々に伝達していくことの重要性があることはいままでもありません。特に浄土真宗は聞法（仏法を聞くこと）が中心であるため、布教伝道の役割が重要視されています。本講義では布教伝道の理論を浄土真宗の教えに基づき、ともに考えていきます。けれど単に理論を学ぶだけでは実際に伝道していくことは困難です。いま布教現場では何が問題となり、課題となっているのか、という伝道の現代的課題を視野に入れながら、理論面と実践面の修得を目指します。		
到達目標	宗教的な問いについて、自ら考え、考えたことを自らの言葉で表現することができる。		
授業計画	第1回 ガイダンス ～ 自信教人信・学仏大悲心～ 第2回 宗教の意義 第3回 宗教の役割とメカニズム 第4回 仏教誕生の背景 ～なぜ仏教は生まれたのか？～ 第5回 釈尊の伝道とその後のサンガ 第6回 法然聖人から親鸞聖人へ ～教えの伝承と伝道姿勢～ 第7回 親鸞聖人の生涯から学ぶ 第8回 『無量寿経』の教え 第9回 浄土真宗の救い ～悪人正機～ 第10回 仏の願いを聞く ～他力本願～ 第11回 浄土の世界 ～往生浄土～ 第12回 法話について ～法話の構成と要～ 第13回 法話について ～譬喩・因縁などの用い方～ 第14回 法話について ～服装・作法～ 第15回 布教実演（プレゼンテーション）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	50%	
	課題	50%	
失格条件	レポートを提出しなかった者。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・宗教について、例えば〈宗教に対するイメージ〉〈生きる意味〉〈死後の世界〉などについて、周囲の人たちと対話したり、講義で紹介する参考書籍を読むなどして、自分自身の考えを深めてみましょう。（予習時間 2時間） ・仏法を聞く聴聞の機会を積極的に持ちましょう。（復習時間 2時間）		
課題へのフィードバック	・課題提出時の授業で、全体に向けてコメントします。 ・実演の取り組みに対して、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC409B01	期間	後期
授業科目名	勤式作法		
英訳科目名	Rule of Shin Buddhism Ritual		
担当教員名	近松 照俊、近松 真定		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	浄土真宗本願寺派のおつとめに関する基礎知識を中心に、唱法・作法等について講義する。 この講義を通して、おつとめの心、儀礼の心、阿弥陀如来の智慧と慈悲の中に生かされている「いのち」の尊さや、人と人との繋がりの中で、昨今忘れかけられている「おかげさま」の心と禮（らい）の姿勢を学ばれたい。		
到達目標	1.定められた音程でおつとめを唱えることができるようになること。 2.定められた動きで作法ができるようになること。		
授業計画	第1回 おつとめの心得と基本姿勢、作法について 第2回 基本指導。偈文の勤行（重誓偈、讃仏偈）の読法について 第3回 偈文の勤行（十二礼）と意識勤行（らいはいのうた、さんだんのうた、他）の読法について 第4回 正信偈草譜の読法について① 第5回 正信偈草譜の読法について② 第6回 正信偈草譜の読法について③ 第7回 正信偈行譜の読法について① 第8回 正信偈行譜の読法について② 第9回 正信偈行譜の読法について③ 第10回 念仏・和讃六首引き（弥陀成仏のこのかたは～）の読法について① 第11回 念仏・和讃六首引き（弥陀成仏のこのかたは～）の読法について② 第12回 葬場勤行① 第13回 葬場勤行② 第14回 御文章（聖人一流章、白骨章） 第15回 試験		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 試験 40% 授業中における実唱、実演 30%		
失格条件	出席すべき日数のうち3分の1以上の欠席 試験を受けなかったもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	最初は慣れることが大切なので、授業ごとに習得したものを反復してしっかりと身につけて浄土真宗本願寺派の基本的なおつとめと作法を身につけて欲しい。（復習2時間） 実演が授業内容の大部分になるので、休まないことが上達の秘訣である。（予習2時間）		
課題へのフィード バック	試験終了後に全体に向けて総評します。その後、マンツーマンでの指導をします。		
教科書	浄土真宗本願寺派 浄土真宗聖典 勤行集 浄土真宗本願寺派 葬場勤行集		
著者名	浄土真宗本願寺派 浄土真宗聖典 勤行集・・・浄土真宗本願寺派 教学振興委員会（編集）;浄土真宗本願寺派 葬場勤行集・・・勤式指導所（編集）		
出版社	浄土真宗本願寺派 浄土真宗聖典 勤行集・・・本願寺出版社;浄土真宗本願寺派 葬場勤行集・・・本願寺出版社		
参考書			
その他	尚、受講生の習熟度によっては講師自坊（八尾市 顕証寺）において適宜補講を行い、実際に堂内で実習する場合もある。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC407B03	期間	後期
授業科目名	宗教社会活動論		
英訳科目名	Religion and Social Engagement		
担当教員名	霍野 廣由、釋 大智		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>社会問題に対して、宗教的な観点から考え、実際の現場を見聞することを通して、自らの在りようを見つめる授業です。</p> <p>この授業では、先ず宗教や社会、社会活動の概念からスタートし、次に身近にある社会問題や活動を学びます。さらに、宗教や宗教者がなぜ社会的活動に関わるのか、どのように関わってきたのかを具体例をもとに考えます。</p> <p>具体的な社会問題として、貧困と自死・自殺を取りあげます。貧困と自死・自殺に対する知識を深め、宗教がどのように関わっているのか、私たちがどのように関わることができるのかを考えます。また、実際にフィールドワークにも出かけ、宗教者がたずさわる自死・自殺の活動について見聞します。</p> <p>本授業は、単に担当教員が知識を教授するにとどまらず、受講生とのコミュニケーションを通して、ともに宗教と社会活動について考えます。そのために、ワークショップなどの手法を積極的に取り入れ、教員と受講生がともに学びあう授業を目指します。</p>		
到達目標	<p>社会問題に対して関心を高める。</p> <p>社会問題に対して宗教的な観点から思考する。</p> <p>自分とは違う意見や考えを尊重する態度を身につける。</p> <p>自らの生き方を見つめる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業計画、評価について共有）「この授業、将来役に立ちそうだな」</p> <p>第2回 宗教と社会活動の概観を理解する「テロは何で起こるんだろう？」</p> <p>第3回 社会問題について知る「日本は平和だし、別に社会問題とか無いんじゃないの？」</p> <p>第4回 宗教者の社会活動について知る「宗教者ってお葬式とかしてるだけじゃないの？」</p> <p>第5回 貧困の問題の概観を理解する「貧困？外国の話でしょう?!」</p> <p>第6回 貧困にかかわる宗教者の活動事例を知る、貧困の問題に対して私たちは何ができるのか考える 「もしかしたら、貧困はわりと身近にある問題なのかもしれない…」</p> <p>第7回 自死・自殺の問題の概観を理解する「なんで自殺するんだろう？」</p> <p>第8回 自死・自殺にかかわる宗教者の活動事例を知る、フィールドワークに向けて準備する 「ワクワク、ドキドキ、フィールドワーク」</p> <p>第9回 フィールドワーク 自死・自殺の活動を見聞する（大阪市内）※変更の可能性あり</p> <p>第10回 フィールドワーク 自死・自殺の活動を見聞する（大阪市内）※変更の可能性あり</p> <p>第11回 フィールドワークを振り返る、自死・自殺の問題に対して私たちは何ができるのか考える 「自殺って他人事の話じゃないのかもしれないな…」</p> <p>第12回 宗教はなぜ社会問題にかかわるのかを理解する「なぜ宗教者は社会活動するの？」</p> <p>第13回 私たちはどのように社会問題にかかわることができるのか考える「こんなことなら、私もできるかも！」</p> <p>第14回 授業のまとめ</p> <p>第15回 理解度の確認</p> <p>※毎回教員兩名が担当する</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度	50%	
	フィールドワークへの参加	10%	
	試験	40%	
失格条件	なし		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>・予習復習はそれぞれ90分を目安とする。</p> <p>・内容に関しては適宜教員が指示する。</p>		
課題へのフィードバック	発表やレポートをおこなう場合、必要に応じて個別もしくは全体にコメントを返します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	教員が随時指示する		
その他	本講義は、教員・受講生同士のコミュニケーションの時間を多くとり、ワークショップも積極的に取り入れられます。このような経験は、就職活動、あるいは大学卒業後、会社や組織のなかで働く際にも、大いに役立つものと考えます。このことの趣旨を理解し、このような活動をいとわない学生の受講を期待します。		
備考	<p>僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（霍野）</p> <p>僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（釋）</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC409B02	期間	集中
授業科目名	ビハーラ演習		
英訳科目名	Vihara Seminar		
担当教員名	岩井 未来		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>あなたは、どのように他者を想い、他者と関わっているのだろうか。その人と関わる、人を支援する根底には、それぞれの人生経験によって培われた人間観、生まれてくること、生きること、死んでいくことをどのように感じ考えているのかという死生観、この世界をどのように捉えているのかという世界観が影響してくる。受講生同士の対話を通して、人間観、死生観、世界観を深めていきたい。</p> <p>ケアの基本である、傾聴については体験的に学ぶ。自分の話をきいてもらう体験・他者の話をきくという体験はどのようなことであるのか、体験的に理解する。他者の話をきけるような実践的な体験学習をしたい。</p>		
到達目標	自身の死生観を言語化する		
授業計画	<p>第1回 ビハーラケアとは①基礎 第2回 ビハーラケアとは②発展 第3回 ビハーラケアとは③応用 第4回 ワーク①死生観を深める（基礎） 第5回 ワーク②死生観を深める（発展） 第6回 ワーク③死生観を深める（応用） 第7回 ワーク④体験を語る・きく（基礎） 第8回 ワーク⑤体験を語る・きく（発展） 第9回 ワーク⑥体験を語る・きく（応用） 第10回 病院見学① 第11回 病院見学② 第12回 病院見学③ 第13回 病院見学④ 第14回 病院見学⑤ 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度：50% レポート：50%		
失格条件	出席回数が3分の2以上に満たない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	他者に話す、きく体験に意識を向けて気づくことがないか考えてみましょう（予習2時間・復習2時間）		
課題へのフィード バック	講義終わりに書いてもらうミニレポートにコメントを返します。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	チャプレンとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC402C04	期間	前期
授業科目名	真宗教学史・教団史		
英訳科目名	History of Jodo Shinshu Teaching Organizations		
担当教員名	天岸 浄圓		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	法然を継承した親鸞の浄土真宗の教学を原点として、その後に展開する覚如、蓮如の教学を学ぶことで、浄土真宗の教学と教団史の全体像を理解することができる。		
到達目標	法然、親鸞、覚如、蓮如と展開していく教学と教団の変遷を正確に理解する。		
授業計画	第1回 法然による浄土宗の確立 第2回 法然の弟子の流派について 第3回 親鸞の生涯 第4回 親鸞教学の特色(1) 浄土真宗の確立 第5回 親鸞教学の特色(2) 他力・念仏・信心 第6回 親鸞の弟子達 第7回 大谷廟堂の建立と覚如の本願寺確立 第8回 覚如教学の特色 第9回 存覚教学の特色 第10回 存覚と仏光寺 第11回 蓮如による本願寺教団の大成 第12回 『御文章』の中心教学 信心正因・称名報恩 第13回 『御文章』と本願寺教団 第14回 戦国時代の本願寺 第15回 東西本願寺の分流とその後		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 理解度 30% 課題等の提出 20%		
失格条件	出席率が60%に達しない者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	理解度を重視するため、講義はテキストを読むこと中心に進めてゆく。講義前にテキストを予習しておかなければ理解できない。(予習2時間・復習2時間)		
課題へのフィード バック	課題提出後、少人数ならコメントして個別に返却します。大人数なら授業で全体にコメントします。		
教科書	浄土真宗聖典『註釈版』		
著者名			
出版社	本願寺出版社		
参考書			
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC409C01	期間	前期
授業科目名	真宗儀礼演習		
英訳科目名	Seminar inShin BuddhismLiturgy		
担当教員名	近松 照俊、近松 真定		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	天台聲明を参照しつつ、本願寺聲明を中心に聲明の基本姿勢、歴史、唱え方などを指導する。 また、本願寺の重要な法要の作法についても聲明とともに指導する。		
到達目標	聲明の博士（聲明の譜字記号）を見ながら、重要な本願寺聲明（特に、先請伽陀、頌讚、読物等を中心に）を丁寧かつ、正確に唱えられるようにする。		
授業計画	第1回 本願寺聲明の実演・聲明の素晴らしさについて 第2回 聲明の意義① 第3回 聲明の意義② 第4回 聲明の構造・博士（聲明譜の記号）について 第5回 各博士の唱え方① 第6回 各博士の唱え方② 第7回 各博士の唱え方③ 第8回 各博士の唱え方④ 第9回 各博士の唱え方⑤ 第10回 先請伽陀 第11回 頌讚 第12回 御文章 第13回 御伝鈔 第14回 登礼盤作法、華籠の扱い方について 第15回 試験		
評価方法 (合計100%)	試験 (50%) 授業への参加態度 (30%) 平常点 (20%)		
失格条件	出席すべき日数のうち3分の1以上の欠席 試験を受けなかったもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義終了時に次回の講義が円滑に進めるべく練習課題を指示する。（予習時間 2時間） 最初は慣れることが大切なので、授業ごとに習得した事柄を反復して自分のものとして欲しい。 （復習時間 2時間）		
課題へのフィード バック	試験終了後に全体に向けて総評します。その後、マンツーマンでの指導をします。		
教科書	『浄土真宗本願寺派 勤式集』（本願寺出版社） 『御伝鈔 唱読用』（永田文昌堂） その他、適宜必要に応じて指示する。		
著者名			
出版社			
参考書	『浄土真宗本願寺派 法式規範』		
その他	尚、受講生の習熟度によっては講師自坊（八尾市 顕証寺）において適宜補講を行い、実際に堂内で実習する場合もある。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	期間	前期
授業科目名	真宗学特殊講義	
英訳科目名		
担当教員名	佐々木 隆晃	
ディプロマ・ポリシー1	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>親鸞聖人が明らかにされた浄土真宗の教えについて、その内容と構造を体系的に学ぶ。</p> <p>講義では、浄土真宗の聖教、特に「正信念仏偈」「和讃」などを通して、悩みをかかえて生きる人間の姿、苦悩を越える道としての念仏などについて考察する。</p> <p>浄土真宗の聖教を通して、阿弥陀仏の救い、念仏、他力信心の特徴、信心正因・称名報恩という真宗の正義を学びたい。</p>	
到達目標	<p>浄土真宗の教義、親鸞聖人の生涯の問いについての基本的な事柄を学び、人間の姿・苦悩のメカニズム・人生を生き抜く智慧について考える視点を身に付けることができる。</p> <p>さらに、研究テーマに関する文献を集めて内容を検討し、自身の研究成果を整理完成させる技術を習得する。発表や質疑応答を通して、資料作成・意見交換などの表現力を身に付けることができる。</p>	
授業計画	<p>第1回 インTRODククション</p> <p>第2回 親鸞聖人と「正信念仏偈」「和讃」(1) 基礎</p> <p>第3回 親鸞聖人と「正信念仏偈」「和讃」(2) 発展</p> <p>第4回 「正信念仏偈」講読(1) 帰敬頌(婦命無量寿如来～)</p> <p>第5回 「正信念仏偈」講読(2) 依経段(法蔵菩薩因位時～)</p> <p>第6回 「正信念仏偈」講読(3) 依経段(如来所以興出世～)</p> <p>第7回 「正信念仏偈」講読(4) 依経段(龍樹・天親)</p> <p>第8回 「正信念仏偈」講読(5) 依経段(曇鸞・道綽)</p> <p>第9回 「正信念仏偈」講読(6) 依経段(善導・源信・源空)</p> <p>第10回 「和讃」講読(1) 冠頭讃</p> <p>第11回 「和讃」講読(2) 浄土和讃(讃弥陀偈讃)</p> <p>第12回 「和讃」講読(3) 浄土和讃(三経讃ほか)</p> <p>第13回 「和讃」講読(4) 正像末和讃(三時讃)</p> <p>第14回 「和讃」講読(5) 正像末和讃(悲歎述懐讃ほか)</p> <p>第15回 まとめ</p>	
評価方法 (合計100%)	試験50%、発表内容と講義への参加態度(参加状況)50%。	
失格条件	3分の1以上の欠席。	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス</p> <p>浄土真宗の教義、仏教の思想は、先人の経験と研鑽による積み重ねが多数あるので、それらの文献を読み進めることが大事である。その場合、文字の表面上だけでなく、文章の深意を汲み取る読み解きと、自身の生き方の問いとしての視点が重要となる。種々の文献と、他者の意見に興味を持ってアンテナを張り、吸収することが学びを進める鍵となる。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <p>親鸞聖人・浄土真宗に関する参考文献を読む……………予習 2時間(90分)</p> <p>講義時に取り上げた問題と浄土真宗教義について整理する…復習 2時間(90分)</p>	
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。	
教科書	指定しない。授業中にプリントを配布する。	
著者名		
出版社		
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。	
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。	
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。	
科目生への開講	なし	

ナンバリング	BC409C02	期間	前期
授業科目名	真宗伝道演習		
英訳科目名	Seminar inShin BuddhismPropagation		
担当教員名	金澤 豊		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	宗教は何を問題とし、何を人類に発信してきたのでしょうか。昨今、ややもすると誤解されがちな宗教に対する現代人の感覚を見つめ直し、宗教や仏教の存在意義をあらためて考えます。また仏教である浄土真宗は、どのような教えの内容を保持し、時代と場所を超えて世界に伝播していったのでしょうか。本講義では真宗伝道の理論を浄土真宗の教義に基づいて学びつつ、多様な課題を抱える現代の伝道現場において、いかに宗教的真理を語っていけば良いのかを、具体的に考究していきます。		
到達目標	宗教の存在意義や、仏教・浄土真宗の教えの内容を、自身の言葉で語ることができる。		
授業計画	第1回 宗教はどのようにイメージされるのか？ 第2回 お寺や神社はどのような場所なのか？ 第3回 なぜインドに仏教が誕生したのか？ 第4回 現代に息づく仏教の教え 第5回 浄土真宗の伝道について ～自信教人信のころ～ 第6回 私の発見① ～「悪人正機」を考える～ 第7回 私の発見② ～「悪人正機」を考える～ 第8回 他力の世界① ～「他力本願」を考える～ 第9回 他力の世界② ～「他力本願」を考える～ 第10回 浄土の風光① ～「往生浄土」を考える～ 第11回 浄土の風光② ～「往生浄土」を考える～ 第12回 現代の宗教的状況 ～危機と機会～ 第13回 現代人の宗教的感性に訴えかけるものとは 第14回 宗教的な〈物語り〉 第15回 あらためて伝道を考える		
評価方法 (合計100%)	授業での参加態度 50% 課題 50%		
失格条件	5回以上欠席した者 レポートを提出しなかった者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・浄土真宗について、周囲の人たちと対話したり、講義で紹介する参考書籍を読むなどして、自分自身の考えを深めてみましょう。(予習時間 2時間) ・仏法を聞く聴聞の機会を積極的に持ちましょう。(復習時間 2時間)		
課題へのフィード バック	毎回講義の最後にコメントシートの提出を求めます。 次の講義の最初にフィードバックの時間を設けます。		
教科書	特になし。 毎回プリントを配布しますので、整理が必須です。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	難しいから諦めるのではなく、知らなかったことを知る喜びを感じて欲しいと思います。 話題は仏教を中心に時事問題、地域情報、サブカルチャーなど様々提供します。 受講生は、私語厳禁、単に在席しているだけでなく、対話の姿勢を心がけてください。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC408C01	期間	前期
授業科目名	寺院運営論		
英訳科目名	Buddhist Temple Management		
担当教員名	釈 徹宗、日高 明		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>今、日本の伝統仏教寺院は大きな転換期を迎えています。それまで寺院の立脚基盤だった「地域コミュニティ」や「宗教儀礼」が急速に変貌しているからです。そのため、好むと好まざるとに関わらず、寺院は潮目の変わり時に直面しているのです。</p> <p>だからこそ、寺院運営がとてもエキサイティングな時期であるとも言えるでしょう。これからの寺院の可能性模索から実務的な処理に至るまで、多角的に寺院運営を考察します。</p>		
到達目標	寺院運営に必要な基礎力を身につける。現代社会と寺院とのあり方について考えることができる。		
授業計画	<p>第1回 寺院の現状について(担当:釈)</p> <p>第2回 これまでの寺院のあり方を振り返る(1) 本末制度、檀家制度(担当:釈)</p> <p>第3回 これまでの寺院のあり方を振り返る(2) 法人法(担当:日高)</p> <p>第4回 事例研究(1) 寺院の抱えるトラブル(担当:日高)</p> <p>第5回 事例研究(2) 新しい取り組み(担当:釈)</p> <p>第6回 寺院運営の基礎(1) 必要な業務(担当:釈)</p> <p>第7回 寺院運営の基礎(2) 運営理念(担当:日高)</p> <p>第8回 寺務の基礎(1) 法人業務の実際(担当:日高)</p> <p>第9回 寺務の基礎(2) 寺院の年間活動(担当:釈)</p> <p>第10回 地域コミュニティ型寺院(1) ブリッジング、ボンディング(担当:釈)</p> <p>第11回 地域コミュニティ型寺院(2) 子育て、介護(担当:日高)</p> <p>第12回 都市型寺院(1) 應典院の場合(担当:日高)</p> <p>第13回 都市型寺院(2) 都市の共同体(担当:日高)</p> <p>第14回 寺院の公共性(1) 近代成熟期のコミュニティ(担当:釈)</p> <p>第15回 寺院の公共性(2) 総論(担当:日高)</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への受講態度・宗教行事への参加 55% 試験・レポート・課題・提出物 45%		
失格条件	提出物の不提出や、試験への不参加		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>いろいろなお寺のモデルを観察する。</p> <p>公共性の高い活動に参加する。</p> <p>授業時間外における予習・復習等に必要時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教関係の本を読む…予習 2時間 ・授業のプリントやノートを見直す…復習 2時間 		
課題へのフィードバック	課題提出後、全体に向けてコメントします。		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考	<p>僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(釈)</p> <p>僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。(日高)</p>		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC405B01	期間	後期
授業科目名	仏教文化講読 1		
英訳科目名	Readings in Buddhist Culture Texts 1		
担当教員名	寺本 知正		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	当講義では、仏教とその文化表象を、民俗学的・文化人類学的観点を変え、生活文化・大衆文化に広く領域を求めて講読を進めていきます。大衆文化とは、日常生活の構築のプロセスが分析される場であり、この講義では、「日本のマンガ・アニメ」を大衆文化として取り上げ、日本人の日常生活に組み込まれている宗教的・仏教的要素を読み解いていきたいと思ひます。仏教文化研究および大衆文化研究の方法論を案内しながら、マンガ・アニメの作品を読み進めたいと思ひます。		
到達目標	仏教文化研究および大衆文化研究の方法論を案内しながら、仏教およびその文化との関連への理解を深め、仏教文化研究の様々な方法や領域にふれて、幅広い知識と理解力を身につけるとともに、今後研究するにあたっての多角的な検討力を身につける。		
授業計画	第1回 宮原浩二郎「知的触媒としてのマンガ」 第2回 宮原浩二郎「知的触媒としてのマンガ」 第3回 山中弘「マンガ文化のなかの宗教」 第4回 山中弘「マンガ文化のなかの宗教」 第5回 山中弘「マンガ文化のなかの宗教」 第6回 佐藤史生『ワン・ゼロ』 第7回 日渡早紀『僕の地球を守って』 第8回 井上雅彦『バガボンド』 第9回 宮崎駿『もののけ姫』 第10回 宮崎駿『千と千尋の神隠し』 第11回 手塚治虫『火の鳥』 第12回 諸星大二郎『妖怪ハンター』 第13回 中村光『聖おにいさん』 第14回 宮崎駿『風の谷のナウシカ』 第15回 荒木飛呂彦『ジョジョの奇妙な冒険』		
評価方法 (合計100%)	期末テスト 60% レポート・小テスト（授業期間中に実施） 10% 授業への参加態度 30%		
失格条件	理由無き講義欠席が3分の1に達した場合は失格とします。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	参考となる文献およびその章やページを授業中に紹介しますので、講義後に参照してください（予習2時間・復習2時間）。		
課題へのフィード バック	期末にレポートの作成・発表をもらい、コメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	参考文献およびその必読の章やページを授業中に紹介します。		
その他	授業はこちらで準備する資料に沿いながら進めます。事前にテキストを読んでおく必要はありません。授業中にいっしょに読み進めましょう。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC406B01	期間	集中
授業科目名	仏教文化講読2		
英訳科目名	Readings in Buddhist Culture Texts 2		
担当教員名	井上 陽、宮崎 哲弥		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	明治に入ったわが国は「近代」という新たな潮流の中で、開化期を迎えた。それは、日本に仏教が伝来しておよそ1300年のこと。仏教もまた「近代」と出会うことになる。そして、そこで出会ったのが西洋を経由して伝わった釈迦の仏教、つまり「初期仏教」であった。各宗派は初めて目の当たりにする「初期仏教」と対峙しつつ、宗派の近代化を図った。近代日本が出会った「初期仏教」とは…。以下の講義計画のテーマにもとづいて講義を進める。		
到達目標	近代仏教学の歩みを学び、近代以降に明らかになった仏教と、その仏教の流れを理解することができる。その学びを通して、総合的な分析力、判断力、思考力を高める。		
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 仏教とは何か 第3回 「ブッダ」という存在 第4回 「縁起」について①縁起という迷宮 第5回 「縁起」について②第一次縁起論争の解剖 第6回 「縁起」について③第二次縁起論争の深層 第7回 「縁起」について④「縁起」から仏教の根本を問う 第8回 「苦」とは何か 第9回 無我と輪廻 第10回 無常と空 第11回 サンガと律 第12回 日本仏教の特殊性 第13回 禅と浄土 第14回 仏教と浄土真宗 第15回 仏教教理論争：まとめとして		
評価方法 (合計100%)	授業参加態度（毎回の確認など）50%とレポート50%		
失格条件	3分の1以上の欠席、およびレポート未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	講義に関する内容について辞書類を使って調べ、講義後はその内容をまとめる（予習2時間、復習2時間）。		
課題へのフィード バック	毎回の確認などについて、それぞれへフィードバックを行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	講義中に適宜指示する。		
その他			
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（井上）		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BC409B03	期間	集中
授業科目名	仏教文化演習		
英訳科目名	Seminar on Buddhist Culture		
担当教員名	佐伯 はる、宇佐美 直八、吉村 昇洋		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	この演習では、仏教に関わる衣食住や芸術などの文化をさらに深く学びます。仏教の衣文化、食文化、芸術の領域において、実習もまじえた講義となっています。それぞれ五時間ずつのオムニバス形式です。いずれも日本仏教の豊かな文化の一面です。その精神性を学ぶと共に、自分自身の創造性を育てることにつながる演習となっています。		
到達目標	三つの領域のうち、衣文化に関しては式章や袈裟の制作、食文化では精進料理の実習、文化財では過去帳や掛け軸の制作、以上に取り組むことができる。		
授業計画	<p>【担当：佐伯 はる】</p> <p>第1回 染織について学ぶ（1） 原料</p> <p>第2回 染織について学ぶ（2） 織り</p> <p>第3回 創作指導（1） 基礎</p> <p>第4回 創作指導（2） オリジナル</p> <p>第5回 仕上げと評価</p> <p>【担当：吉村 昇洋】</p> <p>第6回 精進料理と禅仏教（1） 『典座教訓』</p> <p>第7回 精進料理と禅仏教（2） 『赴粥飯法』</p> <p>第8回 現代の食を考える（1） 現代人の問題点</p> <p>第9回 現代の食を考える（2） これからの方向性</p> <p>第10回 精進料理の実習と評価</p> <p>【担当：宇佐美 直八】</p> <p>第11回 日本仏教の文化財</p> <p>第12回 修復の技術（1） 古典技法</p> <p>第13回 修復の技術（2） 現代技法</p> <p>第14回 創作指導 基礎</p> <p>第15回 創作指導と評価</p>		
評価方法 (合計100%)	講義への参加態度 50% 作品や課題・提出物 50%		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	博物館や美術館へ行ってみよう。 授業時間外における予習・復習等に必要な時間 ・宗教関係の本を読む…予習 1時間 ・授業で習った技術や手順を繰り返し確認する…復習 2時間		
課題へのフィード バック	課題提出後、全体に向けてコメントします。		
教科書	使用しない		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	宗教行事への参加、それに関するレポートなどは、評価に加算する。		
備考	宇佐美松鶴堂での実務経験をもとに、この授業を進めます。（宇佐美） 僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。（吉村）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BC407B04	期間	後期
授業科目名	アジアの仏教と社会		
英訳科目名	Buddhism and Society in Asia		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>紀元前5世紀、ガンジス河中流域に開花した仏教は、約2500年の間にほぼアジア全域へと広がり、そして現在も生きた宗教としてあり続けている。が、近代に至るまで、仏教は一つもとろん宗教全般に言えることだが一人の心理的な問題だけを扱ったわけではなく、社会と密接な関わりをもっていた。むしろ社会そのものであったとよい。</p> <p>ところが、政教分離を原則とする近代の出現によって社会を政治が担うようになる。近代国家の概念からすると、宗教の存在は忌避すべき存在にもなり、宗教は個人の心理的な問題のみを扱うかのようにも思われている。</p> <p>本講義では、アジア世界へ広がった仏教が、それぞれの社会とどのように関わりを持ちながら展開していったのかを学びつつ、宗教と社会の関わりを探求していく。</p>		
到達目標	アジア世界に広まった仏教から宗教と社会の関わりを考え、現代を読み解く力を養うことができる。		
授業計画	<p>第1回 アジアと仏教と社会と</p> <p>第2回 近代国家と宗教：なぜ中東が問題になるのか</p> <p>第3回 仏教史概観：インドから日本へ ① インド・中央アジア</p> <p>第4回 仏教史概観：インドから日本へ ② 東アジア仏教圏</p> <p>第5回 政治と宗教の関わり：アショーカ王の宗教政策から</p> <p>第6回 スリランカー及び東南アジア世界とパーリ仏教 ① パーリ仏教の広がり</p> <p>第7回 スリランカー及び東南アジア世界とパーリ仏教 ② 東南アジア地域の現状</p> <p>第8回 インド北辺地域の異民族と仏教の関わり</p> <p>第9回 西方世界と仏教：シンクレティズムを考える</p> <p>第10回 漢訳仏教圏の成立：東アジアの仏教と社会 ① 漢訳された仏典の広がり</p> <p>第11回 漢訳仏教圏の成立：東アジアの仏教と社会 ② 中国・朝鮮半島・ベトナム</p> <p>第12回 内なる異文化としての日本の仏教</p> <p>第13回 近代国家と仏教：明治以後の仏教の展開</p> <p>第14回 仏教の近代化：隠れ念仏と隠し念仏という事例から</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（発表やコメント）60%とレポート40%の総合評価		
失格条件	講義回数の3分の1以上の欠席とレポートを出さなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義時に出す次回までの課題に取り組みこと（予習3時間） ・講義時にやったことをプリント、ノートを見て確認すること（復習1時間） ・詳細は初回の講義時に説明する。 		
課題へのフィード バック	発表やコメントについて、次の回の授業の冒頭にフィードバックを行う。		
教科書	必要な資料はこちらで準備して配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	参考文献については講義時に指示する。		
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS401B01	期間	前期
授業科目名	知覚心理学		
英訳科目名	Psychology of Perception		
担当教員名	中村 敏		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	知覚とは、感覚器官を通して外界の様子を把握する働き、およびその過程のことを意味する。外界を知覚するとき、外界が心の中にそのまま再現されるわけではなく、感覚器官の性質や情報処理の過程、および高次の精神活動の影響を受ける。この授業では、知覚の性質と仕組み、およびそれによって生じる様々な現象を紹介し、知覚に対する心理学的な考え方や理論について解説する。		
到達目標	様々な知覚現象が、どのような仕組みや法則に基づいて生じているか理解することができる。また、それを通して、日常的な知覚に関する問題の原因や、ヒトの知覚的能力の限界を把握し、日常生活に活かすことができる。		
授業計画	第1回 知覚の一般的特徴 第2回 知覚の恒常性 第3回 色と明るさの知覚 (1)：色覚に関する基礎的事実 第4回 色と明るさの知覚 (2)：明るさの知覚に関する基礎的事実 第5回 色と明るさの知覚 (3)：恒常性、順応と残効、同化と対比 第6回 形の知覚 (1)：図と地、群化 第7回 形の知覚 (2)：輪郭 第8回 空間の知覚 第9回 運動の知覚 第10回 錯視 第11回 聴覚 第12回 嗅覚 第13回 味覚・触覚・その他の知覚 第14回 知覚と認知 第15回 仮想現実の知覚		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% レポート 70%		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習 (1時間)：前講義中に紹介される、次回講義に関するキーワードについて調べておく。 復習 (3時間)：授業の配布資料を読み直し、紹介された現象に関する研究を調べることで、理解を深める。		
課題へのフィード バック	講義中に、その日の内容に関する感想や小テストを実施するが、次回講義の際に、その内容に関して全体に向けたコメントを行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	感覚知覚心理学 菊池 正 (編) 朝倉書店 知覚心理学——心の入り口を科学する—— 北岡 明佳 (編著) ミネルヴァ書房		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS401B02	期間	前期
授業科目名	学習心理学		
英訳科目名	Learning Psychology		
担当教員名	中村 敏		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	学習とは、経験を通して個体の行動が変容する過程のことを意味する。ヒトを含む動物は、学習によって行動を修正することで、環境に適応できるようになる。この授業では、実験室で明らかにされた学習に関する様々な現象と、行動改善を目的とした応用研究を紹介し、学習の原理や法則性について解説する。		
到達目標	ヒトを含む動物がどのように学習し、それによって生じる行動にどのような法則性があるか理解することができる。また、その法則性を利用した日常的な行動を改善する技法を知り、それを活用することができる。		
授業計画	第1回 学習とは何か 第2回 非連合学習：馴化と鋭敏化 第3回 レスポンド条件づけ 第4回 オペラント条件づけ (1)：基礎的事実 第5回 オペラント条件づけ (2)：強化スケジュール 第6回 オペラント条件づけ (3)：刺激性制御 第7回 オペラント条件づけ (4)：嫌悪刺激による制御 第8回 選択行動 (1)：基礎的事実 第9回 選択行動 (2)：衝動性と自己制御 第10回 観察学習 第11回 言語学習 (1)：刺激等価性 第12回 言語学習 (2)：言語行動 第13回 学習研究の応用 (1)：認知行動療法 第14回 学習研究の応用 (2)：応用行動分析 第15回 機械学習		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 試験 70%		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習 (1時間)：前講義中に紹介される、次回講義に関するキーワードについて調べておく。 復習 (3時間)：授業の配布資料を読み直し、紹介された現象に関する研究を調べることで、理解を深める。		
課題へのフィード バック	講義中に、その日の内容に関する感想や小テストを実施するが、次回講義の際に、その内容に関して全体に向けたコメントを行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	行動と学習の心理学—日常生活を理解する 伊藤 正人 (著) 昭和堂 メイザーの学習と行動 (日本語版 第3版) ジェームズ・E・メイザー (著) 磯 博之行・坂上 貴之・川合 信幸 (訳) 二弊社		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS409B01	期間	後期
授業科目名	カウンセリング演習 I		
英訳科目名	Seminar on Counseling I		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	家庭、学校、職場など、さまざまな場面においてこころの問題がクローズアップされている近年、こころの問題に寄り添い、それを援助する活動の重要性がますます高まっています。こころの問題に寄り添う方法論のひとつとしてカウンセリングがありますが、本授業では、カウンセリングの実際技法の基礎について演習を通して学びます。視覚的教材を利用して良いかかわりと悪いかかわりを比較提示しながら、具体的事例の中でどのようにカウンセリング技法を用いるかを確認します。		
到達目標	カウンセリングで用いられる技法を学び、こころの問題への基本的援助が理解出来る。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 マイクロカウンセリングの特徴 第3回 マイクロカウンセリング技法 第4回 <基本的傾聴の連鎖>を用いた対話①(導入) 第5回 <基本的傾聴の連鎖>を用いた対話②(モデリング) 第6回 <基本的傾聴の連鎖>を用いた対話③(ロールプレイ) 第7回 <基本的傾聴の連鎖>を用いた対話④(ディスカッションによる一般化) 第8回 <肯定的資質の探求>を目指す対話①(導入) 第9回 <肯定的資質の探求>を目指す対話②(モデリング) 第10回 <肯定的資質の探求>を目指す対話③(ディスカッションによる一般化) 第11回 <基本的傾聴技法と積極的技法の連携>を用いた対話の実際 第12回 <意図性>と発達レベル 第13回 ジェノグラムの書き方と記録の取り方 第14回 訓練とスーパーヴィジョン 第15回 総括と到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 到達度テスト 50%		
失格条件	3分の1以上の講義を欠席した場合(授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします) 分担すべきグループワークや発表等への不参加、到達度テスト未受験者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	教科書・配布プリント等の指示した部分をしっかりと読んで理解するよう、予習1時間、復習3時間を目安に学習してください。また、教科書付属のDVDを活用した家庭学習が効果的です。		
課題へのフィード バック	到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	マイクロカウンセリング技法―事例場面から学ぶ		
著者名	福原真知子		
出版社	風間書房		
参考書	授業の中で、適宜、紹介します。		
その他	授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS409C01	期間	後期
授業科目名	カウンセリング演習Ⅱ		
英訳科目名	Seminar on CounselingⅡ		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>近年、カウンセリングは、心理臨床を専門とするカウンセラーだけでなく、保育・教育の現場における保育士・教師、医療の現場における医師・看護師、介護の現場におけるヘルパー、司法の現場における法曹関係者、職場における管理職・上司・同僚、日常生活における友人・知人など、社会の幅広い領域で求められるようになりました。</p> <p>本授業では、「カウンセリング演習Ⅰ」で学んだカウンセリング技法の知識を基に、実際にはどのようにして援助が展開するかを学びます。その際、幅広い心理的問題へのカウンセリング事例を用い、グループディスカッションや意見発表等を通じてこころの支援のエッセンスについて学習を深めます。</p>		
到達目標	子どもから成人まで各発達ステージにおいてあられる心の問題について理解でき、カウンセリング事例の検討を通して、カウンセリングの実践的な知識・スキルを修得できる。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、事例検討「学校恐怖症」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第2回 事例検討「学校恐怖症」一事例を見立てる</p> <p>第3回 事例検討「心身症」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第4回 事例検討「心身症」一事例を見立てる</p> <p>第5回 事例検討「不登校」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第6回 事例検討「不登校」一事例を見立てる</p> <p>第7回 事例検討「プレイセラピー」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第8回 事例検討「プレイセラピー」一事例を見立てる</p> <p>第9回 事例検討「母親面接」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第10回 事例検討「母親面接」一事例を見立てる</p> <p>第11回 事例検討「無気力」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第12回 事例検討「無気力」一事例を見立てる</p> <p>第13回 事例検討「幻聴」一事例の展開から学ぶ</p> <p>第14回 事例検討「幻聴」一事例を見立てる</p> <p>第15回 総括と到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	授業参加態度50% 到達度テスト 50%		
失格条件	3分の1以上の講義を欠席した場合（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 到達度テストの未受験者 分担すべきグループワークや発表等への不参加があった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	教科書等の指示した部分をしっかりと読んで理解し、関心や問題意識をもって学習に取り組むように心がけてください。なお、家庭学習の総時間数は4時間であることが望ましいですが、予復習における時間配分は学習テーマによって各自工夫してください。		
課題へのフィードバック	到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	事例に学ぶ心理療法		
著者名	河合隼雄		
出版社	日本評論社		
参考書	授業中に適宜指示します。		
その他	授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS409B02	期間	後期
授業科目名	心理学実験演習		
英訳科目名	Experimental Psychology		
担当教員名	中村 敏		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	心理学では、心理・行動現象を研究するために実験法が用いられることが多い。本科目では、6種類の代表的な実験法を用いて実験を実施し、受講生は実際にそれらを体験する。さらに、各テーマの実験で得られたデータを自身で分析し、レポートにまとめることで、心理学の研究を行うために必要な知識と技量の獲得を目指す。		
到達目標	心理学の代表的な領域、実験法、分析法についての知識を獲得できる。心理学における標準的な書式でレポートを作成できる。		
授業計画	第1回 授業の進め方、レポートの一般的な書き方および図表の作成法の説明 第2回 実験、測定および統計学的分析に関する一般的解説 第3回 明るさの対比（調整法による測定）（1）テーマおよび方法の解説、実験 第4回 明るさの対比（調整法による測定）（2）データの分析、レポートの書き方の説明 第5回 鏡映描写における両側性転移（遂行時間による検討）（1）テーマおよび方法の解説、実験 第6回 鏡映描写における両側性転移（遂行時間による検討）（2）データの分析、レポートの書き方の説明 第7回 記憶における系列位置効果（正再生率による検討）（1）テーマおよび方法の解説、実験 第8回 記憶における系列位置効果（正再生率による検討）（2）データの分析、レポートの書き方の説明 第9回 空間的な刺激-反応適合性効果（反応時間による検討）（1）テーマおよび方法の解説、実験 第10回 空間的な刺激-反応適合性効果（反応時間による検討）（2）データの分析、レポートの書き方の説明 第11回 心理尺度の構成（一対比較法）（1）テーマおよび方法の解説 第12回 心理尺度の構成（一対比較法）（2）実験 第13回 心理尺度の構成（一対比較法）（3）データの分析、レポートの書き方の説明 第14回 オペラント条件づけによる反応形成（反応頻度による検討）（1）テーマおよび方法の解説、実験 第15回 オペラント条件づけによる反応形成（反応頻度による検討）（2）データの分析、レポートの書き方の説明		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% レポート 50%		
失格条件	原則として理由のない欠席およびレポートの未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習（1時間）：実験を実施する回は、その前の回に配布予定の資料を確認した上で受講することが望ましい。 復習（3時間）：レポートの作成は、授業時間外の作業となる。時間と労力を要するため、余裕を持って取り組むことが望ましい。レポート作成の際、①所定の書式に準拠して作成すること、②情報は過不足なく記載すること、③書籍や論文、友人の書いた文章などをそのままコピーせず、自分の力で書くこと、に留意する。		
課題へのフィード バック	各テーマのレポートを個別に添削し、ポータルサイトを通じて、返却する。 全体としての課題が見受けられた場合は、次回以降の講義中に補足説明を行う。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	心理学実験指導研究会（編）「実験とテスト＝心理学の基礎」実習編、解説編 培風館		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS409C02	期間	後期
授業科目名	心理学実習		
英訳科目名	Practicum in Psychology		
担当教員名	西迫 成一郎、初塚 眞喜子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	心理学研究の対象は人間である。心理学実習では、その様々な面に対して、様々な角度から、様々な方法を用いてアプローチする。具体的には、心理検査・アセスメントと臨床心理学実習と社会心理学実験・調査実習を軸として、人間を心理学的な立場から理解するための方法や考え方を体験的に学ぶことを目的とする。臨床心理学の方法で心のしくみを理解し援助してゆく臨床活動の習熟を目指すことに加えて、現代社会における人間の行動を研究するための方法をテーマの設定、データの収集、統計的な分析、解釈の仕方を通して体験的に学ぶ。これらを通して、自己理解を深め、他者を受容して行く力を培うことも目指している。みんなで学び合う楽しさも体験してほしい。		
到達目標	心理検査（4課題）・アセスメント、心理臨床Ⅰ、心理臨床Ⅱ、社会心理学実験・調査Ⅰ、社会心理学実験・調査Ⅱの5分野における心理的分析や援助技法について理解して説明できる		
授業計画	第1回 オリエンテーション(1)全体説明と心理検査について（担当：初塚・西迫） 第2回 オリエンテーション(2)心理臨床の実習と社会心理学実験・調査について（担当：初塚・西迫） 第3回 心理検査(1)MINI124の実施（担当：初塚・西迫） 第4回 心理検査(2)MINI124のアセスメントと解説（担当：初塚・西迫） 第5回 心理検査(3)PFスタディの実施（担当：初塚・西迫） 第6回 心理検査(4)PFスタディのアセスメント（担当：初塚・西迫） 第7回 心理検査(5)PFスタディの解説（担当：初塚・西迫） 第8回 心理検査(6)PFスタディのまとめ（担当：初塚・西迫） 第9回 心理検査(7)内田クレベリン精神検査の実施（担当：初塚・西迫） 第10回 心理検査(8)内田クレベリン精神検査のアセスメントと解説（担当：初塚・西迫） 第11回 心理検査(9)主要5因子性格検査の実施（担当：初塚・西迫） 第12回 心理検査(10)主要5因子性格検査のアセスメントと解説（担当：初塚・西迫） 第13回 心理検査のまとめ（担当：初塚・西迫） 第14回 心理検査についての補習（担当：初塚・西迫） 第15回 社会心理学実験・調査Ⅰ(1)要因間の関係分析のための実験・調査について（担当：西迫） 第16回 社会心理学実験・調査Ⅰ(2)実施（担当：西迫） 第17回 社会心理学実験・調査Ⅰ(3)分析（担当：西迫） 第18回 社会心理学実験・調査Ⅰ(4)分析結果の解釈（担当：西迫） 第19回 心理臨床の実習Ⅰ(1)対人関係のスキル（担当：初塚） 第20回 心理臨床の実習Ⅰ(2)箱庭療法（担当：初塚） 第21回 心理臨床の実習Ⅰ(3)音楽療法（担当：初塚） 第22回 心理臨床の実習Ⅰ(4)認知行動療法（担当：初塚） 第23回 社会心理学実験・調査Ⅱ(1)SD法について（担当：西迫） 第24回 社会心理学実験・調査Ⅱ(2)質問紙の実施（担当：西迫） 第25回 社会心理学実験・調査Ⅱ(3)分析（担当：西迫） 第26回 社会心理学実験・調査Ⅱ(4)分析結果の解釈（担当：西迫） 第27回 心理臨床の実習Ⅱ(1)発達検査（担当：初塚） 第28回 心理臨床の実習Ⅱ(2)心理面接（担当：初塚） 第29回 心理臨床の実習と社会心理学実験・調査のまとめ（担当：初塚・西迫） 第30回 心理臨床の実習と社会心理学実験・調査の補習（担当：初塚・西迫）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度50% 提出したレポートの内容50%		
失格条件	5つのセッション（心理検査（4課題）・アセスメント、心理臨床Ⅰ、心理臨床Ⅱ、社会心理学実験・調査Ⅰ、社会心理学実験・調査Ⅱ）それぞれについて、原則として理由のない欠席をした者、レポートの未提出者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示された予習については、積極的に資料を検索して行うこと（予習時間 2時間） また、実習後の復習は欠かさず行い、授業で示された実習方法を配付資料などとともに確認すること（復習時間 2時間）		
課題へのフィード バック	提出されたレポートについては、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	プリント等を配布しますが、必要により授業中に指示する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に指示する。		
その他	実習は原則的に遅刻及び欠席が認められませんのでそのつもりで準備してください。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS409C03	期間	前期
授業科目名	カウンセリング実習		
英訳科目名	Practicum in Counseling		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>こころの問題が深刻化・多様化する現代において、医療現場や教育現場などを中心に、カウンセリングを用いた援助への需要が高まっています。地域や職場、家庭内においても、さまざまな心理的問題への対応が要求されることも少なくありません。</p> <p>本授業では、カウンセリングの基礎でもある他者理解や倫理的配慮、対話の在り方について具体的に学びます。さらには、近年では議論の中心になることも多い、支援者の疲弊についても確認し、支援者自身の自己理解やストレスマネジメントの重要性についても学習します。これら学習の方法論として、ワークやグループディスカッション、ロールプレイ、およびビデオ視聴などを用いた体験学習を用います。</p>		
到達目標	<p>心理的援助において、倫理を守ることの重要性を理解し、被援助者の語りをしっかりと聴くことができる。その上で、被援助者が抱える問題を見立て、適切なかわりができる。また、より良い援助の為に、援助者としての自己を理解できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 心理的支援としての対話 第2回 心理的支援における倫理 第3回 傾聴と無条件の肯定的関心 第4回 傾聴トレーニング 第5回 問題の明確化・焦点化 第6回 見立てを行う 第7回 相手の世界を知る・自分の世界を伝える (1) 一制作活動を通して— 第8回 相手の世界を知る・自分の世界を伝える (2) 一作品発表を通して— 第9回 中立的立場を取ること 第10回 価値観の多様性と援助者自身の価値観 第11回 コミュニケーションにおける「ことば」 第12回 コミュニケーションにおける「非言語」 第13回 医療機関におけるカウンセリング (1) 一ロールプレイ— 第14回 医療機関におけるカウンセリング (2) 一アセスメント— 第15回 教育機関におけるカウンセリング (1) 一ロールプレイ— 第16回 教育機関におけるカウンセリング (2) 一アセスメント— 第17回 解釈・結果のフィードバック (1) 一ロールプレイ— 第18回 解釈・結果のフィードバック (2) 一アセスメント— 第19回 家族支援のためのカウンセリング (1) 一ロールプレイ— 第20回 家族支援のためのカウンセリング (2) 一アセスメント— 第21回 箱庭療法—非言語表現を用いた心理的支援— 第22回 箱庭療法体験 第23回 災害時の心理的支援と支援者の疲弊 第24回 二次受傷とデブリーフィング 第25回 日常的支援者の疲弊と感情労働 第26回 ストレスマネジメント 第27回 連携と他機関紹介—紹介状の作成— 第28回 家族構成から支援を考える—ジェノグラムの作成— 第29回 補足と総括 第30回 到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度50% 提出したレポートの内容50%</p>		
失格条件	<p>原則として理由のない欠席をした者、全授業の3分の2以上の出席の無い者（なお、授業開始から20分以上の遅刻は欠席と見なします） 到達度テストの未受験者</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>本授業は実践型であるため、授業で体験したことを持ち帰り、振り返りの時間を十分に取って復習してください。またその際に、授業での体験を自らの言葉でノートに記すことも、学習の整理と問題点の明確化に繋がります。振り返りで明確化した疑問点は、担当教員に確認して不明点を解消することが重要です。学習の目安として、予習1時間・復習3時間程度が望ましいですが、状況や学習テーマに応じて適宜時間配分の工夫をしてください。</p>		
課題へのフィードバック	<p>課題提出後の授業で、全体に向けてコメントします。</p>		
教科書	<p>プリント等を配布しますが、必要に応じて授業中に指示します。</p>		
著者名			
出版社			
参考書	<p>授業中に指示します。</p>		
その他	<p>・授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。 ・カウンセリングそのものが時間枠を厳守するものであるため、本授業への遅刻や無断欠席は授業の主旨そのものへの理解を欠いたものと判断します。そのため、実習は原則的に遅刻及び欠席が認められませんので注意してください。</p>		
備考	<p>日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。</p>		
科目生への開講	<p>なし</p>		

ナンバリング	PS401B03	期間	前期
授業科目名	生涯発達の臨床心理学（乳幼児期）		
英訳科目名	Lifespan Developmental Clinical Psychology (Infancy)		
担当教員名	初塚 眞喜子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>人は、ライフサイクルの節目節目で直面する心の問題を1つ1つ乗り越えながら、乳児期から老年期まで、生涯にわたって発達していく。その発達のありさまを見つめ、人間の心と行動について理解を深めることが「生涯発達の臨床心理学」の課題である。</p> <p>本講義では、人の生涯発達のはじまりの時期にあたる乳幼児期に焦点を当て、この時期に特有の発達課題と発達危機、心の問題とそれに対する支援のあり方について解説する。</p> <p>乳幼児保育が子どもの発達に及ぼす影響、乳幼児虐待や育児放棄の増加、乳幼児期からの「早期教育」の功罪、「赤ちゃん研究」の進展など、乳幼児期の発達と心の問題をめぐる今日的なトピックスもできるだけ多く取り上げる予定である。</p> <p>乳幼児の発達と心の問題について考えを深める機会として、また、子育てや発達支援の実践的な知識・スキルを修得する機会として、積極的に受講してほしい。</p>		
到達目標	<p>①生涯発達の考え方を理解できる。</p> <p>②乳幼児期に特有の発達課題と発達危機について理解できる。</p> <p>③乳幼児期に特有の心の問題とそれに対する支援のあり方について理解できる。</p> <p>④乳幼児の発達や心の問題をめぐる今日的な諸問題について理解できる。</p> <p>⑤子育てや発達支援に関する実践的な知識・スキルを獲得できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 「生涯発達の臨床心理学」とは？—生涯発達と心の問題</p> <p>第2回 人の発達に関する基礎知識</p> <p>第3回 乳児期(1) 乳児期の発達課題、発達危機、人格的活力</p> <p>第4回 乳児期(2) 乳児期の発達と心の問題に関する学説・理論</p> <p>第5回 乳児期(3) 乳児期の心の問題とケア、乳児期の発達をめぐる現代的課題</p> <p>第6回 幼児前期(1) 幼児前期の発達課題、発達危機、人格的活力</p> <p>第7回 幼児前期(2) 幼児前期の発達と心の問題に関する学説・理論</p> <p>第8回 幼児前期(3) 幼児前期の心の問題とケア、乳児期の発達をめぐる現代的課題</p> <p>第9回 幼児後期(1) 幼児後期の発達課題、発達危機、人格的活力</p> <p>第10回 幼児後期(2) 幼児後期の発達と心の問題に関する学説・理論</p> <p>第11回 幼児後期(3) 幼児後期の心の問題とケア、乳児期の発達をめぐる現代的課題</p> <p>第12回 生涯発達における乳幼児期の重要性(1) アタッチメント（愛着）の考え方</p> <p>第13回 生涯発達における乳幼児期の重要性(2) 乳幼児期のアタッチメント（愛着）が児童期以降に及ぼす影響</p> <p>第14回 まとめとディスカッション</p> <p>第15回 理解度・到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 30%</p> <p>レポート課題 20%</p> <p>試験 50%</p>		
失格条件	<p>3分の1以上の講義を欠席した場合</p> <p>レポートを提出しなかった場合</p> <p>試験を受験しなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>教科書・配布プリント等の指示した部分をしっかりと読んで理解するように心がけてください。</p> <p>「予習1時間」、「復習3時間」を目標に、がんばって勉強してください。</p>		
課題へのフィードバック	<p>授業内で作成したミニレポートについては、次回の授業で全体に向けて詳しく解説します。</p> <p>試験終了後、全体に向けてコメントします。</p>		
教科書	『生涯人間発達論：人間への深い理解と愛情を育むために（第2版）』		
著者名	服部 祥子		
出版社	医学書院		
参考書	授業の中で、適宜、紹介します。		
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS401B04	期間	後期
授業科目名	生涯発達の臨床心理学（児童期）		
英訳科目名	Lifespan Developmental Clinical Psychology (Childhood)		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>児童期は身体的・認知的・情緒的に顕著な発達を示す時期です。幼児期までとは異なり、より広い人間関係を形成し、また、変わりゆく環境の影響も受けやすいといえます。</p> <p>本講義では、生涯発達における児童期に焦点をあて、この時期の一般的な発達を多角的に概観するとともに、発達上の問題や臨床的問題を抱えるケースについてそのメカニズムと援助方法について学びます。また、子どもを取り巻く環境が子どものこころに与える影響についても学習します。</p>		
到達目標	<p>児童期のこころの発達について知り、発達上の問題や臨床的問題を抱える子どもについて、その背景や原因、援助方法について理解できる。また、社会環境が児童期の子どもの人格形成に及ぼす影響について理解し、家族や学校、地域などによる支援の可能性について考えることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 児童のこころの発達と課題 第3回 主に児童期に見られるこころの問題 第4回 特別な支援を要する子ども(1) 精神遅滞 第5回 特別な支援を要する子ども(2) 発達障害 第6回 特別な支援を要する子ども(3) 肢体不自由、病弱児 第7回 児童期における精神障害 第8回 児童期の臨床（1） 不登校 第9回 児童期の臨床（2） いじめ 第10回 児童期の臨床（3） 虐待 第11回 児童期の臨床（4） 親の離婚 第12回 地域や学校における児童支援 第13回 児童への検査とアセスメント 第14回 児童への心理的支援 第15回 補足と総括、到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 50% 到達度テスト 50%</p>		
失格条件	<p>全授業の2/3以上の出席回数のない場合（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 到達度テストの未受験者</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>教科書をよく読むとともに、ニュースや記事、書籍等を通じて、子どもを取り巻く問題への関心を深めるよう心掛けてください。予習および復習時間の目安は各2時間ですが、状況や学習テーマに合わせて適宜時間配分してください。</p>		
課題へのフィードバック	<p>到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。</p>		
教科書	子どものこころと臨床発達—現代を生きる子どもの理解と支援のために		
著者名	野口康彦・櫻井しのぶ		
出版社	学陽書房		
参考書	服部祥子 著 『生涯人間発達論—人間への深い理解と愛情を育むために（第2版）』、医学書院 (ISBN 978-4-260-01170-9)		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。 ・参考図書は授業でも引用することが多いため、持っている人は必ず授業に持参してください。 		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS402B01	期間	前期
授業科目名	生涯発達の臨床心理学（青年期）		
英訳科目名	Lifespan Developmental Clinical Psychology (Adolescence)		
担当教員名	初塚 眞喜子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>人は、ライフサイクルの節目節目で直面する心の問題を1つ1つ乗り越えながら、乳児期から老年期まで、生涯にわたって発達していく。その発達のありさまを見つめ、人間の心と行動について理解を深めることが「生涯発達の臨床心理学」の課題である。</p> <p>本講義では、「子ども」から「大人」への過渡期に当たり、「第二の誕生」ともいわれる青年期に焦点を当て、この時期に特有の発達課題や心の問題について解説する。</p> <p>中心となるテーマは、「アイデンティティ（自分らしさ）」、「居場所」、「セルフ・エスティーム（自己肯定感、自尊感情）」、「アサーション（相手も自分も大切にできる能動的・主体的な自己表現）」といった青年期の発達に関する重要概念を理解すること、そして、それらにまつわる「心の問題」への支援のあり方を考察することである。そのほかにも、「青年期を大学生として過ごす意味」、「青年期における他者との出会いと関係構築の重要性」、「青年期の大学生が経験する就職活動と自分探しの問題」など、身近なテーマも取り上げる予定である。</p> <p>青年期を生きる自分自身を見つめる機会として、また、自分自身のこれからの発達の方向性を展望する機会として、積極的に授業に参加してほしい。</p>		
到達目標	<p>①生涯発達における青年期の位置付けと意義について理解できる。</p> <p>②青年期の発達課題、青年期にあらわれやすい心の問題の類型、青年期の心の問題に対する臨床的支援のあり方について理解できる。</p> <p>③「アイデンティティ（自分らしさ）」、「ジェンダー・アイデンティティ」、「居場所」、「セルフエスティーム（自己肯定感、自尊感情）」、「アサーション（相手も自分も大切にできる人間関係をつくる自己表現）」など、青年期の発達に関する重要概念について理解できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 生涯発達における青年期の位置(1)―青年とは？ 青年期とは？</p> <p>第2回 生涯発達における青年期の位置(2)</p> <p>―現代社会と青年：自分探し、大学生生活、就職活動、社会参加、就業</p> <p>第3回 生涯発達における青年期の位置(3)―現代青年のパーソナリティ特性：行動様式と価値観</p> <p>第4回 生涯発達における青年期の位置(4)</p> <p>―乳幼児期、児童期からの連続性と変化：アタッチメント（愛着）理論からの説明</p> <p>第5回 青年期の発達課題と発達危機(1)―「アイデンティティ（自分らしさ）」の探究と確立</p> <p>第6回 青年期の発達課題と発達危機(2)―「アイデンティティ」の拡散と心の問題</p> <p>第7回 青年期の発達課題と発達危機(3)―「アイデンティティ」と「居場所」</p> <p>第8回 青年期の発達課題と発達危機(4)</p> <p>―「アイデンティティ」と「セルフ・エスティーム（自己肯定感、自尊感情）」</p> <p>第9回 青年期の発達課題と発達危機(5)―「アイデンティティ」と「アサーション（能動的で主体的な自己表現）」</p> <p>第10回 青年期の発達課題と発達危機(6)―「アイデンティティ」と「ジェンダー・アイデンティティ」</p> <p>第11回 青年期の心の問題と心理臨床(1)―青年期における発達障害の理解と支援</p> <p>第12回 青年期の心の問題と心理臨床(2)―青年期における不適応行動への臨床的支援</p> <p>第13回 青年期を大学生として過ごす意味</p> <p>―他者との出会いと関係構築、諸活動を通じた「自律」、キャリア発達</p> <p>第14回 まとめとディスカッション</p> <p>第15回 理解度・到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度：30%</p> <p>レポート課題：20%</p> <p>試験：50%</p>		
失格条件	<p>3分の1以上の講義を欠席した場合</p> <p>レポートを提出しなかった場合</p> <p>試験を受験しなかった場合</p>		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>教科書・配布プリント等の指示した部分をしっかりと読んで理解するように心がけてください。</p> <p>「予習1時間」、「復習3時間」を目標に、がんばって勉強してください。</p>		
課題へのフィード バック	<p>授業内で作成したミニレポートについては、次回の授業で全体に向けて詳しく解説します。</p> <p>試験終了後、全体に向けてコメントします。</p>		
教科書	『生涯人間発達論：人間への深い理解と愛情を育むために（第2版）』 (※昨年度に購入済)		
著者名	服部 祥子		
出版社	医学書院		
参考書	授業の中で、適宜、紹介します。		
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS402B02	期間	後期
授業科目名	生涯発達臨床心理学 (成人・高齢期)		
英訳科目名	Lifespan Developmental Clinical Psychology (Adulthood / Late Adulthood)		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>生涯発達という視点では、人間はその誕生から死までを発達すると考えます。即ち、発達とは、人間の加齢による身体の変化と環境・社会・文化との相互のプロセスです。</p> <p>本授業では、成人期および老年期の発達に焦点をあて、それらの時期に直面する社会的および心理的危機と、その危機を克服できない場合に生じうる心理臨床的な問題について学びます。さらに、成人期・老年期における心理臨床的問題への対処・支援について考えます。</p>		
到達目標	人間は生涯を通じて心理的な発達を遂げること、また、成人期や高齢期でも、心理社会的発達において臨床的な問題を持ち得ることを理解できる。さらには、そのような発達や心理的危機への心理的援助の方法について習得する。		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 成人前期の発達心理的課題 第3回 成人中期の発達心理的危機 第4回 成人中期の現代的課題 第5回 高齢者の知能と記憶 第6回 高齢者のパーソナリティ 第7回 老年期の精神障害（1）—器質性精神障害— 第8回 老年期の精神障害（2）—機能的な精神障害— 第9回 高齢者へのアセスメント 第10回 サクセスフルエイジング 第11回 高齢者の社会的適応 第12回 高齢者と家族 第13回 老年期におけるストレス 第14回 高齢者福祉とこころのケア 第15回 総括と到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 到達度テスト 50%		
失格条件	全授業の2/3以上の出席回数がない場合（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 到達度テストの未受験者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習として、教科書に目を通し、関連資料を調べ、問題意識を持って授業に参加してください。復習としては、再度教科書を読み、ノートを読んで、理解を深めてください。疑問点があれば書き出し、関連資料に当たり、次の授業に備えてください。なお、予習復習は各2時間行うことが目安ですが、予復習における時間配分は学習テーマによって各自工夫してください。		
課題へのフィードバック	到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	①高齢者理解の臨床心理学 ②生涯人間発達論～人間への深い理解と愛情を育むために～ 第2版		
著者名	①稲谷 ふみ枝/宮原 英種②服部 祥子		
出版社	①ナカニシヤ出版②医学書院		
参考書	必要に応じ、紹介します。		
その他	授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS402B03	期間	前期
授業科目名	異常心理学		
英訳科目名	Abnormal Psychology		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>異常心理学とは、人間の行動や精神の異常状態について、その原因や対応も併せて学ぶ学問だといえます。しかし、その学びにおいては、正常と異常の基準は多元的であり、相対的なものだという視点が重要です。</p> <p>本授業では、正常・異常とは何かを考えるとともに、人間心理における異常を認知や発達、欲動、人格などから学びます。また、行動および心理的異常状態にある人の生きづらさを理解し、その援助方法について考えます。</p>		
到達目標	<p>正常と異常が連続線上にあることや、認知や発達、欲動、人格、行動における異常状態について理解でき、その支援についての視点がもてる。</p>		
授業計画	<p>第1回 異常心理学とは 第2回 知覚の異常 第3回 思考の異常(1)―過程 第4回 思考の異常(2)―体験 第5回 記憶の異常 第6回 発達の異常(1)―精神遅滞、発達障害 第7回 発達の異常(2)―認知症 第8回 自我の異常 第9回 感情の異常 第10回 欲動の異常 第11回 人格の異常(1)―パーソナリティ障害B群 第12回 人格の異常(2)―パーソナリティ障害A・C群 第13回 身体の異常に伴う異常心理 第14回 「正常」と「異常」の再考 第15回 補足と総括、到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度50% 到達度テスト50%</p>		
失格条件	<p>全授業の2/3以上の出席回数のない者（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 到達度テストの未受験者</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習として、本・雑誌・新聞などの関連資料を読んで理解を深め、問題意識を持って授業に臨んでください（学習目安2時間）。また、配布プリントやノートを参照しながら、授業内容がしっかり理解できるまで復習すること（学習目安2時間）。</p>		
課題へのフィードバック	<p>到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。</p>		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて紹介します。		
その他	授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS401B05	期間	前期
授業科目名	社会心理学		
英訳科目名	Social Psychology		
担当教員名	西迫 成一郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>社会の中で暮らす人間の心と行動は、他者の影響を受けたものとなる。社会心理学の特徴は、他者の存在を前提とし、他者から影響を受けた人間の心と行動の性質や仕組みを明らかにするところにある。「社会心理学」の授業では、社会の中で向き合った他者の性格などをどのように認知するのか、自己が持つ態度や考えは他者からいかに影響を受けるのか、他者との親密な関係はどのように形成されるのか、さらに社会の中での自己意識のあり方などについて学ぶ。これらを通して、社会的人間としての人間存在のあり方を社会心理学的な視点から学修する。</p>		
到達目標	対人関係の諸側面について理解し、社会の中の実生活において他者に共感性を持って行動できるようになること		
授業計画	<p>第1回 社会心理学とは 第2回 対人認知 第3回 態度(1)態度の変容 第4回 態度(2)態度変容のモデル 第5回 自己(1)自覚状態 第6回 自己(2)自己呈示 第7回 親密な対人関係(1)親密な対人関係の規定因 第8回 親密な対人関係(2)親密な対人関係の理論 第9回 親密な対人関係(3)異性間の親密な対人関係 第10回 原因帰属(1)原因帰属の意味 第11回 原因帰属(2)原因帰属におけるバイアス 第12回 社会的影響(1)社会的影響とは 第13回 社会的影響(2)さまざまな社会的影響 第14回 向社会的行動 第15回 理解度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>試験の評価 70% 授業への参加態度（授業に出席することだけでなく、質問されたことや課題への取り組み度合いなどを総合的に評価します） 30% 20分以上の遅刻は欠席と見なします。</p>		
失格条件	試験を受験しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>指示された予習については、積極的に資料を検索して行うこと。（予習時間 1時間） また、授業後の復習は欠かさず行い、授業で示された各心理学用語をしっかりと理解したうえで覚えること。（復習時間 3時間）</p>		
課題へのフィードバック	試験終了後、必要に応じて、全体に向けポータルを通じコメントします。		
教科書	適宜プリントを配布する		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	試験は、ノート、プリントなど一切持ち込み不可という条件で行う。原則、座席を指定する。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS401B06	期間	前期
授業科目名	人間関係論		
英訳科目名	Human Relations		
担当教員名	益田 圭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	「人と人との関わりから社会と人間を見つめ直す」 人間、そして社会を理解していく上で非常に重要なものである、人と人との関わり、すなわち対人関係。この講義ではこうした対人関係について検討を加えていく。社会心理学や社会学といった対人関係や人間の社会行動を研究する分野の知見を学び、身につけた新しい視点から社会と人間を見つめ直し、社会や人間にとっての人と人との関わり的重要性についての理解を深めることを目的とする。		
到達目標	人間関係や社会的行動に関する基本的知識について理解できること。 人間関係や社会的行動について自分なりの考えをまとめることができること。 人間関係や社会的行動について、授業から得られた知識や考えを、実際の社会で利用することを試みることが出来ること。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 人と人とはどれほどつながっているか？ 第3回 他の人がいて、自分がある？ 第4回 自己をどのように理解できるか？ 第5回 心の中の5人家族 第6回 私という名の他人 第7回 他者をどのように見つめているか？ 第8回 他者に魅力を感じる時 第9回 言葉で伝えるコミュニケーション 第10回 言葉以外のコミュニケーション 第11回 上手なコミュニケーションのために 第12回 人の態度が変わるとき 第13回 説得に屈しないために 第14回 どのようなリーダーが理想的？ 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度30% 提出物20% レポート50%		
失格条件	レポートを提出しないもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習1時間(45分) 授業時に課題を提示する。 復習3時間(135分) まず、授業時に出した持ち帰り課題を、確実にやってくること。 また、授業時に記入・提出したプリントや持ち帰り課題が返却されたら、必ずもう一度その内容を確認し、わからないことや理解が不十分なところを見つけ、つぎの授業時に質問すること。		
課題へのフィードバック	プリント、課題、取り組みについては全体に向けてコメントする。 また授業時のプリントは必要に応じコメントをつけて個別に返却する。		
教科書	指定しない。必要な資料は授業で配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて授業にて紹介する。		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS404B01	期間	前期
授業科目名	心理学研究法		
英訳科目名	Methods of Psychological Studies		
担当教員名	中村 慎佑		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>心理学は、こころの働きと人間の行動の解明を目指しています。これまでの心理学研究を振り返ってみると、実にさまざまな研究方法が用いられ、人間のこころと行動が測定されてきたといえるでしょう。複雑な社会の中に生きる人間のこころと行動を読み解いていくためには、多角的な視点から検討することが必要となります。</p> <p>本講では、前半で観察、面接、心理検査、事例研究、実験、調査などの研究方法について概観し、そして後半で、データの取り扱い方、分析手法、結果の整理とそのまとめ方についての基本を学修していくことを目的とします。</p>		
到達目標	<p>1) さまざまな研究方法について理解することができる。</p> <p>2) さまざまな研究方法の長短について理解することができる。</p> <p>3) 分析手法や結果の解釈について理解することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 心理学研究の系譜 ～心理学研究を考える～</p> <p>第2回 心理学研究の意義 ～心の測定法を考える～</p> <p>第3回 心理学研究の実際 ～研究の動向を調べる～</p> <p>第4回 観察(1) ～観察とは何か～</p> <p>第5回 観察(2) ～対象をしっかりと見つめる～</p> <p>第6回 面接(1) ～面接とは何か～</p> <p>第7回 面接(2) ～他者の言葉に耳を傾ける～</p> <p>第8回 心理検査 ～性格や知能を調べる～</p> <p>第9回 実践研究 ～一つの出来事を深く捉える～</p> <p>第10回 実験 ～特定の条件下で仮説を検証する～</p> <p>第11回 調査 ～多量のデータから法則性を見出す～</p> <p>第12回 問題の設定と仮説の構成 ～問題を具体化する～</p> <p>第13回 研究手法の検討 ～対象を適切に追究する～</p> <p>第14回 データの収集と分析 ～データを集めて分析する～</p> <p>第15回 結果の解釈と考察 ～結果に向き合う～</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度と課題(感想文・小レポート・グループワーク等)及び期末レポートの内容について総合的に評価します。遅刻や欠席が多い場合は、単位の認定が難しくなります。</p> <p>1) 講義への参加態度 20%</p> <p>2) 課題(感想文・小レポート・グループワーク等) 40%</p> <p>3) 期末レポート 40%</p>		
失格条件	<p>次の者を失格とします。</p> <p>1) 3分の1以上欠席した者</p> <p>2) 期末レポートを提出しなかった者</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>講義中に紹介する心理学研究法に関する書籍を読んでください(予習2時間)。</p> <p>配付資料とノートを読み返してください(復習2時間)。</p>		
課題へのフィード バック	<p>講義中に行われる課題は内容を確認してから返却する予定です。その際に課題の良い点や改善点などについて指摘します。</p>		
教科書	使用しません。必要に応じてプリントを配布します。		
著者名	;		
出版社			
参考書	講義中に適宜紹介します。		
その他	初回の講義では、講義内容や評価方法などについて詳しく説明しようと思います。なお、授業計画は、授業の進捗状況や受講生の理解度によって変わることがあります。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS401B07	期間	後期
授業科目名	健康心理学		
英訳科目名	Health Psychology		
担当教員名	西迫 成一郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	現代社会において健康の問題を考えたとき、ストレスなどの心理的要因を抜きにして考えることはできない。「健康心理学」の授業では、心の健康のみならず身体的健康、社会的健康までを考え、ストレスの発生過程、ストレスに対するコーピング、パーソナリティと健康の問題などを取り上げて講義する。この授業によって、ストレス社会に生きるわれわれが、ストレスや困難に打ち克って健康的な生活を送り、生きがいや幸福感をもって生きる方策を科学的に探求する。		
到達目標	ストレスから身を守るために必要な心理学的知識を獲得し、健康的で質の高い生活を送る方策を理解し実践が可能となること。		
授業計画	第1回 健康心理学とは 第2回 健康の心理的な基礎①欲求不満 第3回 健康の心理的な基礎②ストレス 第4回 健康の心理的な基礎③ストレッサー 第5回 ストレスと心身の健康および行動①ストレス反応 第6回 ストレスと心身の健康および行動②ストレスと心理的諸問題 第7回 ストレスと心身の健康および行動③ストレスと行動上の諸問題 第8回 ストレスと心身の健康および行動④ストレスと身体 第9回 ストレスのコントロール①ストレスコーピング 第10回 ストレスのコントロール②ソーシャルサポート 第11回 パーソナリティと健康 第12回 生涯発達における健康心理 第13回 現代社会と健康心理①食の問題 第14回 現代社会と健康心理②物質的豊かさと幸福 第15回 理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	試験の評価 70% 授業への参加態度（授業に出席することだけでなく、質問されたことや課題への取り組み度合いなどを含め総合的に評価します） 30% 20分以上の遅刻は欠席と見なします。		
失格条件	試験を受験しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示された予習については、積極的に資料を検索して行うこと。（予習時間 1時間） また、授業後の復習は欠かさず行い、授業で示された各心理学用語をしっかりと理解したうえで覚えること。（復習時間 3時間）		
課題へのフィード バック	試験終了後、必要に応じて、全体に向けポータルを通じコメントします。		
教科書	適宜プリントを配布する		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	試験は、ノート、プリントなど一切持ち込み不可という条件で行う。原則、座席を指定する		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS403B01	期間	前期
授業科目名	心理統計学		
英訳科目名	Psychological Statistics		
担当教員名	益田 圭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	この授業は、心理学におけるデータを理解し、利用するために必要な基礎的能力の習得を目的とする。代表値、散布度、相関関係、標本抽出法、統計的仮説の検定などの社会調査データを理解し、分析するための基本的知識を身につけていく。具体的なデータをあつかいながら、統計学への理解を深めていく。		
到達目標	心理統計データとは何かということについて、自分なりに述べるができる。 基本的な心理統計データの整理・分析ができる。 整理・分析した心理統計データを解釈することができる。		
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 度数分布 第3回 代表値 第4回 散布度 第5回 散布度とグラフ 第6回 確率の基礎 第7回 確率 第8回 分布 第9回 抽出 第10回 区間推定 第11回 統計的検定 第12回 相関分析 第13回 検定 第14回 分散分析 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度30% 提出物20% レポート50%		
失格条件	レポートを提出しないもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習 1 時間(45分) 授業時に予習課題を提示する 復習 3 時間 (135分) まず、授業時に出した持ち帰り課題を、確実にやってくること。 また、授業時に記入・提出したプリントや持ち帰り課題が返却されたら、必ずもう一度その内容を確認し、わからないことや理解が不十分なところを見つけ、つぎの授業時に質問すること。		
課題へのフィード バック	プリント、課題、取り組みについては全体に向けてコメントする。 また授業時のプリントは必要に応じコメントをつけて個別に返却する。		
教科書	指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて紹介する。		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS401B08	期間	後期
授業科目名	パーソナリティの心理学		
英訳科目名	Psychology of Personalities		
担当教員名	中村 慎佑		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>人間の心と行動には、個性や個人差があります。同じような環境で育ち、同じような教育を受けているような人たちであったとしても、皆それぞれ違っています。そうした個性や個人差はどうして生じるのでしょうか。また、個性や個人差は、人間が成長していく過程において、いかなる要因に影響を受けているのでしょうか。</p> <p>本講では、人間の心と行動における個性や個人差について、理論と実践の両面から学修することを目指します。理論面では、パーソナリティをめぐる概念的問題や理論について学びます。実践面では、性格検査を実施し、さらに性格検査の結果の分析と解釈について学びます。そうすることによって、受講者の皆さんが、自分自身とは一体どのような存在であるのかを再発見し、自分自身が抱える問題や将来について考える手がかりになればと思っています。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 人間の心と行動の個人差がどうして生じるのかを理解することができる。 2) 人間の心と行動の個人差がどのように発達していくのかを理解することができる。 3) 人間の心と行動の個人差をどのように測定するのかを理解することができる。 4) さまざまな性格検査の測定結果の分析と解釈について理解することができる。 5) 自己理解や他者理解を深め、自分自身の将来について考えることができる。 		
授業計画	<p>第1回 パーソナリティとは ～なぜ性格が重要なのか～ 第2回 パーソナリティの定義 ～性格について考える～ 第3回 自己概念 ～私とはいかなる存在なのか～ 第4回 自己と他者 ～他者を通して自分自身を知る～ 第5回 パーソナリティの理論 (1) ～性格を分類するという事～ 第6回 パーソナリティの理論 (2) ～性格に特性を見出すということ～ 第7回 パーソナリティの発達 (1) ～性格はどのように形成されるのか～ 第8回 パーソナリティの発達 (2) ～いかなる要素が性格に関わっているのか～ 第9回 自己理解と他者理解のための性格検査 (1) ～十二の側面から性格を捉える～ 第10回 自己理解と他者理解のための性格検査 (2) ～自分自身の性格を分析する～ 第11回 自己理解と他者理解のための性格検査 (3) ～結果を適切に解釈する～ 第12回 自己理解と他者理解のための性格検査 (4) ～五つの側面から性格を捉える～ 第13回 自己理解と他者理解のための性格検査 (5) ～分析と結果の解釈～ 第14回 パーソナリティの理解と事例検討 ～現代社会にみられる諸問題～ 第15回 摘要 ～重要点の指摘と補足説明～</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度と課題（グループワーク・感想文・レポート等）及び期末レポートの内容について総合的に評価します。遅刻や欠席が多い場合は、単位の認定が難しくなります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義への参加態度 20% 2) 課題（グループワーク・感想文・レポート等） 40% 3) 期末レポート 40% <p>なお、本講では、講義中に性格検査を実施します。性格検査を実施する場合には、遅刻をしても途中で入室することができません。</p>		
失格条件	<p>次の者を失格とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 性格検査の実施日に遅刻や欠席をした者 2) 3分の1以上欠席した者。 3) 期末レポートを提出しなかった者。 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>講義中に紹介するパーソナリティ心理学に関する書籍を読んでもください（予習2時間）。</p> <p>配付資料とノートを読み返してください（復習2時間）。</p>		
課題へのフィード バック	<p>講義中に行われる課題は内容を確認してから返却する予定です。その際に課題の良い点や改善点などについて指摘します。</p>		
教科書	使用しません。講義中にプリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	講義中に適宜紹介します。		
その他	初回の講義では、講義内容や評価方法などについて詳しく説明しようと思います。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS401B09	期間	後期
授業科目名	発達心理学概説		
英訳科目名	Introduction to Developmental Psychology		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>発達心理学とは、生まれてから死ぬまでの人間の発達について、ライフステージごとの課題や危機に注目して考える学問であり、その成果は子育てや発達支援の実践に役立てられています。</p> <p>本講義では、人間の心と行動の発達に関する基礎的なことからについて概説し、生涯発達という視点から、乳児から高齢者に至るまでの人間の変化を理解することを目指します。また、障害や発達の危機を抱える人への理解を深めることで、子育てはもとより、生涯にわたる生活の質(QOL=quality of life)を高めるための知識を修得することを期待しています。</p>		
到達目標	人間の発達を誕生から死にいたるまでの1つのプロセスとしてとらえた上で、各発達段階における課題を理解できる。また、発達が遺伝と環境の相互作用の中で展開すること、健全な発達にとって他者との関係性が重要であることを理解できる。さらに、発達上で生じる障害を理解し、障害を持つ人に対する適切な支援の視点が持てる。		
授業計画	第1回 発達における「遺伝」と「環境」 第2回 生涯発達における発達段階理論 第3回 胎児期・周産期 第4回 感覚・運動の発達 第5回 愛着の発達 第6回 自我と感情の発達 第7回 認知の発達 第8回 言語の発達 第9回 社会性・道徳性の発達 第10回 遊びと仲間関係 第11回 学習の理論 第12回 障害とこころの問題 第13回 学童期・青年期における発達 第14回 成人期・老年期における発達 第15回 総括と到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 到達度テスト 50%		
失格条件	3分の1以上授業を欠席した場合(20分以上の遅刻は欠席とみなします) 到達度テストの未受験者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	教科書・配布プリント等の指示した部分をしっかりと読んで理解するように心がけてください。 予習2時間・復習2時間を目標に勉強して下さい。		
課題へのフィード バック	到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	ベーシック 発達心理学		
著者名	開一夫/齋藤慈子		
出版社	東京大学出版会		
参考書	授業の中で、適宜、紹介します。		
その他	授業の状況に応じて、内容が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS401B10	期間	前期
授業科目名	カウンセリング論 I		
英訳科目名	Principles of Counseling I		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>こころの問題は近年ますます多様化しており、その適切な理解と援助の必要性が高まっています。そのような時代背景の中で、心理臨床を専門とするカウンセラーだけでなく、教育現場や医療現場、福祉現場などで対人援助職に就く者や、一般企業において部下の管理を行う者、さらには日常生活における人間関係でも、こころの問題に対応できる力が期待されています。</p> <p>本講義では、こころの問題の理解方法や、援助の手法の基礎を学習し、カウンセリングや心理的支援を行うための実際について学びます。</p>		
到達目標	カウンセリングの基本的な理論と技能を習得し、こころの支援の実際を理解できる。		
授業計画	<p>第1回 カウンセリングとは何か 第2回 カウンセリング発展の歴史とオリエンテーション 第3回 カウンセリングにおける倫理と基本姿勢 第4回 精神分析的カウンセリング 第5回 分析心理学的カウンセリング 第6回 来談者中心療法 第7回 家族療法 第8回 認知行動療法 第9回 カウンセリングの実践法(1)―インテーク面接と治療契約― 第10回 カウンセリングの実践法(2)―面接技法 第11回 カウンセリングの実践法(3)―中断と終結― 第12回 カウンセリングの基本技能と実際(1)医療現場 第13回 カウンセリングの基本技能と実際(2)学校教育 第14回 カウンセリングの基本技能と実際(3)コンサルテーション 第15回 補足と総括、到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 到達度テスト 50%		
失格条件	3分の1以上の講義を欠席した場合（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 到達度テストの未受験者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習では、次回授業の学習テーマについて参考図書などを中心に調べ、不明点について明らかにして授業に臨むこと。また、復習では、授業ノートや配布資料を元に整理するとともに、興味のある事項について補足学習をすること。なお、家庭学習の総時間数は4時間であることが望ましいですが、予復習における時間配分は学習テーマによって各自工夫してください。		
課題へのフィードバック	到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書	授業の中で、適宜、紹介します。		
その他	授業内容は、状況に応じて順番が前後する場合があります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS402B04	期間	後期
授業科目名	カウンセリング論Ⅱ		
英訳科目名	Principles of CounselingⅡ		
担当教員名	西田 吉男		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	心理療法の中で、代表的な治療理論の特徴、方法論を学ぶ。その理論に基づいた事例をグループ討議・検討する。理論学習、事例検討を通じて、人間心理、人間行動の理解を深める。その理解が、自己理解、他者理解へとつながり、自分の日常的な対人関係が豊かになるような視座が持てることをねらう。		
到達目標	①心理療法の理論の特徴・方法論の知識を得る ②理論に基づいた事例の特徴を検討する ③心理療法の理論と事例から、自己理解・他者理解を深める		
授業計画	第1回 心理療法とカウンセリング 第2回 意識と無意識 第3回 心理療法の特徴と方法論 第4回 心理アセスメントの方法 第5回 フロイトの精神分析 第6回 ユングの分析心理学 第7回 アドラーの個人心理学 第8回 ロジャースの来談者中心療法 第9回 パールズのゲシュタルト療法 第10回 エリスの論理情動療法 第11回 ミルトン・エリクソンのコミュニケーション理論 第12回 応用行動分析 第13回 臨床心理学的地域援助 第14回 最近のトピックスから 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度(感想カードの内容) 30% グループ討議の内容 30% まとめ後に提出するレポート 40%		
失格条件	4回のグループ討議のうち、2回欠席した場合 レポート未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	【予習】テキストの該当する内容を読んでおく(1時間) 【復讐】レポートに向けての準備と作成(3時間)		
課題へのフィード バック	課題提出後、コメントをつけて個別に返却します。		
教科書	『徹底図解 臨床心理学』		
著者名	青木紀久代 編著		
出版社	新星出版社		
参考書	必要に応じて、授業中提示		
その他			
備考	スクールカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS402C01	期間	前期
授業科目名	精神分析学		
英訳科目名	Psychoanalysis		
担当教員名	坂田 真穂		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>精神分析学とは、臨床心理学の創始者ともいえるSigmund Freudが提唱した人間心理の理論と治療技法の体系で、無意識世界を生育史を通じて洞察する特徴があることから力動的心理療法とも呼ばれています。</p> <p>本授業では、精神分析について、その人間理解や治療面接における理論および方法論、そしてその世界観を学びます。また、Freud以後、さまざまに枝分かれしながら発展した精神分析についても概観し、現代精神分析の全体像を把握することを目指します。精神分析学を学ぶことを通じて、より深い人間理解ができることを期待しています。</p>		
到達目標	精神分析の理論、方法論、世界観を理解できる。また、事例検討や日常生活場面での精神分析的解釈を試みることで、より深い人間理解ができる。		
授業計画	<p>第1回 精神分析とSigmund Freud</p> <p>第2回 精神分析の考え方① 力動－構造論、力動－経済論</p> <p>第3回 精神分析の考え方② 不安－防衛論、生成－分析論</p> <p>第4回 精神分析の考え方③ 発生－発達論、自己愛論</p> <p>第5回 精神分析の展開① 対人関係論学派、対象関係論学派</p> <p>第6回 精神分析の展開② 中間学派、自我心理学派</p> <p>第7回 精神分析の展開③ 自己心理学派、間主観性論学派</p> <p>第8回 精神分析的面接の基礎</p> <p>第9回 古典的症例を読む</p> <p>第10回 精神分析的事例から学ぶ</p> <p>第11回 現代の事例から考える</p> <p>第12回 分析心理学とCarl Gustav Jung</p> <p>第13回 精神分析学と分析心理学① 「無意識」に関する相違</p> <p>第14回 精神分析学と分析心理学② 治療のゴール</p> <p>第15回 総括と到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への積極的参加 50% 到達度テスト 50%		
失格条件	3分の1以上の欠席した場合（授業開始より20分以上の遅刻は欠席とみなします） 到達度テストの未受験者		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習として、テキストの該当部分をよく読んでおくこと。また、復習は、授業内容を振り返り、専門用語の理解を深め、精神分析のエッセンスを味わうこと。予習、復習それぞれの時間配分(総時間数:4時間)は、各自に任せます。		
課題へのフィード バック	到達度テストについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントします。		
教科書	ヴィジュアル 精神分析ガイダンス－図解による基本エッセンス－		
著者名	長尾博		
出版社	創元社		
参考書	授業中、適宜提示。		
その他	学習内容は、状況に応じて順番が前後することがあります。		
備考	日赤病院でのカウンセラーとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS402C02	期間	後期集中
授業科目名	精神医学		
英訳科目名	Psychiatry		
担当教員名	岩切 昌宏		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	精神医学全般についての概要を理解する。そのために、講義だけでなく、授業内で質問したり、グループでの討議、宿題などをおりまぜて行う		
到達目標	精神医学全般について、大筋は理解できており、様々な精神疾患患者に対する偏見なども払拭できていること		
授業計画	第1回 精神医学とは 第2回 身体発達と精神発達 第3回 脳科学と精神医学 第4回 気分障害 第5回 精神医学演習Ⅰ 第6回 統合失調症 第7回 児童・思春期の精神障害 第8回 児童・思春期の精神障害 第9回 認知症、器質性精神障害 第10回 精神医学演習Ⅱ 第11回 症状性精神障害、アルコール・薬物による精神障害 第12回 睡眠障害、てんかん 第13回 精神療法 第14回 薬物治療、その他の精神科治療 第15回 テスト		
評価方法 (合計100%)	授業の参加態度	30%	
	小テストなど	20%	
	レポート提出	20%	
	試験	30%	
失格条件	集中講義の3日間のうち1日間（全日）欠席すると失格		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	ノート、プリント、参考書を用いて、小テスト、レポートを見直すだけでなく、授業全般を復習すること		
課題へのフィード バック	小テスト・レポートなどは提出日以降の授業にて全体に向けてコメントする。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	「みる よむ わかる 精神医学入門」 ニール・バートン 朝田 隆訳 医学書院 「看護のための精神医学」 第2版 中井久夫, 山口直彦 医学書院 など		
その他	教科書は用いないが、精神医学のやさしい参考書など1冊は購入することが望ましい		
備考	精神科医としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS402C03	期間	後期集中
授業科目名	神経心理学		
英訳科目名	Neuropsychology		
担当教員名	上田 有紀人		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	神経心理学とは、脳の科学としての神経内科学（Neurology）と心の科学としての心理学（Psychology）を人間の脳損傷によって生じた症状を媒介にして有機的に統合させて学問と定義されています。この場合の「症状」とは大脳高次脳機能障害を意味します。この症状には左右大脳半球で、それぞれ異なる症状が出現します。失語症、失行、失認、前頭葉機能障害などの認知機能障害についての知識を身につけ、脳部位や脳神経といった解剖についても理解を深めて頂きます。		
到達目標	脳の機能局在とそれによって生じる神経心理学的症状の理解を到達目標とします。 (各脳部位の役割、左右で異なる神経心理症状の理解など。)		
授業計画	第1回 神経心理学とは？ 第2回 神経細胞（ニューロン）のはたらき 第3回 脳の解剖と機能（大脳・脳幹・小脳など） 第4回 脳血管障害について 第5回 主な症候：失語症 第6回 主な症候：記憶障害 第7回 主な症候：前頭葉機能障害 第8回 主な症候：失認・失行 第9回 主な症候：その他（脳梁症候群など） 第10回 神経心理学的検査について 第11回 エビデンスについて 第12回 認知症性疾患：アルツハイマー病 第13回 認知症性疾患：レビー小体型認知症 第14回 認知症性疾患：前頭側頭葉変性症 第15回 まとめ・小テスト		
評価方法 (合計100%)	・授業への参加態度：70% ・配布資料の整理：20% ・小テスト：10%		
失格条件	出席回数が3分の2に達しない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・授業計画を確認し、興味のある分野を調べる（予習1時間）。 ・講義で配布する資料整理（復習3時間）。		
課題へのフィード バック	・毎回講義終了時に小テストを渡します。次回の講義最初に小テスト解答を全体で確認します。 最終小テストは授業時間内に実施し、全体で確認します。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考	三重大学附属病院での実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS402C04	期間	前期
授業科目名	家族心理学		
英訳科目名	Family Psychology		
担当教員名	中村 慎佑		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>家族は私たちにとってもっとも身近な集団の一つです。私たちは、父、母、きょうだいなどの家族とともに日々を過ごし、家族から多大な影響を受け、また同時に家族のメンバーに対して大きな影響を与えています。さて、このような家族の様態は、いつの時代も同じようなものだったのでしょうか。それとも時代によって大きく変容してきたといえるのでしょうか。</p> <p>本講では、家族を理解するために必要な様々な考え方について学修します。また、現代社会において家族が抱える諸問題を取り上げ、その様相を理解するとともに問題の解決方法を模索していくことによって家族や家族を取り巻く環境に対する理解を深めていってほしいと思います。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 家族心理学の諸理論について理解することができる。 2) 家族の形態の変容過程について理解することができる。 3) 家族観と結婚観の変化について理解することができる。 4) 現代社会における家族の問題について理解することができる。 		
授業計画	<p>第1回 社会の変容 ～社会は家族をどのように変えたのか?～ 第2回 社会の中の人間 ～私たちは誰の影響を受けて育つのか?～ 第3回 日本人の家族観 ～日本人はどのように家族を捉えてきたのか?～ 第4回 私たちの家族観 ～私たちはどのように家族を捉えているのか?～ 第5回 家族の定義 ～家族とは何か?～ 第6回 家族の起源 ～家族はいつ生まれたのか?～ 第7回 集団生活と協力行動 ～なぜ助け合うことが大切なのか?～ 第8回 家族の変容 ～家族はどのように変わってきたのか?～ 第9回 家族をめぐる新しい問題 ～生殖医療をどう考えればよいのか?～ 第10回 家族の多様化 ～現代社会にはどのような家族があるのか?～ 第11回 結婚観の変化 ～人はどのように結婚を捉えているのか?～ 第12回 恋愛行動 ～人はどのような要素に魅力を感じるのか?～ 第13回 家族と幸福感 ～家族の存在は私たちに何をもたらすのか?～ 第14回 人々のつながりと家族 ～なぜ人と人の絆が大切なのか?～ 第15回 摘要</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度と課題（グループワーク・感想文・小レポート・発表等）及び期末レポートの内容について総合的に評価します。遅刻や欠席が多い場合は、単位の認定が難しくなります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義への参加態度 20% 2) 課題（グループワーク・感想文・小レポート・発表等） 40% 3) 期末レポート 40% 		
失格条件	<p>次の者を失格とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 3分の1以上欠席した者 2) 期末レポートを提出しなかった者 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>講義中に紹介する家族心理学に関する書籍を読んでください（予習2時間）。</p> <p>配付資料とノートを読み返してください（復習2時間）。</p>		
課題へのフィード バック	<p>講義中に行われる課題は内容を確認してから返却する予定です。その際に課題の良い点や改善点などについて指摘します。</p>		
教科書	教科書は使用しません。		
著者名			
出版社			
参考書	講義中に適宜紹介します。		
その他	初回の講義では、講義内容や評価方法などについて詳しく説明しようと思います。なお、授業計画は、授業の進捗状況や受講生の理解度によって変わることがあります。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	PS401B11	期間	前期
授業科目名	グループダイナミックス		
英訳科目名	Group Dynamics		
担当教員名	西迫 成一郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	人々が集まったところでは、人間の心や行動は一人にいるときとは異なる様相をあらわす。他者がいる状況では、相互的に個人の心や行動に影響を与える結果、何らかの課題に対しても一人のときとは異なった結果を生み出すのである。「グループダイナミックス」の授業では、集団における意思決定やパフォーマンス、すぐれたリーダーシップなどといった問題に加え、さまざまな集合行動についても講義する。この授業によって、人々の中でより良く生きる方策を獲得する。		
到達目標	集団行動の諸側面について理解し、社会の中での実生活において効果的で友好的な集団行動の実践が可能となることを目指す。		
授業計画	第1回 グループダイナミックスとは 第2回 集団とは 第3回 集団の形成 第4回 集団における影響過程①社会的勢力 第5回 集団における影響過程②同調 第6回 集団における影響過程③服従 第7回 集団における影響過程④リーダーシップ 第8回 集団における影響過程⑤課題遂行 第9回 集団意志決定①極端な意思決定 第10回 集団意思決定②誤った意思決定 第11回 集団間関係 第12回 集合行動①流言 第13回 集合行動②群集 第14回 集合行動③流行 第15回 理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	試験の評価 70% 授業への参加態度（授業に出席することだけでなく、質問されたことや課題への取り組み度合いなどを含め総合的に評価します） 30% 20分以上の遅刻は欠席と見なします。		
失格条件	試験を受験しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指示された予習については、積極的に資料を検索して行うこと。（予習時間 1時間） また、授業後の復習は欠かさず行い、授業で示された各心理学用語をしっかりと理解したうえで覚えること。（復習時間 3時間）		
課題へのフィードバック	試験終了後、必要に応じて、全体に向けポータルを通じコメントします。		
教科書	適宜プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	試験は、ノート、プリントなど一切持ち込み不可という条件で行う。原則、座席を指定する。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS402B05	期間	後期
授業科目名	産業・組織心理学		
英訳科目名	Industrial and Organizational Psychology		
担当教員名	益田 圭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>社会で生きている人間は、何らかの組織に所属している。こうした組織とはいったいどのようなもので、どのように人々は組織と関わり、また組織の中で人々はどのように行動するのか。そして組織であるがゆえの問題とはどのようなものであろうか。</p> <p>また、多くの人が産業界で働くことによって生活の糧を得ている。「働く」ということは人々にとってどのような意味を持ち、また「働く」ことでどのような心理的問題が生じているのか。</p> <p>そして、さまざまな場面で、知らず知らずの内に利用されている消費者の行動のパターンや心理とはどのようなものであろうか。</p> <p>この講義では、組織や産業に関わる人間の心理や行動についての基礎知識の獲得と、自分や社会への理解を深めることを目指す。</p>		
到達目標	<p>組織や産業における人間の心理や行動について興味を持つことができること。</p> <p>組織とはどのようなものかについてわかりやすく説明することができること。</p> <p>現実場面における組織での人間行動について自分なりに分析や解釈することができること。</p> <p>働くことや消費者行動について、基本的な事柄を他の人にわかりやすく説明することができること。</p> <p>現実場面の働くことや消費者行動について自分なりの分析や解釈ができること。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション～組織とは何か</p> <p>第2回 組織研究の起源</p> <p>第3回 組織研究の歴史</p> <p>第4回 モチベーションとは何か</p> <p>第5回 職場におけるモチベーション</p> <p>第6回 職務満足とコミットメント</p> <p>第7回 キャリアと職業志向</p> <p>第8回 職場におけるメンタルヘルス</p> <p>第9回 職場における集団</p> <p>第10回 リーダーシップとは何か</p> <p>第11回 職場におけるリーダーシップ</p> <p>第12回 集団での意思決定</p> <p>第13回 説得の心理</p> <p>第14回 広告の心理</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度20%</p> <p>小テストと小レポート30%</p> <p>期末レポート50%</p>		
失格条件	期末レポートを提出しないもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習1時間 (45分)</p> <p>授業時に課題を提示する。</p> <p>復習3時間(135分)</p> <p>まず、授業時に出した持ち帰り課題を、確実にやってくること。</p> <p>また、授業時に記入・提出したプリントや持ち帰り課題が返却されたら、必ずもう一度その内容を確認し、わからないことや理解が不十分なところを見つけ、つぎの授業時に質問すること</p>		
課題へのフィード バック	<p>プリント、課題、取り組みについては全体に向けてコメントする。</p> <p>また授業時のプリントは必要に応じコメントをつけて個別に返却する。</p>		
教科書	指定しない。必要な資料はプリントにて配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて授業にて紹介する。		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	PS402B06	期間	前期
授業科目名	消費者行動論		
英訳科目名	Consumer Behavior Theory		
担当教員名	中村 慎佑		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>私たちは、毎日のように消費者として様々なモノを購入して利用したり、対価を支払うことによって多様なサービスを利用したりしています。このような行動を客観視することは少ないかもしれません。しかし、そこには実に複雑な過程があり、また色々な要素が関与しているといえます。</p> <p>本講の前半では、消費者である私たちが、モノを買ったりサービスを受けたりする際に、いかなる要素に影響を受けているのか、また、どのような意思決定が行われているのか、そして、それらの問題はいかにして分析されてきたのかということについて学修することを目的とします。後半では、消費者行動に関わるいくつかの問題を取り上げ、自ら分析することによって主体的に学修を進めてもらいたいと思います。</p>		
到達目標	<p>1) 消費者行動の諸理論について理解することができる。</p> <p>2) 消費者行動の分析方法について理解することができる。</p> <p>3) 消費社会における諸問題について分析することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現代社会 ～社会はどのように変容してきたのか？～</p> <p>第2回 消費社会と消費者行動 ～消費者行動とは何か？～</p> <p>第3回 消費者行動の実際 ～人は何を買い求めるのか？～</p> <p>第4回 購買行動と購買動機 ～どうして人は製品を買うのか？～</p> <p>第5回 個人消費 ～どのような製品が売れているのか？～</p> <p>第6回 企業の動向 ～どのような企業が業績を伸ばしているのか？～</p> <p>第7回 マーケティング・コンセプト ～なぜマーケティングが重視されるのか？～</p> <p>第8回 標的市場の把握 ～なぜ企業は市場を把握する必要があるのか？～</p> <p>第9回 競争の激化と消費者の選択 ～私たちはどのような製品を選ぶのか？～</p> <p>第10回 製品の没個性化と革新 ～いかにして製品の革新性が失われるのか？～</p> <p>第11回 流行現象の発生と収束 ～どのようにして流行が生まれるのか？～</p> <p>第12回 消費者行動の研究（1）～事例の分析～</p> <p>第13回 消費差行動の研究（2）～問題の指摘～</p> <p>第14回 消費者行動の研究（3）～新しい製品の提案～</p> <p>第15回 消費者行動の研究（4）～発表とまとめ～</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度と課題（グループワーク・感想文・資料作成・発表等）の内容について総合的に評価します。</p> <p>遅刻や欠席が多い場合は、単位の認定が難しくなります。</p> <p>1) 講義への参加態度 20%</p> <p>2) 課題（グループワーク・感想文・資料作成・発表等） 80%</p>		
失格条件	<p>次の者を失格とします。</p> <p>1) 3分の1以上欠席した者</p> <p>2) 発表しなかった者</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>講義中に紹介する消費者行動論に関する書籍を読んでください（予習2時間）。</p> <p>配付資料とノートを読み返してください（復習2時間）。</p>		
課題へのフィード バック	<p>講義中に行われる課題は内容を確認してから返却する予定です。その際に課題の良い点や改善点などについて指摘します。</p>		
教科書	教科書は使用しません。		
著者名			
出版社			
参考書	講義中に適宜紹介します。		
その他	初回の講義では、講義内容や評価方法などについて詳しく説明しようと思います。なお、授業計画は、授業の進捗状況や受講生の理解度によって変わることがあります。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	IC401A01	期間	前期
授業科目名	多文化社会論入門		
英訳科目名	Introduction to Theories of Multicultural Societies		
担当教員名	井上 陽		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	2010年、ドイツ首相アンゲラ・メルケルは「多文化主義は完全に失敗した」と発言したことは記憶に新しい。1970年代に入り、国民国家を維持するために政策として考案された「多文化主義」は今や完全に崩壊した。いったいどこが問題だったのか。東西冷戦構造の崩壊以後、世界はさらに混迷を窮めている。この授業では「多文化主義」をキーワードに世界の現代史を読み解いていきます。		
到達目標	1. 「多文化主義」について正しい理解ができるようになる 2. 混迷する現代史の流れを理解することができる 3. 「平和」と「共生」について自身の課題として考えられるようになる 4. これからの世界を生き抜く基礎的な力を養うことができる		
授業計画	第1回 多文化社会論への誘い 第2回 単一文化主義から多文化主義へ 第3回 政策としての多文化主義 ① 概要 第4回 政策としての多文化主義 ② 事例 第5回 多文化主義の終焉 第6回 グローバリズムとローカリズム 第7回 難民・移民の問題 第8回 イスラームが破壊する欺瞞の世界秩序 ① 概要 第9回 イスラームが破壊する欺瞞の世界秩序 ② 事例から考える 第10回 世界はどうして「平和」にならないのか 第11回 インドの多文化にならう 第12回 多文化主義の「文化」をどのように理解するのか 第13回 異教の隣人ということ 第14回 果たして「共生」は可能なのか 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（毎回の簡単な確認）60% 期末のレポート40%		
失格条件	授業回数の1/3以上の欠席、およびレポートなどの未提出の場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	毎回、事前に課題を出すのでそれについての予習を3時間することと、講義後の復習（ノートをまとめるなど）を1時間すること。		
課題へのフィード バック	毎回の簡単な確認については、その次の回の授業の冒頭にフィードバックを行う。		
教科書	必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	受講者の関心と理解度に応じて計画を一部変更することがある。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	IC201A08	期間	前期
授業科目名	英米文化入門/英語圏文化入門		
英訳科目名	Introduction to English-speaking Cultures		
担当教員名	石川 玲子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>英語圏文化のいくつかの側面を知ること、それらの国や文化に関心を持ち、より深く学ぶための導入とする。</p> <p>前半は、文化を知る手段として、映画を利用し、映画に描かれた歴史や文化について解説する。</p> <p>後半は、英語圏の文化について、グループごとに配布資料の内容と自分たちでさらに調べた内容を整理して、クラス全体に紹介する。</p>		
到達目標	<p>英語圏の文化や歴史について知り、関心を持つことができる。</p> <p>資料を読み、そこに書かれている内容を理解することができる。</p> <p>グループ内で分担しながら、内容をまとめ、発表することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション／イギリスという国</p> <p>第2回 イギリスとアメリカのつながり&アメリカという国／映画『ビーン』鑑賞(1)</p> <p>第3回 『ビーン』鑑賞(2)／イギリスとアメリカの違い(映画『ビーン』から)</p> <p>第4回 イギリスの紅茶文化・奴隷貿易(映画『アメイジング・グレイス』の背景を知る)／グループ分け</p> <p>第5回 『アメイジング・グレイス』鑑賞(1)／グループ発表準備(1)</p> <p>第6回 『アメイジング・グレイス』鑑賞(2)／グループ発表準備(2)</p> <p>第7回 『アメイジング・グレイス』鑑賞(3)／イギリスの議会制度・宗教(映画『アメイジング・グレイス』から)</p> <p>第8回 ネイティブ・アメリカンの歴史(映画『ポカホンタス』の背景を知る) ／『ポカホンタス』鑑賞(1)／グループ発表準備(3)</p> <p>第9回 『ポカホンタス』鑑賞(2)／グループ発表準備(4)</p> <p>第10回 ネイティブ・アメリカンの現在／グループ発表準備(5)</p> <p>第11回 グループ発表(1)</p> <p>第12回 グループ発表(2)</p> <p>第13回 グループ発表(3)</p> <p>第14回 グループ発表(4)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業・グループワークへの参加態度30%</p> <p>発表30%</p> <p>試験40%</p>		
失格条件	<p>以下のいずれかに該当する場合</p> <p>1.1/3以上の欠席</p> <p>2.正当な理由なく発表の際に無断で欠席した場合</p> <p>3.正当な理由なく試験を受けなかった場合</p>		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>予習：次週のテーマについて、自分で調べてみる。</p> <p>復習：授業で学んだ事について整理した上で、それを出発点に、疑問に思ったこと、関心を持ったことについて調べる。</p> <p>予習、復習にそれぞれ90分を費やすことが望ましい。</p>		
課題へのフィード バック	<p>・授業での課題(レジュメ、発表)については、授業中にコメントします。</p> <p>・提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。</p>		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	<p>藤枝善之編著『見て学ぶアメリカ文化とイギリス文化』近代映画社、2012年。</p> <p>江藤秀一・鈴木章能『英語圏文化・文学の基礎知識』開拓者、2017年。</p> <p>板倉巖一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子『映画でわかるイギリス文化入門』松柏社、2008年。</p> <p>奥村みさ、スーザン・K・バートン、板倉巖一郎『映画でわかるアメリカ文化入門』松柏社、2007年。</p>		
その他	<p>30分以上の遅刻は1回の欠席とみなす。</p> <p>遅刻は3回で1回の欠席とみなす。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	IC401A02	期間	前期
授業科目名	国際関係入門		
英訳科目名	Introduction to International Relations		
担当教員名	佐々木 太郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	16紀から今日に至るまでの国際関係史を解説する。特に国際社会という概念がどのように誕生し、その規範・制度がいかに変化してきたのか、また大国間の力関係がいかに変化してきたのかという点を中心に解説する。		
到達目標	講義や予習・復習を通じて国際関係史に関心を持ち、重要な出来事の概要や、その出来事の国際関係史上の意義について、自分の言葉で説明できるようになる。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 主権国家体制の成立 第3回 勢力均衡概念の確立 第4回 18世紀のヨーロッパ外交と植民地争奪戦 第5回 アメリカ独立戦争、フランス革命戦争とナポレオン戦争 第6回 ウィーン体制 第7回 ヨーロッパ再編とビスマルク体制 第8回 これまでのまとめと理解度の確認 第9回 第一次世界大戦への道 第10回 ヴェルサイユ体制 第11回 第二次世界大戦への道 第12回 冷戦の開始 第13回 冷戦の激化 第14回 デタントから新冷戦、冷戦の終結へ 第15回 講義全体のまとめと理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	中間試験 (40%) 期末試験 (40%) 授業への参加態度 (20%)		
失格条件	中間試験、期末試験を受けなかった場合は失格とする。 5回以上欠席した場合は失格とする。 20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は2回で1回の欠席とみなす。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 講義で紹介する参考文献を読んで理解を深めること。(予習時間 1時間) 復習： 授業の内容を理解しておくこと。(復習時間 3時間)		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントする。		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	有賀貞『国際関係史 16世紀から1945年まで』（東京大学出版会、2010年） マイケル L. ドックリル、マイケル F. ホプキンス『冷戦 1945-1991』（岩波書店、2009年）		
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	IC404B01	期間	後期
授業科目名	異文化間コミュニケーション		
英訳科目名	Intercultural Communication		
担当教員名	J.E.Alsdorf		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	Basic concepts of Intercultural Communication will be introduced through readings, case studies, questionnaires, lectures, and discussion. We will begin by considering definitions of culture, then study models of the process of communication and how communication style may vary from culture to culture. Materials will be presented interactively requiring active participation by the students in the class. There will be quizzes on the content from time to time.		
到達目標	The course is designed to introduce students to basic concepts and principles of Intercultural Communication. Moreover, the course is structured so as to increase student awareness of cultural differences, the need for intercultural communication, and to encourage an attitude of tolerance and understanding.		
授業計画	Week 1.Class orientation. Identity Week 2.Values Week 3.Culture Shock Week 4.Culture in language Week 5.Body language and customs Week 6.Individualism Week 7.Review and quiz 1 Week 8.Politeness Week 9.Communication styles Week 10.Gender and culture Week 11.Diversity Week 12.Social change Week 13.Global community Week 14.Presentations of final projects Week 15.Wrap-up and quiz 2		
評価方法 (合計100%)	Class attitude and participation - 25% Homework, text exercises - 25% Regular quizzes and projects - 50%		
失格条件	①More than five absences (Being late 3 times is equivalent to one absence) ②An average score below 60% on quizzes and homework assignments.		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	Since classes will be conducted in English, it is highly recommended that the student has some working knowledge of the English language. Students will be expected to attend class on time every week, do homework and be active participants in all activities. Students must bring dictionaries to every class. (Japanese to English and English to Japanese) (予習2時間：90分、復習2時間：90分)		
課題へのフィード バック	Students will receive comments and feedback upon completion of assignments.		
教科書	Identity		
著者名	Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida		
出版社	Oxford University Press		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	IC405B01	期間	前期
授業科目名	英米文学概論/英語文学概論		
英訳科目名	Introduction to English Literature		
担当教員名	石川 玲子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>英米の文学史を大まかにたどり、代表的な英米の詩人や作家、文学作品についての知識を身につけると共に、授業内で読むことのできる英米の詩や劇の一節、短編小説を読んで味わったり、小説を映像化したものを鑑賞することで、英米文学への導入としたい。</p> <p>その際、自由に考えや感想を述べあう時間や、グループでディスカッションする時間を持ちたいと思う。</p> <p>英語による原文だけでなく、翻訳も利用するので、英米文学に関心があるが英語は苦手という学生も歓迎します。</p>		
到達目標	<p>英米の代表的な作家、文学作品についての知識を持つことができる。</p> <p>文学作品の背景となる英米の歴史や文化についての理解を深めることができる。</p> <p>文学作品を味わうことの意義や面白さを知ることができる。</p> <p>文学作品を通して、人間や社会について考察することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODククション：文学とは何か？</p> <p>第2回 イギリス文学／古英語の詩・中英語の詩</p> <p>第3回 ウィリアム・シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』</p> <p>第4回 シェイクスピアのソネットとジョン・ダンのソネット</p> <p>第5回 小説の誕生とジェーン・オースティン</p> <p>第6回 ロマン主義の詩人たち</p> <p>第7回 ヴィクトリア朝小説・モダニズム小説</p> <p>第8回 サマセット・モームの短編「ランチ」①読んで考える</p> <p>第9回 サマセット・モームの短編「ランチ」②ディスカッション</p> <p>第10回 サマセット・モームの短編「ランチ」③まとめ</p> <p>第11回 アメリカ文学／詩</p> <p>第12回 オー・ヘンリーの短編「20年後」</p> <p>第13回 マーク・トウェインの小説</p> <p>第14回 アーネスト・ヘミングウェイ『老人と海』／ボブ・ディラン</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度50%</p> <p>期末レポート50%</p>		
失格条件	<p>以下のいずれかに該当する場合、失格とする</p> <p>1.5回以上欠席した場合</p> <p>2.期末レポートを提出しなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習：次回のために配布された資料に目を通しておく。</p> <p>復習：参考資料として配布されたプリントに目を通す。</p> <p>授業の内容を思い出しながら、再度文章を読みなおし、自分なりに味わってみよう。</p> <p>授業で紹介された作品を読んでみよう。</p> <p>興味のある事柄については、参考資料を読み、知識を深めてもらいたい。</p> <p>目安としては、予習、復習にそれぞれ90分を費やすことが望ましい。</p>		
課題へのフィード バック	<p>・提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。</p>		
教科書	プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>30分以上の遅刻は欠席とみなす。</p> <p>また遅刻3回で、1回の欠席とみなす。</p>		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	IC401B01	期間	後期
授業科目名	イギリスの社会と文化/英語圏の社会と文化A		
英訳科目名	English-speaking Societies and Cultures A		
担当教員名	石川 玲子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	イギリス文化の背景となっている国の成り立ちと歴史の流れを概観する他、イギリス人の民族意識や階級意識、イギリスの地理や気候、教育、食生活など、イギリスの文化と社会を特徴づける様々な側面について学ぶ。単なる説明に終わらず、目や耳を通してより具体的に学べるように、画像や映像資料をできるだけ多く利用する。 学生の興味・関心に沿った自主的な発表のために、最後の12時間を当てる。		
到達目標	イギリスの歴史を知ることができる。 歴史と結びついたイギリスの文化の様々な側面を知ることができる。 イギリスの社会や文化に興味を持つことができる。 イギリスの社会や文化を知ることを通して、自文化について見直すことができる。		
授業計画	第1回 イントロダクション／イギリスの町と風景 第2回 国の成り立ち、人、言葉 第3回 民族意識 第4回 階級 第5回 地理・気候 第6回 歴史（1） 第7回 歴史（2） 第8回 王室・紅茶 第9回 食文化 第10回 教育 第11回 自然愛・カントリーハウス・庭園 第12回 住居・日常生活 第13回 クリスマス・クリスマスソング 第14回 学生発表会 第15回 まとめ ※学生の発表希望が多い場合は、13回目も学生発表会に当てる。		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度50%（自主的な発表に対して10点加点する。） 試験50%		
失格条件	以下のいずれかに該当する場合 1.5回以上欠席した場合 2. 試験を受けなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： その日のテーマについて自分なりに調べる。(60分) 復習： 授業で配布したプリントを再度確認することに加え、疑問に思ったこと、興味を持ったことを自分なりに調べる。(120分)		
課題へのフィードバック	・提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。		
教科書	プリントにて配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	James O'Driscoll, Britain For Learners of English (Oxford University Press, 2012) 近藤久雄・細川祐子編著『イギリスを知るための65章』(明石書店) その他、適宜、紹介します。		
その他	30分以上の遅刻は欠席とみなす。 また遅刻3回で、1回の欠席とみなす。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	IC403B01	期間	前期
授業科目名	フィールドワーク論		
英訳科目名	Methods of Fieldwork		
担当教員名	藤谷 忠昭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>社会の出来事を知ろうとするとき、本やインターネットから情報を得る以外にも、実際に人から話を聞いたり、人々の振る舞いを詳しく観察したりすることがたいへん役に立ちます。フィールドワークは、社会調査において欠くことのできない重要な手法のひとつであるとともに、社会を具体的に知るための魅力的な方法でもあります。この授業では、さまざまなフィールドワークの手法についての基礎知識を修得するとともに、簡単な実習を交えながら観察法、参与観察法、聞き取り調査それぞれの特徴を学び、現実の人間から教わることの難しさと楽しさにふれることを目的とします。この授業に取り組むことで、初めて出会う人とのコミュニケーションの取り方を学ぶことができ、また、卒業研究でも活用できるフィールドワークの基礎を習得できます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドワーク調査の知識を習得できる。 ・ インタビュー調査を自分で行うことができる。 		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション:フィールドワークの方法を学ぶ意義・取り組む姿勢 第2回 量的調査と質的調査:サーベイとフィールドワークの違い 第3回 質的調査の分類:質的調査の各方法の分類と特徴 第4回 観察法(1):考現学・路上観察学・現代風俗学などの成果の紹介、非参与観察による分析の解説 第5回 観察法(2):簡単な観察法を実践してもらい、その特徴を体験的に学習 第6回 参与観察法(1):これまでの代表的な作品を紹介しながら、参与観察の特徴を解説 第7回 参与観察法(2):これまでの受講生それぞれの体験を用いて、擬似的な参与観察を体験 第8回 参与観察法(3):報道記者やジャーナリストのノンフィクション作品を紹介し、質的調査との類似点・相違点を比較考察 第9回 聞き取り調査(1):インタビューを使った調査の研究結果と、その分析の特性を解説 第10回 聞き取り調査(2):調査申し込み、テーマ設定、インフォーマント選定、アポイントの取り方など調査の進め方を解説 第11回 聞き取り調査(3):学生同士のインタビューを通し、調査手法の特徴を体験的に学習 第12回 聞き取り調査(4):実習に基づく結果を報告、分析してもらい、インタビュー法の特徴について具体的に学ぶ 第13回 聞き取り調査(5):ライフヒストリー調査の特徴 第14回 その他の質的調査:会話分析・ドキュメント分析・映像分析などの特徴 第15回 まとめ:質的調査における記述スタイル・調査者の立場、倫理</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 20% 授業内課題提出 40% 確認テスト 40%</p>		
失格条件	5回以上の欠席(遅刻3回で1回の欠席とする)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	出された課題をしっかりとこなすこと(予習2時間:90分、復習2時間:90分)。		
課題へのフィード バック	発表時にコメントする。		
教科書	プリントを配布		
著者名			
出版社			
参考書	適宜指示		
その他	<p>私語、内職、メール操作、熟睡等は出席とはなりません。 私語をするときは、退出してください。 スマートフォンの操作は教室外でお願いします。 板書は写メではなく、手書きで取りましょう。</p>		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	IC409B01	期間	前期
授業科目名	スピーチとプレゼンテーション		
英訳科目名	Speech and Presentation		
担当教員名	J.E.Alsdorf		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	This course will introduce the principles of effective public speaking and provide opportunities to practice those skills. The course lays out the steps necessary for preparing and structuring speeches as well as different techniques that should be utilized in order to make an effective speech. In class, students will be asked to develop short individual presentations by working in small groups and providing each other with insight and feedback.		
到達目標	It is hoped that students will learn techniques to: gain the respect and trust of their listeners; capture and hold the audience's attention; vary their voice to the desired audience reaction; organize speeches for maximum clarity and understanding; provide supporting evidence and details to make arguments more convincing; speak 'impromptu' with greater confidence and fluency.		
授業計画	Week 1. Class orientation. Enhancing eye contact Week 2. Adding gestures Week 3. Using your voice effectively Week 4. Organizing information Week 5. Supporting ideas Week 6. Generating enthusiasm Week 7. Telling stories Week 8. Ending with a bang Week 9. Building interest Week 10. Using visual aids Week 11. Speaking impromptu Week 12. Bringing it all together Week 13. Preparation of final speeches Week 14. Preparation of final speeches Week 15. Presentation of final speeches		
評価方法 (合計100%)	Attitude and class participation - 20% Homework and short presentations - 40% Final presentation - 40%		
失格条件	①More than five absences (Being late 3 times is equivalent to one absence) ②An average score below 60% on assignments and projects.		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	Since classes will be conducted in English, it is highly recommended that the student has some working knowledge of the English language. Students will be expected to attend class on time every week, do homework and be active participants in all activities. Students must bring dictionaries to every class. (Japanese to English and English to Japanese) (予習2時間：90分、復習2時間：90分)		
課題へのフィード バック	Students will receive comments and feedback upon completion of assignments.		
教科書	The Way to Effective Speaking		
著者名	Kate Elwood		
出版社	Nan'un-do		
参考書	Students should bring dictionaries to every class. (Japanese to English and English to Japanese)		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	IC405C01	期間	後期
授業科目名	ビジネス英語		
英訳科目名	Business English		
担当教員名	J.E.Alsdorf		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	This course is designed to improve the students' overall English ability with a focus on language used in a business environment. Students will sometimes be given homework with the aim of developing writing and presentation skills. In class, students will be asked to develop individual presentations by working in small groups and providing each other with insight and feedback.		
到達目標	It is hoped the student will gain a general understanding of and improve their skills in the basic structure and patterns of English used in a business environment. Students will also practice producing simple emails and documents common to the business world.		
授業計画	Week 1.Class orientation. Introductions in the business world Week 2.Describing your company Week 3.Office routines Week 4.Business in progress Week 5.Describing company history Week 6.Making telephone arrangements Week 7.Describing locations Week 8.Getting to a meeting Week 9.Overseas business travel Week 10.Socializing Week 11.Explaining your culture Week 12.Comparing workplaces and products Week 13.Executive advice Week 14.Business plans and predictions Week 15.Review and Quiz		
評価方法 (合計100%)	Class attitude and participation - 20% Homework, text exercises - 30% Regular quizzes and projects - 50%		
失格条件	①More than five absences (Being late 3 times is equivalent to one absence) ②An average score below 60% on quizzes and homework assignments.		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	Since classes will be conducted in English, it is highly recommended that the student has some working knowledge of the English language. Students will be expected to attend class on time every week, do homework and be active participants in all activities. Students must bring dictionaries to every class. (Japanese to English and English to Japanese) (予習2時間：90分、復習2時間：90分)		
課題へのフィードバック	Students will receive comments and feedback upon completion of assignments.		
教科書	Global Links Level 1Student Book		
著者名	Keith Adams, Rafael Dovale		
出版社	Pearson Japan		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	IC409C02	期間	後期
授業科目名	コミュニケーション実践		
英訳科目名	Communication in Practice		
担当教員名	J.E.Alsdorf		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	This course is designed to improve the students' overall English ability. Students will be required to research and quote sources in leading a discussion of a chosen topic. Students will sometimes be given homework with the aim of developing research and presentation skills. In class, students will be asked to develop individual presentations by working in small groups and providing each other with insight and feedback.		
到達目標	Students will work on improving their English skills, especially their ability to listen and respond to information by orally expressing their own opinions and ideas. Students will learn the basics of preparing, structuring, and engaging in a debate on a chosen topic.		
授業計画	Week 1.Class Orientation / Unit 1 Talk about yourself Week 2.Unit 2 A difficult experience / Introduction to debates Week 3.Unit 3 My life online / Building a framework Week 4.Unit 4 A big accomplishment / Structuring a debate Week 5.Debate preparation (Potential Topics) Week 6.Debate preparation (PROs and CONs) Week 7.Unit 5 A night out Week 8.Unit 6 Love story Week 9.Unit 7 A special object Week 10.Unit 8 What's important in a relationship Week 11.Unit 9 Someone important to me Week 12.Unit My favorite... Week 13.Final revision of debates Week 14.Student debates Week 15.Wrap-up and review of Units 1-10 / Final Quiz		
評価方法 (合計100%)	Class attitude and participation - 25% Homework, text exercises - 25% Regular quizzes and projects - 50%		
失格条件	①More than five absences (Being late 3 times is equivalent to one absence) ②An average score below 60% on quizzes and homework assignments.		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	Since classes will be conducted in English, it is highly recommended that the student has some working knowledge of the English language. Students will be expected to attend class on time every week, do homework and be active participants in all activities. Students must bring dictionaries to every class. (Japanese to English and English to Japanese) (予習2時間：90分、復習2時間：90分)		
課題へのフィード バック	Students will receive comments and feedback upon completion of assignments.		
教科書	Will be announced in class		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	IC403B02	期間	前期
授業科目名	翻訳入門		
英訳科目名	Introduction to Translation		
担当教員名	石川 玲子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>この授業では英語から日本語への翻訳を扱います。</p> <p>翻訳のために何よりも大切なのは、英文読解力と日本語の表現力・語彙力です。また、正確かつ分かりやすい訳を作るためには、言語間の差異や言語の背景にある文化の違いを考慮した翻訳のスキルも必要でしょう。さらに、まとまった文章を翻訳する際には、文章の全体的な構造を把握することも大切です。</p> <p>この授業では、(1) 英文読解力を基礎から身につけること、(2) 言語間の差異や文化の違いに留意しながら、適切な日本語に翻訳すること、(3) 英語で書かれたエッセイを全体的な構造を考えながら読むこと、を目指します。</p> <p>授業では、グループワークによる演習を行います。受講生は、毎回授業までに課題に取り組み、その課題を元に、授業を進めます。英文エッセイの構造を学びながらリーディングスキルを身につけるためのテキストを用い、翻訳の力を身につけると同時に、英文エッセイの構造についても学びます。</p>		
到達目標	<p>平易な英文を文法的に正しく読み、理解することができる。</p> <p>平易な英文を、自然な日本語に翻訳することができる。</p> <p>英語と日本語の違いや、言語の背景にある文化の違いを知ることができる。</p> <p>英文エッセイを、全体的な構造を考えながら読むことができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 英文の読解と翻訳①：グループワーク/ディスカッション→発表→解説</p> <p>第3回 英文の読解と翻訳②：グループワーク/ディスカッション→発表→解説</p> <p>第4回 英文の読解と翻訳③：グループワーク/ディスカッション→発表→解説</p> <p>第5回 原文と翻訳の比較①：グループワーク/ディスカッション→発表→解説</p> <p>第6回 英文の読解と翻訳④：グループワーク/ディスカッション→発表→解説</p> <p>第7回 英文の読解と翻訳⑤：グループワーク/ディスカッション→発表→解説</p> <p>第8回 英文の読解と翻訳⑥：グループワーク/ディスカッション→発表→解説</p> <p>第9回 英文の読解と翻訳⑦：グループワーク/ディスカッション→発表→解説</p> <p>第10回 原文と翻訳の比較②：グループワーク/ディスカッション→発表→解説</p> <p>第11回 英文の読解と翻訳⑧：グループワーク/ディスカッション→発表→解説</p> <p>第12回 英文の読解と翻訳⑨：グループワーク/ディスカッション→発表→解説</p> <p>第13回 英文の読解と翻訳⑩：グループワーク/ディスカッション→発表→解説</p> <p>第14回 原文と翻訳の比較③：グループワーク/ディスカッション→発表→解説</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>(第2回以降は、授業の最初に、前日に回収した課題の返却・コメント・解説を行う。)</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度と課題の提出50%</p> <p>期末試験50%</p>		
失格条件	<p>以下のいずれかに該当する場合</p> <p>1.5回以上欠席した場合</p> <p>2.期末試験を受けなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習：次週に取り上げる課題を、事前に自力で翻訳する。(120分)</p> <p>復習：返却された提出課題について、単語や文法を復習し直す。(60分)</p>		
課題へのフィード バック	<p>・提出した課題については、授業中に返却し、全体的にコメントします。</p>		
教科書	Skills for Better Reading <Basic> (構造で読む英文エッセイ<初級編>)		
著者名	石谷 由美子		
出版社	南雲堂		
参考書			
その他	<p>毎回の授業に、辞書を持参すること。</p> <p>英英辞典、英和辞典があることが望ましい。 30分以上の遅刻は欠席とみなす。</p> <p>3回の遅刻は1回の欠席とみなす。</p>		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	IC404B02	期間	後期
授業科目名	翻訳演習		
英訳科目名	Seminar on Interpretation		
担当教員名	森川 康子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>この授業では日本語から英語語への翻訳の演習を行います。</p> <p>翻訳のために何よりも大切なのは、高度の日文読解力と英語語の表現力・語彙力です。また、正確かつ分かりやすい訳を作るためには、翻訳のスキルも重要です。</p> <p>この授業では、翻訳入門よりやや難しい日文に挑戦し、(1) 日文読解力のレベルアップを目指すこと、(2) それを正しい英語に翻訳すること、の2つを目指します。その地道な演習の合間に、実際の翻訳例に触れて、翻訳のスキルと言葉の背景にある文化の違いについても考えたいと思います。</p>		
到達目標	<p>日語で書かれた文章の意味を、正確に読み取ることができる。</p> <p>日語を、自然な英語に翻訳することができる。</p> <p>日語と英語の違い、そこに反映される文化の違い、それに基づいた翻訳のスキルを知ることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 日文の読解と翻訳①：グループワーク / ディスカッション→発表→解説</p> <p>第3回 日文の読解と翻訳②：グループワーク / ディスカッション→発表→解説</p> <p>第4回 日文の読解と翻訳③：グループワーク / ディスカッション→発表→解説</p> <p>第5回 原文と翻訳の比較①：グループワーク / ディスカッション→発表→解説</p> <p>第6回 日文の読解と翻訳④：グループワーク / ディスカッション→発表→解説</p> <p>第7回 日文の読解と翻訳⑤：グループワーク / ディスカッション→発表→解説</p> <p>第8回 日文の読解と翻訳⑥：グループワーク / ディスカッション→発表→解説</p> <p>第9回 日文の読解と翻訳⑦：グループワーク / ディスカッション→発表→解説</p> <p>第10回 原文と翻訳の比較②：グループワーク / ディスカッション→発表→解説</p> <p>第11回 日文の読解と翻訳⑧：グループワーク / ディスカッション→発表→解説</p> <p>第12回 日文の読解と翻訳⑨：グループワーク / ディスカッション→発表→解説</p> <p>第13回 日文の読解と翻訳⑩：グループワーク / ディスカッション→発表→解説</p> <p>第14回 原文と翻訳の比較③：グループワーク / ディスカッション→発表→解説</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>(第2回以降は、最初に前回の宿題のコメント・解説を最初に行う。)</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度と課題の提出100%		
失格条件	<p>以下のいずれかに該当する場合</p> <p>1.5回以上欠席した場合</p> <p>2.提出物を期日までに提出しない場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習 / 復習：毎回宿題の提出を求めするので、その宿題をきちんとこなす。</p> <p>宿題の解説を聞いて、再度翻訳文を練り直し、再提出する。</p> <p>予習、復習にそれぞれ90分を費やすことが望ましい。</p>		
課題へのフィード バック	Comments will be made in class after submission and check of homework assignments. At times, it will be made on an individual basis.		
教科書	プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>毎回の授業に、辞書を持参すること。</p> <p>英英辞典、英和辞典があることが望ましい。</p> <p>30分以上の遅刻は欠席とみなす。</p> <p>3回の遅刻は1回の欠席とみなす。</p>		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	IC405B02	期間	前期
授業科目名	通訳入門		
英訳科目名	Introduction to Translation		
担当教員名	相馬 沙織		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	日英通訳の基礎的技術を身につける練習をする。ノートテイキング、シャドウイング、サイトトランスレーションなどの訓練を積むことで、通訳の技術を向上させる。そして、通訳技術を習得することで、実践的な英語によるコミュニケーション能力も強化する。		
到達目標	基本的な通訳技術を身につけることができる。そして、身近なことから、初級レベルの様々なトピックの日英通訳ができるようになる。		
授業計画	第1回 Unit1 家族:英語から日本語 第2回 Unit1 家族:日本語から英語 第3回 Unit2 大学生生活:英語から日本語 第4回 Unit2 大学生生活:日本語から英語 第5回 Unit3 趣味:英語から日本語 第6回 Unit3 趣味:日本語から英語 第7回 Unit4 海外生活:英語から日本語 第8回 Unit4 海外生活:日本語から英語 第9回 Unit5 国際交流(1):英語から日本語 第10回 Unit5 国際交流(1):日本語から英語 第11回 Unit6 国際交流(2):英語から日本語 第12回 Unit6 国際交流(2):日本語から英語 第13回 Review Unit1～3 第14回 Review Unit4～6 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業中の実践（準備も含む） 40% 課題 20% 学期末試験 40%		
失格条件	以下のいずれかに該当する場合は失格とする。 ・授業を5回以上欠席した場合 なお、30分以上の遅刻は欠席と見なし、3回の遅刻で1回の欠席とする。 ・学期末試験未受験の場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習：授業時に出された課題に取り組む。英語力及び日本語力を鍛える努力をする。（予習時間 3時間） 復習：授業で学んだ箇所について練習を重ね、確実に自分の力とする。（復習時間 1時間）		
課題へのフィード バック	課題提出後、コメントをつけて個別に返却し、また、全体に向けコメントします。		
教科書	Developing Interpreting Skills for Communication 〈Revised Edition〉		
著者名	齋藤 彩子/ 川内 裕子/ 安武 優子		
出版社	南雲堂		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	IC406B01	期間	後期
授業科目名	通訳演習		
英訳科目名	Seminar on Translation		
担当教員名	相馬 沙織		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	「通訳入門」で学んだことを踏まえ、また通訳にとって基礎的な技術であるノートテイキング、スラッシュリーディング等の練習を引き続き行いながら、さらに高度な通訳技術の習得を目指す。この授業で身につけた能力が、将来、グローバル社会で役立つ力となることを目標にする。		
到達目標	身の回りの簡単な内容だけでなく、より複雑な内容を通訳できるようになる。同時に、意見を発言する力や聴く力、またプレゼンテーション能力を養うこともできる。		
授業計画	第1回 Unit7 日本の文化:英語から日本語 第2回 Unit7 日本の文化:日本語から英語 第3回 Unit8 数字で説明:英語から日本語 第4回 Unit8 数字で説明:日本語から英語 第5回 Unit9 観光:英語から日本語 第6回 Unit9 観光:日本語から英語 第7回 Unit10 社会事情1:英語から日本語 第8回 Unit10 社会事情1:日本語から英語 第9回 Unit11 社会事情2:英語から日本語 第10回 Unit11 社会事情2:日本語から英語 第11回 Unit12 Communication:法務 第12回 Unit12 Communication:司法通訳 第13回 Review Unit7~9 第14回 Review Unit10~12 第15回 到達度の確認		
評価方法 (合計100%)	授業中の実践（準備も含む） 40% 課題 20% 学期末試験 40%		
失格条件	以下のいずれかに該当する場合は失格とする。 ・授業を5回以上欠席した場合 なお、30分以上の遅刻は欠席と見なし、3回の遅刻で1回の欠席とする。 ・学期末試験未受験の場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習：授業時に出された課題に取り組む。英語力及び日本語力を鍛える努力をする。（予習時間 3時間） 復習：授業で学んだ箇所について練習を重ね、確実に自分の力とする。（復習時間 1時間）		
課題へのフィード バック	課題提出後、コメントをつけて個別に返却し、また、全体に向けコメントします。		
教科書	Developing Interpreting Skills for Communication 〈Revised Edition〉		
著者名	齋藤 彩子/ 川内 裕子/ 安武 優子		
出版社	南雲堂		
参考書			
その他	このコースを受講する前提として、「通訳入門」を履修済みであることが望ましい。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	IC402B01	期間	前期
授業科目名	比較文化論		
英訳科目名	Comparative Culture		
担当教員名	中村 圭爾		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	前近代の日本と中国のさまざまな文化現象の比較を通して、二つの国の歴史や伝統、文化の異なる手と社会の性格などを正しく理解することをこころみます。具体的には、文字、思想宗教、政治思想や政治体制、美術工芸、民俗行事その他についていくつかの代表的な事例をとりあげ、文化の生成とその担い手、基礎となった社会との関係、文化の伝わり方や受け止め方、あるいは文化の変化などについて、考えていくことにします。できるだけ、受講生間の対話や議論などを中心に授業を進める予定です。		
到達目標	文化を比較するという方法を通して、日本と中国の歴史や文化の異質性・同質性を理解し、それを正確に他者に説明できるようになる。		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日中交流史概観—古代中世— 第3回 日中交流史概観—近世— 第4回 漢字の成立 第5回 漢字の発展と伝播 第6回 漢字の伝播と変化 第7回 思想宗教—古代— 第8回 思想宗教—中世近世— 第9回 政治思想と政治体制—古代— 第10回 政治思想と政治体制—中世以後— 第11回 古代中世の都城 第12回 年中行事 第13回 生活文化 第14回 古代中世の美術・工芸 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 50% 授業内容の理解度 50%		
失格条件	5回以上欠席 (6回欠席すると失格です)		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	事前に資料を配布しますので、それを読み、予備知識を身につけておく (約2時間)。 授業後に授業内容をまとめて、レポートを作成する (約2時間)。		
課題へのフィード バック	まとまりのある2, 3回の授業 (例えば第2・3回、第4~6回、第7・8回のように) ごとにレポートを課しますが、その内容について、全体に到達目標に関連したコメントを、授業時間内にします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に、必要な文献を紹介します。		
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BS402C01	期間	前期
授業科目名	情報社会論		
英訳科目名	Information-oriented Societies		
担当教員名	古田 誠		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力>	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>現代は「情報社会」と言われています。とはいえ、平成生まれの皆さんは、生まれながらにして情報社会の恩恵を受けて暮らしていますので、残念なことにその「ありがたみ」は忘れがちです。それが当たり前だと思ってしまうからです。これだけ高度な情報を蓄積し、ビジネス化に成功しているこの国は世界でも極めて希有な存在といえます。しかし、ほんの数十年前はそんな便利な世の中ではありませんでした。マス・メディアについて学ぶことは、未来の世界を展望するときの大きな足がかりとなります。それは受講生の皆さん一人一人が、これから生きていく上で生活のヒントになり、将来、大きな助けとなることでしょう。</p> <p>まず、口（くち）コミから始まり、文字による記録、書物による次世代へ継承、大量出版、デジタル化による情報の共有化に至るまでのさまざまな情報伝達の変遷を学びます。新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのアナログ的情報は技術革新により、すべてがデジタルに置き換わっていく運命にあります。また、パーソナルコンピュータ、スマートフォンはインターネット技術などと相まって発展し、誰もがいつでもどこでも、そうしたいときに簡単に最新の情報をチェックできるようになりました。デジタル情報は、常に私たちのそばにあるのが当たり前の時代になりつつあります。</p> <p>こうした流れの中で起きるさまざまな問題点やその過程を検証します。あるべき姿としての「情報社会」というものを考えながら各種メディアの特性を改めて分析したいと思います。同時に新聞、テレビ、ラジオという伝統的なメディアと新しい時代のデジタルメディアコンテンツを送り出す実際の現場に身を置いてきた（今でも置いています）私の経験も述べながら、情報を発信するメディア側の様子を受け取る側の姿勢にも随時触れていきたいと考えています。</p> <p>この講義を選択しようとする皆さんにお願いしたいことがあります。新聞を読む、読書をする、ラジオを聞く、テレビを見る、といった情報を得るための当たり前の努力を常にしてほしいと思います。学生時代に意識的にそういう努力をした人と、しなかった人では間違いなく将来大きな差が出てきます。日々の地味な蓄積は、未来の自分への投資ですから、どうかだまされたかと思って「新聞を読む」、「読書をする」、「ラジオを聞く」、「テレビを見る」という伝統的なメディアにほんの少しの努力を傾けて学生時代の間だけでも続けてほしいと思います。</p> <p>授業の冒頭などで、当該の日から一週間のうちに「気になったニュース」についてたずねることにします。皆さんは毎回の授業までに簡単にまとめておいてください。話題が上がったニュースについてお互いに意見を交わして、みんなで考える時間になります。どうか世の中の動き、ニュースに親しんで授業を楽しんでください。</p>		
到達目標	新聞、放送、雑誌、インターネットなどのメディアに対して、常に問題意識を持ちながら接していき、メディアリテラシーを持った社会人になることができる。		
授業計画	<p>以下を予定している。</p> <p>第1回 オリエンテーション 「情報社会論」総論</p> <p>第2回 情報とは何か？ 情報化社会が誕生するまで</p> <p>第3回 情報社会で生きるためには</p> <p>第4回 危機に直面する活字メディア</p> <p>第5回 デジタルで変わるか？ テレビ、ラジオ……電波メディア</p> <p>第6回 世界に広がるテレビドラマの可能性</p> <p>第7回 入れ物が変わっても常に愛されるコンテンツ 音楽</p> <p>第8回 身近なメディアを考察する 携帯電話の登場</p> <p>第9回 パーソナルコンピュータの変遷、変える未来</p> <p>第10回 iPadの衝撃、その発展の先は？</p> <p>第11回 インターネットの発展 変わる社会</p> <p>第12回 メディアの犯罪 社会的責任を問う</p> <p>第13回 メディアは誰のものか</p> <p>第14回 断片化した情報一つにつながる時</p> <p>第15回 質疑応答 内容理解の確認</p> <p>タイトル、内容はその時期に応じて変わることがあります。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（発言、参加状況） 50%</p> <p>レポート提出 10%</p> <p>テストなど 40%</p>		
失格条件	<p>次のいずれかに該当すれば失格となることもあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全授業のうち3分の1以上の欠席者。 ・授業の前後にある内容理解のチェック時に不在が多い人。 <p>授業は出来るだけ出席することが望ましいです。</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を必ず読んでください。（もし、自宅や下宿に無くても、大学や公立の図書館に全国紙各紙が揃っています） ・テレビ、ラジオのニュースを積極的に見たり聞いたりしよう。 ・シラバスに基づき、新聞またはラジオ、テレビを必ず授業前に見聞すること。（予習 1時間） ・授業中に配布したレジュメは必ず目を通すようにしてほしい。習った分野に関連する新聞またはラジオ、テレビを必ず見聞してください。（復習3時間。とはいえ、毎日30分ずつ見聞していれば1週間で4時間近くは接することができます） 		
課題へのフィードバック	授業内で説明する。		
教科書	<p>「メディア・コンテンツ論(シリーズメディアの未来)」[http://books.rakuten.co.jp/rb/14290651/]</p> <p>編集、著者：岡本 健(著、編集)、遠藤 英樹(著、編集)</p> <p>出版社：ナカニシヤ出版(2016/6/20発行)</p> <p>ISBN-10: 4779509726</p> <p>ISBN-13: 978-4779509728</p> <p>街場のメディア論</p> <p>著者：内田 樹</p> <p>出版社：光文社新書</p> <p>ISBN: 978-4-334-03577-8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中にプリントを配布することもあります。 ・新聞、雑誌、書物、テレビ、ラジオそしてインターネット。これらすべてが生きた「教科書」とも言えます。友達とも世の中のことをお互いに話しあってみてください。 ・せめて、この授業を受けている期間中だけでも、これらのマス・メディアに対して関心をはらってください。 		
著者名	「メディア・コンテンツ論(シリーズメディアの未来)」[http://books.rakuten.co.jp/rb/14290651/]編集、著者：岡本 健(著、編集)、遠藤 英樹(著、編集)		
出版社	ナカニシヤ出版		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「メディア用語を学ぶ人のために」(渡辺武達、山口功二編・世界思想社、[http://amzn.to/1dE4ujd]) =メディア用語のリファレンス用に。 ・そのほか授業中に適宜紹介する予定。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・私語、当該授業以外の内職、携帯・パソコンメール操作、熟睡等の行為は、そもそも授業を聞いていないのだから出席とは認められません。もし警告をしても止めない場合は、残念ながら退出してもらうこととなります。この場合、欠席扱いとなりますので注意してください。 ・私語などで他の聴講者への迷惑行為を止めない人は、直ちに退出してもらいます。この場合も欠席扱いとなります。 ・わかりやすく楽しめる授業を心がけたい。お互いに貴重な時間を使っているのだから、ぜひ協力してほしい。 		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	IC405B03	期間	後期
授業科目名	英米文学講読/英語文学講読		
英訳科目名	Readings in English Literature		
担当教員名	石川 玲子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>2017年ノーベル文学賞を受賞した英国作家カズオ・イシグロの作品Never Let Me Go (『私を離さないで』、2005年) を取り上げる。まず映画化されたものを鑑賞することで作品の全体像を捉えた後、部分的に原文を味わい、登場人物の感情や意識、さらに文章から読み取ることのできる様々なモチーフ (人間の生と死、友情、愛、嫉妬、記憶、教育など) について考える。</p> <p>授業では、英語の原文を読むが、翻訳も配布する。</p> <p>最後の数回で論文の抜粋を読み、いくつかの解釈を知る。</p> <p>授業の中での学生の自主的な発言を大いに期待しています。また、グループ・ディスカッションと発表の時間もできるだけ多く取りたいと思います。</p> <p>原文または翻訳 (「参考書」欄を参照) で作品を事前に読んでいると、より楽しく授業に参加できると思います。</p>		
到達目標	<p>英語で書かれた文学作品を味わうことができる。</p> <p>作品の言葉や表現、構成を分析し、自分なりの解釈を提示できる。</p> <p>作家の生い立ちや考えを知り、作品との関わりを考察することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション/文学とは?</p> <p>第2回 カズオ・イシグロについて/映画『私を離さないで』鑑賞(1)</p> <p>第3回 映画『私を離さないで』鑑賞(2)/映画についてのディスカッション</p> <p>第4回 作品講読・鑑賞(1)</p> <p>第5回 作品講読・鑑賞(2)</p> <p>第6回 作品講読・鑑賞(3)</p> <p>第7回 作品講読・鑑賞(4)</p> <p>第8回 作品講読・鑑賞(5)</p> <p>第9回 作品講読・鑑賞(6)</p> <p>第10回 作品全体についての考察(1)</p> <p>第11回 作品全体についての考察(2)</p> <p>第12回 『私を離さないで』についての論文講読(1)</p> <p>第13回 『私を離さないで』についての論文講読(2)</p> <p>第14回 カズオ・イシグロの他の作品/作家と作品のつながり</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度50%</p> <p>期末レポート50%</p>		
失格条件	<p>以下のいずれかに該当する場合、失格とする</p> <p>1.5回以上欠席した場合</p> <p>2.期末レポートを提出しなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習・復習: 英語を味わうために、辞書で単語を調べて、あらかじめ読んでくる。 授業の後で、再度読み直して、作品について考えてみる。</p> <p>目安としては、予習・復習にそれぞれ90分を費やすことが望ましい。</p>		
課題へのフィード バック	<p>提出した課題については、必要に応じてコメントをつけて返却、もしくは授業中にコメントします。</p>		
教科書	<p>プリントにて配布する。</p>		
著者名			
出版社			
参考書	<p>Kazuo Ishiguro. Never Let Me Go. faber and faber, 2006. カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』土屋政雄訳、早川書房、2012年。</p> <p>その他については、授業の中で紹介します。</p>		
その他	<p>授業には英語の辞書を必ず持参すること。 30分以上の遅刻は欠席とみなす。 また遅刻3回で、1回の欠席とみなす。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	IC401B02	期間	前期
授業科目名	アメリカの社会と文化/英語圏の社会と文化B		
英訳科目名	English-speaking Societies and Cultures B		
担当教員名	J.E.Alsdorf		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	This introductory course examines the political, cultural, economic, and historical aspects of the United States. Students will sometimes be given homework with the aim of developing research and presentation skills. Students will also be required to research and quote sources in leading a discussion on a chosen topic. In class, students will be asked to conduct discussions by working in small groups and providing each other with insight and feedback.		
到達目標	It is hoped the student will gain a general understanding of American life and culture and its influence in the international community.		
授業計画	Week 1.Class Orientation and Introduction Week 2.The Political System Week 3.Food and Culture Week 4.Holidays and Celebrations Week 5.Fashion and History Week 6.Inventions Week 7.Famous Faces Week 8.Presentation Preparations Week 9.Body Language Week 10.Famous cities Week 11.Awards and medals Week 12.Student Presentations Week 13.History and Famous Sites Week 14.Semester Review Week 15.Review and Final Exam		
評価方法 (合計100%)	Class Attitude and Participation - 20% Homework and Presentations - 40% Final Exam - 40%		
失格条件	①More than five absences (Being late 3 times is equivalent to one absence) ②An overall score below 60%		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	Since classes will be conducted in English, it is highly recommended that the student has some working knowledge of the English language. Students will be expected to attend class on time every week, do homework and be active participants in all activities. (予習2時間：90分、復習2時間：90分)		
課題へのフィード バック	Students will receive comments and feedback upon completion of assignments.		
教科書	All About The USA 3 A Cultural Reader Third Edition		
著者名	Milada Broukal;Peter Murphy		
出版社	Pearson Longman		
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BS403A01	期間	後期
授業科目名	社会調査入門		
英訳科目名	Introduction to Social Inquiry		
担当教員名	Sandrovych Tymur		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>社会調査は、社会現象を把握し、社会的リアリティに近づくためのひとつの方法です。世の中には、いろいろな調査があふれています。社会問題についての人々の意見を知るための世論調査、生活に困った人々の現状を明らかにするための社会踏査、人々の購買意欲を知るためのマーケットリサーチなど、多様です。内容も、防衛や環境などの社会問題から、スマホやアイドルなどの文化現象まで幅広く、さまざまな社会の側面が浮き彫りになります。だが、場合によっては、そこにずれ・かたよりの誤差が入り込むこともあります。社会調査を知ることが、そうした情報に振り回されず、むしろ、その結果を正しく評価、利用するための第一歩です。</p> <p>この授業は、フィールドワークやアンケート調査など、主な社会調査の事例を学びながら、既存の調査結果を正しく有効に活用できることを目指すとともに、自ら調査ができる能力を獲得するための基本事項を習得することを目的とします。身近な事例を使い、また調査にまつわる皆さんのこれまでの経験を題材とするなど、初学者にも親しみやすい内容で解説します。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な社会調査の用語が理解できるようになる。 ・ 社会調査の方法を理解できるようになる。 		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション:授業の進め方・社会調査を学ぶ意義・取り組む姿勢</p> <p>第2回 社会調査の目的と歴史:社会調査の主旨・倫理・歴史</p> <p>第3回 社会調査の分類:量的調査と質的調査</p> <p>第4回 観察法:非参与観察の歴史と方法</p> <p>第5回 参与観察法:参与観察の歴史と方法</p> <p>第6回 聞き取り調査:インタビューを使った調査の歴史と方法</p> <p>第7回 質問票調査の基礎(1):調査方法の分類と特徴・個別面接・郵送法など</p> <p>第8回 質問票調査の基礎(2):仮説の設定・質問票の作成</p> <p>第9回 質問票調査の基礎(3):サンプリングと誤差</p> <p>第10回 データの分析(1):調査票の処理・データの入力</p> <p>第11回 データの分析(2):平均・中央値・最頻値・分散・標準偏差</p> <p>第12回 データの分析(3):散布図・クロス集計表</p> <p>第13回 統計データの読み方:グラフの誇張・隠されている情報・調査者の主観</p> <p>第14回 統計データの検索・活用:図書館・ネットなどでの検索と活用の方法</p> <p>第15回 まとめ:授業の復習</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度 20%</p> <p>授業内課題提出 40%</p> <p>確認テスト 40%</p>		
失格条件	<p>5回以上の欠席（遅刻3回で1回の欠席とする）</p> <p>課題未提出</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>出された課題をしっかりとこなすこと（予習2時間:90分、復習2時間:90分）。</p>		
課題へのフィード バック	<p>課題提出後および試験終了後、全体にむけてコメントします。</p>		
教科書	<p>プリントを配布する。</p>		
著者名			
出版社			
参考書	<p>適宜、指示。</p>		
その他	<p>特になし</p>		
備考			
科目生への開講	<p>あり</p>		

ナンバリング	BS403B01	期間	前期
授業科目名	現代社会論演習/現代社会論		
英訳科目名	Contemporary Society		
担当教員名	藤谷 忠昭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	現代社会は、情報化、高齢化、グローバル化、個人化、エコ化など激しく変化しています。この授業では、このような社会変化を社会学の観点から考えます。そのことで、さまざまな社会問題についての知識を得、自ら探索し、また意見を述べる力を身につけてもらいます。授業では、基礎的知識を紹介しつつ、それぞれの社会的関心を探索し、自分自身の考えをまとめる練習を行います。グローバル化する中、日本社会を中心に、現代の社会の状況に詳しくなりたいと思っている人は、ぜひ受講してください。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会の変化のいくつかについて説明できる。 ・ 現代社会の課題を社会的に分析できる。 		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 個人化の進展 第3回 情報化と社会 第4回 戦後の市民社会 第5回 憲法と平和 第6回 日本の家族 第7回 高齢社会 第8回 労働形態の変化 第9回 ナショナリズムと国際化 第10回 環境と社会 第11回 エネルギーと社会 第12回 食の安全 第13回 流行と社会 第14回 アイドルの変遷 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 授業内課題提出 40% 期末レポート 30%		
失格条件	課題・レポートの未提出 5回以上の欠席（遅刻は3回で1回欠席とする）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 関連するコンテンツに触れる（2時間: 90分）。 復習： ノートを読み返し、自身の暮らしにあてはめてみる（2時間: 90分）。		
課題へのフィードバック	前回の課題について、授業内でコメントする。		
教科書	プリントを配布		
著者名			
出版社			
参考書	適宜指示		
その他	私語、内職、メール操作、熟睡等は出席とはなりません。 私語をするときは、退出してください。 スマートフォンの操作は教室外でお願いします。 板書は写メではなく、手書きで取りましょう。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BS401B02	期間	前期
授業科目名	マス・メディア論		
英訳科目名	The Mass Media		
担当教員名	古田 誠		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>マス・メディアの歴史は、情報を伝達するハードウェアの技術革新の歴史と言ってもいいかもしれません。20世紀後半に入り、集積回路の発明、普及によりコンピューターやデジタル機器の性能が格段に良くなり、それまでアナログで断片化していた様々な情報が一気にデジタル化され、その結果、それまであちこちにバラバラに点在していた情報が互いにつながりを持ち、多くの人々が同時に共有可能となる世界に変わってきました。人類にとって21世紀のこの時代はデジタルを日常生活に得て、便利な反面失うものも非常に多く、その利用で悩む世紀といえるかもしれません。</p> <p>デジタル化によって、新聞、放送、出版などの既存のメディアは大きな変化を遂げつつあります。送り手と受け手の双方向性を含む多くの機能付加が期待され、快適な世界が待っているかのようです。しかし、それは一瞬の幻想かもしれません。いずれにせよ、そうした近未来を前にデジタルの扉を開いたばかりの現状を認識しておくことは、今後の社会を生きる私たちにとって大変重要なことになるでしょう。</p> <p>実際に活字と電波、デジタルコンテンツの現場を、新聞記者として、テレビ番組プロデューサーとして、デジタルラジオの現場にいるラジオマンとして、30年以上にわたり体験しつつある（現在進行形）私なりの考察も随所に入れながら、論じていこうと思います。この講義を通じて、皆さんが少なくともメディアからの情報を正しく理解し、使いこなせる能力を身につけるきっかけとなれば幸いです。</p> <p>この講義を選択しようと考えている人は、新聞を読む、読書をする、ラジオを聞く、テレビを見る、インターネットの世界を泳ぐ、とにかくあらゆるものに興味を持つ、といった情報を得るための当たり前の努力を常に心がけてほしいと思います。その気構えが無ければ、時間の無駄になるかもしれません。学生時代に意識的にそういう努力をすることは、努力をしない人との差は日々大きくなると思います。何よりもあなたの将来をも変えるきっかけになるでしょう。</p> <p>授業の冒頭などで、当該の日から一週間うちに「気になったニュース」についてたずねることがあります。各自、毎回の授業までに簡単にまとめておいてください。その時々ニュースの背景と問題点について一緒に考えていきましょう。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、放送などのメディアを読み解く力を付けることができる。 ・iPhoneやAndroidのスマートフォンなどのデジタルデバイス、パソコンなどに興味を持ち、私たちの将来を幅広い視野で見通せるような人になる。 		
授業計画	<p>以下を予定している。</p> <p>第1回 オリエンテーション 総論「マス・メディア論」</p> <p>第2回 近づく史上初の危機 新聞の歴史</p> <p>第3回 一つの記事に多くの人間が関わる 新聞ができるまで</p> <p>第4回 真実追究のためなら睡眠時間を削っても 新聞記者の現場</p> <p>第5回 デジタル化元年を迎えた 放送</p> <p>第6回 秒針との戦い 電波の現場</p> <p>第7回 テレビ番組のつくりかた</p> <p>第8回 隆盛と衰退繰り返す その他のメディア</p> <p>第9回 メディアの危機は社会の危機 報道の自由を脅かすもの</p> <p>第10回 報道人の倫理性とは</p> <p>第11回 マス・メディアが批判精神を失うとどうなるか</p> <p>第12回 メディアの現場を歩いてみる（新聞社見学予定）</p> <p>第13回 ニューメディアの台頭 変わる覇権</p> <p>第14回 これからのマス・メディアの行く先＝私たちはどう生きたいか</p> <p>第15回 質疑応答 内容理解の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度（発言、参加状況） 50%</p> <p>レポート提出 10%</p> <p>テストなど 40%</p>		
失格条件	<p>失格条件</p> <p>次のいずれかに該当すれば失格となる場合もあります。注意してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全授業のうち3分の1（つまり5回）以上の欠席者。 ・授業の前後にある内容理解チェック時に不在がたびたび重なる者。 		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を毎日必ず読むこと（自宅に無くても、大学や公共の図書館に全国紙各紙が揃っている）。 ・テレビ、ラジオのニュースを意識的に聞くこと。 ・シラバスに基づき、新聞またはラジオ、テレビを必ず授業前に見聞すること。（予習 1時間） ・授業中に配布したレジュメは必ず目を通すようにしてほしい。習った分野に関連する新聞またはラジオ、テレビを必ず見聞すること。（復習3時間） 		
課題へのフィード バック	授業内で説明する。		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・なし（プリントを配布する予定です）。 ・新聞、雑誌、書物、テレビ、ラジオそしてインターネット。これらすべてが生きた「教科書」とも言える。せめて、この授業を受ける期間中だけでも、これらのマスメディアに関心をはらってもらいたい。 ・教科書ではないが「大人のためのメディア論講義」（石田 英敬、(http://amzn.to/2DN9PtH)）にメディアの全体を掴むのに便利です。 ・そのほか授業中に適宜紹介する予定 		
著者名			
出版社			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「メディア用語を学ぶ人のために」（渡辺武達、山口功二編・世界思想社、(http://amzn.to/1dE4ujd)）＝メディア用語のリファレンス用に ・そのほか授業中に適宜紹介する予定 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・私語、当該授業以外の内職、携帯・パソコンメール操作、熟睡等の行為は、そもそも授業を聞いていないのだから出席とは認めません。もし警告をしても止めない場合は、残念ながら退出してもらおうことになります。この場合、欠席扱いになりますので注意してください。 ・私語などで他の聴講者への迷惑行為を止めない人は、直ちに退出してもらいます。この場合も欠席扱いとなります。 ・わかりやすく楽しめる授業を心がけたい。お互いに貴重な時間を使っているのだから、ぜひ協力してほしい。 ・授業のうち一回分を使って新聞社見学を予定しています。あらかじめ希望日をたずね、受講生ができるだけ多く参加できる日程を選ばず予定です。 		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BS401C01	期間	後期
授業科目名	国際金融論		
英訳科目名	International Finance		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	この科目は、大阪シティ信用金庫が提供する金融ビジネス科目です。金融機関の使命と役割から金融市場の地域展開と国際展開に至るまで、体系立てて学びながらの基礎を学びながら金融の知識と情報の獲得を目指します。金融市場と国際展開を、リアルな事例や金融機関で働く現役ビジネスパーソンから実践的に学び、国際金融を学ぶ基盤を作ります。		
到達目標	1. 企業の業績や株価など金融関連情報をチェックできる 2. 金融ビジネスの事業を体系的に理解し、その遂行に必要な能力を自ら設定することができる 3. 国際業務における課題発見とその解決策を設定することができる		
授業計画	1) 地域金融機関・信用金庫の社会的使命 2) 金融機関の役割・生活とのつながり 3) 信用金庫のお客サービスとは 4) 営業店のしごと・女性活躍推進 5) 支店長の仕事・知っておきたい金融犯罪 6) 中小企業経営と資金計画1 7) 中小企業経営と資金計画2 8) 金融市場のしくみ1 9) 金融市場のしくみ2 10) 中小企業と国際業務1 11) 中小企業と国際業務2 12) 金融機関の新サービス1（シティ信金PLUS事業・ファンドの取り組み） 13) 金融機関の新サービス2（商店街PLUS事業・医療・福祉支援） 14) 金融機関で働くということ・就職対策 15) 大阪シティ信用金庫とCSR、地域との連携		
評価方法 (合計100%)	試験に変わる学期末レポート60% 授業への参加態度を40%として総合評価します。		
失格条件	欠席5回以上（遅刻3回を欠席とすること）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	普段から企業の業績や評価または株価に関心を持ち、 ・新聞・雑誌・インターネットより配信されるニュースやトピックをチェックすること(予習60分) ・金融ビジネスの取組みについても情報を集めて整理しておくこと（予習30分）。 ・金融ビジネスを成立させる要素を整理すること（復習90分）。		
課題へのフィード バック	・大阪シティ信用金庫の担当教員からのフィードバック解説 ・授業内課題の返却と解説など		
教科書	教科書に代わる教材・資料を、大阪シティ信用金庫の担当講師が提示します。		
著者名			
出版社			
参考書	大阪シティ信用金庫の各コマ担当講師が紹介します		
その他	大阪シティ信用金庫 提供科目		
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。（向井）		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BS401C02	期間	後期
授業科目名	国際政治論		
英訳科目名	International Politics		
担当教員名	佐々木 太郎		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	核兵器に関する諸問題の歴史、現状を解説し、国際社会が核兵器の脅威に対して政治的、法的にどのように対処しているのかを考察する。		
到達目標	核兵器の脅威に国際社会がいかに対処してきたのかを正確に理解し、自分の言葉で論理的に説明できる。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 核兵器の誕生 第3回 原子力国際管理構想とその失敗 第4回 ソ連の原爆保有 第5回 米ソの核開発競争 第6回 キューバ・ミサイル危機とその影響 第7回 デタント期の軍備管理 第8回 アメリカのミサイル防衛 第9回 米ソ核軍縮の行方 第10回 重要事項の復習 第11回 南アジアの核問題 第12回 中東の核問題 第13回 東アジアの核問題（1） 中国と北朝鮮 第14回 東アジアの核問題（2） 日本の対応 第15回 講義のまとめと理解度の確認		
評価方法 (合計100%)	期末試験（80%） 授業への参加態度（20%）		
失格条件	中間試験、期末試験を受けなかった場合は失格とする。 5回以上欠席した場合は失格とする。 20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は2回で1回の欠席とみなす。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習： 講義で紹介する参考文献を読んで理解を深めること。（予習時間 1時間） 復習： 授業の内容を理解しておくこと。（復習時間 3時間）		
課題へのフィード バック	試験終了後、全体に向けてコメントする。		
教科書	不使用。毎回プリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に適宜指示する。		
その他	新聞の国際面に目を通し、日常から国際政治に対する関心を持ち続けてもらいたい。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BS403B02	期間	後期
授業科目名	社会統計学		
英訳科目名	Statistics for Sociology		
担当教員名	益田 圭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	この授業は、統計的データを理解し、利用するために必要な基礎的能力の習得を目的とする。代表値、散布度、相関関係、標本抽出法、統計的仮説の検定などの社会調査データを理解し、分析するための基本的知識を身につけていく。授業は実習形式でおこない、具体的なデータをあつかいながら、統計学への理解を深めていく。		
到達目標	統計データとは何かということについて、自分なりに述べるができる。 基本的な統計データの整理・分析ができる。 整理・分析した統計データを解釈することができる。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 度数分布 第3回 代表値 第4回 散布度(1) 第5回 散布度(2) 第6回 確率(1) 第7回 確率(2) 第8回 分布 第9回 抽出 第10回 区間推定 第11回 統計的検定 第12回 カイ2乗検定 第13回 t検定 第14回 相関関係 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度30% 提出物20% レポート50%		
失格条件	レポートを提出しないもの		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習1時間(45分) 授業時に予習課題を提示する 復習3時間 (135分) まず、授業時に出した持ち帰り課題を、確実にやってくること。 また、授業時に記入・提出したプリントや持ち帰り課題が返却されたら、必ずもう一度その内容を確認し、わからないことや理解が不十分なところを見つけ、つぎの授業時に質問すること。		
課題へのフィード バック	プリント、課題、取り組みについては全体に向けてコメントする。 また授業時のプリントは必要に応じコメントをつけて個別に返却する。		
教科書	指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書	必要に応じて紹介する。		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BS403B03	期間	後期
授業科目名	社会調査方法論/社会調査法		
英訳科目名	Social Research Methods		
担当教員名	藤谷 忠昭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	みなさんも、これまでさまざまな場面でアンケート調査を受けてきたかと思います。調査は、人々の考え方、意向を知るためにたいへん有効な方法です。そえゆえ、現代ではどの職場においても、社会との接点を探り、よりよい仕事を達成するために社会調査を行うことが増えています。ただ、たいへん役に立つ調査にも、さまざまな問題点も存在します。どのような調査が問題で、どのような調査が望ましいのか。この授業では、社会調査によってデータを収集し、その結果を整理する方法を、具体的例を通し習得し、みなさんが将来、それぞれの職場において的確な社会調査を行える技術を見につけてもらいます。講義を中心しつつも、受講生に実際に作業を行ってもらうことで、基本的な社会調査を実践できる能力の獲得を目指します。それぞれの技法がしっかり身につくように、ひとつずつ順序立て丁寧に指導していきます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の基本的知識を習得できる。 ・アンケート調査を実施する能力が身につけられる。 		
授業計画	<p>第1回 社会調査法とは何か</p> <p>第2回 社会調査の種類:国勢調査、世論調査、マーケットリサーチ、学術調査などの違い</p> <p>第3回 調査目的と調査方法:質問票調査やフィールドワークなどの特徴と、目的に応じた調査法の選択</p> <p>第4回 仮説の設定:仮説の設定と検証との関係の説明と、仮説をつくる作業の実践</p> <p>第5回 サンプリングの諸方法:サンプリングの意義とその方法</p> <p>第6回 サンプリングの実際:架空の名簿を用いた、擬似的サンプリングの実践</p> <p>第7回 調査票づくりの作法:質問票づくりにおける形式や、さまざまなタブー</p> <p>第8回 調査票づくりの実際:それぞれのテーマに基づいて、簡易な質問票の作成</p> <p>第9回 プレテスト:4,5人のグループに分かれ、お互いに作った質問票に回答し、その問題点について考察</p> <p>第10回 調査の実施方法:調査票の配布、回収と、それぞれの方法のメリット・デメリット</p> <p>第11回 調査データの整理:コーディング、データクリーニングとデータ入力</p> <p>第12回 自由面接法の方法:自由面接法の手順</p> <p>第13回 フィールドノート:フィールドノート作成についての注意点と、文書、音声、画像など資料整理の方法</p> <p>第14回 レポート作成法:社会調査のレポートにおいて記述すべき必要事項と内容</p> <p>第15回 社会調査と倫理まとめ:講義の復習、社会調査の意義のまとめ、社会調査者がもつべき倫理</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 20% 授業内課題提出 40% 確認テスト 40%		
失格条件	5回以上の欠席（遅刻3回で1回の欠席とする） 課題未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	出された課題をしっかりとこなすこと（予習2時間:90分、復習2時間:90分）。		
課題へのフィード バック	課題ごとに授業でコメントする。		
教科書	プリントを配布		
著者名			
出版社			
参考書	適宜、指示		
その他	スマートフォンの操作は教室外でお願いします。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BS401C03	期間	後期
授業科目名	企業管理/企業管理論		
英訳科目名	Corporate Management		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	この科目は、「企業経営論」のアドバンスプログラム（続編）として位置づけています。企業が経営活動を進める上で取り入れるマーケティングを学びながら、企業と顧客の関係性を向上させるための方法を考えます。また、顧客に提供するサービスと価値の観点から企業経営の形態を考えます。		
到達目標	授業で扱うそれぞれのテーマから、 ・商品やサービスを通じて価値を提供する方法を考えることができること ・顧客や取引先から得られた情報や知識を経営活動に活かす方法を考えることができること ・新たなサービスの企画を自ら考えて提案することができること		
授業計画	第1回 ガイダンス 楽しくサービス・マネジメントを学びましょう 第2回 サービス経営のマネジメント 第3回 サービス創造のマネジメント 第4回 製品とサービスの捉え方 第5回 サービス経験のマネジメント 第6回 サービス人材のマネジメント 第7回 営業の機能と組織 第8回 営業の価値とスタイル 第9回 サービス・マネジメントのロジック 第10回 サービスによる価値創造 第11回 マーケティングとサービス・マネジメント 第12回 ITによる価値創造1 第13回 ITによる価値創造2 第14回 ナレッジ・ブローカー 第15回 まとめ 経営学の実践へ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（受講姿勢・コミュニケーション・授業内課題） 50% 学期末試験 50%		
失格条件	・授業内課題の未提出による ・学期末試験の未受験による ・授業を欠席すること、遅刻することが、教員の失格判断に至ることによる		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	教科書による各テーマの事例研究 45分 教科書による各テーマの自己事例研究 45分 および各テーマのポイントに基づく新たなサービス企画提案 90分		
課題へのフィード バック	授業内課題の解説シェア フィードバックペーパーの返却と解説シェア 課題プレゼンテーションの講評など		
教科書	『1からのサービス経営』		
著者名	伊藤宗彦・高室裕史		
出版社	碩学舎		
参考書	『1からの経営学』 978-4-502-69610-7		
その他			
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BS402B02	期間	後期
授業科目名	国際経済・貿易論/貿易論		
英訳科目名	Foreign Trade		
担当教員名	登坂 一博		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	この科目は、グローバルビジネスマネジメントを経営学とマーケティングの知識をベースに実践的に学びます。経営学とグローバルマーケティングの理論的枠組みを理解しながら、業種別にグローバル市場環境分析に関して理論と実践を多角的な視点で分析し、現状と近未来の市場動向をイメージできるようにします。また、グローバル企業の実際の活動をゲストスピーカーも招いてわかりやすく学生の皆さんに講義をします。グローバルビジネスに携わりたいと思えるような知識と仮想体験を提供します。		
到達目標	経営理論・実践事例・実務経験・仮想体験のビジネスコミュニケーションを通じて、グローバル市場動向と企業の商品やサービスに関心を持つことができる。それら世界規模の販売・流通構造を理解することができるとともに。その商品やサービスが提供される市場環境についての最新ニュースや記事をアクセスできるようになり、グローバル市場動向のリアリティをイメージできるようになる。		
授業計画	第1回 ガイダンス グローバル・ビジネスの現実を楽しく学びましょう 第2回 グローバルビジネスをイメージする 第3回 国内外企業のグローバル化の最新動向 第4回 グローバルビジネスマネジメントの基礎 第5回 グローバルビジネスマネジメントの実践 第6回 グローバル・マーケティングの基礎Ⅰ（マネジメント） 第7回 グローバル・マーケティングの基礎Ⅱ（市場環境分析） 第8回 グローバル・マーケティングの基礎Ⅲ（営業） 第9回 グローバルビジネスの業種別動向（小売、化粧品） 第10回 グローバルビジネスの業種別動向（自動車、アパレル） 第11回 グローバル企業におけるマネジメントの実践（ゲストスピーカー招聘） 第12回 グローバルビジネスの業種別動向（ICT、印刷） 第13回 グローバル・ビジネスコミュニケーション 第14回 グローバル・ビジネスマネジメントワークショップ（Q&Aセッション） 第15回 まとめ・振り返り 期末試験（筆記）		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度「受講姿勢・コミュニケーション・課題（準備学習）」40%、小レポート（20%）および学期末試験（40%）を総合評価します。		
失格条件	・5回以上の欠席 ・グループ演習への不参加 ・課題（準備学習）を行わない場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・準備学習用課題（予習2時間） ・講義内容の個別レビュー（復習2時間）		
課題へのフィード バック	・講義テキストについては、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。 ・準備学習用課題についても必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。 ・小レポートは模範解答を提示し、重要なポイントについて解説します。 ・学期末試験については、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントします。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	講義内で適宜紹介します。		
その他	講義用資料は都度プリント配布をします。		
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BS402C01	期間	前期
授業科目名	企業経営論		
英訳科目名	Corporate Administration		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解>◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能>○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力>○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度>○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度>	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験>◎
授業概要・ポイント	この科目は、履修される皆さんの生活の中で身近なビジネス事例を使いながら、経営学の体系を学びます。その上で欠かせない対象は企業（会社）ですが、企業を取り巻く様々な要素にも目を向けて学びながら企業経営のイメージを持ち、その活動にいずれ関わっていくための知識と情報のインプットを行います。またコミュニケーション機会も多く設けますので、ビジネスコミュニケーション能力の向上も目指します。		
到達目標	理論・事例・ビジネスコミュニケーションのインプットを通じて生活の中で商品やサービスに目を向けて、それらに関与する企業をイメージできること。また、それらの顧客や競合企業の存在を意識してどのように経営活動を進めていくべきかをイメージできること。それらの企業を取り巻く環境を把握して、未来像を自分なりに予測することが出来ること。		
授業計画	第1回 ガイダンス 楽しくビジネスを学びましょう 第2回 良いビジネスとは 第3回 企業と社会 第4回 企業と顧客の接点1 消費と流通 第5回 企業と顧客の接点2 広告と宣伝 第6回 企業とインプット 第7回 企業とアウトプット 第8回 企業と戦略（1）事業 第9回 企業と戦略（2）製品・サービス 第10回 企業と業績 第11回 企業と利益 第12回 企業と公益 第13回 企業とガバナンス 第14回 企業と6次産業 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（受講姿勢・コミュニケーション・授業内課題）50%および学期末試験50%を総合評価します		
失格条件	5回以上の欠席（遅刻3回で1回の欠席とする）		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・企業の商品・サービス・事業・業績に関心を持ち、新聞・雑誌・インターネットより配信されるニュースやトピックをチェックすること（30分） ・日常生活の買い物など消費行動による価格や商品またはサービスの仕様や内容のチェック（30分） 以上を毎回の講義までに行い、講義内容をふりかえること（120分）		
課題へのフィードバック	・授業時間内のプレゼンテーション実施と講評 ・授業時間内の課題シェアと解説 ・質疑応答の授業内シェアなど		
教科書	『1からの経営学』		
著者名	加護野忠男・吉村典久		
出版社	碩学舎		
参考書	担当教員より授業中に紹介します		
その他			
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

ナンバリング	BS404C01	期間	通年
授業科目名	社会調査演習		
英訳科目名	Seminar in Social Inquiry		
担当教員名	藤谷 忠昭		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ○	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ◎
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	この演習は受講者に、企画、準備、調査、報告などの質的調査をひと通り経験してもらい、各段階における技術を身につけることを目的とします。グループに分かれ、自らの関心に基づいてフィールドワークを行ってもらいます。一連の社会調査科目のまとめの授業になります。それぞれの技法がしっかり身につくように、ひとつずつ順序立て丁寧に指導していきます。フィールドワーク論をまだ履修していない場合、できれば同時に履修してください。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク調査を企画、準備、実施できる。 ・社会調査の報告書を作成できる。 		
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 社会調査の進め方① 第3回 社会調査の進め方② 第4回 調査の企画・立案① 第5回 調査の企画・立案② 第6回 調査の企画・立案③ 第7回 先行研究検討① 第8回 先行研究検討② 第9回 先行研究検討③ 第10回 先行研究検討④ 第11回 調査準備① 第12回 調査準備② 第13回 調査準備③ 第14回 本調査① 第15回 本調査② 第16回 本調査③ 第17回 本調査④ 第18回 調査結果整理① 第19回 調査結果整理② 第20回 調査結果整理③ 第21回 調査結果検討① 第22回 調査結果検討② 第23回 調査結果検討③ 第24回 調査結果検討④ 第25回 調査結果発表① 第26回 調査結果発表② 第27回 調査結果発表③ 第28回 報告書作成① 第29回 報告書作成② 第30回 報告書作成③		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 授業内課題提出 30% 報告書への貢献 40%		
失格条件	授業内課題の未提出 調査の欠席 発表者の無断欠席 報告書の未提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	出された課題をしっかりとこなすこと（予習2時間: 90分、復習2時間: 90分）。		
課題へのフィード バック	課題ごとに、授業内でコメントする。		
教科書	プリントを配布		
著者名			
出版社			
参考書	適宜指示		
その他	スマートフォンの操作は教室外でお願いします。		
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	期間	後期
授業科目名	比較文化論演習	
英訳科目名		
担当教員名	中村 圭爾	
ディプロマ・ポリシー1	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3	ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	中国と日本の分化現象の比較について、受講生が比較文化論の授業内容を参考に、各自関心を持つテーマを選び、そのテーマについて、参考文献を集め、具体的内容に関する知識を深め、その比較の結果理解した中国と日本の文化的差異について、レポートを作成し、発表することになります。 受講生が積極的、主体的にとりくむことを期待します。	
到達目標	具体的な文化現象を自らの主体的な学修に基づいて比較することによって、異文化に対する理解を深め、その内容を他者に説明することができる。	
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 各自で関心あるテーマを設定Ⅰ 第3回 各自で関心あるテーマを設定Ⅱ 第4回 各自のテーマの関係資料の収集と分析Ⅰ 第5回 各自のテーマの関係資料の収集と分析Ⅱ 第6回 各自のテーマの関係資料の収集と分析Ⅲ 第7回 受講者相互の報告と討論Ⅰ 第8回 受講者相互の報告と討論Ⅱ 第9回 受講者相互の報告と討論Ⅲ 第10回 各自の研究発表Ⅰ 第11回 各自の研究発表Ⅱ 第12回 各自の研究発表Ⅲ 第13回 レポート作成作業Ⅰ 第14回 レポート作成作業Ⅱ 第15回 総合討論	
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（報告・発表、発言内容等） 50% 研究発表 50%	
失格条件	欠席5回以上（6回欠席すれば失格）	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	基本的に毎回、受講生が報告、発表する方式の授業になりますので、そのための準備を必ず行う必要があります（約2時間）。 授業後は、報告、発表についての担当者および受講生からの発言について、自分で取りまとめ、記録を残しておくようにします（約2時間）。	
課題へのフィードバック	毎回の報告・発表については、各自が担当者や受講生からの発言の取りまとめをし、文章化して次回に提出します。その文章について、個別に添削、コメントをします。 授業最終回には、全体で各自の到達状況について、口頭で講評することになります。	
教科書	不使用	
著者名		
出版社		
参考書	必要に応じて紹介します。	
その他		
備考		
科目生への開講	なし	

ナンバリング	BC401A01	期間	後期
授業科目名	真宗入門		
英訳科目名	Elementary Shin Buddhism Studies		
担当教員名	佐々木 隆晃		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> △
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> △
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>宗教・仏教・浄土真宗について学び、悩みをかかえて生きる人間の姿、苦悩を越える道としての釈尊の教え、親鸞聖人が歩んだ念仏の生活などについて概観する。</p> <p>宗教を知ることを通して人間の姿を問い、人類の叡智の結晶である仏教の基礎を学ぶ。そして浄土真宗へと展開する救いの構造を窺い、親鸞聖人の求道と、その結果出遇われ、明らかにされた真実の教えを学ぶことを通して、仏教の思想を自身の問いとして思索していく姿勢を考えていきたい。</p>		
到達目標	<p>宗教と仏教、浄土真宗の教義、親鸞聖人の生涯の問いについての基本的な事柄を学び、人間の姿・苦悩のメカニズム・人生を生き抜く智慧について考える視点を身に付けることができる。大学での学び、建学の精神を通して、自身の生き方を見つめることの大切さを考える。</p>		
授業計画	<p>第1回 イントロダクション 第2回 人間と宗教・仏教について 第3回 釈尊の教え 第4回 仏教のひろがりとお経 第5回 大乘仏教 第6回 日本の仏教 第7回 浄土教 第8回 法然聖人と親鸞聖人 第9回 親鸞聖人の問い 第10回 親鸞聖人の生涯 第11回 親鸞聖人の著述 第12回 親鸞聖人の教え（1）基礎 第13回 親鸞聖人の教え（2）発展 第14回 本願寺について 第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	試験60%、授業への参加態度（参加状況）40%		
失格条件	3分の1以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 浄土真宗の教義、仏教の思想は、先人の経験と研鑽による積み重ねが多数あるので、それらの文献を読み進めることが大事である。その場合、文字の表面上だけでなく、文章の深意を汲み取る読み解きと、自身の生き方の問いとしての視点が重要となる。種々の文献と、他者の意見に興味を持ってアンテナを張り、吸収することが学びを進める鍵となる。</p> <p>・授業時間外における予習・復習等に必要時間 親鸞聖人・浄土真宗に関する参考文献を読む……………予習 2時間（90分） 講義時に取り上げた問題と浄土真宗教義について整理する…復習 2時間（90分）</p>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	指定しない。授業中にプリントを配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。		
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BS402B01	期間	前期
授業科目名	マーケティング論		
英訳科目名	Marketing		
担当教員名	向井 光太郎		
ディプロマ・ポリシー-1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー-2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー-3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー-4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー-5	<関心・意欲・態度> -	ディプロマ・ポリシー-6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	私達の生活を支える商品やサービスについて顧客との関係を創造し維持するための仕組みを学びます。身近な商品や実例をもとにマーケティングの基礎知識を理解し、新製品やサービスのアイデア創造や、既存製品やサービスの新たなマーケティング戦略に挑戦します。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・製品やサービスへの関心を持ってマーケティングの基本知識を修得し、思考力を高められること。 ・独自のアイデアやプランを作る上でのビジネス発想力を備えられること。 ・プレゼンテーション・コミュニケーション能力を向上できること。 		
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 マーケティングの役割と機能 第3回 マーケティング・ミックスと4つのP 第4回 製品・サービスの価値と開発 第5回 メッセージとプロモーションミックス 第6回 ブランドの価値とプロモーション 第7回 ブランドの価値と機能 第8回 価格対応、流通チャネルの構築と開発 第9回 流通チャネルと営業活動 第10回 営業機能と顧客価値創造 第11回 事業の定義、製品ポートフォリオ 第12回 競争戦略とマーケティング 第13回 消費者対応 第14回 市場細分化 第15回 関係性とサービスマネジメント		
評価方法 (合計100%)	定期試験に代わるレポート 60% 授業内課題、受講姿勢、出席状況など 40% による総合評価		
失格条件	欠席回数、受講状況、授業内課題のみ提出、学期末レポートの不提出および教員の判断による受講態度		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の事前購読とケース（事例商品やサービス）情報の入手（120分） ・ケース（事例商品やサービス）の新提案（60分） 		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・課題プレゼンテーションの実施と講評 ・授業内課題の解説 ・質疑応答の授業内シェア ・事例研究情報のポータル上シェアなど 		
教科書	1からのマーケティング		
著者名	石井 淳蔵、廣田 章光		
出版社	碩学会		
参考書			
その他			
備考	ビジネスコンサルティングとしての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	BS401B01	期間	前期
授業科目名	観光学		
英訳科目名	Tourism Studies		
担当教員名	西村 典芳		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<汎用的技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ○	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ○
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ー	ディプロマ・ポリシー6	<総合的な学習経験> ◎
授業概要・ポイント	<p>観光は、社会的な要素や経済的な要素、また地理・歴史・文化をはじめ非常に幅広い分野を含んでいるため、多くの基礎知識が必要です。これらの知識の習得とともに、観光が今なぜ重要であるといわれているのか、つまり観光の意義と役割を認識することに重点を置きます。そのため、この授業では観光の基礎知識と観光関連産業の現状と将来、新しい観光のカたちなど基本的な項目を幅広く学習します。</p> <p>①基本的には講義形式であるが、理解を深めるために、各地の観光振興の事例や観光ビジネスの実態を写真などで紹介する。</p> <p>②観光の経済効果の意味や新しい観光のビジネスモデルを考えるため、対話型の講義も行なう。</p>		
到達目標	<p>①まず観光とは何か、観光の歴史などからその現代的な意味と観光の基礎を理解する。</p> <p>②観光の対象となっている観光資源の知識を学び、観光発展のための政策やその経済効果を知る。</p> <p>③観光産業の歴史やビジネスの実態を知り、これからの新しい観光ビジネスのあり方を考える。</p> <p>④時代の変化に伴う観光の変化を知り、これからの観光のカたち、ニューツーリズムのあり方を考える。</p>		
授業計画	<p>第1回 はじめに（科目の概要・授業の進め方など） 【観光の基礎】</p> <p>第2回 観光とは何か（観光の語源と定義）</p> <p>第3回 観光・旅行の歴史（西洋と日本）</p> <p>第4回 観光資源と観光施設</p> <p>第5回 人々の観光行動と観光心理 【観光マーケティング】</p> <p>第6回 国内観光旅行／国際観光旅行の現状と課題、及び観光政策の重要性</p> <p>第7回 観光消費による地域への経済効果 【観光産業と旅行ビジネス】</p> <p>第8回 観光産業・旅行関連ビジネスの概要</p> <p>第9回 観光産業・旅行関連ビジネスの実例（旅行業の概要①）</p> <p>第10回 観光産業・旅行関連ビジネスの実例（旅行業の概要②）</p> <p>第11回 観光産業・旅行関連ビジネスの実例（航空産業）</p> <p>第12回 観光産業・旅行関連ビジネスの実例（宿泊産業・ホテル）</p> <p>第13回 観光産業・旅行関連ビジネスの実例（旅館、その他の宿泊産業）</p> <p>第14回 観光産業・旅行関連ビジネスの実例（集客・レジャー産業・テーマパーク等）</p> <p>第15回 まとめ：観光の変化とこれからの観光（「ニューツーリズム」への期待）</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>①予習・復習に基づく理解度テスト（小テスト・小レポート形式）・・・30%</p> <p>②期末試験（筆記試験）・・・70%</p>		
失格条件	なし		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<p>次週に学習する重要な項目についての「予習（2時間）」と、既に学習した重要な内容の「復習（2時間）」を義務付けます。</p> <p>そして、予習・復習に基づいて小テスト・小レポート形式の理解度テストを随時行います。</p> <p>※それぞれの内容については授業の中で説明します。</p>		
課題へのフィード バック	<p>準備学習用課題および毎時の学習シートについては、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。</p> <p>最終試験に関しては、ポータルサイトを通じて、全体にコメントします。</p>		
教科書	<p>・教科書は特に使いません。授業では講義プリント（レジュメ）を配布します。</p> <p>・参考書として、『観光白書』のほか、『旅行会社のツアーパンフレット』、『各地域の観光パンフレット』なども授業を理解する上で活用してください。詳しくは授業中に説明します</p>		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	<p>・講義では毎回、プリント（レジュメ）を配布します。講義内容をメモ（筆記）する力を身に付けてください。</p> <p>・旅行会社の『ツアーパンフレット』、『観光施設や各種のイベントのリーフレット』など、観光・旅行に関する資料が街には溢れています。各自で積極的に収集し、授業の参考資料としてください。</p>		
備考			
科目生への開講	なし		